

令和4年度 第2回川西市子ども・若者未来会議 次第

令和4年8月5日(金) 14:00~16:00

場所: 市役所4階庁議室 (Zoom 併用)

1. 開会

2. 議事

(1) 報告事項

- ・令和3年度川西市・子ども若者育成支援計画の進捗状況について【資料1】

- ・子ども・若者実態調査の結果報告書について【資料2】

(2) 協議事項

- ・「(仮称)子ども・若者未来計画(案)」について【資料3】

- ・子ども・若者未来会議の開催スケジュールについて【資料4】

(3) その他

3. 閉会

資料 1

令和 4 年 8 月 5 日

第 2 回子ども・若者未来会議

令和 3 年度
川西市子ども・若者育成支援計画
進捗状況

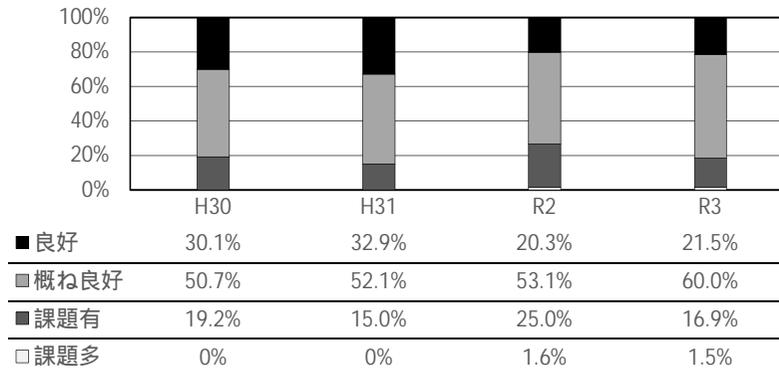
事業実績評価の概要

評価区分	内容	件数	割合
	良好	14件	21.5%
	概ね良好	39件	60.0%
	課題有	11件	16.9%
x	課題多	1件	1.5%

計65事業

上記以外に、1事業が新型コロナウイルス感染症により未実施のため未評価

【実績値の推移】



川西市子ども・若者育成支援計画 評価指標

評価指標名称	評価指標値						目標値	備考	担当所管
	基準値 (計画策定時)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
充実感を持って生きている若者の割合 (市民実感調査)	69.7% (2017年)	72.1%	62.5%	71.5%	81.4%		80.0% (2022年)		こども若者相談センター
「学校に行くのが楽しい」と思う子どもの割合(中学生) (子どもの権利条約にもとづく実感調査(中学2年))	85.0% (2015年)	-	84.0%	-	85.0%	-	88.0% (2021年)		こども支援課
自分の仕事にやりがいを感じる若者の割合 (市民実感調査)	62.5% (2017年)	73.9% (1)	78.6%	87.3%	72.7%		70.0% (2022年)		こども支援課
日頃の生活に悩みや不安を感じる若者の割合 (市民実感調査)	61.3% (2017年)	67.7%	59.3%	56.0%	62.5%		50.0% (2022年)		こども若者相談センター
こども・若者ステーション利用者の満足度 (利用者実績 平成30年9月開設のため「-」で表示)	-	50% (2)	75.0%	50.0%	73.3%		70.0% (2022年)	送付58件 返送15件	こども若者相談センター
修学・就業等につながった人の数	5人 (2016年)	1人	11人	21人	16人		10人 (2022年)		こども若者相談センター

1 2018年度から、調査項目が「自分の仕事に充実感があるか」という内容に変更となった。

2 アンケートの回答があったのは2件(送付10件)

充実感を持って生きている若者の割合の若者とは0～29歳までを対象

川西市子ども・若者育成支援計画 令和3年度実績評価シート

第3章 すべての子ども・若者の健やかな成長と自立に向けた支援

第4章 社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者への支援

第3章	1 生きる力の育成と社会関係の構築	1 教育環境の充実	事業名	実施内容	担当所管	R3年度評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
			1 基礎学力向上支援事業	文部科学省が毎年実施する全国学力・学習状況調査をもとに、基礎学力向上に関する教育の検証改善に取り組む。	教育保育課	○	全国学力・学習状況調査の結果を基に、本市児童生徒の基礎学力向上にむけた検討を行っている。全国学力・学習状況調査結果について過年度までの校長、教頭を対象にした報告会形式からワークショップを取り入れながらの協議会形式に変更し、各学校の校内研修等に役立てられるように実施した。	全小学校への放課後学習支援員の配置	20人	17人
			2 外国語教育推進事業	小学校第3～6学年を対象に、ALT(外国語指導助手)及び外国語指導に長けた地域人材(外国語指導支援員)を配置することにより、外国語を通じて言語や文化について、体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、外国語の音声や表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。	教育保育課		新型コロナウイルス感染症の影響でALTの来日が大幅に遅れ、外国語の時間にJET-ALTを配置できない学校が発生した。代わりに、民間企業からALTの招聘をおこなった。最終的に来日予定の17人中12人が来日することができた。令和4年度の夏には、残りのJET-ALTが来日できる見込みであるので外国語の時間にALTを全時間配置できるよう、体制を整えたい。	外国語活動又は外国語科の授業に占めるALT等の配置時数割合	100%	100%
			3 兵庫県地域に学ぶトライやる・ウィーク事業	中学校2年生が、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な体験活動を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めることができるよう支援を行う。	教育保育課	○	令和3年度「トライやる・ウィーク」は、市立中学校2年生の1,103人が参加した。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、5日間の活動ではあったものの、学校・地域の実情に応じて、連続5日で実施した学校と断続的に5日実施した学校があった。活動内容も各学校の実態に応じて行われた。体験後のアンケートでは、「充実していた」と回答した生徒の割合は、昨年度より大幅に増加した。	生徒の充実度	75.43%	51.90%
			4 きんたくん学びの道場	「放課後」という時間に「学校」という場で「友だち」との関わりの中において、家庭学習の習慣化および基礎基本の定着を図ること、また、子どもたちが自主的な学習に取り組む姿勢や態度、意欲を育む学習支援を行う。	教育保育課	○	「きんたくん学びの道場」を通して、基礎基本の定着を図ること、子どもたちが自主的に学習に取り組む姿勢や態度、意欲を育む学習支援を行った。保護者からも取り組みに対する肯定的な反応が高い。一方、支援員が各校1名のため、指導できる人数に限りがあることが課題であると認識している。3・4年生を対象として、令和2年度にモデル校1校に、支援員を1名配置し、令和3年度にモデル校3校に、新たに3名配置した。	参加してよかった参加させてよかった割合 (児童保護者アンケートより)	児童87% 保護者95%	児童88% 保護者95%
			5 キャリア教育の推進	子どもたち一人ひとりに将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。 1キャリア教育：社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力、態度を育み、キャリア発達を促す教育	教育保育課		子どもたちが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていけるよう、特別活動を要しつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることができた。	進学率	99.2%	99.8%

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
2 理念の 共有	1	人権学習推進事業	川西市人権行政推進プラン・川西市人権教育基本方針の具現にむけ、学校園における人権文化の創造を図るため、法の下での平等や個人の尊重、命の尊厳などへの理解を深める取り組みを行うとともに、女性や子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、外国人、高度情報化に伴う人権侵害、性的少数者等、あらゆる人権課題の解決に向け、学校園が実施する「あらゆる人権課題についての子どもの学習機会」を促進する。	教育保育課	○	人権学習推進事業により、各学校園における人権教育の充実を図るとともに、変化していく人権課題に対応した「あらゆる人権課題についての子どもの学習機会」を促進し、実施につなげることができた。昨年度より実施回数が増えつつあるので、今後も継続して当該事業を実施し、学習機会の充実をさらに図っていきたい。	人権学習 実施回数	19回	15回	
	2	子どもの人権 ネットワーク事業	「子どもの権利条約」を基底に据えながら、小学校4年生から中学生までを対象に、土曜日などの休みを利用した子どもたちの自主的諸活動を支援していく。	人権推進課		令和3年度の参加者は市内小・中学生6人で年6回実施した(コロナ禍で3回中止)。参加人数が年々減少しているが、平和・多文化共生・子どもの人権についての学習ができた。	構成員数	6人	6人	
	3	教育研究事業	現状における教育・保育の課題の克服や今後の教育・保育の充実を図るため、市教育委員会が指定する研究テーマに基づき、市教育委員会及び市教育委員会指定校園所が協働で研究を進める。事後討議等による異校種の教職員の相互理解を通して、子ども理解及び校園所内研修の充実及び校園所の連携に資する。	教育保育課	○	実態把握に基く「授業・保育のユニバーサルデザイン化」等について研究指定事業を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、研究指定校園所による研究公開は中止した。研究内容については、適宜機会を持ち、市立校園所へ周知や共有を行い、冊子に成果をまとめた。	指定校園数	1校園所	-	
	4	食育の推進	食育は間口が広く、市民の各ライフステージ別や「健康」だけでなく、「産業振興」「地産地消」「消費生活」「美化環境」「幼児・学校教育と給食」など様々な分野にまたがる。川西市健幸まちづくり計画(第2次川西市食育推進計画)に示す共通の目的のもと、様々な楽しみ方がある「食」を通じた交流や地域振興を図る。	健幸政策課	○	市行政栄養士連絡会、市食育推進連絡会、市食育推進会議で検討を行った食育フォーラムは、昨年引き続き新型コロナウイルス感染防止のためやむをえず中止となったが、食育に関わる市民団体や部署と連携し作成した「食育だより」と「食育カレンダー」を発行し、幅広い市民に情報発信を行うことができた。	会議・連絡会等の 開催回数	市行政栄 養士連絡会 2回 市食育推 進連絡会 1 回 市食育推 進会議 1回	市行政 栄養士連 絡会 2回 市食育 推進連絡 会 1回	
	5	いのちとこころの セミナー	若年層の自殺防止を目的とし、多くの人に、早い段階から継続的に自尊感情の醸成が必要であることを認識する機会を設けるための講演会を実施する。	地域福祉課	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomによるライブ配信で講演会を実施した。今回は子どもに焦点をあて、コロナ禍で子どもの心の不調を見逃さないために、周りの大人ができることについてをテーマに開催した。参加が低調であったため、今後参加人数を増やすための工夫が必要である。	参加者数	27人	50人	
	6	いのちの授業	自殺の未然防止を目的とし、市内の中学生・高校生を対象に、グリーンフェアの専門家を招いて、自尊感情と相手を思いやる心の醸成のための授業を実施する。 グリーンフェア：親しい人と死別した人に寄り添い支援すること	地域福祉課	○	「SOSの出し方教室～自分と相手を大切にするために～」をテーマとして、中学校1校1学年でのみ実施し、生徒・先生の合計165人が受講した。	受講者数	165人	0人	

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
3 自然環境 を活用した 体験学習	1	里山体験学習事業	小学校4年生を対象に日本一の里山である黒川地区を舞台とした自然観察や地域住民とのふれあいを通じて、自然に対する畏敬の念や生命のつながり、環境保全の大切さなどを実感する機会を設け、児童の心の豊かさを育む。	教育保育課		新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制約されていたが、各校年2回実施した。里山体験活動は川西市の独自の取り組みであり、地域と連携した充実度の高いものとなっている。	児童の充実度	96%	-	
	2	小学校体験活動事業	小学校3年生が地域の自然の中で、地域の人々の協力を得ながら、五感を使って命の営みや大切さを学ぶ活動を推進する。また、小学校5年生が自然の中で、4泊5日の宿泊体験を通じて、豊かな感性や社会性を育む活動を推進する。	教育保育課	○	各小学校が校区の特性や地域の方々の協力を得て、発達段階に適した取り組みを進め、ふるさと意識の醸成が行われている。新型コロナウイルス感染症の影響により宿泊数の減や、日帰りで活動の実施となったが、各校がプログラムを工夫し、充実度の高い活動となっている。	児童の充実度	95.0%	93.2%	
	3	丹波少年自然の家運営事業	丹波少年自然の家を、阪神丹波地区9市1町による一部事務組合の事業として実施する。	教育保育課	×	令和5年度末での丹波少年自然の家事務組合の解散が決定している。令和5年度以降、丹波少年自然の家に代わる活動場所の確保に課題がある。	利用者数	1,638人	926人	
	4	知明湖キャンプ場管理運営事業	知明湖キャンプ場の管理・運営を実施する。	文化・観光・スポーツ課	○	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、多くの子どもたちに野外活動に触れる場を提供することができ、施設の利用者数は大幅に増加した。	利用者数	16,904人	11,652人	
	5	地域活動支援事業	自然ふれあい講座の開催、青少年育成団体と子ども会活動への助成、青少年育成指導者の養成など、健全育成活動への支援を行う。	社会教育課		自然ふれあい講座は令和2年度で終了し、令和3年度からは、市民が企画、運営するプレーパークの支援のほか、プレーパークに取り組みとする市民への研修などを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見合わせた。 青少年団体や子ども会の加入率の低下によって、団体運営が課題となっており、青少年のニーズを的確につかみ、今後の団体運営支援のあり方について考えていく必要がある。	参加者数 団体会員数及び 登録者数	791人	791人	
4 異なる世代や 集団との交流	1	児童館事業	2・3歳児対象の親子幼児教室や親子のふれあい、保護者同士の交流の場の提供。小学生を対象とした将棋・ショートテニス・ダンス・ハンドベル等各種教室の実施。親子向けに遊戯室と体育室を、小学生向けに体育室を開放する。	総合センター	○	新型コロナウイルスの影響で各種教室が中止となり、遊び場開放の利用者数も昨年度とほぼ同じだった。Zoomを使った非対面の事業を継続したほか、工作キットの配布、久代児童センターとの連携事業等、児童の健全育成や親子のふれあいに係る相談などを実施した。利用者数は、今年度も新型コロナウイルスによる事業中止等の影響があり、ほぼ変わらなかった。	利用者数	3,064人	3,098人	
	2	放課後子ども教室	各小学校区において小学校の放課後や週末、夏休みなどに学校の施設等を活用し、各小学校区の市民の方々などに放課後子ども教室の運営を委託し、子どもの安心、安全な居場所づくりに努める。	社会教育課		新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、8小学校区が事業中止となったが、8校については感染症対策を徹底し、短歌やけん玉の教室といった伝統的な体験講座や、漢字検定教室をはじめとする学習講座など、多岐に渡る教室を開催した。 しかし、指導者の高齢化による後継者不足から活動を休止した校区もあり、今後は地域学校協働本部との連携・協働を図り、地域人材の発掘など、解決に向けての取り組みを検討する必要がある。	実施日数	799日	644日	
	3	世代間交流事業	久代児童センターにおいて、併設している老人福祉センターの利用者にボランティアで講師を依頼し、茶道・大正琴・囲碁・詩吟等を子どもたちに教授する。また、学校の行事等で地域住民と交流する。	こども支援課	-	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、対面事業となる本事業は実施できなかった。	事業実施件数	-	-	

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
			4 公民館運営事業	市内の公民館において、子ども・親子・世代間交流、伝統文化などの講座を開催する。	各公民館	○	多数の人が集まるリスクを避けることから新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年12月まで公民館講座を中止したが、令和4年1月以降、子どもと保護者対象の「読み聞かせ」や子ども対象の「科学実験教室」などを実施した。	講座回数	17回	-
			5 若者の居場所運営事業	「居場所」に関する講座や、ひきこもりや不登校者、若年無業者など困難を有する若者の親同士の情報交換会のほか、子ども・若者によるスペース活用、子育て関係講座利用を検討する。	こども若者相談センター	○	居場所事業として、相談者同士を合わせる小規模ミーティングを開催した。	講座等の実施回数	23回	13回
			6 乳幼児とのふれあいを通じた体験事業	乳幼児とのふれあいや子育て体験談などを通して、家族や周りの人々の思い、自分の価値などに気づき自分を大切にするとともに、互いを思いやり他者を尊重できる心を培うなど、命の大切さを実感する機会を設ける。	教育保育課		新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での実施はできず、オンラインでの実施となった。赤ちゃんとは画面を通してのふれあいとなったが本事業を通して、家族や周りの人々の思い、自分の価値などに気づき、自分を大切にするとともに互いを思いやり他者を尊重できる心を培うなど、命の大切さを実感する学習に取り組むことができた。新型コロナウイルス感染症の影響で、状況に応じて開催方法や実施回数を変える必要があり、それに係る費用の確保が課題である。	参加児童生徒数 赤ちゃん先生数	303人 22組	-
			7 学校支援地域本部事業	登録ボランティアを中心に市内各学校の図書活動の支援を行うほか、授業補助や環境整備の支援を実施する。	教育保育課	○	令和3年度は多田中学校区・清和台中学校区・東谷中学校区地域学校協働本部内の小中学校で学校ごとに地域学校協働活動のコーディネーター役を選出し、地域学校協働活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり実施回数は少なく、ウイズコロナでの活動を検討していく必要がある。	設置数	3中学校区	3中学校区
	5 への 充実 した 社会 生活		1 成人式典実施事業	成人が一堂に会する場を設け、大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を励まし祝福する。	社会教育課	○	新成人が小学6年生の時に書いた手紙の入ったタイムカプセルの開封式を実施した。アンケートの回答者のうち約44.9%がタイムカプセル開封式について「今回のイベントで最も良かった」と回答を得られた。今後は、より参加者の満足度を上げられるようにアンケートの意見を取り入れた運営を行う必要がある。	参加者の満足度	96.4%	94.0%

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)	
							コメント	評価指標	R3数値		
2 就業への 支援		1	就労支援事業	川西しごと・サポートセンターにおいて求職者に対して求人情報の提供や就職相談を行う。	産業振興課		前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた外出の自粛及び求人検索のインターネット化の普及を受け、利用者は減少している。未だ雇用状況は悪化しているため、ICTを活用しながら、引き続き、就労希望の人に情報が届けられるよう周知を図る。	利用者数	19,570人	24,772人	
			2	労働者支援事業	キャリアカウンセリング(1)、労働相談を行う。また、インターネットを活用して自宅で仕事ができるクラウドソーシング(2)を提案する「在宅就業促進支援事業」と39歳以下の若年者を対象に事業所での就労体験を通じて、就職につなげる「若年者就労体験支援事業」を実施する。 1キャリアカウンセリング:個人にとって望ましい職業選択やキャリア開発を支援するプロセスのこと。 2クラウドソーシング:インターネットを活用し、世界中の企業と個人がつながり、仕事の受発注が行えるサービスのこと。	産業振興課	○	キャリアカウンセリング、労働相談は一定のニーズがあるものの利用者数が減少している。いずれもハローワークとの連携や広報誌、ホームページ等で引き続き周知を行っていく。 コロナ禍でも受入可能な事業所の開拓や体験方法・期間の変更を行ったことにより、体験人数を増加することができた。今後は、就職氷河期世代も視野に入れた、対象年齢の引き上げを検討していく。	キャリアカウンセリング 労働相談 若年者就労体験支援事業	50人 20人 19人	81人 30人 11人
			3	若者キャリアサポート川西	概ね40歳までの若年者を対象に、就労へ向けて、応募書類の添削や面接対策など、キャリア形成を踏まえた支援を行う。また、社会保険労務士などの専門家を配置し、就労先の労働契約等についての相談を行う。	産業振興課		新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、若者キャリアサポート川西の周知及びキャリアカウンセリングでの連続した支援を行った結果、利用者数が増加した。	利用者数	569人	448人
3 健全育 成環境の 整備	1	1	ICT活用推進事業	コンピュータやインターネットなどを活用した情報教育を充実させ、情報モラルを含めた児童・生徒の情報活用能力を育成する。	教育保育課		教育情報機器を活用した紙面での実践報告会の開催し、実践交流会を行った。	教育情報機器を活用した実践報告会	3校	3校	
			2	インターネット・ケータイ問題への取り組み	児童・生徒自身が被害者や加害者にならないという視点で、利用時の危険回避などの知識や情報を正しく理解できるように、効果的な情報の発信と広報啓発に努める。	教育保育課		児童・生徒に対して、インターネット・携帯電話の使用に潜む危険性を外部機関と連携しながら啓発することができた。	教育の情報化に関する校内研修等の実施状況調査	24校	24校

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
2 協働による 生活安全活動	1	生活安全事業	地域の代表者や生活安全関係機関、市で構成される生活安全推進連絡協議会において、生活安全活動に必要な協議、情報交換を行い、市民による自主的な生活安全活動を促進する。また、青色回転灯装備車両による自主的な防犯パトロールを希望する地域団体などに対し、その実施を委嘱する。	生活相談課		令和3年度より生活安全推進連絡協議会を7月と10月に開催するなど見直しを行い、そこで各地域における生活安全上の課題について協議を実施するとともに、地域団体等に「青色回転灯自主防犯パトロール」の実施を委嘱し、地域における自主的な防犯活動に対する支援を行った。青色回転灯を灯火した公用車によるパトロールについては、全庁的な取り組みには至っていない。	推進	-	-	
	2	消費者啓発事業	携帯電話やインターネットのトラブル、契約などについて、学校や地域への出前講座などを通じて各ライフステージに応じた消費者教育を実施する。	生活相談課		<p>コロナウイルス感染症拡大のため出前講座がほとんど実施できなかった。代わりに小・中学校へ消費者教育DVDの貸出しを次の通り貸出した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生「しっかり学ぼう！ ネットと契約 小学生高学年用」...4クラス151人。 中学生「しっかり学ぼう！ ネットと契約 中学生用」...4クラス152人。 <p>また、民法改正による令和4年4月からの成年年齢引き下げを見据え、次の通り啓発を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市広報誌で2ページにわたり啓発記事掲載。 出前講座を高校生250人に契約するときの注意点や消費者トラブルの事例などを伝え実施。 令和4年4月1日時点で18歳の市民へ啓発冊子を送付。 くらしの講座「成年年齢引き下げで18歳から狙われる！」をテーマに実施。22人参加のうち18歳以下の参加者1人。 	出前講座の実施回数・参加者数	教育施設 1回 250人	教育施設等 11クラス 433人	
	3	青少年育成市民会議補助事業	各中学校区の青少年育成市民会議を核にして、地域の青少年健全育成団体の連携を図り、地域のおとなが声かけ(あいさつ運動)・見守り(登下校時の子どもの見守り)運動などを実施する。	社会教育課		川西市青少年育成市民会議については、令和2年度末で一旦活動を休止し、今後は地域学校協働本部の推進に合わせ、活動内容を精査し、必要に応じて支援を行う。	推進	-	-	
	4	青少年センター運営事業	青少年の非行防止と児童・生徒の安全確保を図るため、警察・学校・市民が連携協力し、補導活動や安全確保に関する活動を行う。	教育保育課	○	非行防止や安全確保を関係機関と連携して進めることができた。「補導委員による声掛け」回数に着目すると、令和2年度より減少しているがこの数値を大きな成果ととらえてはいない。この値が示す背景には「不良行為をしていた、もしくは悩みこんでいた人数をカウントし、『こんにちは、おかえり・・・』等の挨拶はカウントしないようにした。」があり、喫煙、蟻集行為等は減少傾向にあるものの、横ばい状態である。引き続き関係機関と連携し継続的に取り組む必要がある。	声掛け	83回	114回	
	5	青少年を取り巻く環境実態調査	図書類・DVD・玩具類・携帯電話取扱店などを訪問し、青少年を取り巻く社会環境の実態調査と有害環境浄化活動をする。	教育保育課		補導委員による定期的な補導活動での店舗訪問を行うとともに、11月から12月にかけて「青少年を取り巻く環境実態調査」を実施し、各店舗に趣旨の説明(青少年愛護条例の啓発)を行い、協力を依頼した。	店舗数	69店舗	77店舗	

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)	
							コメント	評価指標	R3数値		
		6	子どもをまもる 110番のおうち	児童・生徒の登下校時などにおける安全確保のため、PTA・コミュニティ・諸団体の協力を得ながら「子どもをまもる110番のおうち」の整備を図る。	教育保育課		毎年1月～3月にかけて「110番のお家」継続意思確認作業を各学校で行っているが、学校業務の負担軽減のため今年度より教育委員会事務局が一括して行った。結果、高齢や死亡等による辞退者が発生したこと、また不透明だった登録家庭を見える化したことにより減少したが「110番のお家」全協力家庭・事業所の実態把握ができた。この情報は川西警察署と共有し、児童生徒の安全確保の資料となった。今後、古くなった旗、プレートの交換を継続的に進め、不審者に遭遇した時迅速に逃げ込める「110番のお家」の環境を整えるとともに、分布図を作成する。一方、新たな担い手の確保として、保護者、コンビニエンスストア、事業所等への啓発活動を進める。	掲示箇所	555箇所	672箇所	
		7	青色回転灯 パトロール	警察署の許可を得て公用車に青色回転灯を装備し、児童生徒の安全確保と広報啓発を目的に、定期巡回並びに緊急時の特別巡回を行う。	教育保育課	○	定期巡回パトロール、緊急時のパトロールを行い、見守り活動を行った。コロナ禍において、地域の補導委員等の見守り活動が縮小されたため、積極的に巡回した。	回数	64回	125回	
		8	学校安全協力員	校内及び通学路での子どもの安全を確保するため、保護者や地域住民の協力を得て、校門での声かけや通学路での見守り、付き添いを実施する。	教育保育課	○	新たな担い手の確保が困難な中、「地域の子どもは地域で守り育てる」自覚をもって市内571名の地域住民が学校安全協力員に参加している。今年度はコロナ禍において不安を感じる児童が発生する中、登校班の付き添いは大きな成果である。	人数	571	624人	
	4 健全な成長を支える担い手の養成		1	[再掲] 地域活動支援事業	自然ふれあい講座の開催、青少年育成団体と子ども会活動への助成、青少年育成指導者の養成など、健全育成活動への支援を行う。	社会教育課		再掲			-
			2	地域づくり一括 交付金	概ね小学校区を単位とするコミュニティ組織に、毎年度一括交付金を交付。地域が主体となり、各地域の課題解決に向けた事業を行うため活用する。	参画協働課		コミュニティへの支援を通じて、青少年育成など各地域の課題解決への支援を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年度に引き続き各コミュニティが課題解決に向けて活動できる機会は減少した。	推進	-	-
			3	林業振興事業	森林ボランティアグループの活動に対して助成金を交付する。	産業振興課	○	森林ボランティアグループの会員数は若干増加した。引き続き、ボランティアの育成・確保に努めていく。	会員数	267人	231人
			4	防災リーダー養成 講座受講等助成金	地域での防災の担い手を育成するため対象講座を受講し、防災士の資格を取得するとともに、地域の訓練等に参加した人に対して受講に係る費用の一部を助成する。	危機管理課		新型コロナウイルス感染症の影響により講座の受講者数減少の影響もあり、助成金の申込者数も減少した。受講者の増加を図るべく、若年層への周知についても、引き続き積極的に行っていく。	受講者 (40歳未満)	2人	2人

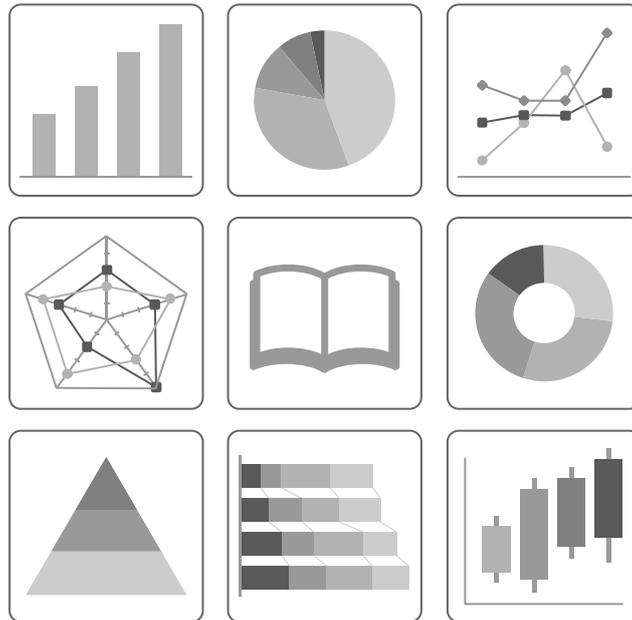
			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
5 文化・ スポーツを 通じた交流 や新たな発 想への支援	1	文化財団事業	青少年を対象とする様々な事業を通して、青少年に音楽や伝統文化などに触れる機会を提供し、その育成を図る。	文化・観光・スポーツ課	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため複数の事業が中止となったものの、青少年へさまざまな音楽や伝統文化などに触れる機会を提供することができた。	参加者数	574人	410人	
	2	地域スポーツクラブ (スポーツクラブ21) 支援事業	子どもたちのスポーツを通しての地域の人々との交流や人間的成長、体力の向上を図るため、全小学校区に設立している地域スポーツクラブの運営を支援する。	文化・観光・スポーツ課	○	ホームページ等で市内のスポーツクラブのPRをし、会員数の増加にむけての支援を行った。また、各クラブにおいて、教室の開催などの会員増加を目的とした取り組みを実施するなど、会員の確保に努めた。	小学生以下の 会員数	2,125人	2,035人	
	3	スポーツ少年団 支援事業	スポーツや交流事業などによる青少年の健全育成を図るため、スポーツ少年団の活動を支援する。	文化・観光・スポーツ課	○	広報紙に掲載、ホームページの更新などの支援を行い、会員数の確保にむけて、団体の周知を行った。子どもの数が減少傾向にある中、会員の確保に努めた。	スポーツ少年団の 登録者数	609人	617人	
	4	文化財保存 啓発事業	市内の小学生を対象に、広報誌などを通して一般公募した参加者ととも、古代体験学習や昔あそびを体験する。	社会教育課	○	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により参加人数を限定しながらも、子どもたちに興味を持ってもらえるような講座等を開催し、多くの方に参加してもらうことができた。	参加者数	604人	86人	
	5	川西女性起業塾	市内在住または市内での起業に関心のある女性を対象として、ノウハウを持つ専門家を講師に、段階を踏んだセミナーを行うほか、創業者などとの交流イベントを開催する。	産業振興課		起業段階を3つに分けて各種セミナーを開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年同様オンライン型で開催し、幅広い層へのニーズに対応ができた。今年度は「創業者体験談」というプログラムで、川西女性起業塾卒業者と現受講者との交流の機会を作り、充実した起業支援をすることが出来た。	利用者数	39人	65人	

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
第4章	3 若年無業者・フリーターへの支援	1 相談体制	1 子ども・若者総合相談窓口事業	臨床心理士などによる、ひきこもり、若年無業者、不登校者とその保護者への相談を実施し、若者の居場所や就労、福祉サービスへとつなぐ。	子ども若者相談センター		専任の臨床心理士が、困難を抱えている当事者や保護者からの相談に対応し、的確なアセスメントに基づいて、社会生活を円滑に営むことや就労を促すための助言、支援機関の紹介等を行った。	相談件数	52件	54件
			2 子どもの人権オンブズパーソン事業	いじめや不登校、児童虐待など、18歳未満の子どもの人権問題に対して相談および関係機関との調整を行うほか、保護者などからの申立てやオンブズパーソンの自己発意による調査を実施するなどして、子ども救済から見てきた課題に対しては、「子どもの最善の利益」を確保する観点に立って、行為などの是正や改善を求めて、勧告や意見表明などを行う。	人権推進課	○	2021年次の相談ケース数は70件、うち新規ケースは47件、前年次からの継続件数は23件であった。年間相談者数は134人、年間相談・調整回数は802回であった。調査案件は1件受け付け、延べ84回調査を実施し、2022年次の継続案件となった。	小・中学生の認知度 (2年に1回調査)	80.95%	2年に1回の調査のため未評価
			3 心の相談事業	日常生活のストレス、ひきこもりなどで、精神に障がいや来す恐れのある人およびその家族に対して、専門医と精神保健福祉士などが相談に応じる。	障害福祉課	○	毎月第3金曜日に医療会館において「心の相談」を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、前年度に比べ相談件数が増加した。課題として相談者のいない月もあるため、引き続き広報等を通じ周知するとともに、情報発信の手段を含めて広報の仕方を検討していく。	相談件数	18件	9件
			4 青少年相談事業 適応教室運営事業	子ども・保護者を対象にした電話相談・来所相談や、教師に対するコンサルテーションを行う。不登校や登校できない状況の小・中学生に適応教室「セオリア」の開室や保護者対象の「おしゃべり会」などの相談を行う。	子ども若者相談センター	○	コロナ禍において電話相談も面接相談も例年並みであった。引き続き、学校・保護者・関係機関との連携を図り、個の特性に応じた支援の充実や「セオリア」通室児童生徒への社会的自立に向けた支援を続けていく必要がある。	相談延べ回数	6,335回	5,205回
			5 スクールソーシャルワーカーの配置	問題行動・不登校などの未然防止、早期解決を図るために、社会福祉、精神保健福祉などのスクールソーシャルワーカーを中学校区に配置し、関係機関と連携を取りながら、生徒指導上の諸問題の解決を図る。	子ども若者相談センター	○	スクールソーシャルワーカー（以下「SSW」とする）の配置により、福祉的な視点から、困難を抱える児童生徒を関係機関・福祉制度・民間の福祉事業へつないだり、生活支援等を行ったりすることができた。SSWの配置人数は増えたものの、1名あたりの担当校数は未だ多く、全ての事案に速やかに対応することが困難である。	SSW1名当たりの担当校数	3校	4校
			6 セクマイ相談・学習会	セクシャルマイリティ(LGBT)に関する理解を深めるため、自認する人や悩みを持つ人、理解しようとする人のための相談・学習会を開催する。	総合センター	○	昨年と同様に新型コロナウイルスの影響があったが、パートナーシップ宣誓制度の導入にあわせて啓発を積極的に行ったため、学習会で昨年度より多くの相談があった。LGBTに対する知識や理解及び関心は高まったと考えている。	参加者数	179人	93人
		2 支援ネットワーク	1 子ども・若者支援地域協議会	教育、保健・福祉、医療、雇用、NPO、警察・補導などの関係機関と連携を図りつつ、支援ネットワークを充実する。	子ども若者相談センター		複数の関係機関が集まって、相談窓口の現状について情報共有を図る実務者会議と、ケース検討会議を1回ずつ開催することができた。	会議開催回数	2回	1回

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
		3 居場所	1 [再掲] 若者の居場所 運営事業	「居場所」に関する講座や当事者の親同士の情報 交換会のほか、若者によるスペース活用、子育て関 係講座利用を検討する。	子ども若者相談 センター		再掲			-
		4 雇用 支援	1 [再掲] 若者キャリア サポート川西	概ね40歳までの若年者を対象に、就労へ向けて、 応募書類の添削や面接対策など、キャリア形成を踏 まえた支援を行う。また、社会保険労務士などの専 門家を配置し、就労先の労働契約等についての相 談を行う。	産業振興課		再掲			-
4 経済的 な困窮 への支 援			1 生活保護制度に かかる高等学校 等就学費の支給	高等学校などに就学し、卒業することが当該世帯の 自立助長に効果的であると認められる場合に支給 する。	生活支援課		中学校3年生が所属する被保護世帯に対し、制度の周知をするな ど、高等学校進学に向けて支援を行うと共に、高等学校就学年齢の 保護人員(令和3年度:54人)に対し、適切な認定を行うことができ た。	延べ実施人数	591人	540人
			2 生活保護世帯の 高校生等アルバイ ト等の収入除外	生活保護受給中の高校生のアルバイトなどの収入 のうち、高等学校等就学費の支給対象とならない、 又は賄いきれない経費であって就学のために必要な 最小限度の額を収入として認定しない。	生活支援課		中学校3年生が所属する被保護世帯に対し、制度の周知をするな ど、高等学校進学に向けて支援を行うと共に、高等学校就学年齢の 保護人員(令和3年度:54人)に対し、適切な認定を行うことができ た。	延べ未成年者 控除実施人数	108人	108人
			3 生活保護世帯の 子どもの学習塾等 費用の収入認定 除外	生活保護受給中に受けた貸付金、恵与金などのう ち社会通念上、必要と認められる子どもの学習にか かる費用は、最小限度額を収入認定から除外する。	生活支援課		生活保護受給中に受領した貸付金、恵与金などのうち、社会通念 上必要と認められる子どもの学習に係る費用は、収入認定していな い。	推進	-	-
			4 生活困窮者住居 確保給付金	65歳未満で、離職後2年以内の世帯の生計主が住 居を失うか、失う恐れがある場合に、住居を整えた 上で就職活動に専念することを目的に、一定期間家 賃相当額を支給する。	地域福祉課	○	昨年度から継続しホームページや広報を利用し周知を図った。新型 コロナウイルスの影響が長期化する中、特例措置として支給終了者 も再支給が可能となり、支給件数が増加したと考えられる。今後も必 要とする方へ支援ができるよう、継続し周知を図っていく。	支給件数	109件	102件
			5 生活保護制度に かかる被保護者 就労支援事業	65歳未満で就労可能な生活保護受給者に対して、 就労支援員とハローワークによる就職活動の支援を 行う。	生活支援課	○	稼働年齢層に該当し、就労への阻害要因がない者に対しては、本 人の希望を聞いたうえで、就労支援を実施している。令和3年度にお いては、新型コロナウイルス感染症の影響が一定落ち着きを見せた ため、積極的に就労支援を行った結果、前年に比べ就労開始者が 増加した。	就労開始者 延べ人数	16人	4人
			6 高等職業訓練促 進給付金等事業	ひとり親家庭で、看護師や介護福祉士などの資格取 得のため、2年以上養成機関などで修業する場合 に、就業期間中の生活の負担軽減を図るため、給 付金を支給する。	子ども支援課	○	資格の取得は、ひとり親家庭の安定した就業につながるため、引き 続き周知を図る。	支給対象者数	8人	7人

			事業名	実施内容	担当所管	R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント			参考 (R2数値)
							コメント	評価指標	R3数値	
			7 自立支援教育訓練給付金事業	ひとり親家庭で、就職やキャリアアップのために、指定されている教育訓練講座を受講した場合、受講に要した経費の一部を支給する。	こども支援課	○	スキルアップは、ひとり親家庭の安定した就業につながるため、引き続き周知を図る。	支給対象者数	5人	1人
			8 自立相談支援事業	相談者の生活の苦しみや悩みごと、不安の解消に向け、相談支援員が相談者とともに考え、個々の支援プランをつくり、自立に向けた支援を行う。	地域福祉課	○	就労その他の自立に関する相談支援や同事業利用のためのプラン作成等を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により新規相談件数は、引き続き多い状況が続いている。また、生活困窮者が気軽に相談できるようSNSを活用した相談を令和3年7月より直営で実施し、対面によらない相談手法により、相談者の負担軽減を図った。	新規相談件数	636件	866件
			9 就労準備支援事業	川西市就労準備支援事業所で就労に向けた能力の回復や就労体験の機会を設け、就労準備を行う。	生活支援課		稼働年齢層に該当するが、自身の傷病や障害のため就労が困難な者に対して、受け入れ先の状況、本人の適性を勘案し、就労準備のための支援を実施した。	就労準備事業参加延べ人数	24人	17人
			10 母子父子寡婦福祉資金貸付金	県の貸付制度。ひとり親家庭において、児童の就学などで資金の貸し付けが必要となったとき、母子・父子自立支援員が資金の貸し付けや償還の相談に応じる。	こども支援課	○	さらに制度の周知を図るよう努める。	新規貸付者数	0人	2人
			11 母子父子福祉応急資金貸付事業	ひとり親家庭で、予期せぬ生活困難に陥った際に、生活の安定と向上のため、無利息で必要な資金を貸し付ける。	こども支援課	○	経済的な自立へつながるよう支援していく。	新規貸付者数	0人	0人
			12 児童扶養手当制度	父または母と生計をともにできない児童が養育されている家庭の生活の安定と自立を助けるために、児童の父または母や父または母にかわってその児童を養育している人に支給される。父または母がいても極めて重度の障害がある場合には支給される。	こども支援課	○	適正な事務処理に努めた。	受給資格者数	1,043人	1,063人
			13 養育支援訪問事業	こんにちは赤ちゃん訪問などで、子育てを支援することが特に必要と認められる家庭を対象に、子育てに関する相談や支援などを行う。	こども若者相談センター	○	委託業者による支援実績はなかったものの、市の専門的相談支援として家庭訪問を実施し、個々の家庭に合わせた適切な指導や支援の導入を実施することで、養育上の困難さを軽減することができた。	訪問件数	78回	68回
			14 [再掲] きんたくん学びの道場	「放課後」という時間に「学校」という場で「友だち」との関わりの中で、家庭学習の習慣化及び基礎基本の定着を図ること、また、子どもたちが自主的な学習に取り組む姿勢や態度、意欲を育む学習支援を行う。	教育保育課		再掲			-
			15 就学援助制度	義務教育年齢のお子さんがある世帯で、経済的理由により就学に要する費用の支払が困難な保護者に対して、就学援助の要件に該当した場合、その費用の一部を援助する。	就学・給食課	○	経済的事由により、就学困難な児童・生徒の保護者へ就学に係る費用の一部を援助した。	対象児童・生徒数	1,341人	1,534人

川西市 子ども・若者実態調査 調査結果報告書



令和4年6月

川 西 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	2
7	ひきこもりの定義等	3
8	川西市のひきこもりの比較及び推計	4
II	19歳以上調査	5
(1)	回答者属性	5
(2)	普段の生活について	6
(3)	スマートフォン、インターネットの利用について	23
(4)	現在の人間関係や悩み事について	34
(5)	仕事に関することについて	49
(6)	結婚・将来のことについて	58
(7)	あなた自身のことについて	70
(8)	公共施設・関係機関や政策について	71

Ⅲ 高校生調査	81
(1) 回答者属性	81
(2) 普段の生活について	82
(3) 進路と仕事のことについて	106
(4) 回答者自身のことについて	121
(5) 公共施設・関係機関や川西市の取り組みについて	123

Ⅳ 中学生調査	134
(1) 回答者属性	134
(2) 普段の生活について	135
(3) 仕事や将来のことについて	173

I 調査の概要

1 調査の目的

川西市では、「川西市子ども・若者育成支援計画」（平成30年3月策定）に基づき、「子ども・若者の自立をみんなで応援 希望が持てる未来を」を基本理念に掲げ、困難を有する子ども・若者をはじめ、すべての子ども・若者の健やかな支援に取り組んできました。

本調査は、計画策定時から若者を取り巻く環境が変化していることや令和4年度で計画期間が満了となること、今の子どもや若者がどのような生活を送り、どのような意識を持っているのかなどを把握することで、今後の若者自立支援策の推進にかかる基礎資料とします。

また、ヤングケアラーなど新たな課題についての実態を把握するため、調査を実施しました。

2 調査対象

19歳以上：川西市在住の19歳から39歳までの2,300人を無作為抽出

高校生：川西市内の公立高等学校（計3校）に在籍する高校2年生

中学生：川西市内の公立中学校（計7校）に在籍する中学2年生

3 調査期間

19歳以上：令和4年1月28日から令和4年2月18日

高校生・中学生：令和4年5月9日から令和4年5月27日

4 調査方法

19歳以上：郵送による配布、郵送またはインターネットによる回答

高校生、中学生：学校を通じて配布、インターネットによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
19歳以上	2,300通	881通	38.3%
高校生	800通	275通	34.4%
中学生	1,300通	1,038通	79.8%

6 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

7 ひきこもりの定義等

(1) 広義のひきこもり群の定義

今回の調査では、社会的自立に至っているかどうかに着目して、国が実施している「若者の生活に関する報告書」を引用して以下のように定義します。

※高校生、中学生は設問番号が異なります

「問2 ふだんのくらい外出しますか。」について、下記の5～8に当てはまる者

- 5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない、 8. 自室からほとんど出ない

かつ

「問3 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答した者

であって、

「問4 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ①「病気（病名：）」を選択した者、 ②「妊娠した」を選択した者
- ③「その他（）」を選択し、（）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

「問23 あなたは現在は働いていますか。」で、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と回答した者

を除いた者

上記に加え、今回は「新型コロナウイルス感染症による外出制限」をきっかけとしてケースについても除いている。
※高校生と中学生については「問11①or6① 学校の出席状況」で「1.ほとんど欠席しない」を選択した者を除いている

問2で、6、7又は8に該当する者を「狭義のひきこもり」と、問2で5に該当する者を「準ひきこもり」とし、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とします。

(2) ひきこもり親和群の定義

「問38 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。」の4項目が、すべて「1. はい」又は3項目に「1. はい」1項目のみ「2. どちらかといえばはい」と答えた者から「広義のひきこもり群」を除いた者です。

- N. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- O. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- P. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- Q. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

(3) 一般群の定義

回答者全体から「広義のひきこもり群」「ひきこもり親和群」を除いた者で問38 N～Rの項目にすべて回答している者です。

8 川西市のひきこもりの比較及び推計

(1) 前回調査及び国調査との比較

		回答者数	広義の ひきこもり群	ひきこもり 親和群
今回調査	一般	881人	16人 (1.82%)	84人 (9.53%)
	高校生	275人	0人 (0.0%)	45人 (16.36%)
	中学生	1,038人	7人 (0.67%)	136人 (13.10%)
前回調査	一般	1,114人	10人 (0.90%)	79人 (7.09%)
	高校生	898人	3人 (0.33%)	93人 (10.36%)
参考) 国*		3,115人	49人 (1.57%)	150人 (4.81%)

※内閣府「若者の生活に関する調査報告書」(平成27年12月調査) 15~39歳 5,000人対象

(2) ひきこもり推計者数

	該当する 回答者数	有効回答に 占める割合	川西市の推計者数※	
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	8人	0.91%	323人	準ひきこもり 323人
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	8人	0.91%	323人	狭義の ひきこもり 323人
7. 自室からは出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない	-	-	-	
合計	16人	1.82%	646人	広義のひきこもり 646人

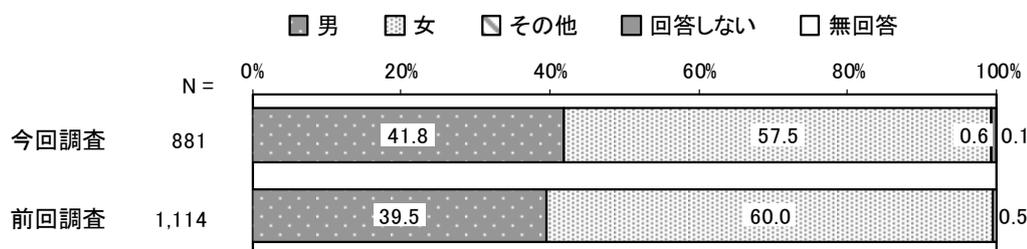
※推計者数は、令和3年12月末時点での「川西市年齢別人口表(住民基本台帳)」から算出(15~39歳の人口は35,436人)。上表では「一般」群におけるひきこもりの発生率を採用している。

II 19歳以上調査

(1) 回答者属性

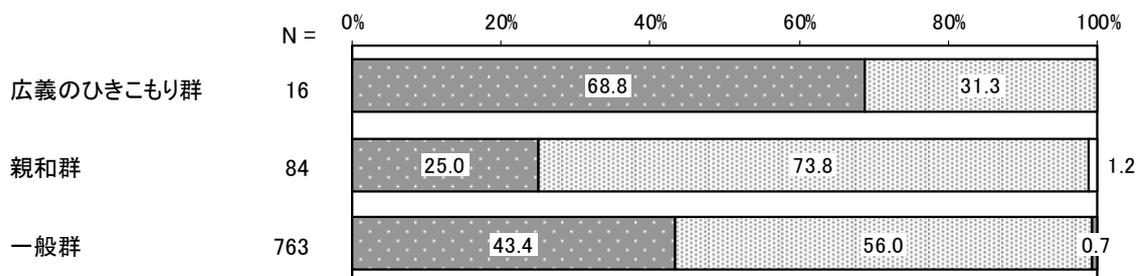
F 1 性別

「女」の割合が57.5%、「男」の割合が41.8%となっています。



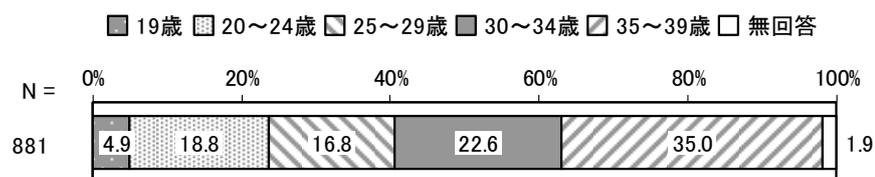
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「男」の割合が高くなっています。また、親和群で「女」の割合が高くなっています。



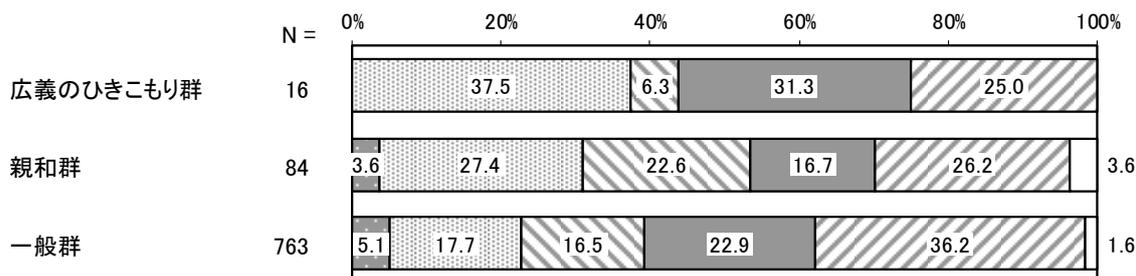
F 2 年齢

「35～39歳」の割合が35.0%と最も高く、次いで「30～34歳」の割合が22.6%、「20～24歳」の割合が18.8%となっています。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「20～24歳」の割合が、親和群で「25～29歳」の割合が高くなっています。また、一般群で「35～39歳」の割合が高くなっています。

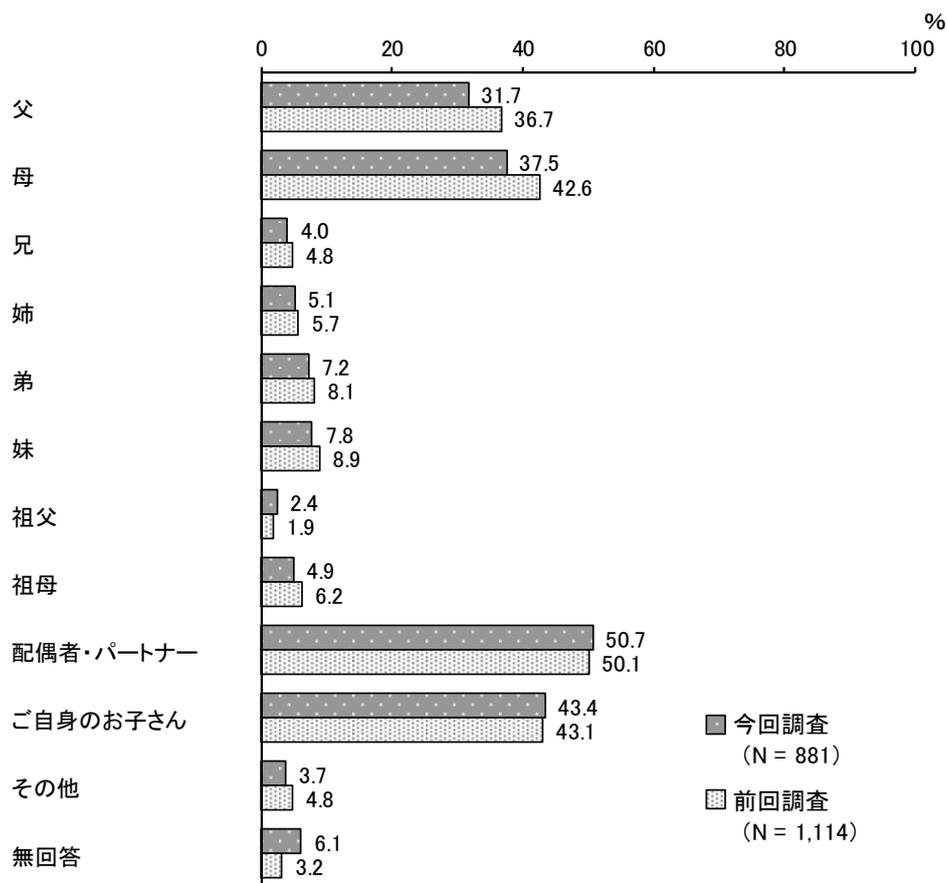


(2) 普段の生活について

問1 あなたが同居している方で、あてはまる人をお答えください。また、同居している人数（あなたも含め）も教えてください。

(1) 同居している方（〇はいくつでも）

「配偶者・パートナー」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「ご自身のお子さん」の割合が 43.4%、「母」の割合が 37.5%となっています。前回調査と比較すると、「父」「母」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「父」「母」「弟」の割合が、男性に比べ、女性で「配偶者・パートナー」「ご自身のお子さん」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「母」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	配偶者・ パートナー	ご自身のお子さん	その他	無回答
今回調査 男性	368	35.3	41.3	4.3	4.6	10.1	9.2	3.5	6.3	45.9	39.1	3.8	7.9
女性	507	29.0	34.7	3.7	5.1	5.1	6.9	1.6	3.9	54.4	46.7	3.7	4.7
前回調査 男性	440	43.2	48.0	5.5	6.6	8.6	10.7	3.4	7.5	45.5	36.8	5.0	3.2
女性	668	32.8	39.5	4.3	5.2	7.8	7.8	0.9	5.4	53.3	47.5	4.5	2.8

【ひきこもり類別】

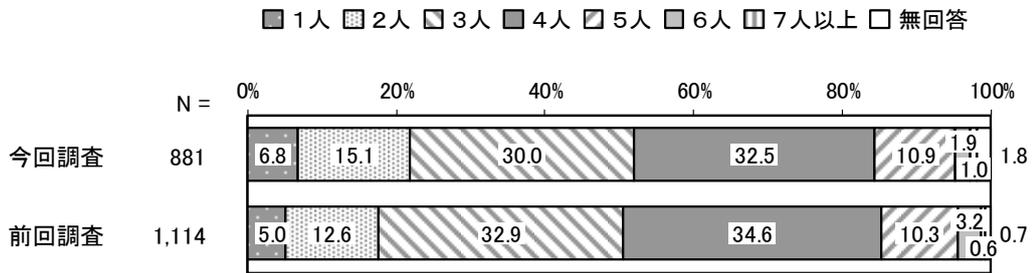
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「父」「母」「弟」の割合が高くなっています。また、一般群で「配偶者・パートナー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	配偶者・ パートナー	ご自身のお子さん	その他	無回答
広義のひきこもり群	16	56.3	75.0	6.3	12.5	25.0	6.3	—	6.3	18.8	12.5	6.3	—
親和群	84	39.3	47.6	4.8	10.7	13.1	10.7	4.8	7.1	29.8	14.3	8.3	7.1
一般群	763	30.0	35.5	3.8	4.3	6.2	7.6	2.2	4.7	54.0	47.2	3.3	6.2

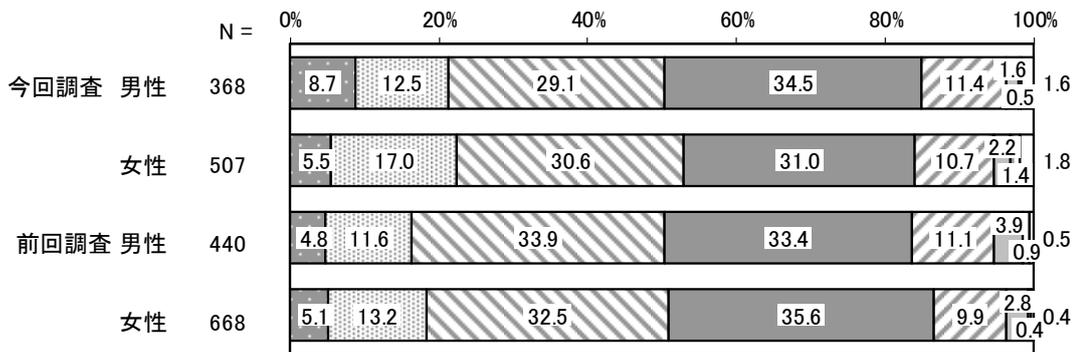
(2) 同居している人数（あなたも含め）

「4人」の割合が32.5%と最も高く、次いで「3人」の割合が30.0%、「2人」の割合が15.1%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はありません。



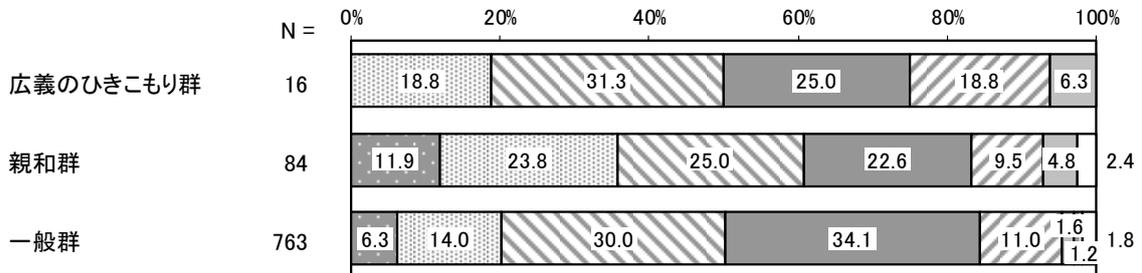
【男女別・経年比較】

男女別で見ると、大きな変化はみられません。
 前回調査と比較すると、大きな変化はありません。



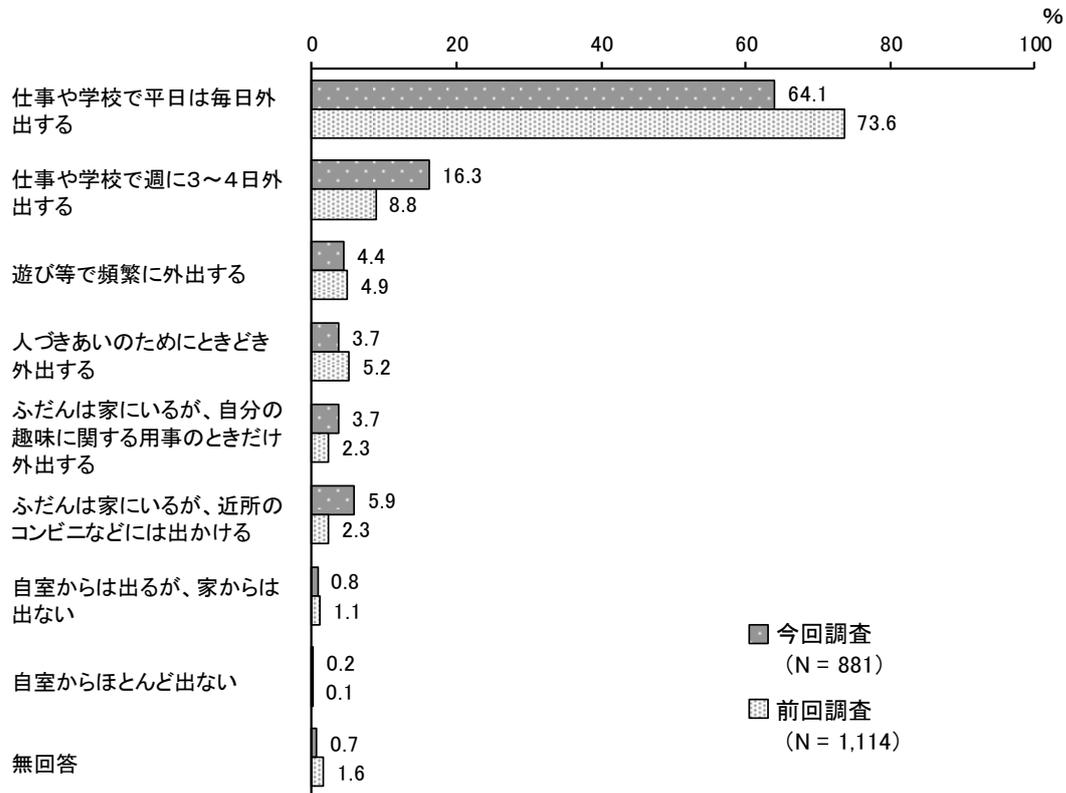
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別で見ると、他に比べ、広義のひきこもり群で「5人」の割合が高くなっています。また、親和群で「2人」の割合が高くなっています。



問2 ふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)

「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が64.1%と最も高く、次いで、「仕事や学校で週に3～4日外出する」の割合が16.3%、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」の割合が5.9%となっています。前回調査と比較すると、「仕事や学校で週に3～4日外出する」の割合が増加しています。一方、「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が、男性に比べ、女性で「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「仕事や学校で週に3～4日外出する」の割合が増加しています。一方、「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≒ (件)	仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにととき外 出する	ふだんは家にいるが、自分の趣味 に関する用事のとときだけ外出する	ふだんは家にいるが、近所のコン ビニなどには出かける	い 自室からは出るが、家からは出な い	自室からほとんど出ない	無回 答
今回調査 男性	368	72.8	16.6	1.6	1.6	3.8	2.4	0.5	—	0.5
女性	507	58.0	16.2	6.5	5.3	3.7	8.5	0.8	0.4	0.6
前回調査 男性	440	83.6	6.8	2.0	2.0	2.3	0.5	0.7	—	2.0
女性	668	67.2	10.0	6.9	7.3	2.4	3.6	1.3	0.1	1.0

【ひきこもり類別】

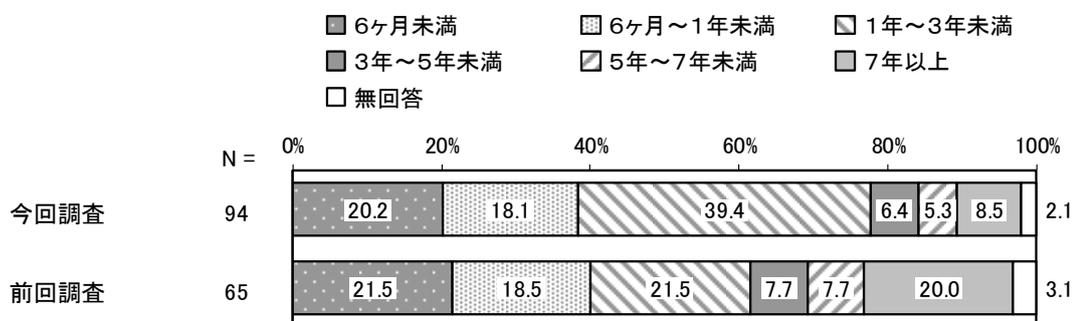
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のとときだけ外出する」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≒ (件)	仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにととき外 出する	ふだんは家にいるが、自分の趣味 に関する用事のとときだけ外出する	ふだんは家にいるが、近所のコン ビニなどには出かける	い 自室からは出るが、家からは出な い	自室からほとんど出ない	無回 答
広義のひきこもり群	16	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—
親和群	84	61.9	13.1	2.4	4.8	4.8	8.3	3.6	—	1.2
一般群	763	66.2	17.3	4.8	3.5	2.8	4.6	0.5	0.3	—

問3 現在の状態となってどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)

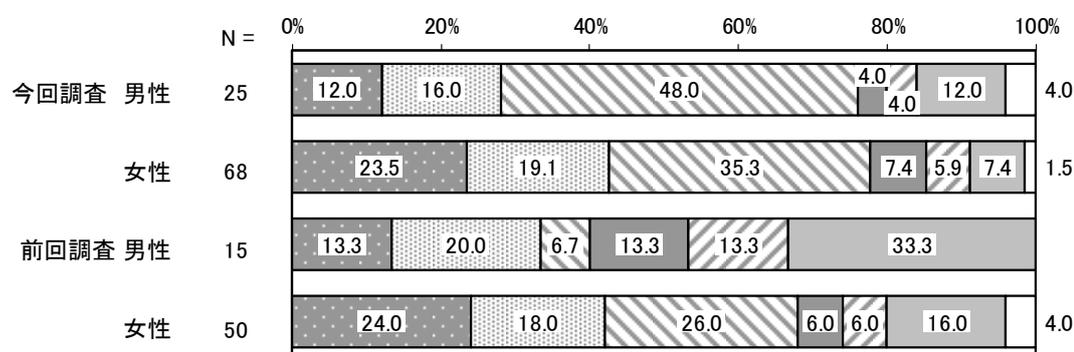
「1年～3年未満」の割合が39.4%と最も高く、次いで「6ヶ月未満」の割合が20.2%、「6ヶ月～1年未満」の割合が18.1%となっています。前回調査と比較すると、「1年～3年未満」の割合が増加しています。一方、「7年以上」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

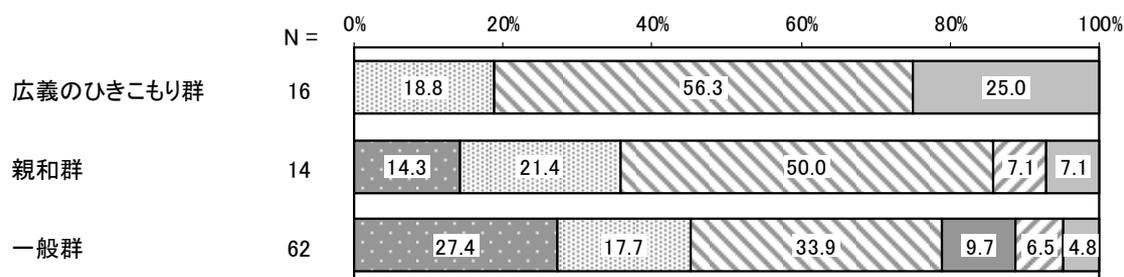
男女別でみると、女性に比べ、男性で「1年～3年未満」の割合が、男性に比べ、女性で「6ヶ月未満」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「1年～3年未満」の割合が高くなっています。一方、男女ともに「7年以上」の割合が減少しています。



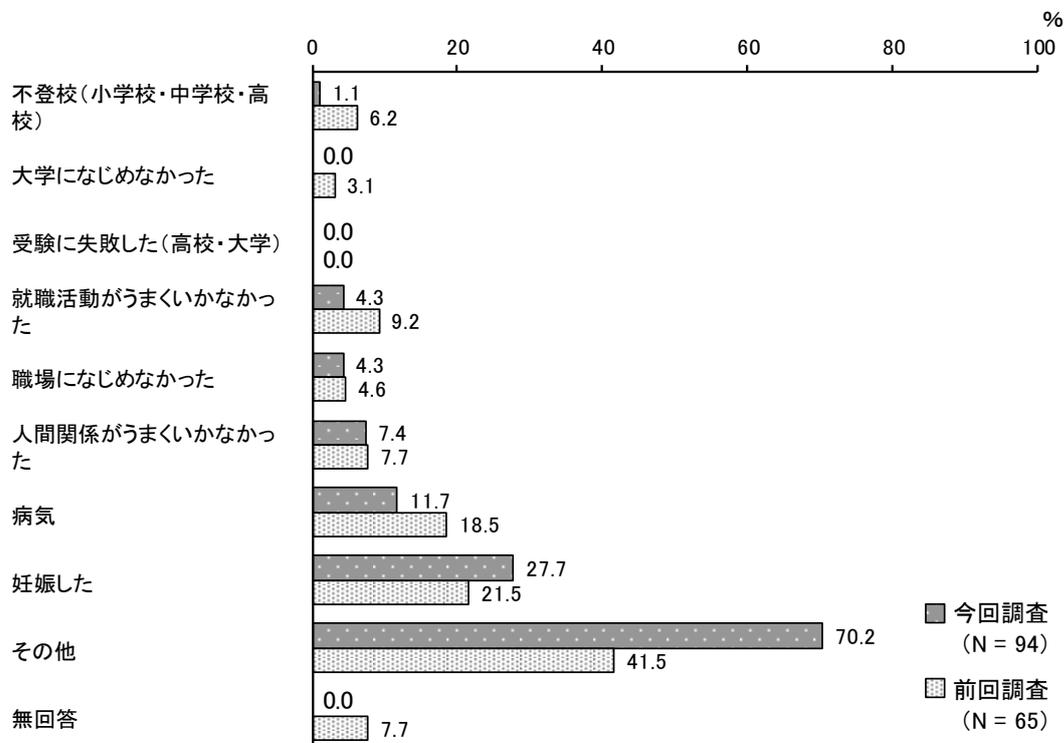
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「1年～3年未満」「7年以上」の割合が高くなっています。



問4 現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「妊娠した」の割合が27.7%と最も高く、次いで「病気」の割合が11.7%、「人間関係がうまくいかなかった」の割合が7.4%となっています。前回調査と比較すると、「妊娠した」の割合が増加しています。一方、「病気」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」「病気」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「人間関係がうまくいかなかった」の割合が、女性で「妊娠した」の割合が増加しています。一方、男性で「就職活動がうまくいかなかった」「病気」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≧ (件)	不登校 (小学校・中学校・高校)	大学になじめなかった	受験に失敗した (高校・大学)	就職活動がうまく いかなかった	職場になじめなかった	人間関係がうまく いかなかった	病気	妊娠した	その他	無回答
今回調査 男性	25	4.0	—	—	8.0	12.0	16.0	16.0	—	76.0	—
女性	68	—	—	—	2.9	1.5	4.4	10.3	38.2	67.6	—
前回調査 男性	15	13.3	—	—	26.7	13.3	6.7	33.3	—	20.0	6.7
女性	50	4.0	4.0	—	4.0	2.0	8.0	14.0	28.0	48.0	8.0

【ひきこもり類別】

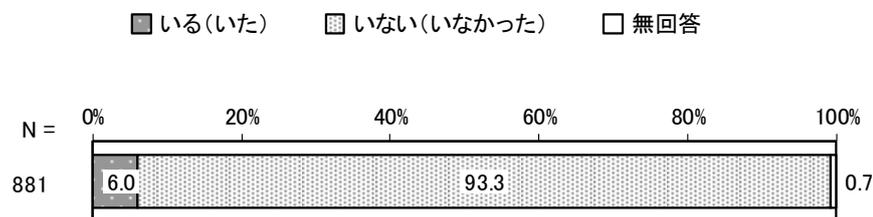
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「不登校(小学校・中学校・高校)」「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	不登校 (小学校・中学校・高校)	大学になじめなかった	受験に失敗した (高校・大学)	就職活動がうまく いかなかった	職場になじめなかった	人間関係がうまく いかなかった	病気	妊娠した	その他	無回答
広義のひきこもり群	16	6.3	—	—	12.5	12.5	12.5	—	—	81.3	—
親和群	14	—	—	—	—	7.1	21.4	28.6	28.6	64.3	—
一般群	62	—	—	—	3.2	—	1.6	9.7	35.5	71.0	—

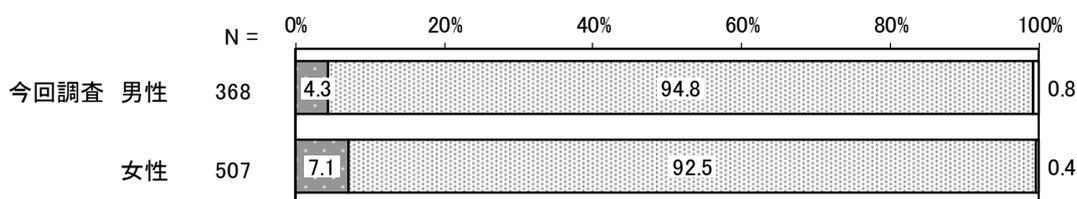
問5 あなたの学生時代、家族の中にあなたがお世話（ケア）をしている人はいます（した）か。（ここで「お世話」とは本来大人がやっていると想定されている家事や家族の世話などをすることです。）（○は1つだけ）

「いる（いた）」の割合が6.0%、「いない（いなかった）」の割合が93.3%となっています。



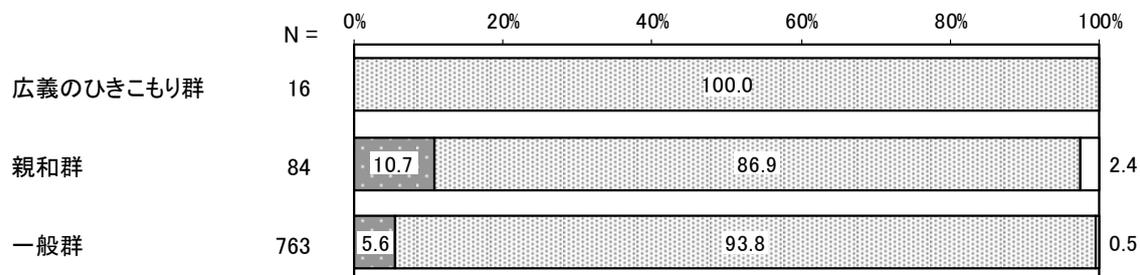
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



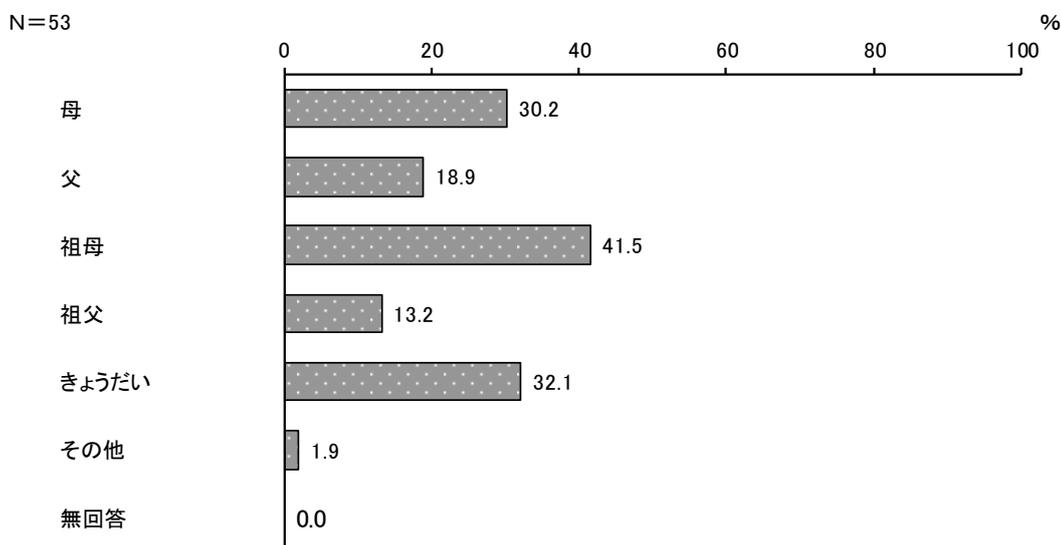
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、親和群で「いる（いた）」の割合が高くなっています。



問6 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）はどなたですか。
（〇はいくつでも）

「祖母」の割合が41.5%と最も高く、次いで「きょうだい」の割合が32.1%、「母」の割合が30.2%となっています。



【男女別】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「母」「父」「きょうだい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
今回調査 男性	16	18.8	12.5	43.8	12.5	25.0	6.3	—
女性	36	36.1	22.2	41.7	11.1	36.1	—	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「祖母」の割合が高くなっています。

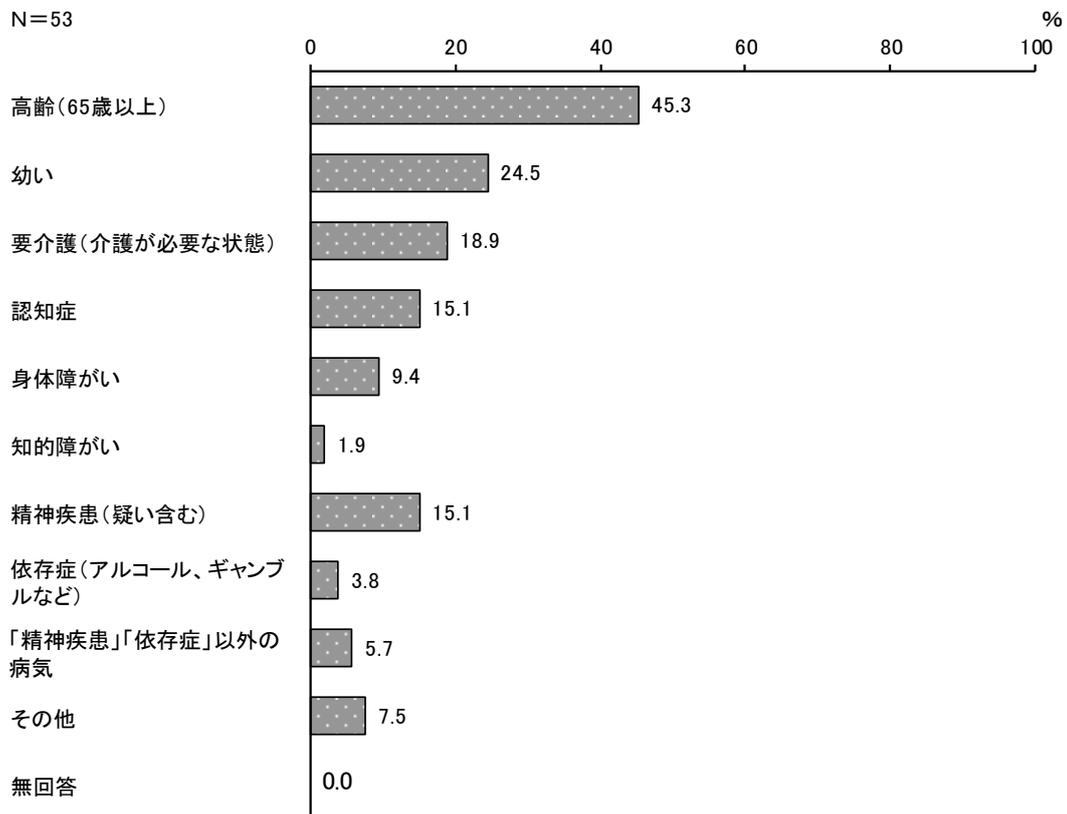
単位：%

区分	≧(件)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	9	33.3	11.1	44.4	11.1	11.1	—	—
一般群	43	30.2	20.9	39.5	14.0	37.2	2.3	—

問7 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況やあなたがやっている（行っていた）お世話とは何ですか。

(1) お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況（〇はいくつでも）

「高齢（65歳以上）」の割合が45.3%と最も高く、次いで「若い」の割合が24.5%、「要介護（介護が必要な状態）」の割合が18.9%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「高齢（65歳以上）」の割合が、男性に比べ、女性で「精神疾患（疑い含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な 状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール、 ギャンブルなど)	「精神疾患」「依存症」 以外の病気	その他	無回答
今回調査 男性	16	56.3	25.0	18.8	18.8	12.5	—	6.3	—	—	—	—
女性	36	38.9	25.0	19.4	13.9	8.3	2.8	19.4	5.6	5.6	11.1	—

【ひきこもり類別】

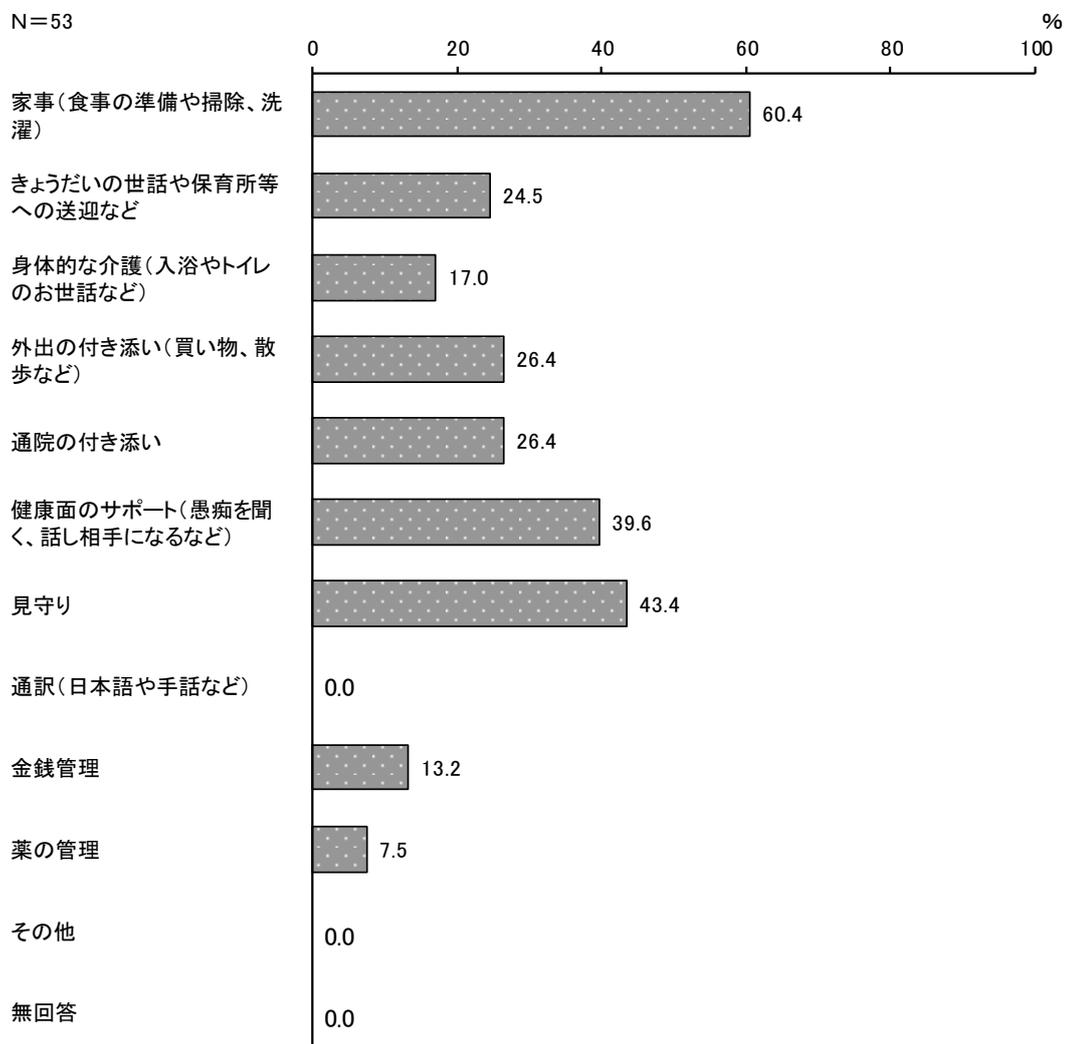
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「要介護（介護が必要な状態）」「精神疾患（疑い含む）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な 状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール、 ギャンブルなど)	「精神疾患」「依存症」 以外の病気	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	9	33.3	—	33.3	—	11.1	11.1	22.2	—	22.2	—	—
一般群	43	46.5	30.2	16.3	18.6	9.3	—	14.0	4.7	2.3	9.3	—

(2) あなたが行っている（行っていた）お世話（ケア）の内容（〇はいくつでも）

「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「見守り」の割合が 43.4%、「健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」の割合が 39.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「金銭管理」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」「健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」「見守り」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
今回調査 男性	16	56.3	25.0	6.3	25.0	25.0	25.0	37.5	—	18.8	6.3	—	—
女性	36	63.9	25.0	22.2	25.0	25.0	44.4	47.2	—	11.1	8.3	—	—

【ひきこもり類別】

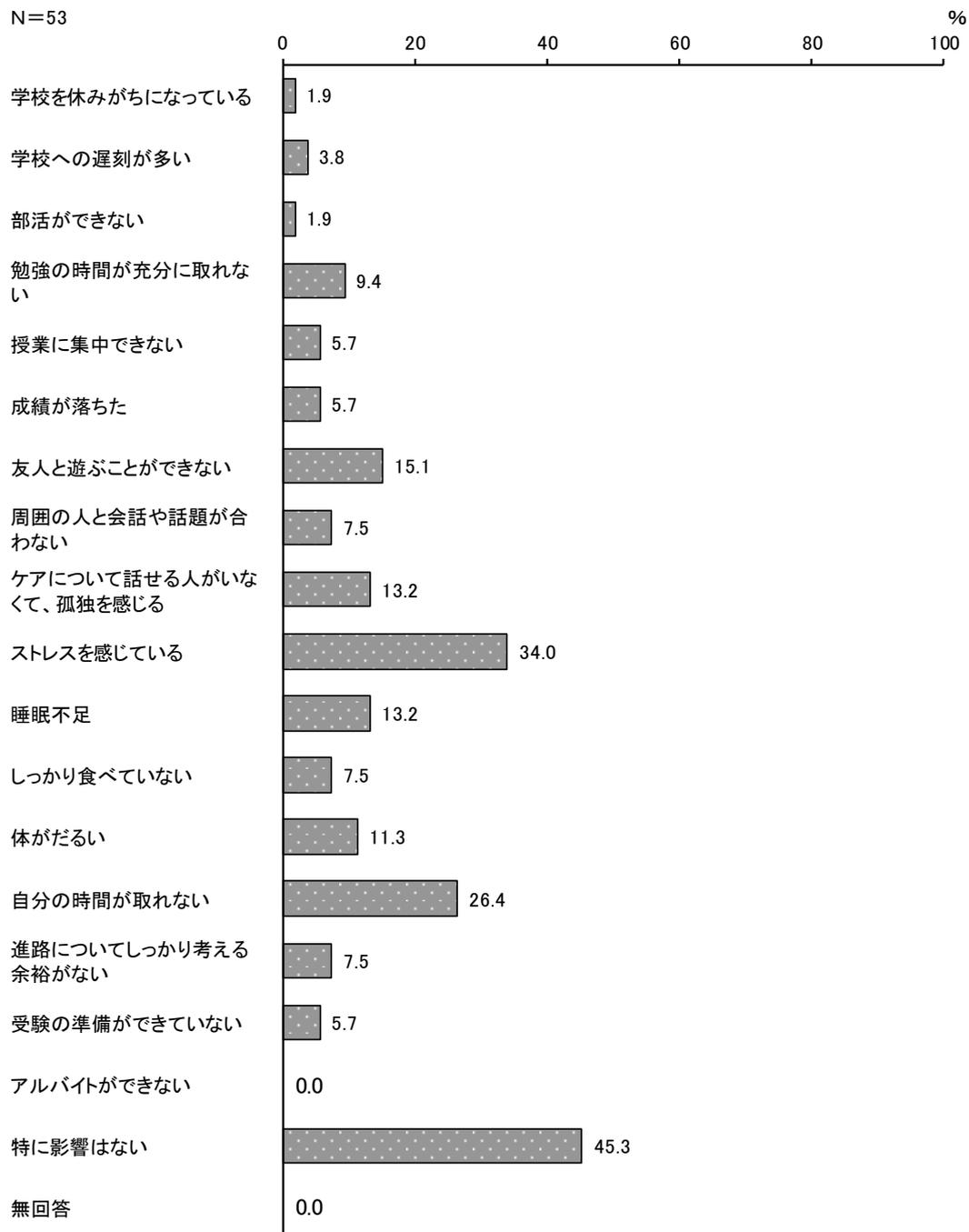
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」「通院の付き添い」「健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」「見守り」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	外出の付き添い（買い物、散歩など）	通院の付き添い	健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	見守り	通訳（日本語や手話など）	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	9	55.6	11.1	44.4	22.2	33.3	66.7	55.6	—	—	11.1	—	—
一般群	43	60.5	27.9	11.6	27.9	25.6	34.9	39.5	—	16.3	7.0	—	—

問8 家族のお世話（ケア）をしているために、自分の生活にどんな影響が出ている（出ていた）と思いますか。（〇はいくつでも）

「特に影響はない」の割合が45.3%と最も高く、次いで「ストレスを感じている」の割合が34.0%、「自分の時間が取れない」の割合が26.4%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「特に影響はない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「ストレスを感じている」「自分の時間が取れない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	学校を休みがちになっている	学校への遅刻が多い	部活ができない	勉強の時間が充分に取れない	授業に集中できない	成績が落ちた	友人と遊ぶことができない	周囲の人と会話や話題が合わない	ケアについて話せる人がなくて、孤独を感じる
今回調査 男性	16	—	—	—	6.3	—	—	12.5	—	—
女性	36	2.8	5.6	2.8	11.1	8.3	8.3	16.7	11.1	19.4

区分	ストレスを感じている	睡眠不足	しっかり食べていない	体がだるい	自分の時間が取れない	進路についてしっかり考える余裕がない	受験の準備ができていない	アルバイトができない	特に影響はない	無回答
今回調査 男性	12.5	—	—	12.5	18.8	6.3	6.3	—	62.5	—
女性	44.4	19.4	11.1	11.1	30.6	8.3	5.6	—	36.1	—

【ひきこもり類別】

単位：%

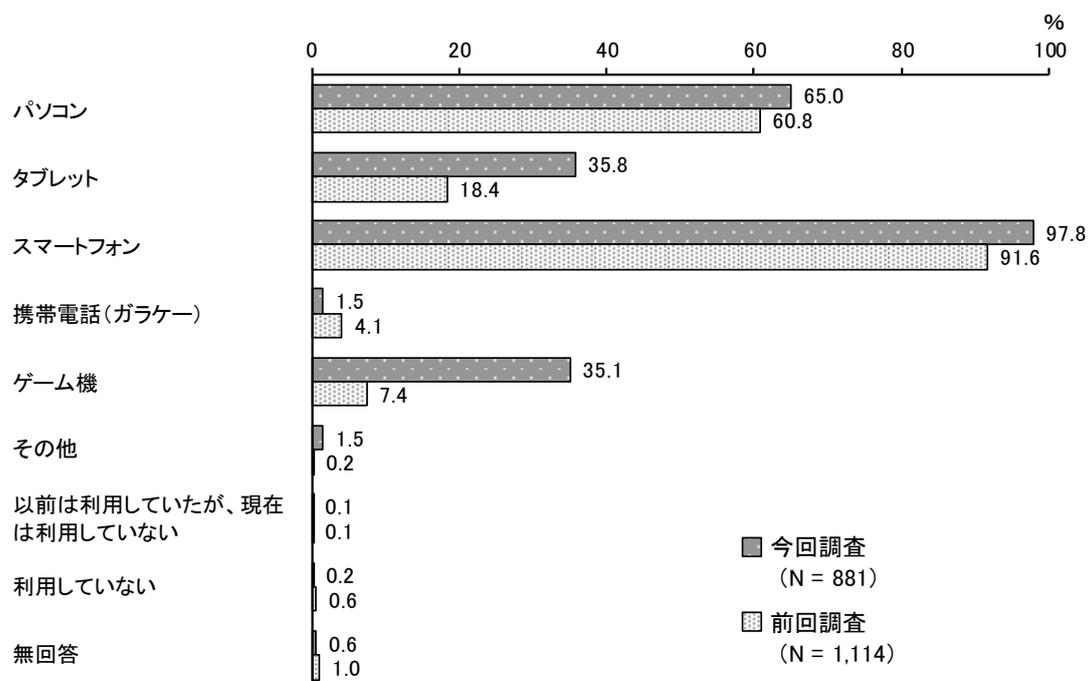
区分	ニ (件)	学校を休みがちに なっている	学校への遅刻が多い	部活ができない	勉強の時間が充分に 取れない	授業に集中できない	成績が落ちた	友人と遊ぶことが できない	周囲の人と会話や話題 が合わない	ケアについて話せる人 がなくて、孤独を感じる
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	9	—	11.1	—	22.2	33.3	22.2	22.2	22.2	44.4
一般群	43	2.3	2.3	2.3	7.0	—	2.3	14.0	4.7	7.0

区分	ストレスを感じている	睡眠不足	しっかり食べていない	体がだるい	自分の時間が取れない	進路についてしっかり考 える余裕がない	受験の準備ができていな い	アルバイトができない	特に影響はない	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	55.6	22.2	22.2	22.2	33.3	11.1	22.2	—	22.2	—
一般群	30.2	11.6	4.7	9.3	25.6	7.0	2.3	—	48.8	—

(3) スマートフォン、インターネットの利用について

問9 あなたは、どのインターネット接続機器を利用していますか。(〇はいくつでも)

「スマートフォン」の割合が97.8%と最も高く、次いで「パソコン」の割合が65.0%、「タブレット」の割合が35.8%となっています。前回調査と比較すると、「ゲーム機」「タブレット」「スマートフォン」の割合が増加しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「パソコン」「タブレット」「ゲーム機」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「タブレット」「スマートフォン」「ゲーム機」の割合が増加しています。

単位：％

区分	≧ (件)	パソコン	タブレット	スマートフォン	携帯電話 (ガラケー)	ゲーム機	その他	以前は利用していたが、 現在は利用していない	利用していない	無回答
今回調査 男性	368	74.5	40.5	98.6	1.1	43.2	1.4	0.3	—	—
女性	507	58.2	32.5	97.2	1.8	29.4	1.6	—	0.4	1.0
前回調査 男性	440	70.5	21.8	90.9	3.9	11.6	0.2	—	0.7	0.9
女性	668	54.3	16.3	92.2	4.3	4.6	0.1	0.1	0.6	0.7

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「パソコン」「ゲーム機」の割合が高くなっています。

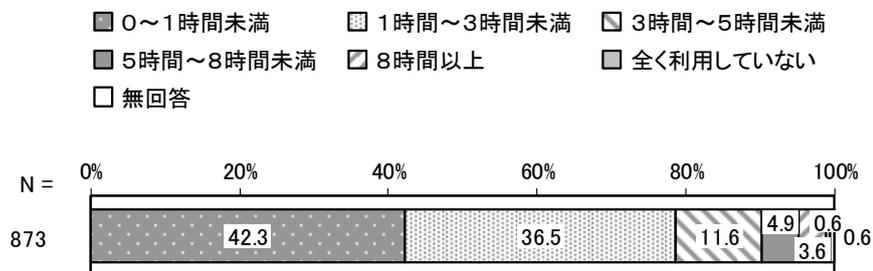
単位：％

区分	≧ (件)	パソコン	タブレット	スマートフォン	携帯電話 (ガラケー)	ゲーム機	その他	以前は利用していたが、 現在は利用していない	利用していない	無回答
広義のひきこもり群	16	93.8	31.3	100.0	—	56.3	—	—	—	—
親和群	84	69.0	38.1	97.6	1.2	47.6	—	—	—	—
一般群	763	64.1	35.3	97.9	1.4	33.3	1.4	—	0.3	0.7

問10 あなたは1日に何時間くらいチャットツール（メール、LINE、Facebookなど）を利用しますか。平日・休日それぞれ1つずつお答えください。（○は1つだけ）

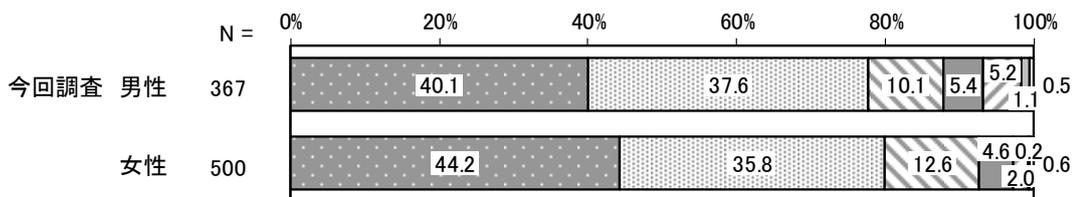
(1) 平日

「0～1時間未満」の割合が42.3%と最も高く、次いで「1時間～3時間未満」の割合が36.5%、「3時間～5時間未満」の割合が11.6%となっています。



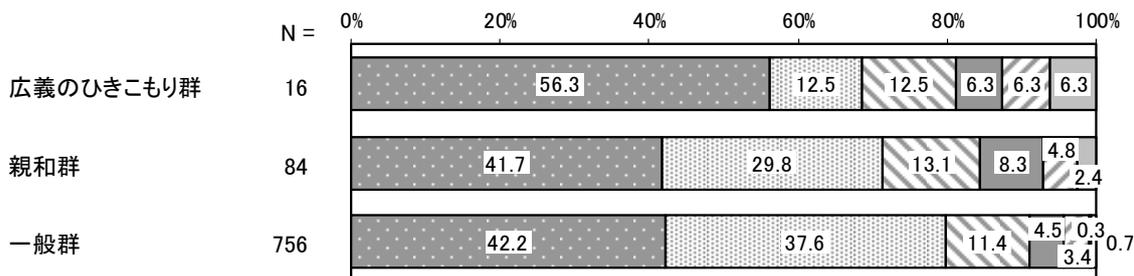
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



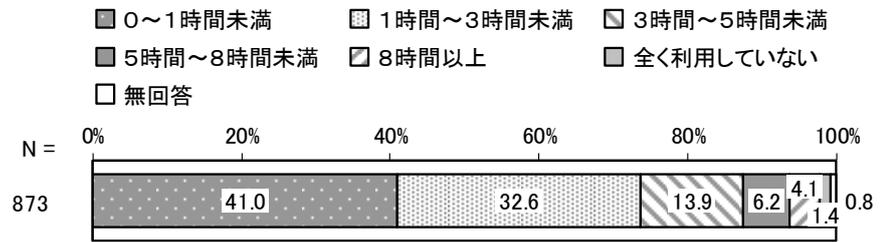
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「0～1時間未満」の割合が高くなっています。また、一般群で「1時間～3時間未満」の割合が高くなっています。



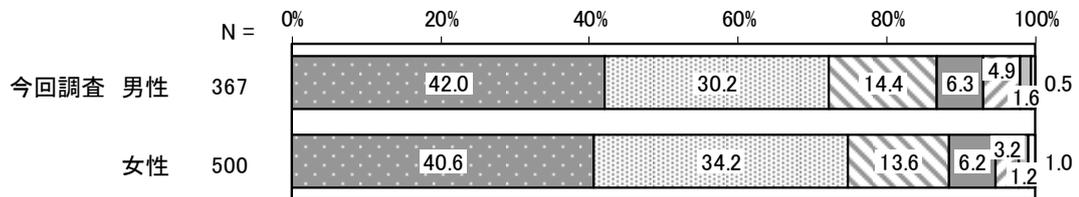
(2) 休日

「0～1時間未満」の割合が41.0%と最も高く、次いで「1時間～3時間未満」の割合が32.6%、「3時間～5時間未満」の割合が13.9%となっています。



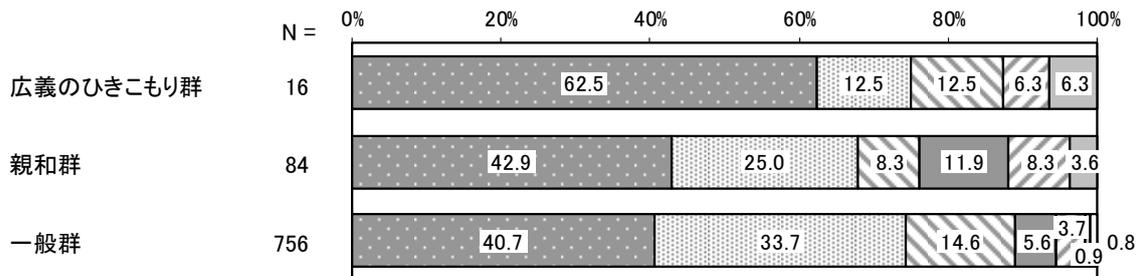
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



【ひきこもり類別】

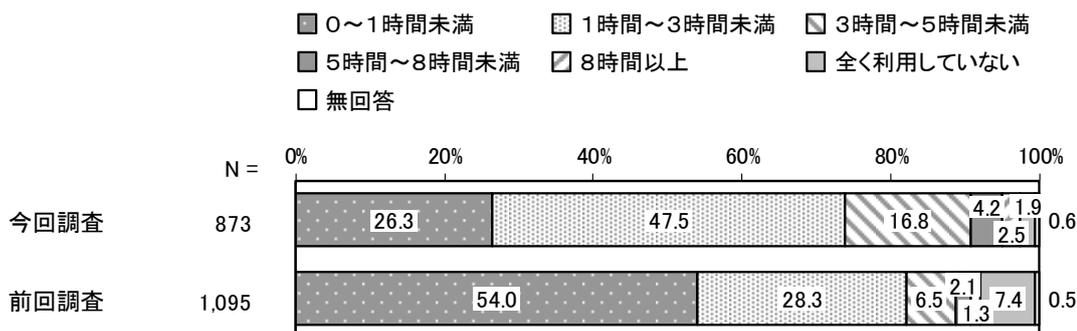
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「0～1時間未満」の割合が高くなっています。また、一般群で「1時間～3時間未満」の割合が高くなっています。



問 11 あなたは1日に何時間くらい SNS (Youtube、Twitter、TikTok、Instagram など) を利用しますか。平日・休日それぞれ1つずつお答えください。
(○は1つだけ)

(1) 平日

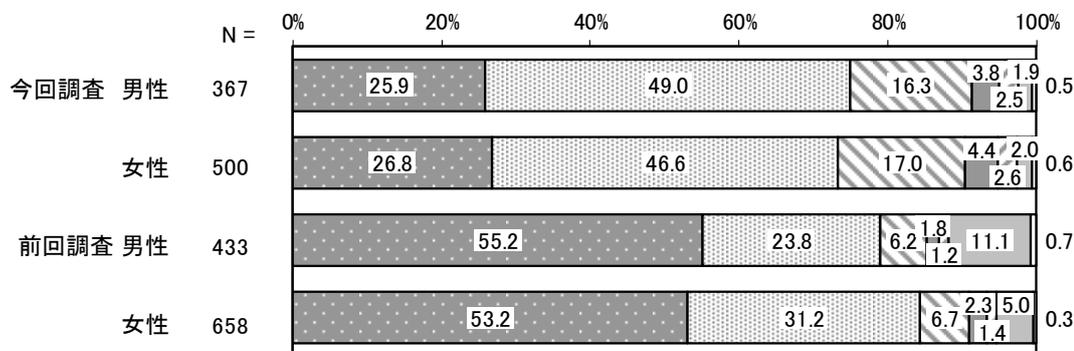
「1時間～3時間未満」の割合が47.5%と最も高く、次いで「0～1時間未満」の割合が26.3%、「3時間～5時間未満」の割合が16.8%となっています。前回調査と比較すると、「1時間～3時間未満」「3時間～5時間未満」の割合が増加しています。一方、「0～1時間未満」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

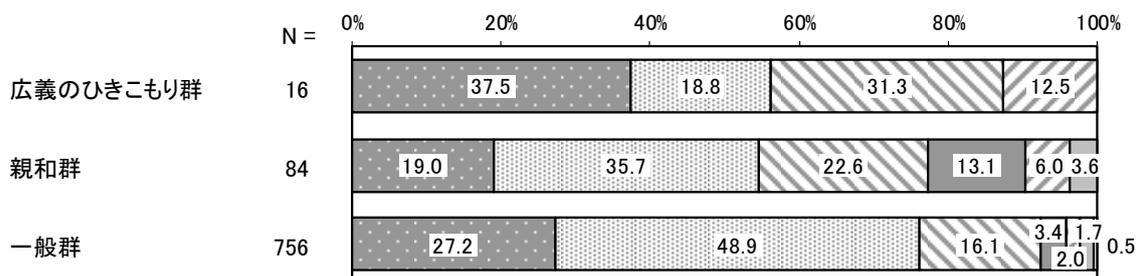
男女別でみると、大きな差異はみられません。

前回調査と比較すると、男女ともに「1時間～3時間未満」「3時間～5時間未満」の割合が増加しています。一方で、男女ともに「0～1時間未満」の割合が減少しています。



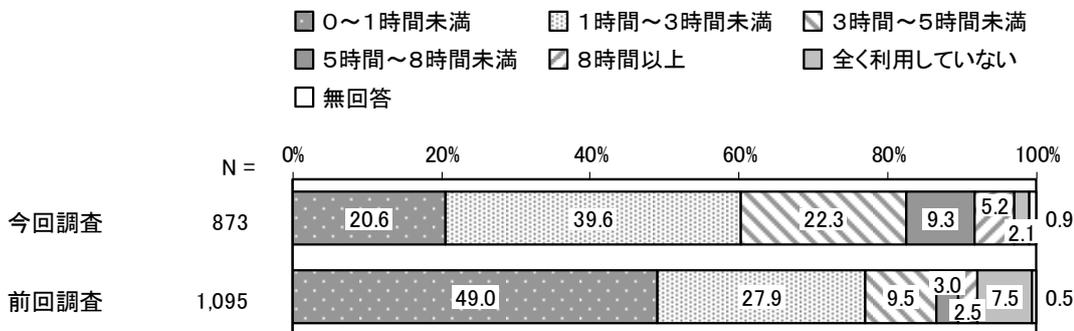
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「0～1時間未満」「8時間以上」の割合が、親和群で「5時間～8時間未満」の割合が高くなっています。



(2) 休日

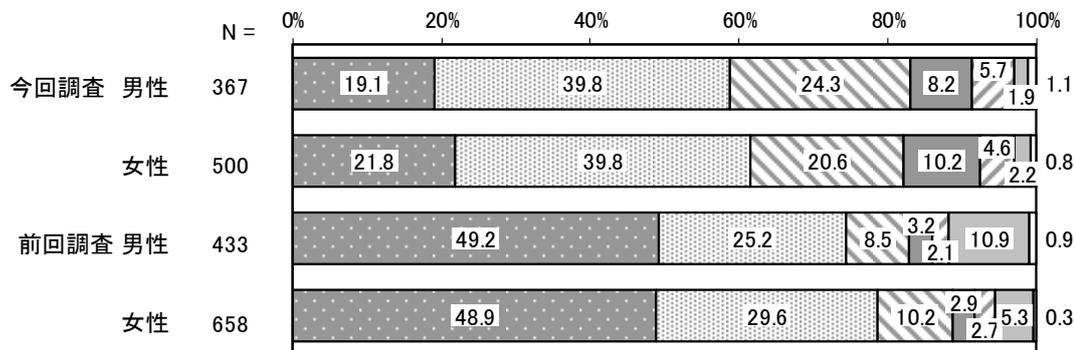
「1～3時間未満」の割合が39.6%と最も高く、次いで「3時間～5時間」の割合が22.3%、「0～1時間未満」の割合が20.6%となっています。前回調査と比較すると、「1時間～3時間未満」「3時間～5時間未満」の割合が増加しています。一方、「0～1時間未満」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

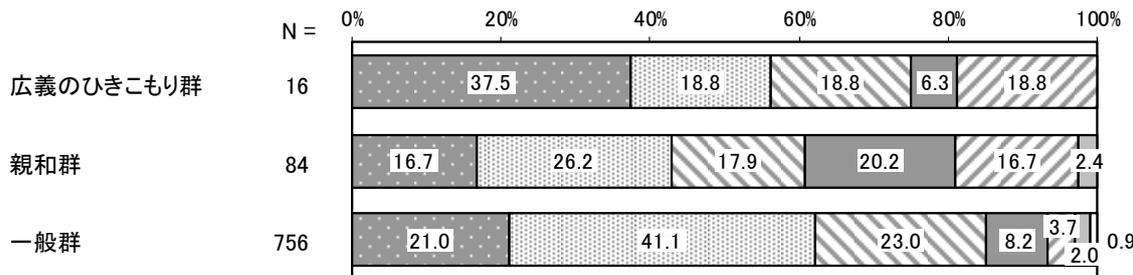
男女別でみると、大きな差異はみられません。

前回調査と比較すると、男女ともに「1時間～3時間未満」「3時間～5時間未満」の割合が増加しています。一方、男女ともに「0～1時間未満」の割合が減少しています。



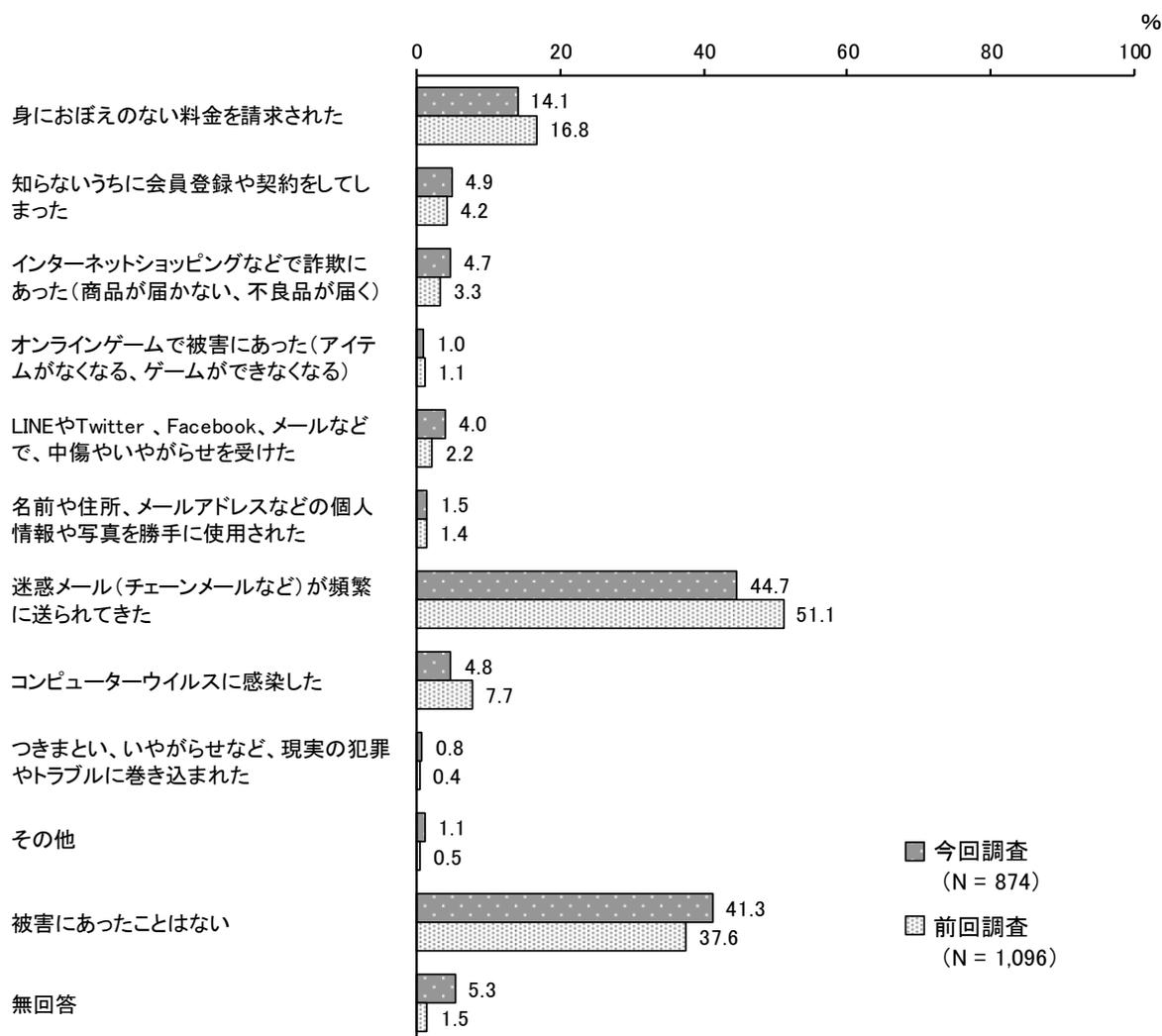
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「0～1時間未満」の割合が、親和群で「5時間～8時間未満」の割合が高くなっています。



問 12 あなたは、インターネットを利用して、次のようなトラブルにあったことがありますか。(〇はいくつでも)

「迷惑メール（チェーンメールなど）が頻繁に送られてきた」の割合が44.7%と最も高く、次いで「被害にあったことはない」の割合が41.3%、「身におぼえのない料金を請求された」の割合が14.1%となっています。前回調査と比較すると、「迷惑メール（チェーンメールなど）が頻繁に送られてきた」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「迷惑メール（チェーンメールなど）が頻繁に送られてきた」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「被害にあったことはない」の割合が増加しています。一方、「迷惑メール（チェーンメールなど）が頻繁に送られてきた」の割合が減少しています。

単位：%

区分		≧ (件)	身におぼえない料金を請求された	知らないうちに会員登録や契約をしてしまった	インターネットショッピングなどで詐欺にあった(商品が届かない、不良品が届く)	オンラインゲームで被害にあった(アイテムがなくなる、ゲームができなくなる)	LINEやTwitter、Facebook、メールなどで、中傷やいやがらせを受けた	名前や住所、メールアドレスなどの個人情報や写真を勝手に使用された
今回調査	男性	368	16.0	4.9	4.3	2.2	4.3	0.3
	女性	500	12.2	5.0	5.0	0.2	3.8	2.4
前回調査	男性	433	19.6	4.6	2.8	2.3	2.3	1.8
	女性	659	14.9	3.8	3.6	0.3	2.1	1.1

区分		迷惑メール(チェーンメールなど)が頻繁に送られてきた	コンピューターウイルスに感染した	つきまとい、いやがらせなど、現実の犯罪やトラブルに巻き込まれた	その他(具体的に…)	被害にあったことはない	無回答
今回調査	男性	40.2	7.1	0.5	0.8	43.5	6.0
	女性	48.0	3.2	1.0	1.4	40.0	4.6
前回調査	男性	50.8	10.6	0.2	0.7	37.9	0.9
	女性	51.6	5.8	0.5	0.5	37.5	1.5

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、親和群で「LINE や Twitter、Facebook、メールなどで、中傷やいやがらせを受けた」の割合が高くなっています。

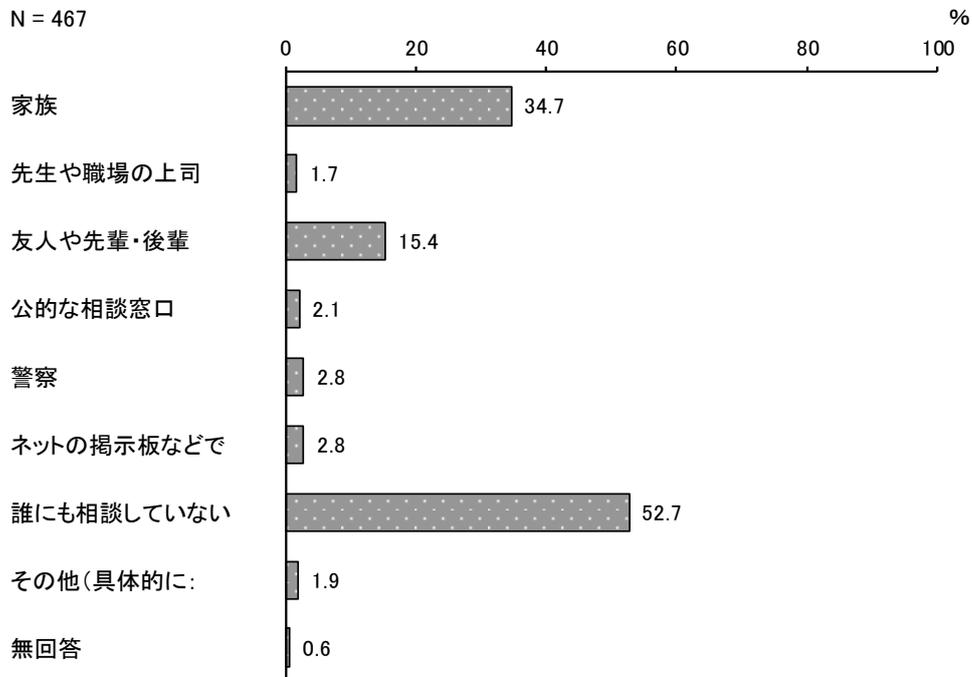
単位：%

区分	≧ (件)	身におぼえない料金を 請求された	知らないうちに会員登録や 契約をしてしまった	届かない、不良品が届く	インターネットショッピング などで詐欺にあった(商品が 届かない)	オンラインゲームで被害に あった(アイテムがなくなる、 ゲームができなくなる)	LINEやTwitter、Facebook、 メールなどで「中傷やいやがら せを受けた	名前や住所、メールアドレス などの個人情報や写真を勝手 に使用された
広義のひきこもり群	16	6.3	—	6.3	—	—	6.3	—
親和群	84	17.9	7.1	7.1	7.1	2.4	11.9	6.0
一般群	756	13.9	4.9	4.5	4.5	0.9	3.0	1.1

区分	迷惑メール(チェーンメール など)が頻繁に送られてきた	コンピューターウイルスに 感染した	つきまとい、いやがらせなど、 現実の犯罪やトラブルに 巻き込まれた	その他	被害にあったことはない	無回答
広義のひきこもり群	43.8	6.3	—	—	43.8	12.5
親和群	47.6	7.1	—	—	35.7	3.6
一般群	44.2	4.5	0.9	1.3	42.1	5.4

問13 あなたは、問12のトラブルにあった時、誰に相談しましたか。
(〇はいくつでも)

「だれにも相談していない」の割合が52.7%と最も高く、次いで「家族」の割合が34.7%、「友人や先輩・後輩」の割合が15.4%となっています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「誰にも相談していない」の割合が、男性に比べ、女性で「家族」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「誰にも相談していない」の割合が、女性で「家族」の割合が増加しています。

単位：％

区分	≧(件)	家族	先生や職場の上司	友人や先輩・後輩	公的な相談窓口	警察	ネットの掲示板などで	誰にも相談していない	その他	無回答
今回調査 男性	186	25.8	1.1	14.0	1.1	1.6	3.2	62.9	1.1	0.5
女性	277	40.4	2.2	16.6	2.9	3.6	2.5	45.8	2.5	0.7
前回調査 男性	433	21.9	2.5	15.9	3.9	3.0	3.5	39.0	2.1	24.5
女性	659	31.3	1.7	17.8	2.9	1.5	1.7	27.8	2.6	29.6

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群と親和群で大きな差異はみられません。

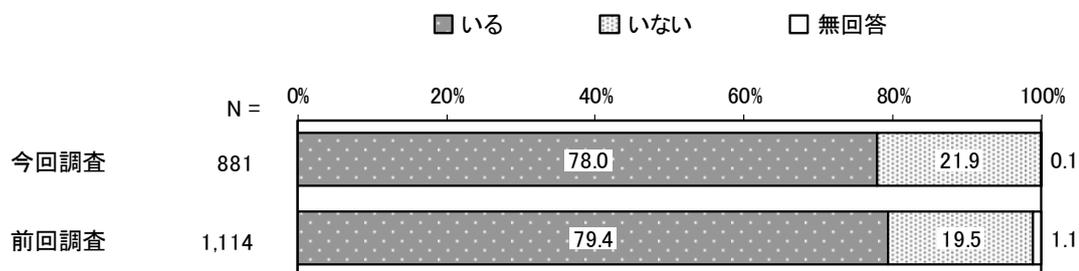
単位：％

区分	≧(件)	家族	先生や職場の上司	友人や先輩・後輩	公的な相談窓口	警察	ネットの掲示板などで	誰にも相談していない	その他	無回答
広義のひきこもり群	7	42.9	14.3	28.6	14.3	—	—	57.1	—	—
親和群	51	35.3	2.0	19.6	2.0	3.9	5.9	49.0	2.0	—
一般群	397	35.0	1.5	15.1	2.0	2.8	2.3	53.1	2.0	—

(4) 現在の人間関係や悩み事について

問 14 あなたは、親友と呼べる友人がいますか。(○は1つだけ)

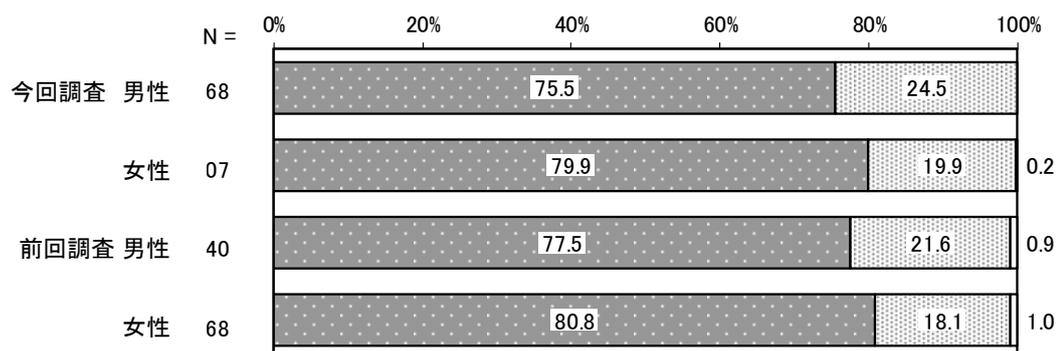
「いる」の割合が78.0%、いないの割合が「21.9%」となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

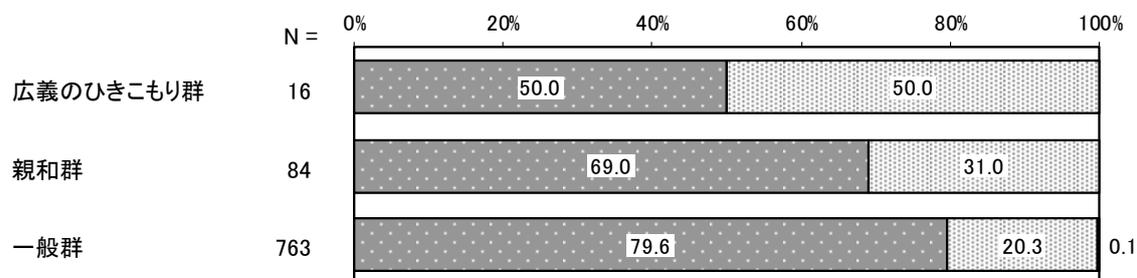
男女別でみると、大きな差異はみられません。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



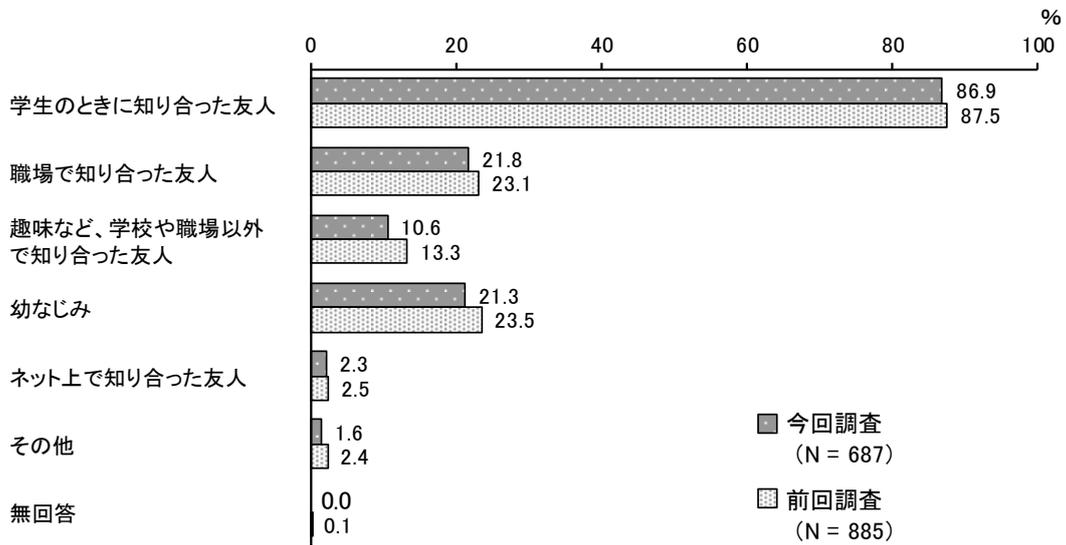
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「いない」の割合が高くなっています。



問 15 その人はどのような人ですか次のうちからあてはまるものを選んでください。
(〇はいくつでも)

「学生のとときに知り合った友人」が 86.9%と最も高く、次いで「職場で知り合った友人」の割合が 21.8%、「幼なじみ」の割合が 21.3%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、大きな差異はみられません。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

単位：％

区分	≒ (件)	学生のと きに知り 合った友 人	職場で 知り合っ た友人	趣味な ど、学校 や職場以 外で知 り合っ た友人	幼なじ み	ネット 上で知 り合っ た友人	その他	無回 答
今回調査 男性	278	85.6	22.3	8.6	23.7	2.2	0.7	—
女性	405	87.7	21.7	12.1	19.5	2.5	2.2	—
前回調査 男性	341	85.6	24.3	12.6	25.5	2.1	—	—
女性	540	88.5	22.4	13.9	22.4	2.8	3.9	0.2

【ひきこもり類別】

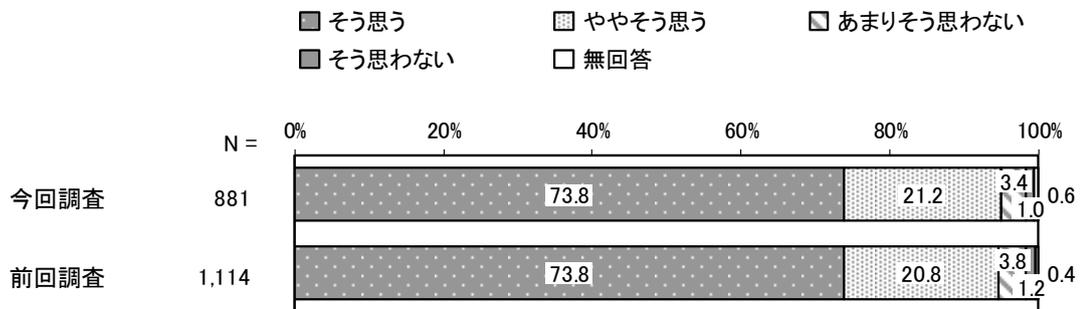
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「趣味など、学校や職場以外で知り合った友人」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「幼なじみ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≒ (件)	学生のと きに知り 合った友 人	職場で 知り合っ た友人	趣味な ど、学校 や職場以 外で知 り合っ た友人	幼なじ み	ネット 上で知 り合っ た友人	その他	無回 答
広義のひきこもり群	8	87.5	25.0	—	25.0	—	—	—
親和群	58	86.2	22.4	15.5	15.5	5.2	3.4	—
一般群	607	87.0	21.3	10.4	21.7	2.0	1.5	—

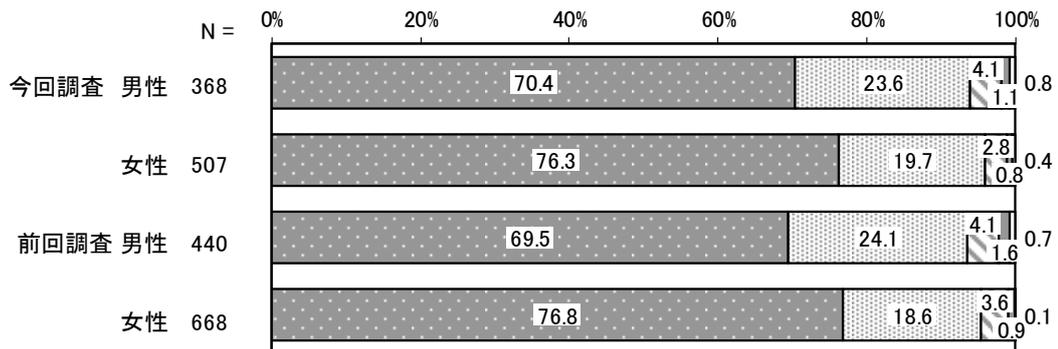
問 16 あなたは、家族とは仲が良いと思いますか。(○は1つだけ)

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“思う”の割合が95.0%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“思わない”の割合が4.4%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



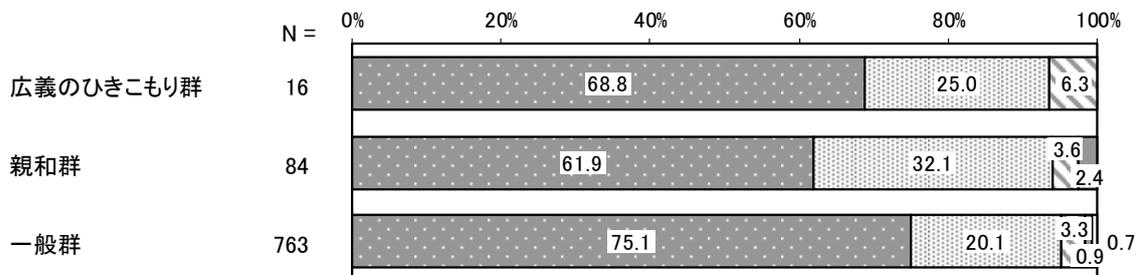
【男女別・経年比較】

男女別でみると、大きな差異はみられません。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【ひきこもり類別】

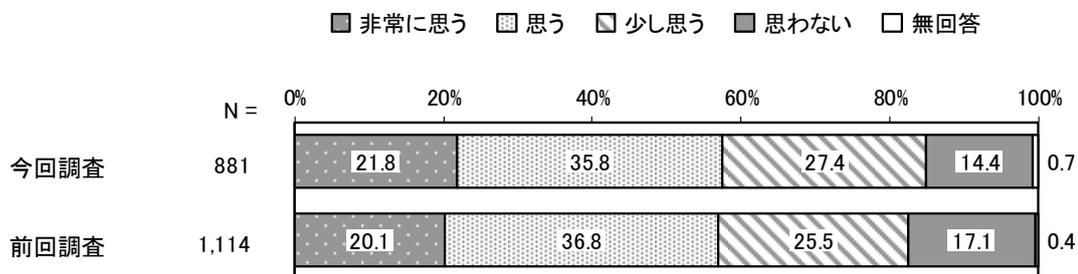
ひきこもり類別でみると、他に比べ、一般群で「そう思う」の割合が高くなっています。



問 17 あなたはふだん悩み事を誰かに相談したいと思いますか。(〇は1つだけ)

「非常に思う」と「思う」と「少し思う」を合わせた“思う”の割合が 85.0%、「思わない」の割合が 14.4%となっています。

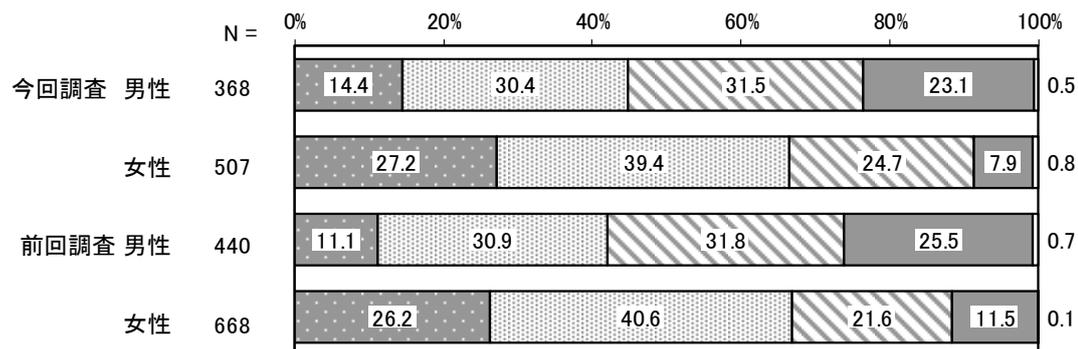
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

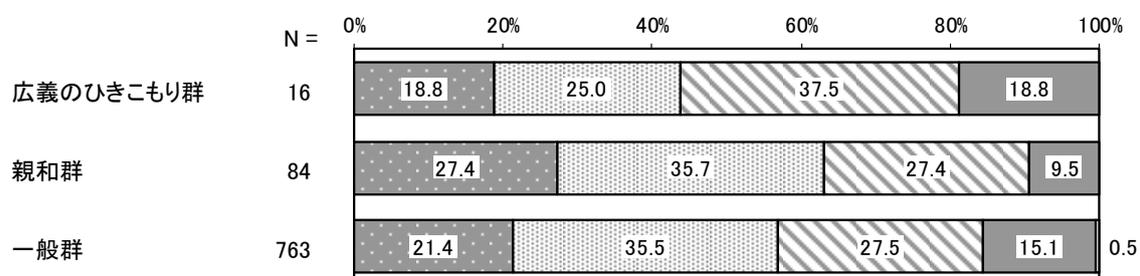
男女別でみると、男性に比べ、女性で“思う”の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



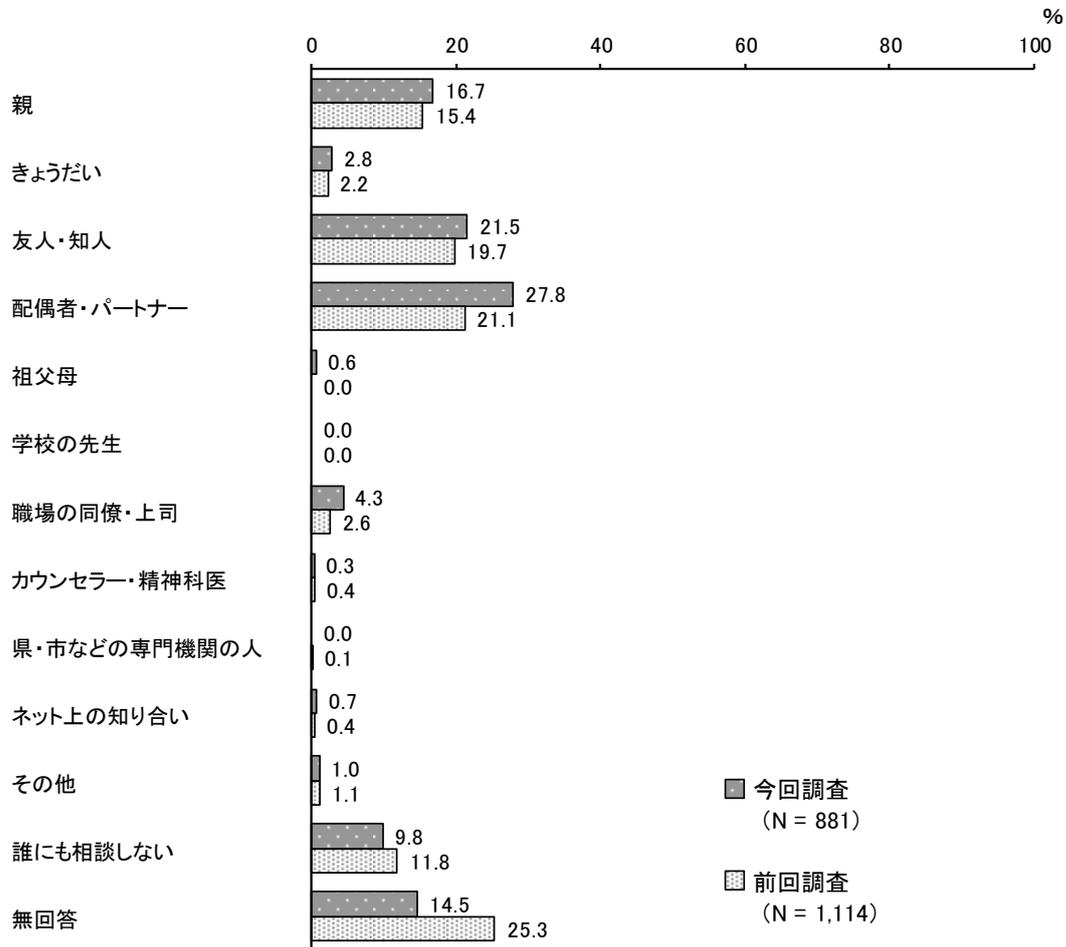
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、親和群で“思う”の割合が高くなっています。



問 18 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇は1つだけ)

「配偶者・パートナー」の割合が27.8%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が21.5%、「親」の割合が16.7%となっています。前回調査と比較すると、「配偶者・パートナー」の割合が増加しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「誰にも相談しない」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「配偶者・パートナー」の割合が増加しています。一方、男性で「誰にも相談しない」の割合が減少しています。

単位：%

区分	≧(件)	親	きょうだい	友人・知人	配偶者・パートナー	祖父母	学校の先生	職場の同僚・上司	カウンセラー・精神科医	県・市などの専門機関の人	ネット上の知り合い	その他	誰にも相談しない	無回答
今回調査 男性	368	14.7	1.4	22.3	28.3	1.1	—	5.7	0.5	—	—	1.4	13.0	11.7
女性	507	18.3	3.9	21.1	27.6	0.2	—	3.2	0.2	—	1.2	0.8	7.3	16.2
前回調査 男性	440	14.5	0.9	19.3	21.8	—	—	3.6	—	—	0.7	1.1	18.6	19.3
女性	668	16.2	3.0	20.1	20.7	—	—	1.8	0.6	0.1	0.1	1.0	7.2	29.2

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「親」の割合が高くなっています。

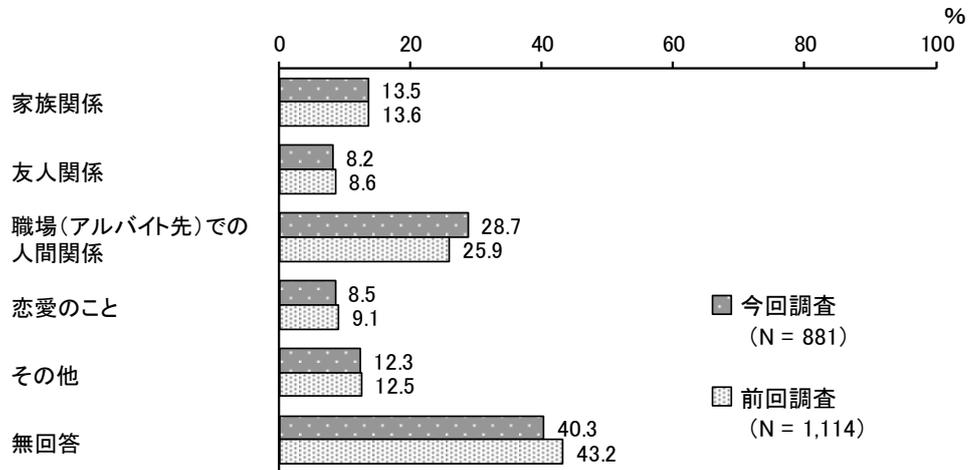
また、一般群で「友人・知人」「配偶者・パートナー」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	親	きょうだい	友人・知人	配偶者・パートナー	祖父母	学校の先生	職場の同僚・上司	カウンセラー・精神科医	県・市などの専門機関の人	ネット上の知り合い	その他	誰にも相談しない	無回答
広義のひきこもり群	16	37.5	—	6.3	12.5	—	—	6.3	6.3	—	—	—	25.0	6.3
親和群	84	25.0	4.8	19.0	19.0	1.2	—	4.8	1.2	—	4.8	1.2	10.7	8.3
一般群	763	15.5	2.8	22.4	29.1	0.5	—	4.3	0.1	—	0.3	0.9	9.3	14.8

問 19 あなたが、現在の人間関係に関して不安に思っているものがあれば、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

「職場（アルバイト先）での人間関係」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「家族関係」の割合が 13.5%、「恋愛のこと」の割合が 8.5%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、大きな差異はみられません。
前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。

単位：％

区分		≧ (件)	家族関係	友人関係	職場(アルバイト先)での人間関係	恋愛のこと	その他	無回答
今回調査	男性	368	13.6	6.5	31.5	9.0	10.9	40.8
	女性	507	13.6	9.3	26.6	7.9	13.2	40.0
前回調査	男性	440	12.0	9.1	30.5	10.2	12.7	38.6
	女性	668	14.8	8.4	22.9	8.4	12.4	46.0

【ひきこもり類別】

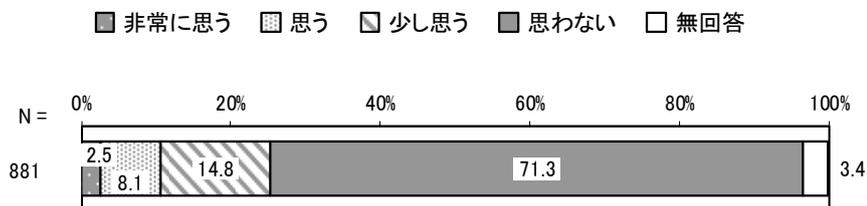
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「家族関係」「友人関係」の割合が高くなっています。また、親和群で「職場(アルバイト先)での人間関係」「恋愛のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	家族関係	友人関係	職場(アルバイト先)での人間関係	恋愛のこと	その他	無回答
広義のひきこもり群	16	43.8	25.0	18.8	12.5	6.3	18.8
親和群	84	16.7	16.7	59.5	17.9	8.3	16.7
一般群	763	12.5	6.9	25.7	7.2	13.0	43.0

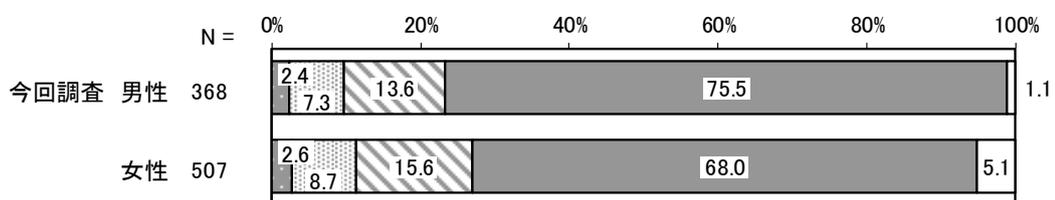
問 20 現在の状態（人間関係など置かれている環境や、不安に思っているもの・悩みなど）について、関係機関に相談したいと思いませんか。（○は1つだけ）

「非常に思う」と「思う」と「少し思う」を合わせた“思う”の割合が 25.4%、「思わない」の割合が 71.3%となっています。



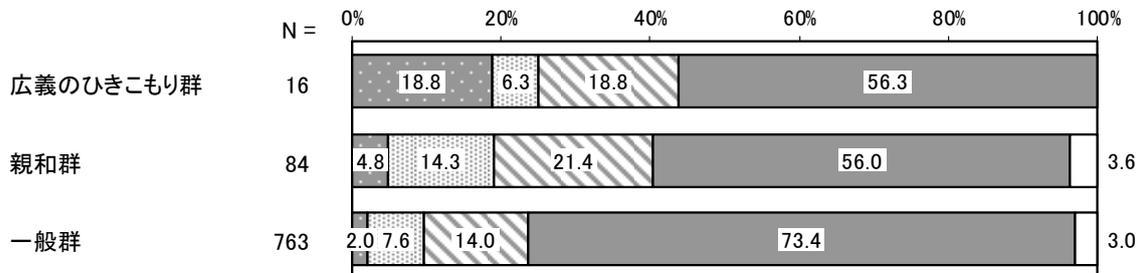
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「思わない」の割合が高くなっています。



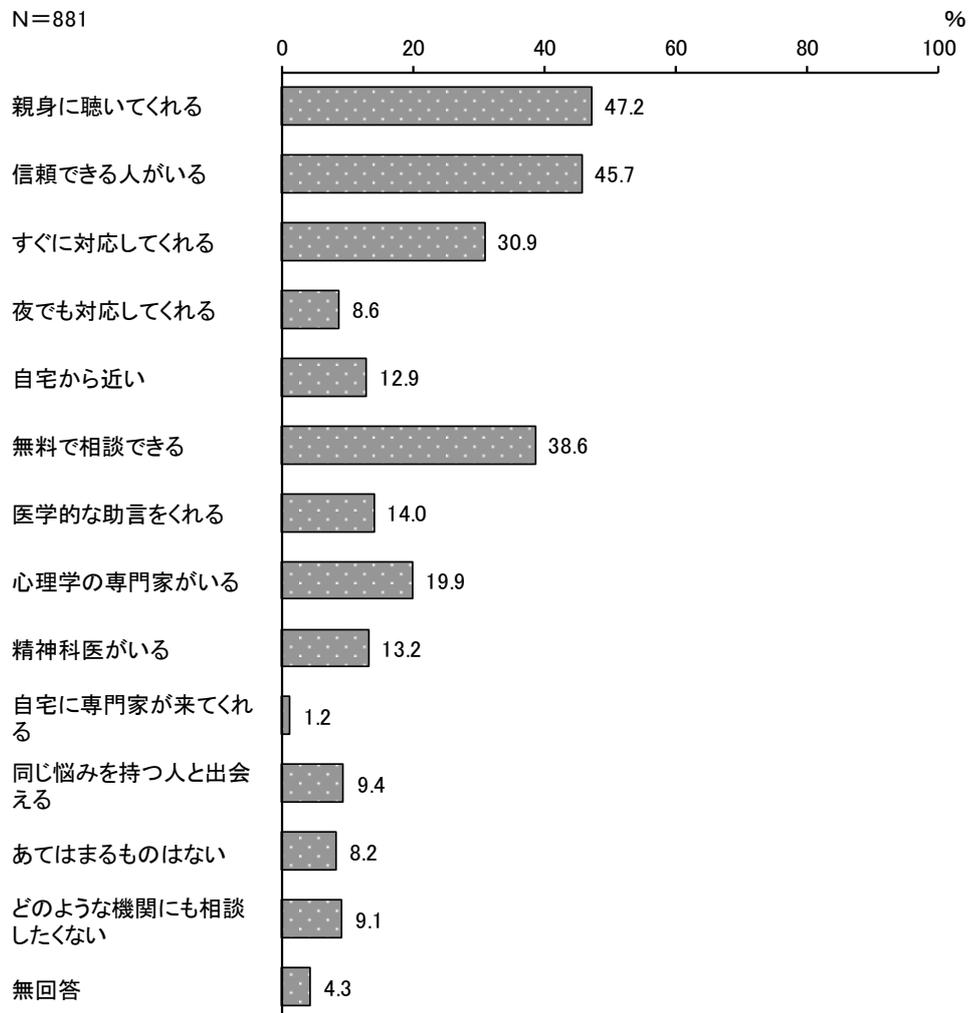
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で“思う”の割合が高くなっています。



問 21 現在の状態について、関係機関に相談するとすれば、どのような機関なら、相談したいと思いますか。(〇はいくつでも)

「親身に聴いてくれる」の割合が 47.2%と最も高く、次いで「信頼できる人がいる」の割合が 45.7%、「無料で相談できる」の割合が 38.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「親身に聴いてくれる」「信頼できる人がいる」「すぐに対応してくれる」「自宅から近い」「無料で相談できる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	親身に聴いてくれる	信頼できる人がいる	すぐに対応してくれる	夜でも対応してくれる	自宅から近い	無料で相談できる	医学的な助言をくれる
今回調査 男性	368	39.7	40.5	26.6	9.0	9.2	32.1	15.2
女性	507	53.1	49.9	34.3	8.5	15.8	43.6	13.0

区分	心理学の専門家が いる	精神科医が いる	自宅に専門家が 来られる	同じ悩みを持つ 人と出会える	あてはまるもの はない	どのような機関 にも相談したくない	無回答
今回調査 男性	17.4	12.2	1.1	7.6	9.8	10.6	3.5
女性	21.9	14.0	1.4	10.7	6.9	7.7	4.9

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「親身に聴いてくれる」「医学的な助言をくれる」「心理学の専門家がいる」「同じ悩みを持つ人と出会える」「どのような機関にも相談したくない」の割合が高くなっています。また、親和群で「信頼できる人がいる」「すぐに対応してくれる」「夜でも対応してくれる」「自宅から近い」「無料で相談できる」「医学的な助言をくれる」の割合が高くなっています。

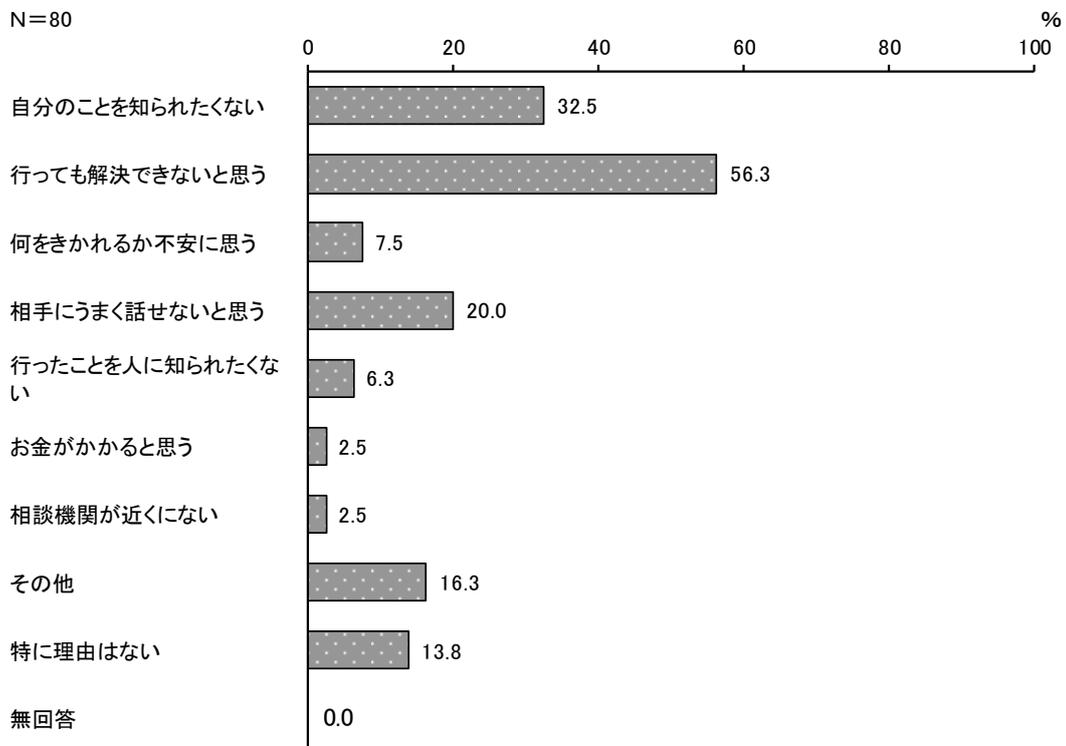
単位：％

区分	≧ (件)	親身に聴いてくれる	信頼できる人がいる	すぐに対応してくれる	夜でも対応してくれる	自宅から近い	無料で相談できる	医学的な助言をくれる
広義のひきこもり群	16	62.5	37.5	31.3	—	25.0	56.3	37.5
親和群	84	54.8	53.6	36.9	14.3	25.0	56.0	17.9
一般群	763	46.1	45.3	30.8	8.4	11.3	37.0	13.0

区分	心理学の専門家がいる	精神科医がいる	自宅に専門家が来られる	同じ悩みを持つ人と出会える	あてはまるものはない	どのような機関にも相談したくない	無回答
広義のひきこもり群	37.5	18.8	—	25.0	—	25.0	—
親和群	32.1	23.8	2.4	19.0	1.2	17.9	1.2
一般群	18.3	12.1	1.0	8.0	9.2	7.9	4.3

問 22 相談したくないと思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「行っても解決できないと思う」の割合が56.3%と最も高く、次いで「自分のことを知られたくない」の割合が32.5%、「相手にうまく話せないと思う」の割合が20.0%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「特に理由はない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「行っても解決できないと思う」「何をきかれるか不安に思う」「相手にうまく話せないと思う」「行ったことを人に知られたくない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	自分のことを知られたくない	行っても解決できないと思う	何をきかれるか不安に思う	相手にうまく話せないと思う	行ったことを人に知られたくない	お金がかかると思う	相談機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
今回調査 男性	39	30.8	41.0	5.1	10.3	2.6	2.6	2.6	15.4	25.6	—
女性	39	33.3	69.2	10.3	30.8	10.3	2.6	2.6	17.9	2.6	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「行っても解決できないと思う」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「自分のことを知られたくない」「何をきかれるか不安に思う」「行ったことを人に知られたくない」「特に理由はない」の割合が高くなっています。

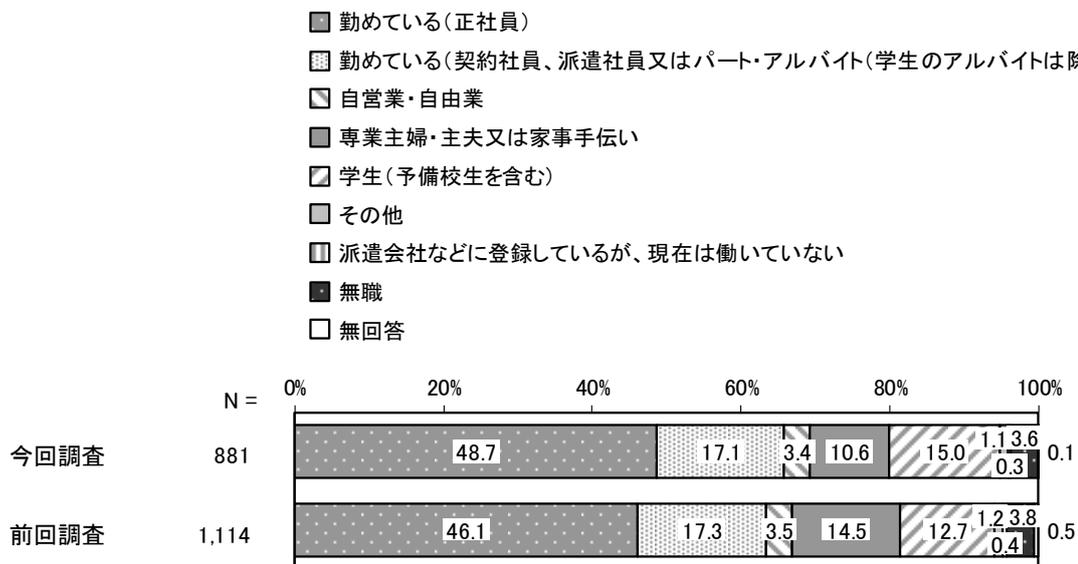
単位：％

区分	≧(件)	自分のことを知られたくない	行っても解決できないと思う	何をきかれるか不安に思う	相手にうまく話せないと思う	行ったことを人に知られたくない	お金がかかると思う	相談機関が近くにない	その他	特に理由はない	無回答
広義のひきこもり群	4	25.0	75.0	25.0	75.0	—	—	25.0	—	—	—
親和群	15	26.7	80.0	—	20.0	—	—	—	13.3	—	—
一般群	60	35.0	48.3	8.3	16.7	8.3	3.3	1.7	18.3	18.3	—

(5) 仕事に関することについて

問 23 あなたは現在は働いていますか。(○は1つだけ)

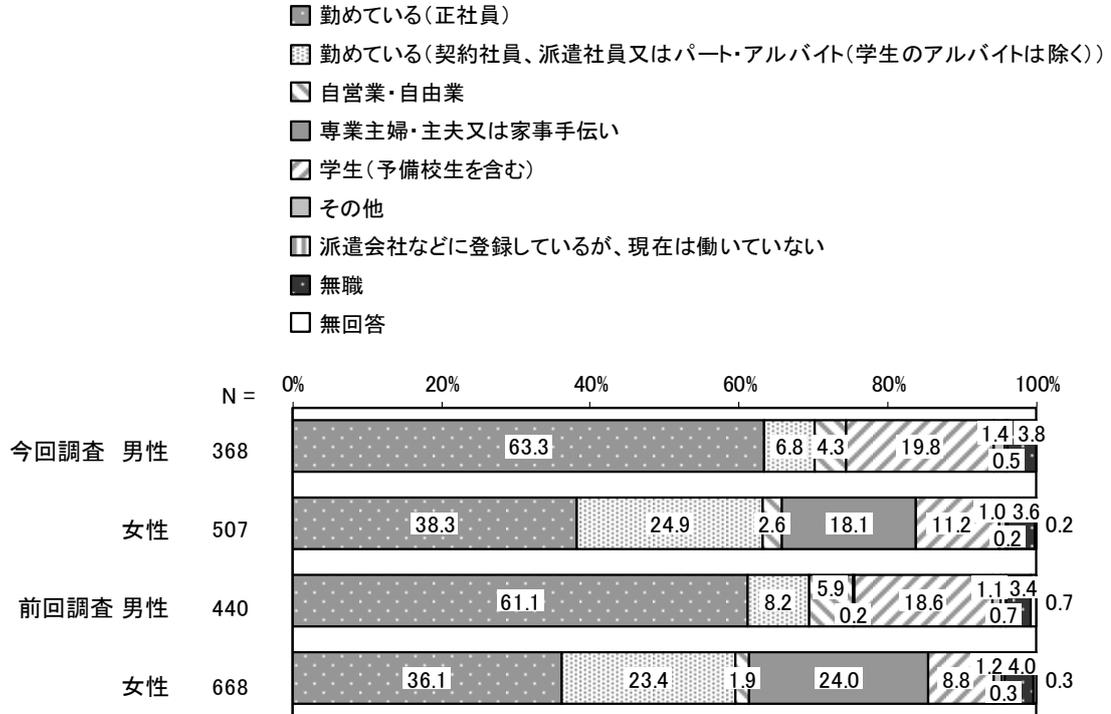
「勤めている（正社員）」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」の割合が 17.1%、「学生（予備校生を含む）」の割合が 15.0%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

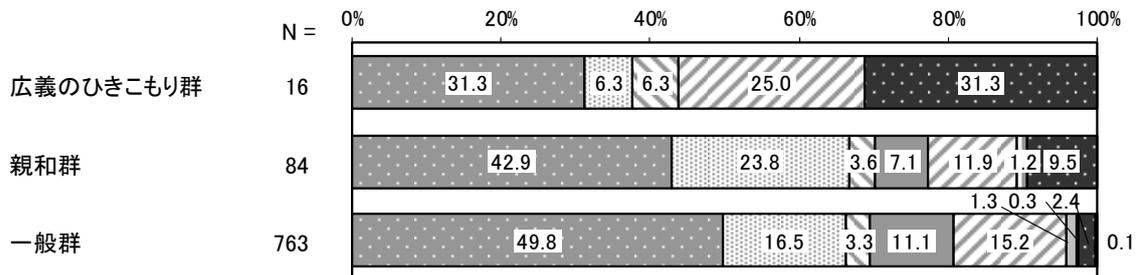
男女別でみると、女性に比べ、男性で「勤めている（正社員）」「学生（予備校生を含む）」の割合が、男性に比べ、女性で「勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」「専業主婦・主夫又は家事手伝い」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性で「専業主婦・主夫又は家事手伝い」の割合が低くなっています。



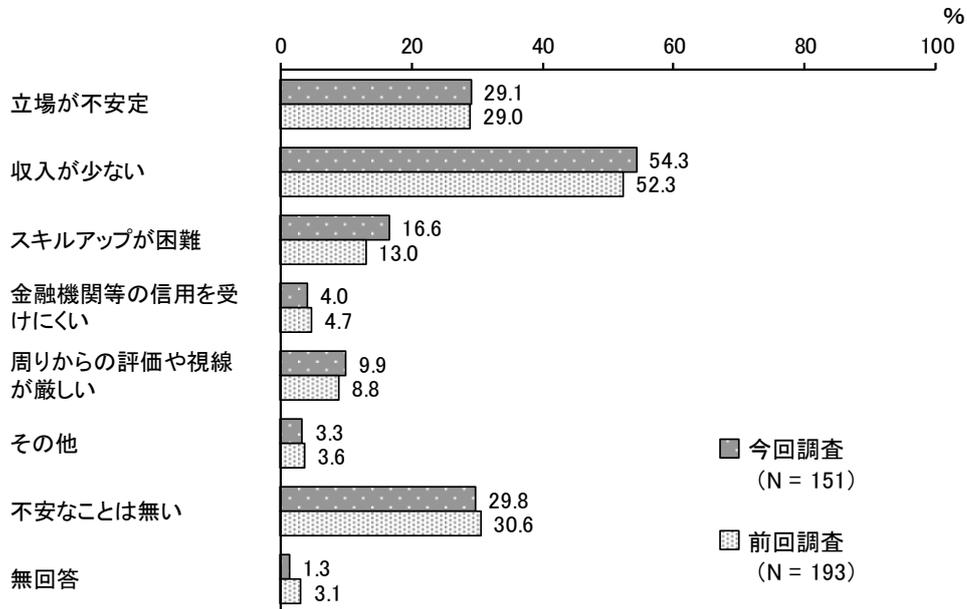
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「無職」の割合が高くなっています。また、親和群で「勤めている（契約社員、派遣社員又はパート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）」の割合が、一般群で「勤めている（正社員）」の割合が高くなっています。



問 24 あなたは現在の雇用形態について不安なことはありますか。(〇はいくつでも)

「収入が少ない」の割合が54.3%と最も高く、次いで「不安なことはない」の割合が29.8%、「立場が不安定」の割合が29.1%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「スキルアップが困難」「金融機関等の信用を受けにくい」「周りからの評価や視線が厳しい」「不安なことは無い」の割合が、男性に比べ、女性で「立場が不安定」「収入が少ない」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「スキルアップが困難」「不安なことは無い」の割合が、女性で「立場が不安定」「収入が少ない」の割合が高くなっています。一方、男性で「立場が不安定」「収入が少ない」の割合が、女性で「不安なことは無い」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≧(件)	立場が不安定	収入が少ない	スキルアップが困難	金融機関等の信用を受けにくい	周りからの評価や視線が厳しい	その他	不安なことは無い	無回答
今回調査 男性	25	24.0	48.0	24.0	12.0	20.0	—	40.0	—
女性	126	30.2	55.6	15.1	2.4	7.9	4.0	27.8	1.6
前回調査 男性	36	55.6	66.7	16.7	13.9	22.2	2.8	8.3	2.8
女性	156	23.1	49.4	12.2	2.6	5.8	3.2	35.9	3.2

【ひきこもり類別】

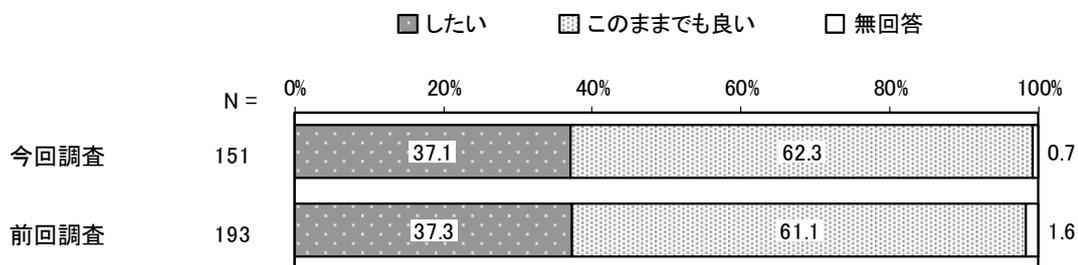
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「立場が不安定」「収入が少ない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「不安なことは無い」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	立場が不安定	収入が少ない	スキルアップが困難	金融機関等の信用を受けにくい	周りからの評価や視線が厳しい	その他	不安なことは無い	無回答
広義のひきこもり群	1	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—
親和群	20	45.0	70.0	20.0	—	10.0	5.0	15.0	—
一般群	126	26.2	52.4	15.9	4.0	7.9	2.4	33.3	0.8

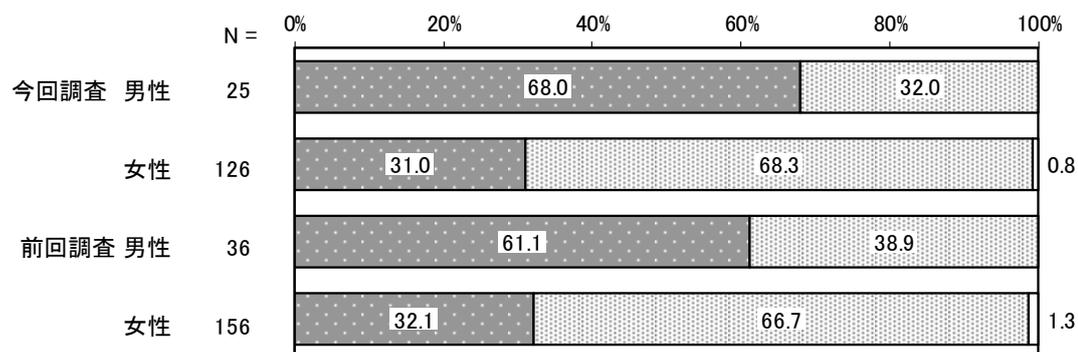
問 25 あなたは、正社員として就職したいですか。(〇は1つだけ)

「このままでも良い」の割合が62.3%、「したい」の割合が37.1%と高くなっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



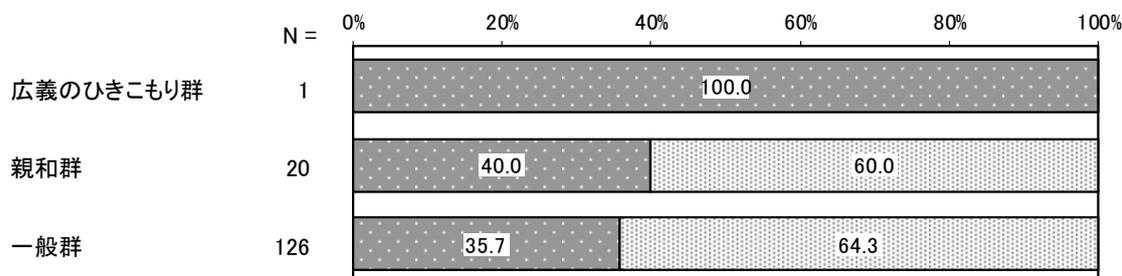
【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「したい」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、男性で「したい」の割合が増加しています。



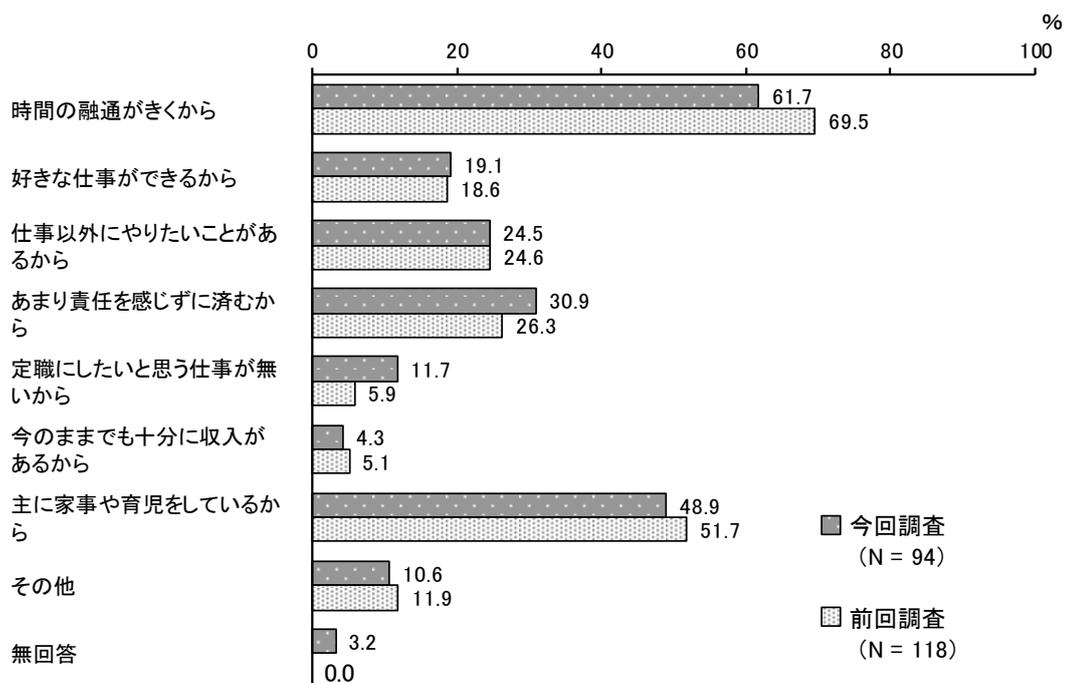
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



問 26 あなたが、現在の雇用形態のままでも良いと考える理由であてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

「時間の融通がきくから」の割合が61.7%と最も高く、次いで「主に家事や育児をしているから」の割合が48.9%、「あまり責任を感じずに済むから」の割合が30.9%となっています。前回調査と比較すると、「定職にしたいと思う仕事が無いから」の割合が増加しています。一方、「時間の融通がきくから」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

前回調査と比較すると、女性で「定職にしたいと思う仕事が無いから」「あまり責任を感じずに済むから」の割合が増加しています。一方、「時間の融通がきくから」「主に家事や育児をしているから」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≧(件)	時間の融通がきくから	好きな仕事ができるから	仕事以外にやりたいことがあるから	あまり責任を感じずに済むから	定職にしたいと思う仕事が無いから	今のままでも十分に収入があるから	主に家事や育児をしているから	その他	無回答
今回調査 男性	8	25.0	12.5	37.5	—	—	12.5	—	25.0	12.5
女性	86	65.1	19.8	23.3	33.7	12.8	3.5	53.5	9.3	2.3
前回調査 男性	14	42.9	21.4	42.9	35.7	21.4	7.1	—	14.3	—
女性	104	73.1	18.3	22.1	25.0	3.8	4.8	58.7	11.5	—

【ひきこもり類別】

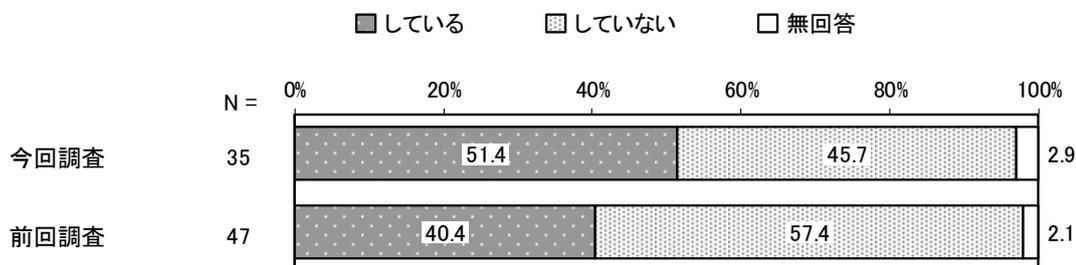
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「時間の融通がきくから」「好きな仕事ができるから」「仕事以外にやりたいことがあるから」「あまり責任を感じずに済むから」「定職にしたいと思う仕事が無いから」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「主に家事や育児をしているから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	時間の融通がきくから	好きな仕事ができるから	仕事以外にやりたいことがあるから	あまり責任を感じずに済むから	定職にしたいと思う仕事が無いから	今のままでも十分に収入があるから	主に家事や育児をしているから	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	12	66.7	33.3	41.7	50.0	41.7	—	41.7	—	—
一般群	81	60.5	16.0	22.2	28.4	7.4	3.7	49.4	12.3	3.7

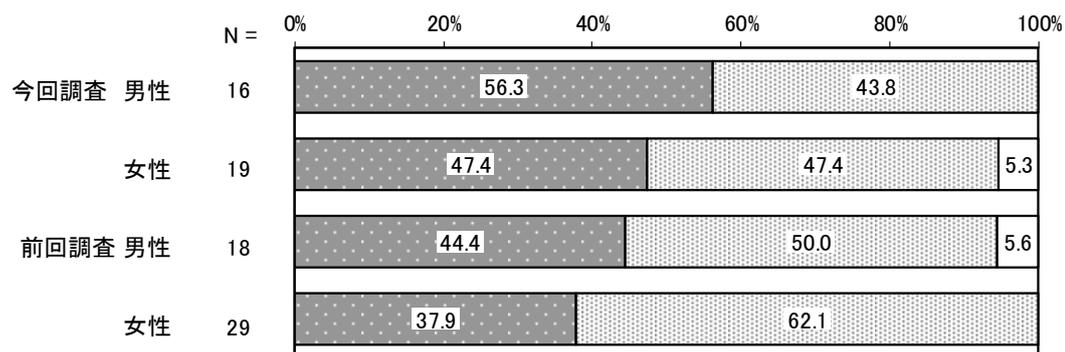
問 27 あなたは現在就職活動や、進学のための勉強などをしていますか。
(○は1つだけ)

「している」の割合が51.4%、「していない」の割合が45.7%と高くなっています。前回調査と比較すると、「している」の割合が増加しています。



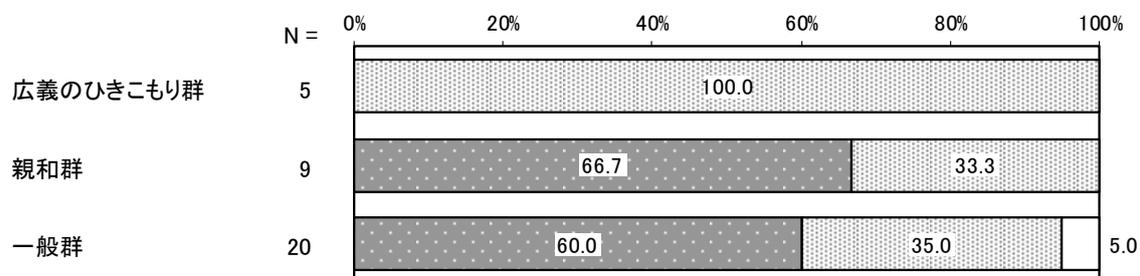
【男女別・経年比較】

男女別で見ると、女性に比べ、男性で「している」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、男女ともに「している」の割合が増加しています。



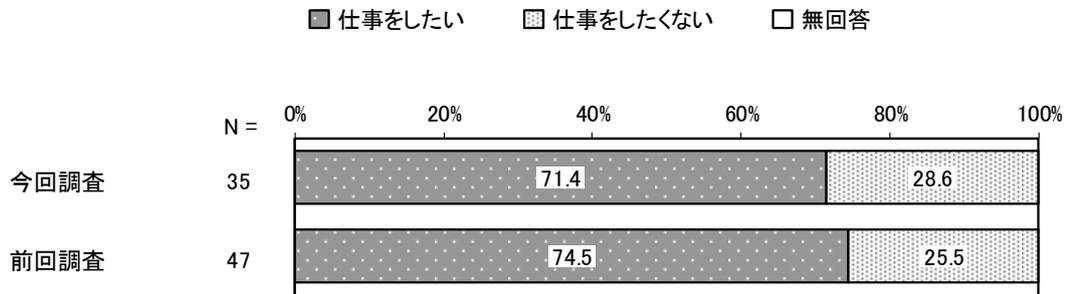
【ひきこもり類別】

有効回答数が少ないため、コメントは控えます。



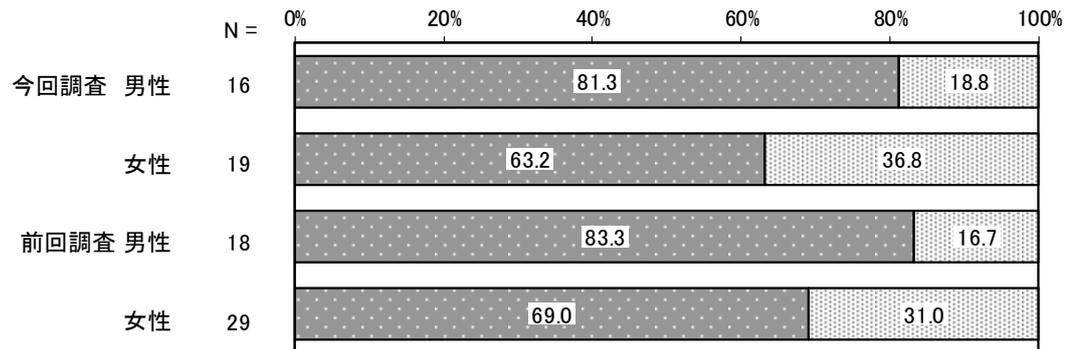
問 28 あなたは現在仕事をしたいと思っていますか。(○は1つだけ)

「仕事をしたい」の割合が71.4%、「仕事をしたくない」の割合が28.6%と高くなっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



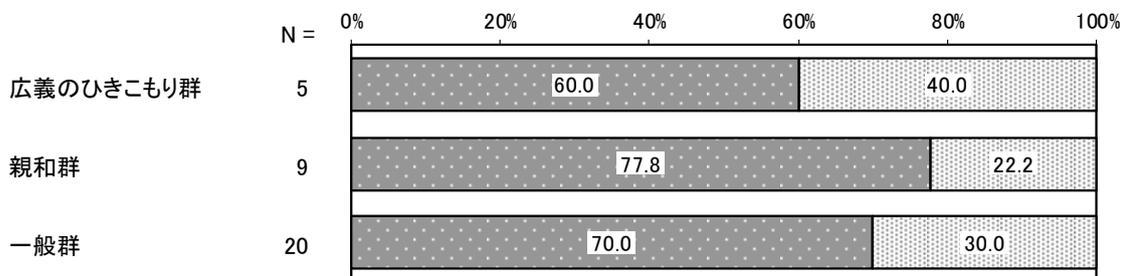
【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「仕事をしたい」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、女性で「仕事をしたくない」の割合が増加しています。



【ひきこもり類別】

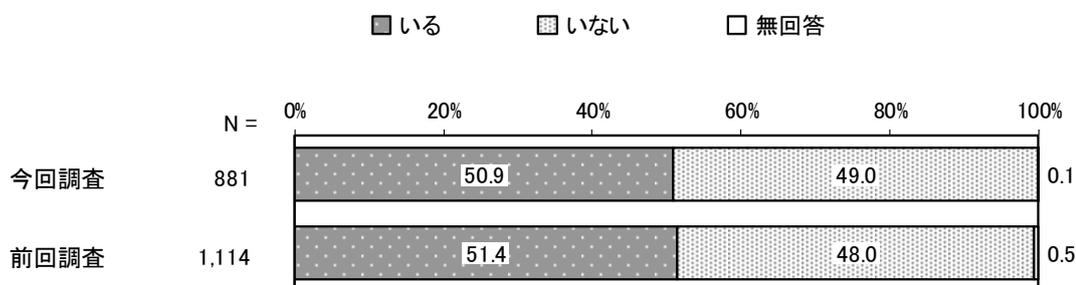
有効回答数が少ないため、コメントは控えます。



(6) 結婚・将来のことについて

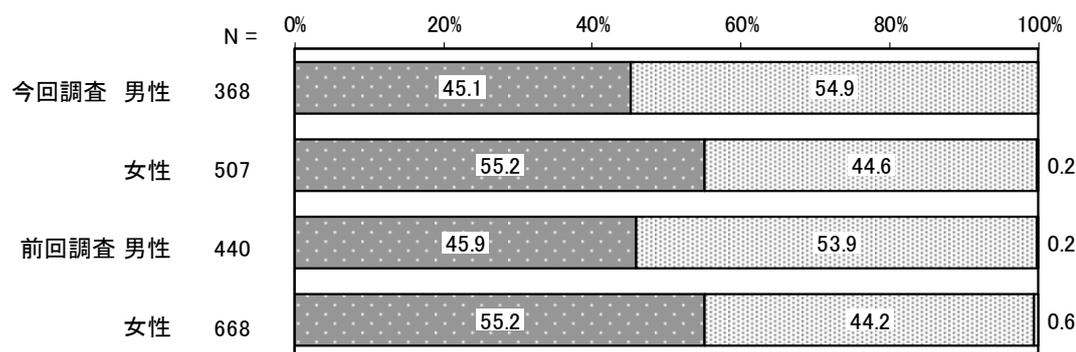
問 30 あなたは現在配偶者がいますか。(○は1つだけ)

「いる」の割合が50.9%、「いない」の割合が49.0%と高くなっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



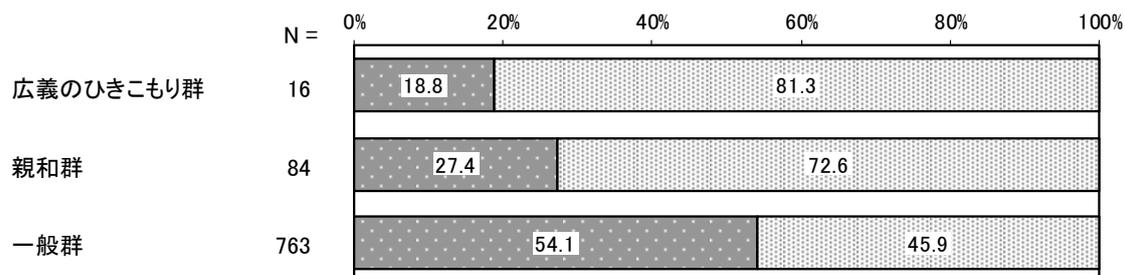
【男女別・経年比較】

男女別で見ると、男性に比べ、女性で「いる」の割合が高くなっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



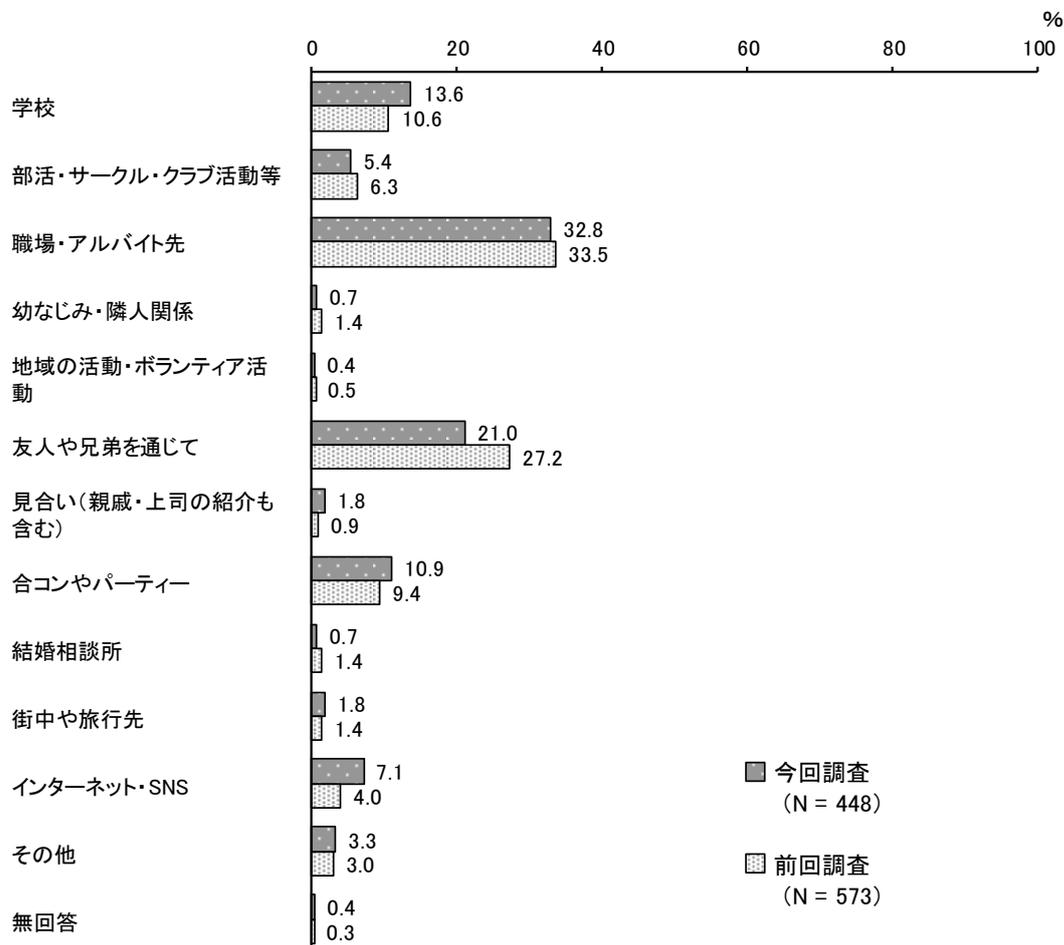
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別で見ると、他に比べ、広義のひきこもり群で「いない」の割合が高くなっています。また、一般群で「いる」の割合が高くなっています。



問 31 あなたは、現在の配偶者とどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。最もあてはまると思うものを次のうちから選んでください。(○は1つだけ)

「職場・アルバイト先」の割合が32.8%と最も高く、次いで「友人や兄弟を通じて」の割合が21.0%、「学校」の割合が13.6%となっています。前回調査と比較すると、「友人や兄弟を通じて」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「学校」の割合が、男性に比べ、女性で「職場・アルバイト先」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「学校」の割合が増加しています。一方で、女性で「友人や兄弟を通じて」の割合が減少しています。

単位：％

区分		≧ (件)	学校	部活・サークル・クラブ活動等	職場・アルバイト先	幼なじみ・隣人関係	地域の活動・ボランティア活動	友人や兄弟を通じて	見合い(親戚・上司の紹介も含む)	合コンやパーティー	結婚相談所	街中や旅行先	インターネット・SNS	その他	無回答
今回調査	男性	166	17.5	6.0	28.3	0.6	0.6	22.3	0.6	13.9	0.6	1.8	6.0	1.8	—
	女性	280	11.4	5.0	35.7	0.7	0.4	20.0	2.5	9.3	0.7	1.8	7.5	4.3	0.7
前回調査	男性	202	10.4	8.9	31.2	2.5	1.0	26.2	—	9.9	1.0	1.5	4.0	3.0	0.5
	女性	369	10.8	4.9	35.0	0.8	0.3	27.4	1.4	9.2	1.6	1.4	4.1	3.0	0.3

【ひきこもり類別】

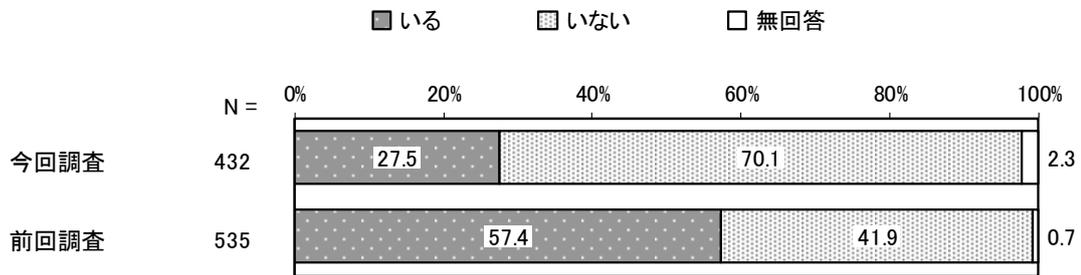
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「職場・アルバイト先」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「学校」「合コンやパーティー」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	学校	部活・サークル・クラブ活動等	職場・アルバイト先	幼なじみ・隣人関係	地域の活動・ボランティア活動	友人や兄弟を通じて	見合い(親戚・上司の紹介も含む)	合コンやパーティー	結婚相談所	街中や旅行先	インターネット・SNS	その他	無回答
広義のひきこもり群		3	33.3	—	33.3	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—
親和群		23	8.7	8.7	43.5	—	—	21.7	—	4.3	—	—	4.3	8.7	—
一般群		413	13.8	5.1	32.0	0.7	0.5	20.8	1.9	11.4	0.7	1.9	7.5	3.1	0.5

問 32 あなたは、現在交際しているパートナーはいますか。(〇は1つだけ)

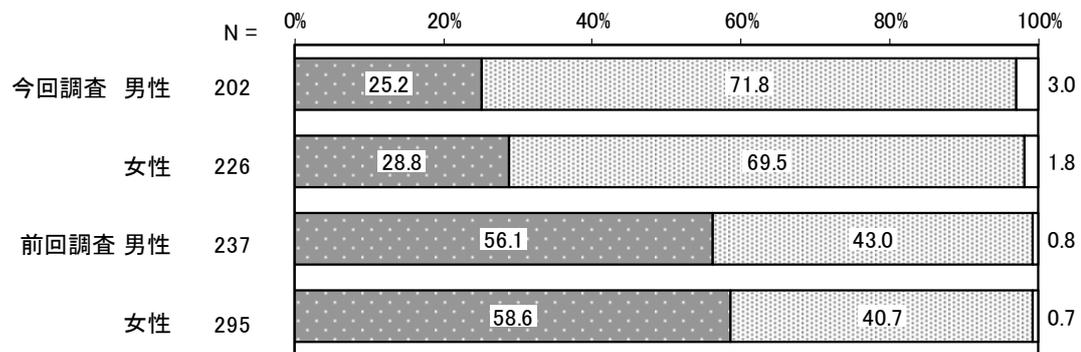
「いない」の割合が70.1%、「いる」の割合が27.5%となっています。前回調査と比較すると、「いる」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

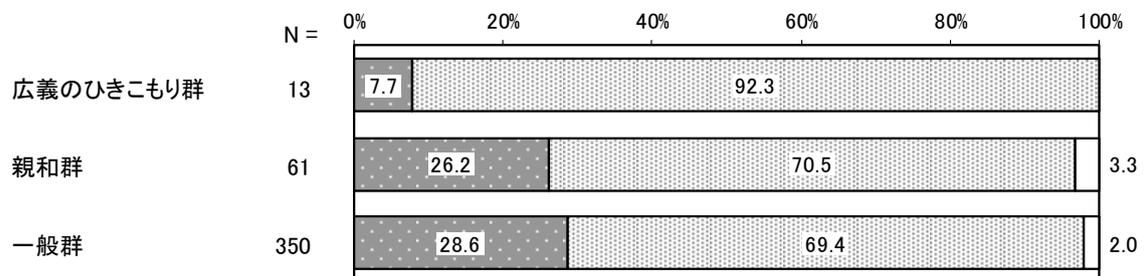
男女別で見ると、大きな差異はみられません。

前回調査と比較すると、男女ともに「いる」の割合が減少しています。



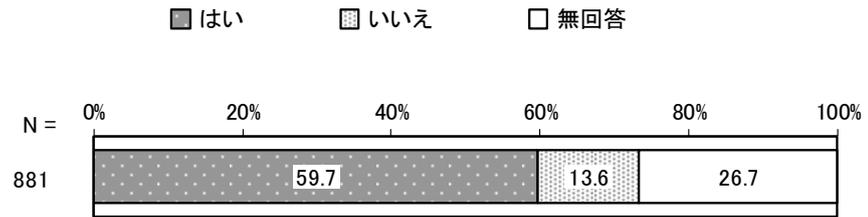
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別で見ると、他に比べ、広義のひきこもり群で「いない」の割合が高くなっています。



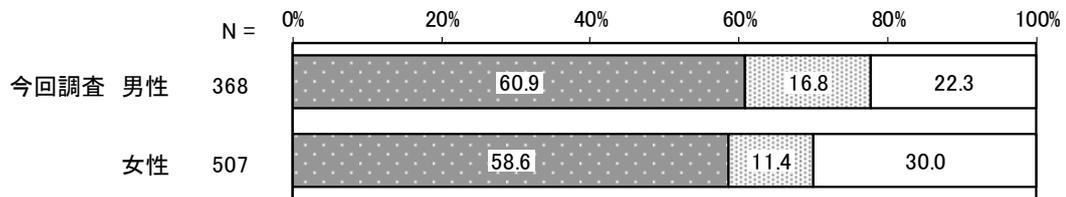
問 33 あなたは、いつかは結婚して家庭を持ちたいと思いますか。(○は1つだけ)

「はい」の割合が 59.7%、「いいえ」の割合が 13.6%となっています。



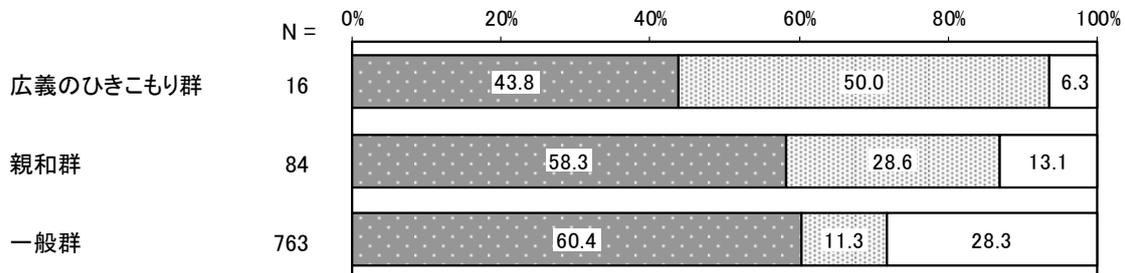
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。



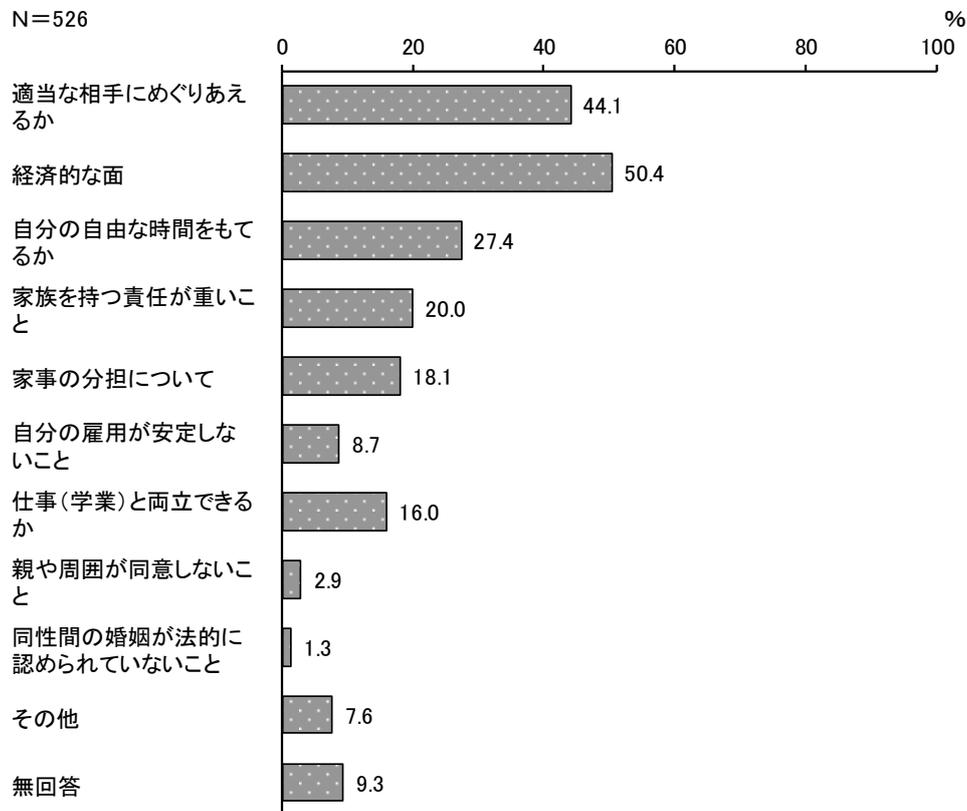
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「いいえ」の割合が高くなっています。



問 34 あなたが現在結婚について抱いている不安として、当てはまるものを次のうちから選んでください。(〇はいくつでも)

「経済的な面」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「適当な相手にめぐりあえるか」の割合が 44.1%、「自分の自由な時間をもてるか」の割合が 27.4%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「経済的な面」の割合が、男性に比べ、女性で「家事の分担について」「仕事（学業）と両立できるか」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		≧ (件)	適 当 な 相 手 に め ぐ り あ え る か	経 済 的 な 面	自 分 の 自 由 な 時 間 を も て る か	家 族 を 持 つ 責 任 が 重 い こ と	家 事 の 分 担 に つ い て	自 分 の 雇 用 が 安 定 し な い こ と	仕 事 （ 学 業 ） と 両 立 で き る か	親 や 周 圍 が 同 意 し な い こ と	同 性 間 の 婚 姻 が 法 的 に 認 め ら れ て い な い こ と	そ の 他	無 回 答
今回調査	男性	224	43.3	55.4	27.7	21.0	12.9	9.8	12.1	3.6	0.9	6.7	7.6
	女性	297	45.5	47.1	27.3	18.9	22.2	8.1	19.2	2.4	1.0	8.1	10.4

【ひきこもり類別】

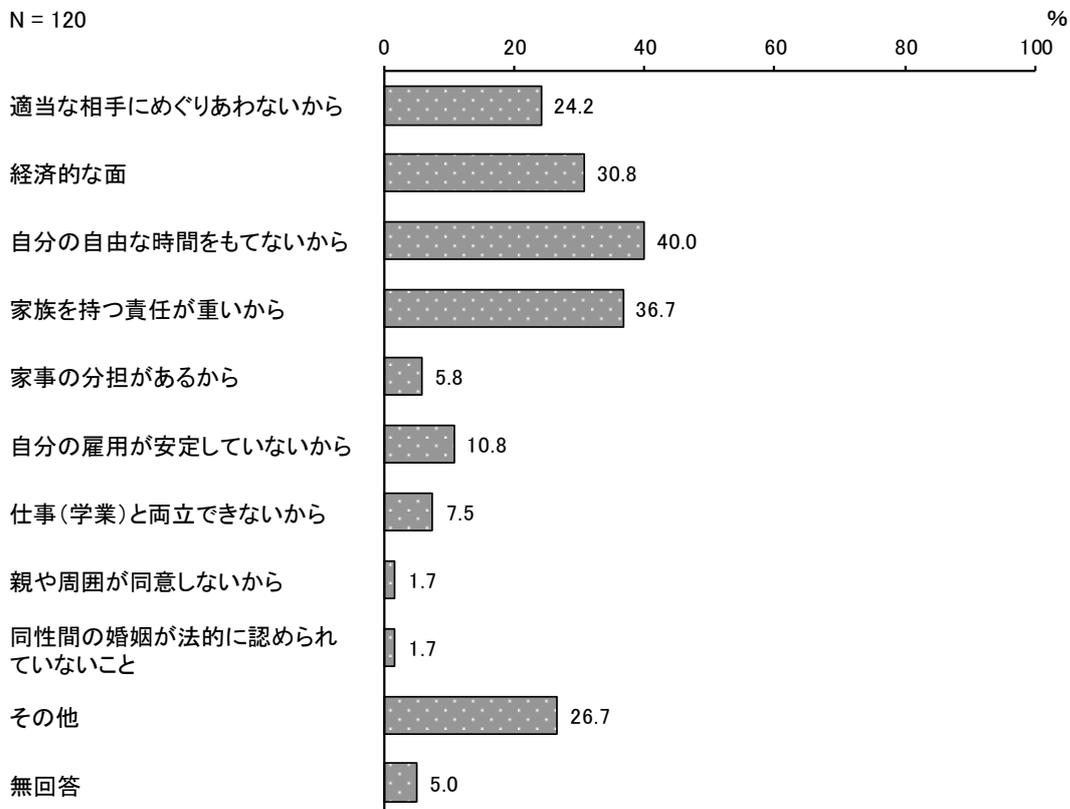
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「適当な相手にめぐりあえるか」「経済的な面」「自分の自由な時間をもてるか」「家族を持つ責任が重いこと」「家事の分担について」「自分の雇用が安定しないこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		≧ (件)	適 当 な 相 手 に め ぐ り あ え る か	経 済 的 な 面	自 分 の 自 由 な 時 間 を も て る か	家 族 を 持 つ 責 任 が 重 い こ と	家 事 の 分 担 に つ い て	自 分 の 雇 用 が 安 定 し な い こ と	仕 事 （ 学 業 ） と 両 立 で き る か	親 や 周 圍 が 同 意 し な い こ と	同 性 間 の 婚 姻 が 法 的 に 認 め ら れ て い な い こ と	そ の 他	無 回 答
広義のひきこもり群		7	71.4	71.4	14.3	85.7	28.6	14.3	42.9	—	—	—	—
親和群		49	53.1	65.3	34.7	34.7	24.5	16.3	16.3	4.1	—	8.2	4.1
一般群		461	42.7	47.9	26.9	16.5	16.9	7.4	15.6	2.8	1.5	7.8	10.0

問 35 あなたが結婚したくないと考える理由を次のうちからお答えください。
(〇はいくつでも)

「自分の自由な時間をもてないから」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「家族を持つ責任が重いから」の割合が 36.7%、「経済的な面」の割合が 30.8%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「経済的な面」の割合が、男性に比べ、女性で「自分の自由な時間をもてないから」「家事の分担があるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	適当な相手にめぐりあわないから	経済的な面	自分の自由な時間をもてないから	家族を持つ責任が重いから	家事の分担があるから	自分の雇用が安定していないから	仕事(学業)と両立できないから	親や周囲が同意しないから	同性間の婚姻が法的に認められていないこと	その他	無回答
今回調査 男性	62	24.2	46.8	37.1	38.7	1.6	12.9	6.5	3.2	—	16.1	4.8
女性	58	24.1	13.8	43.1	34.5	10.3	8.6	8.6	—	3.4	37.9	5.2

【ひきこもり類別】

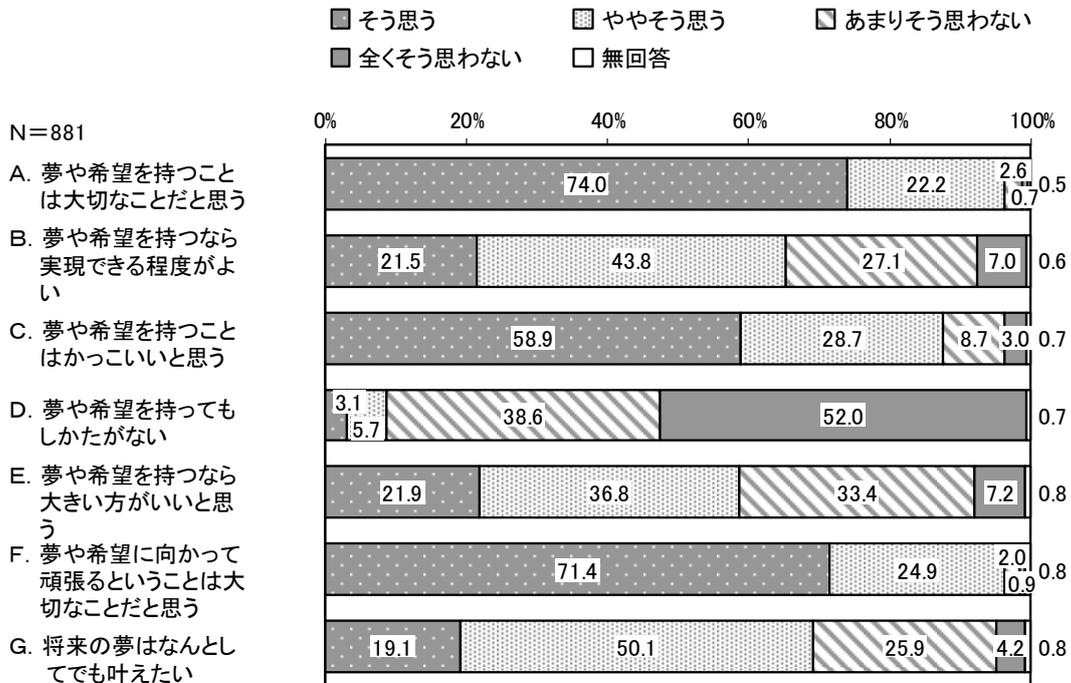
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「経済的な面」「自分の自由な時間をもてないから」「家族を持つ責任が重いから」「自分の雇用が安定していないから」「仕事(学業)と両立できないから」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「適当な相手にめぐりあわないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	適当な相手にめぐりあわないから	経済的な面	自分の自由な時間をもてないから	家族を持つ責任が重いから	家事の分担があるから	自分の雇用が安定していないから	仕事(学業)と両立できないから	親や周囲が同意しないから	同性間の婚姻が法的に認められていないこと	その他	無回答
広義のひきこもり群	8	12.5	50.0	12.5	50.0	—	37.5	—	—	—	25.0	—
親和群	24	12.5	37.5	54.2	58.3	8.3	20.8	25.0	—	4.2	25.0	—
一般群	86	26.7	27.9	38.4	29.1	4.7	5.8	3.5	2.3	1.2	26.7	7.0

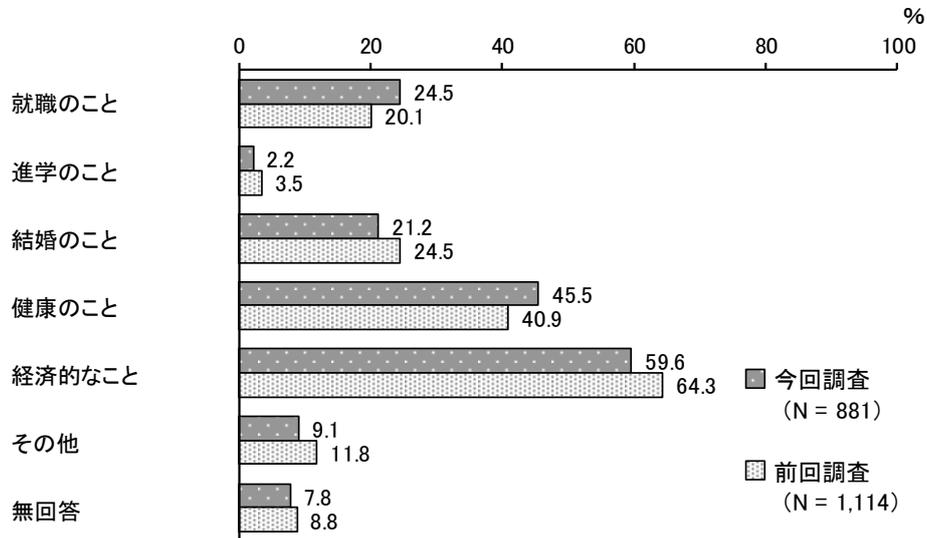
問 36 夢を持つことについて、次の項目ごとにあなたの考えに最もあてはまるものをそれぞれお答えください。(○は各項目につき1つ)

『A. 夢や希望を持つことは大切なことだと思う』『F. 夢や希望に向かって頑張るといことは大切なことだと思う』で「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“思う”の割合が高くなっています。



問 37 あなたが将来に関することで不安に思っていることがあれば、次のうちから選んでください。(〇はいくつでも)

「経済的なこと」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「健康のこと」の割合が 45.5%、「就職のこと」の割合が 24.5%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「健康のこと」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「健康のこと」が、女性で「就職のこと」の割合が増加しています。一方で、女性で「経済的なこと」の割合が減少しています。

単位：％

区分		≧ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
今回調査	男性	368	26.6	3.0	20.1	42.7	59.0	7.3	10.3
	女性	507	23.1	1.6	22.1	47.7	60.0	10.3	5.7
前回調査	男性	440	23.9	3.6	24.3	37.3	61.6	9.5	8.6
	女性	668	17.8	3.4	24.9	43.6	65.9	13.3	8.8

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「就職のこと」「経済的なこと」の割合が高くなっています。また、親和群で「結婚のこと」の割合が高くなっています。

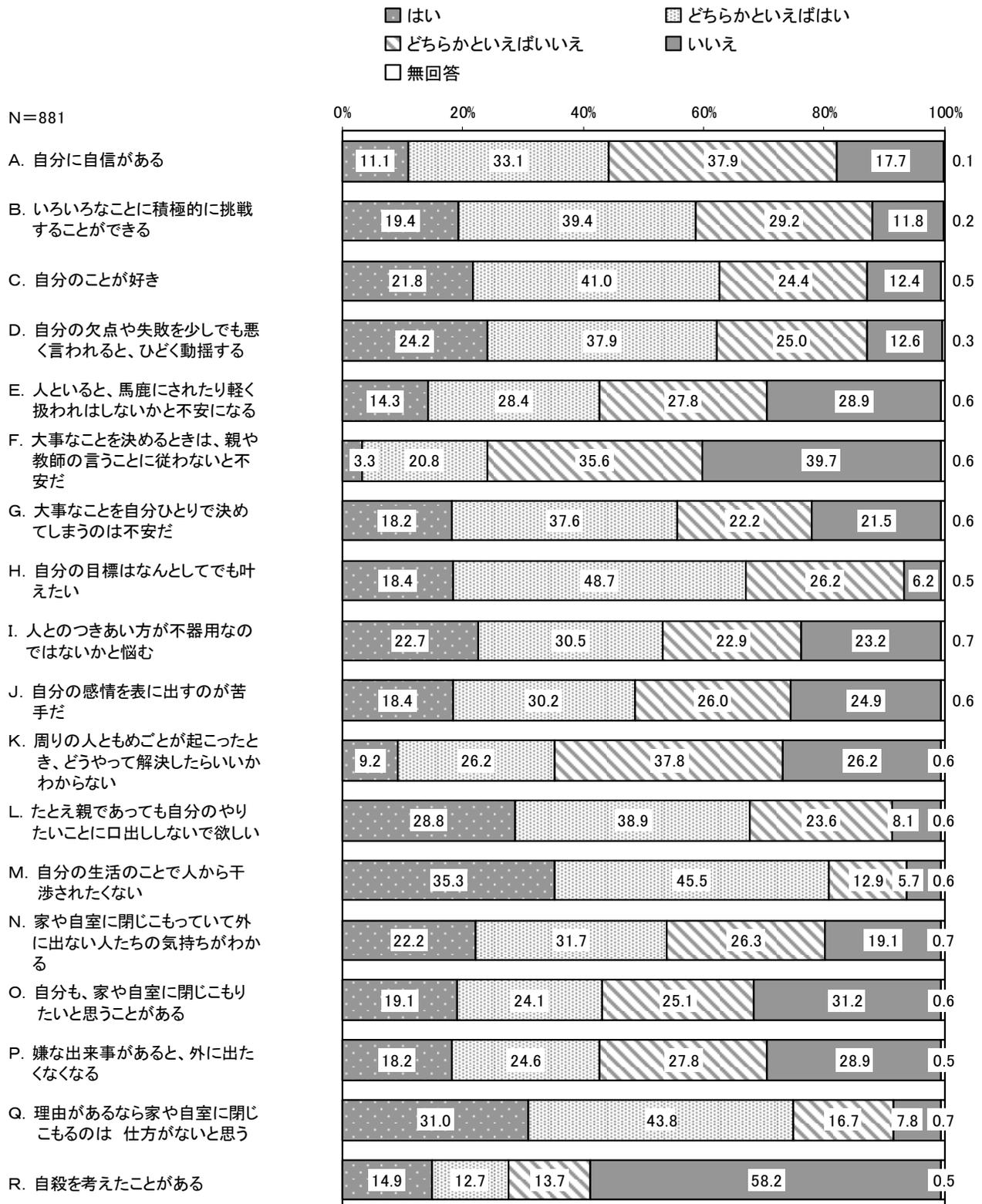
単位：％

区分		≧ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
広義のひきこもり群		16	50.0	—	25.0	56.3	81.3	6.3	—
親和群		84	41.7	2.4	32.1	53.6	75.0	13.1	3.6
一般群		763	22.1	2.2	19.9	44.6	58.1	8.8	8.3

(7) あなた自身のことについて

問 38 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる数字に○をつけてください。(○は各項目につき1つ)

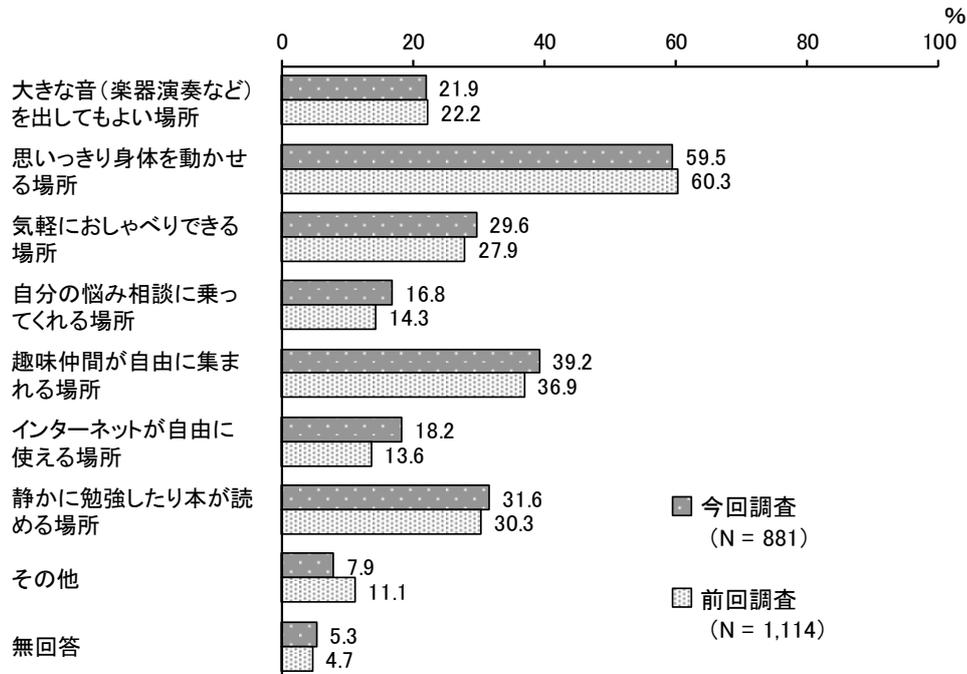
『M. 自分の生活のことで人から干渉されたくない』で「はい」と「どちらかといえばはい」を合わせた“はい”の割合が高くなっています。また、『F. 大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ』『R. 自殺を考えたことがある』で「どちらかといえばいいえ」と「いいえ」を合わせた“いいえ”の割合が高くなっています。



(8) 公共施設・関係機関や政策について

問 39 あなたは、若者向けにどんな場所がもっと川西市にあればよいと思いますか。
(〇は3つまで)

「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が59.5%と最も高く、次いで「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が39.2%、「静かに勉強したり本が読める場所」の割合が31.6%となっています。前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「思いっきり身体を動かせる場所」「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が、男性に比べ、女性で「気軽におしゃべりできる場所」「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、女性で「インターネットが自由に使える場所」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	大きな音 (楽器演奏など) を出して もよい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	インターネットが自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
今回調査	男性	368	24.2	67.1	22.8	12.5	43.2	16.6	29.1	7.6	2.7
	女性	507	20.1	54.4	34.7	20.1	36.3	19.3	33.7	8.3	6.7
前回調査	男性	440	23.9	65.0	22.3	12.0	41.4	15.0	29.1	8.9	4.3
	女性	668	21.3	57.5	31.9	15.7	34.0	12.7	31.1	12.7	4.6

【ひきこもり類別】

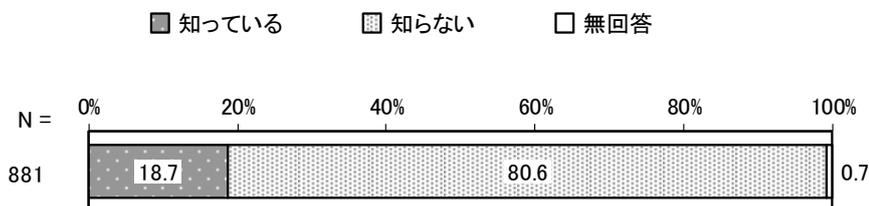
ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」「インターネットが自由に使える場所」の割合が高くなっています。また、親和群で「静かに勉強したり本が読める場所」の割合が、一般群で「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	大きな音 (楽器演奏など) を出して もよい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	インターネットが自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
広義のひきこもり群		16	25.0	37.5	25.0	43.8	37.5	31.3	31.3	6.3	—
親和群		84	28.6	42.9	32.1	28.6	38.1	14.3	36.9	8.3	4.8
一般群		763	20.8	61.7	29.6	15.3	39.4	18.2	31.2	8.0	5.4

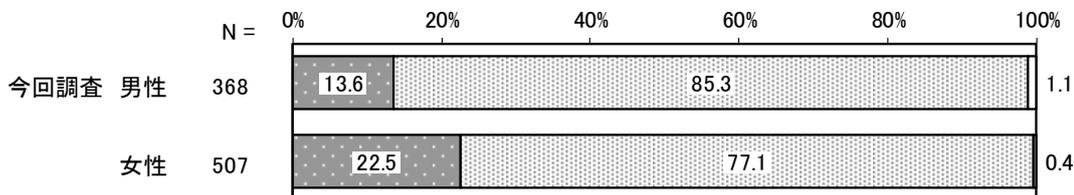
問 40 あなたは、子どもや若者の悩みや聞いてほしいことがあったときに相談できる、川西市の「子ども・若者ステーション」を知っていますか。(○は1つだけ)

「知っている」の割合が18.7%、「知らない」の割合が80.6%となっています。



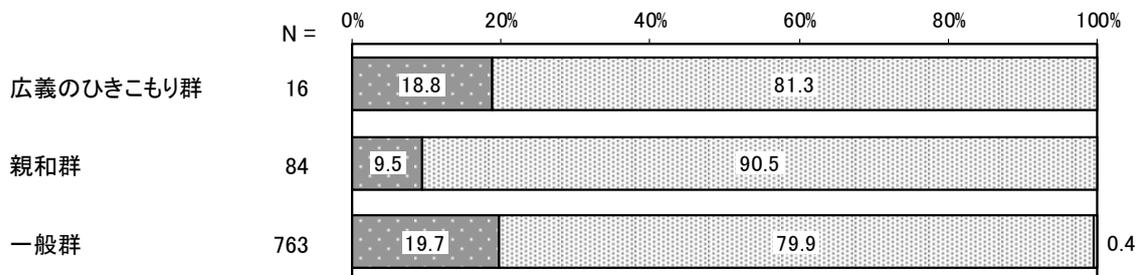
【男女別】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



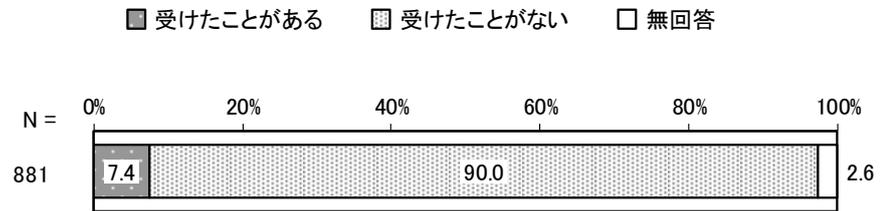
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、一般群に比べ、親和群で「知らない」の割合が高くなっています。



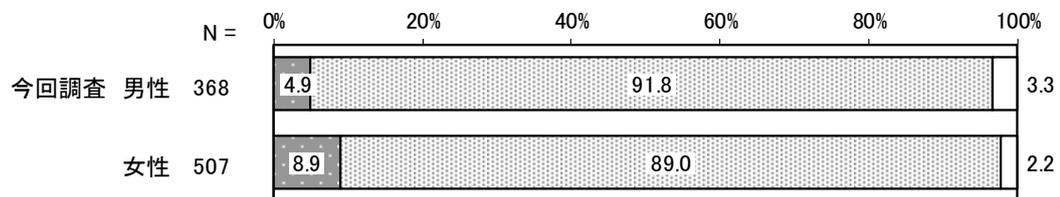
問 41 あなたは、現在もしくは過去に何らかの支援を受けたことはありますか。
(○は1つだけ)

「受けたことがある」の割合が7.4%、「受けたことがない」の割合が90.0%となっています。



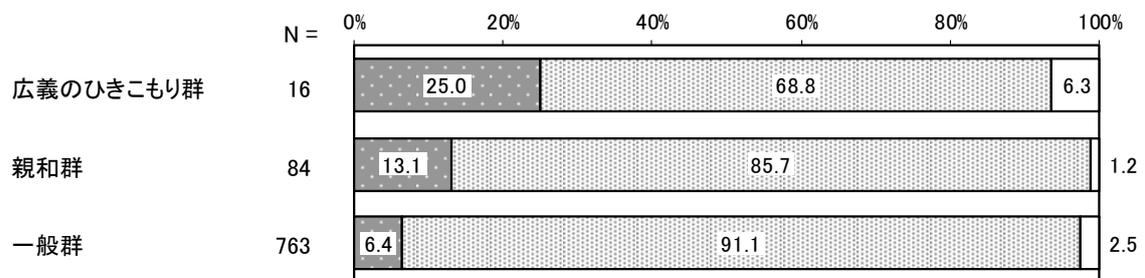
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



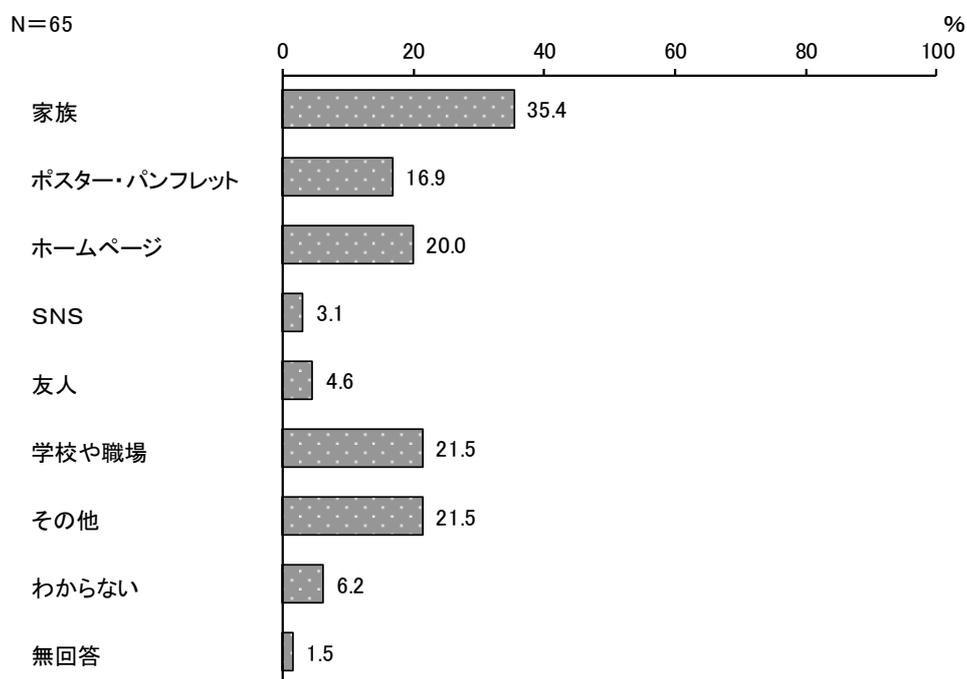
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



問 42 あなたは、その支援をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

「家族」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「学校や職場」の割合が 21.5%、「ホームページ」の割合が 20.0%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「家族」「ポスター・パンフレット」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「ホームページ」「学校や職場」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	家族	ポスター・パンフレット	ホームページ	SNS	友人	学校や職場	その他	わからない	無回答
今回調査 男性	18	55.6	22.2	16.7	—	5.6	16.7	11.1	5.6	5.6
女性	45	24.4	13.3	22.2	4.4	4.4	24.4	26.7	6.7	—

【ひきこもり類別】

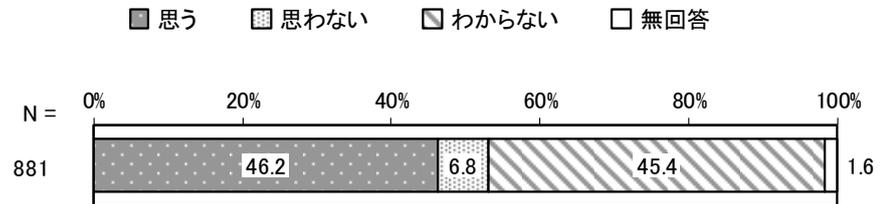
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除き、一般群に比べ、親和群で「友人」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「ポスター・パンフレット」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	家族	ポスター・パンフレット	ホームページ	SNS	友人	学校や職場	その他	わからない	無回答
広義のひきこもり群	4	25.0	25.0	—	—	25.0	—	25.0	—	—
親和群	11	36.4	9.1	18.2	—	9.1	27.3	36.4	—	—
一般群	49	36.7	18.4	20.4	4.1	2.0	22.4	18.4	8.2	2.0

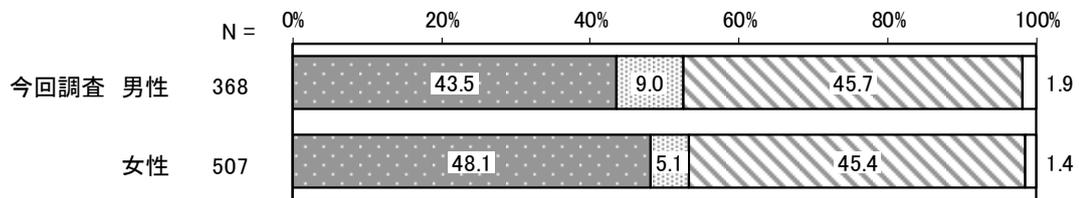
問 43 あなたは、今後困っている子どもや若者を支援したいと思いますか。
(○は1つだけ)

「思う」の割合が46.2%と最も高く、次いで「わからない」の割合が45.4%、「思わない」の割合が6.8%となっています。



【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



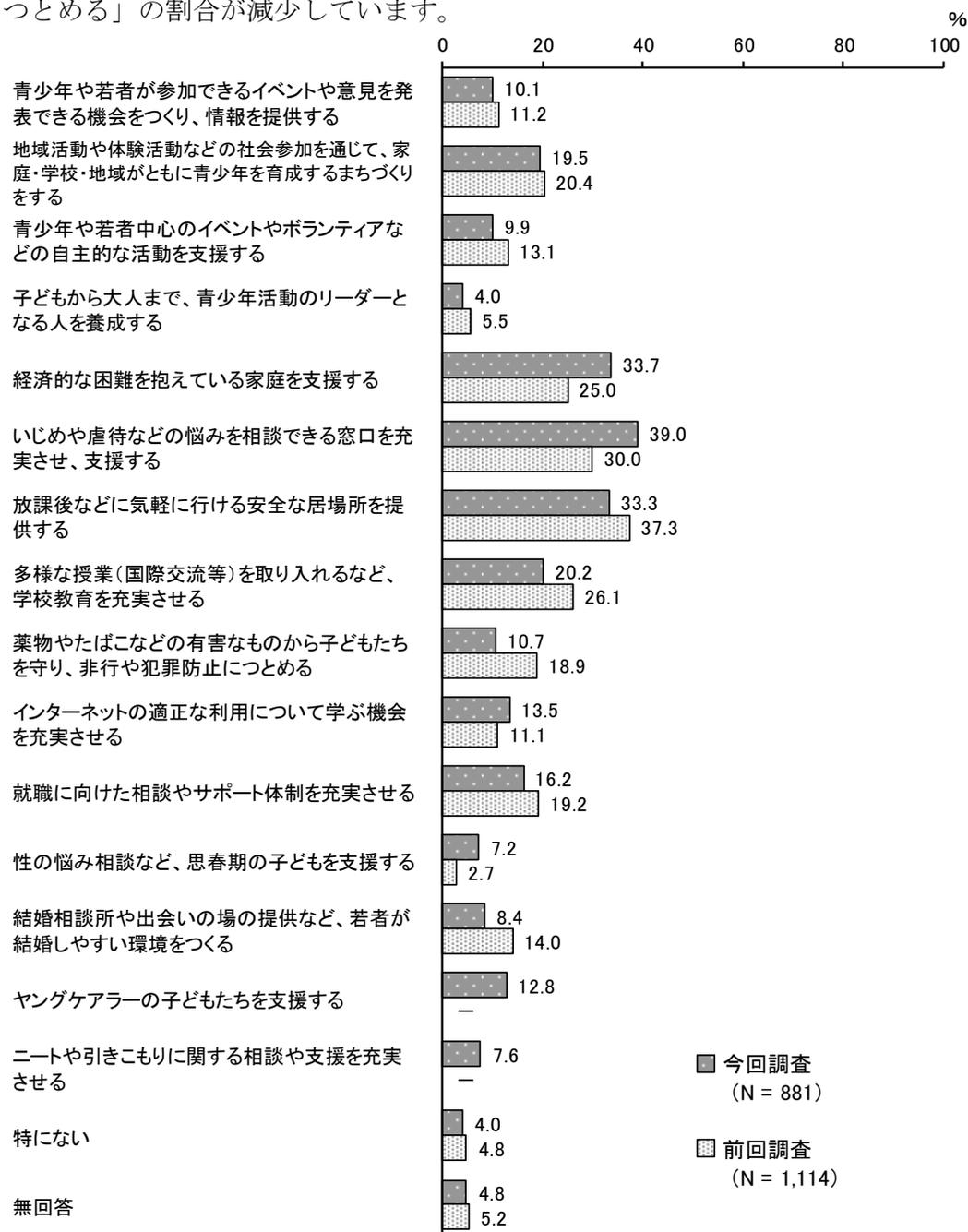
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、大きな差異はみられません。



問 44 あなたは、川西市が取り組む青少年や若者の政策にどんなことを望みますか。
(○は3つまで)

「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」の割合が39.0%と最も高く、次いで「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」の割合が33.7%、「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」の割合が33.3%となっています。前回調査と比較すると、「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」の割合が増加しています。一方、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる」「薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる」の割合が減少しています。



※前回調査では「ヤングケアラーの子どもたちを支援する」「ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる」の選択肢はありませんでした。

【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する」「就職に向けた相談やサポート体制を充実させる」の割合が、男性に比べ、女性で「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「ヤングケアラーの子どもたちを支援する」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」の割合が増加しています。一方で、男女ともに「薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる」「結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる」の割合が、女性で「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる」「就職に向けた相談やサポート体制を充実させる」の割合が減少しています。

単位：％

区分	ニ (件)	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる	
今回調査	男性	368	13.9	21.2	10.1	4.9	33.4	33.7	27.4	18.2
	女性	507	7.5	18.5	9.9	3.2	33.9	43.0	37.7	21.9
前回調査	男性	440	14.5	20.2	12.5	8.6	25.2	28.6	28.4	21.4
	女性	668	9.1	20.7	13.5	3.4	24.6	31.1	43.1	29.3

区分	薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特になし	無回答
今回調査	男性	12.5	15.2	19.8	4.9	10.6	9.0	5.7	2.4
	女性	9.5	12.4	13.8	8.5	6.9	15.6	6.7	6.1
前回調査	男性	20.5	12.7	18.9	0.9	16.4	—	5.7	5.7
	女性	18.0	10.2	19.5	3.9	12.6	—	4.2	4.6

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、他に比べ、広義のひきこもり群で「子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する」「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「就職に向けた相談やサポート体制を充実させる」「結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる」「ヤングケアラーの子どもたちを支援する」「ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる」の割合が高くなっています。また、一般群で「地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	ニ (件)	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる
広義のひきこもり群	16	6.3	—	—	12.5	50.0	31.3	25.0	6.3
親和群	84	9.5	10.7	11.9	2.4	36.9	40.5	29.8	9.5
一般群	763	10.2	21.1	10.1	4.1	33.0	39.7	34.1	21.8

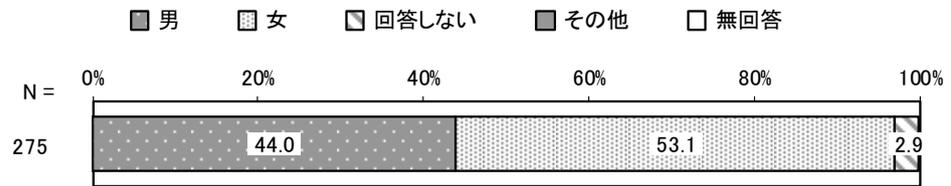
区分	薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特 に ない	無 回 答
広義のひきこもり群	12.5	12.5	25.0	12.5	18.8	18.8	25.0	6.3	6.3
親和群	13.1	8.3	17.9	15.5	10.7	11.9	17.9	3.6	4.8
一般群	10.6	14.2	15.9	6.2	8.0	12.3	6.0	4.1	4.1

Ⅲ 高校生調査

(1) 回答者属性

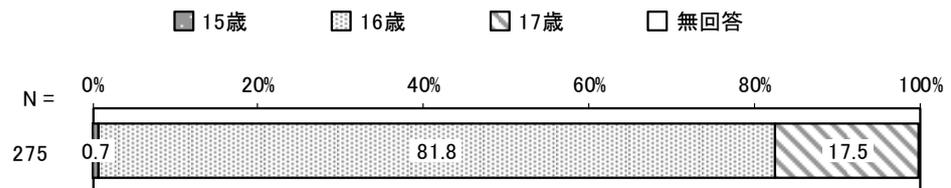
F 1 性別

「女」の割合が53.1%と最も高く、次いで「男」の割合が44.0%となっています。



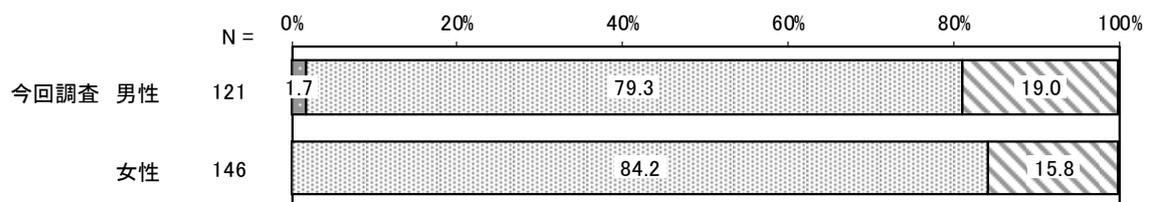
F 2 年齢

「16歳」の割合が81.8%と最も高く、次いで「17歳」の割合が17.5%となっています。



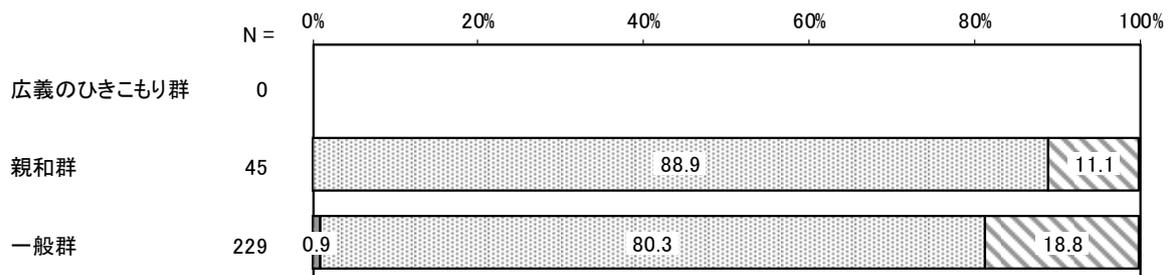
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



【ひきこもり類別】

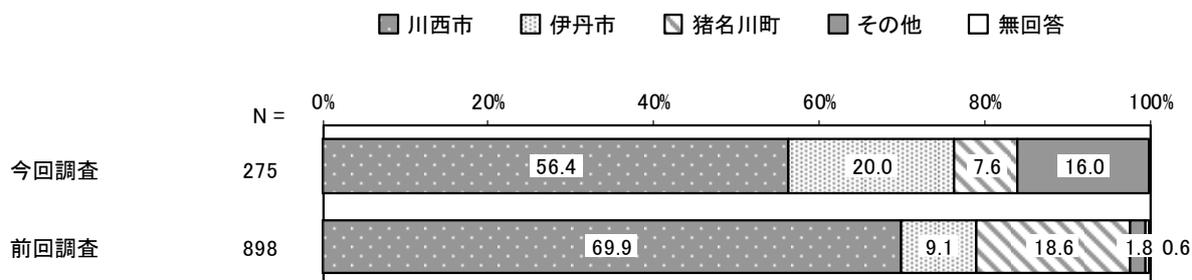
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「16歳」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「17歳」の割合が高くなっています。



(2) 普段の生活について

問1 あなたが住んでいる市または町をお答えください。

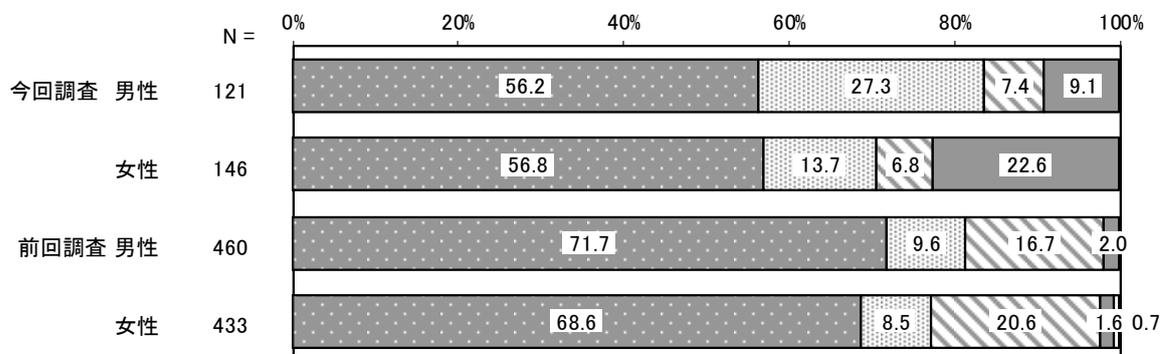
「川西市」の割合が56.4%と最も高く、次いで「伊丹市」の割合が20.0%となっています。前回調査と比較すると、「伊丹市」の割合が増加し、「川西市」「猪名川町」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

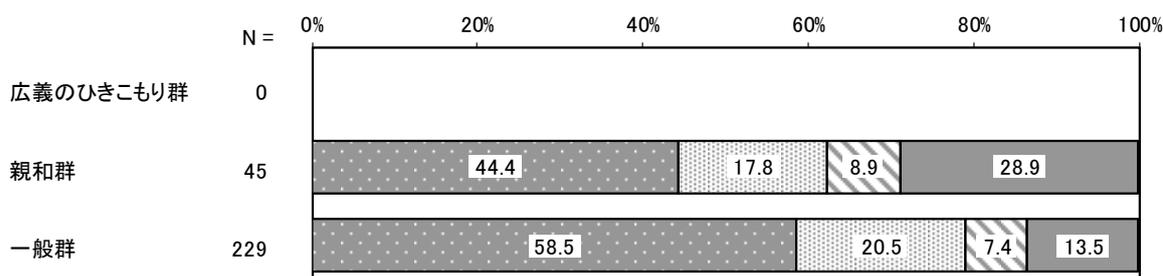
男女別でみると、女性に比べ、男性で「伊丹市」の割合が、女性に比べ、男性で「その他」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「伊丹市」の割合が増加し、「川西市」「猪名川町」の割合が減少しています。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「川西市」の割合が高くなっています。

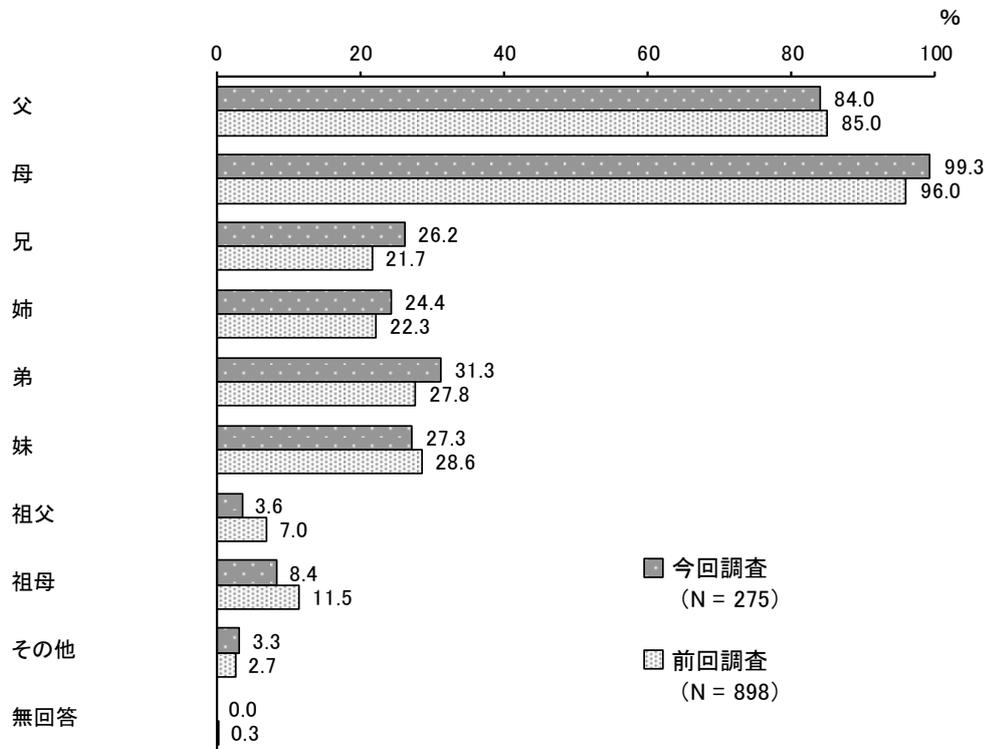


問2（1） あなたが同居している家族で、あてはまる人をお答えください。

1. 同居している家族（〇はいくつでも）

「母」の割合が99.3%と最も高く、次いで「父」の割合が84.0%、「弟」の割合が31.3%となっています。

前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【男女別・経年比較】

男女別で見ると、女性に比べ、男性で「姉」「弟」の割合が、男性に比べ、女性で「祖母」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「兄」「弟」の割合が増加し、「祖父」「祖母」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≧ (件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他	無回答
今回調査 男性	121	84.3	99.2	26.4	28.1	37.2	29.8	3.3	5.0	1.7	—
女性	146	83.6	99.3	26.0	21.2	27.4	25.3	4.1	11.6	4.8	—
前回調査 男性	460	86.1	95.9	20.4	24.8	25.2	28.9	9.1	13.5	2.2	0.4
女性	433	84.1	96.5	23.1	19.6	30.7	28.4	4.8	9.5	3.2	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別で見ると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「弟」の割合が高くなっています。また、親和群にくらべ、一般群で「父」「兄」「姉」の割合が高くなっています。

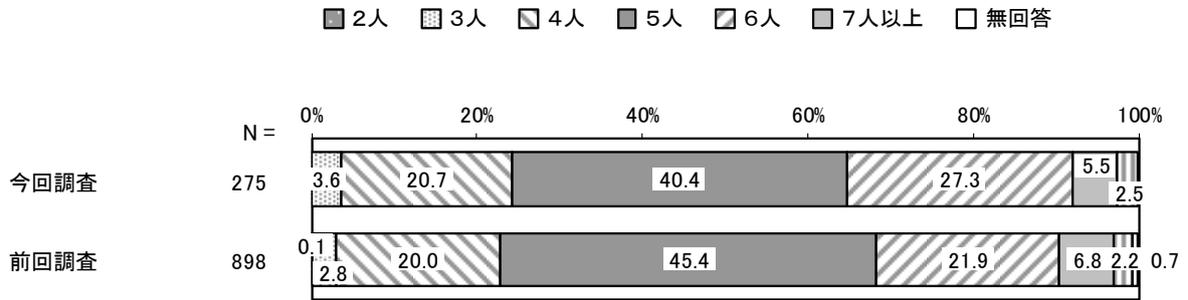
単位：％

区分	≧ (件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	77.8	95.6	20.0	15.6	35.6	31.1	4.4	8.9	2.2	—
一般群	229	85.2	100.0	27.5	26.2	30.6	26.6	3.5	8.3	3.5	—

2. 同居している人数

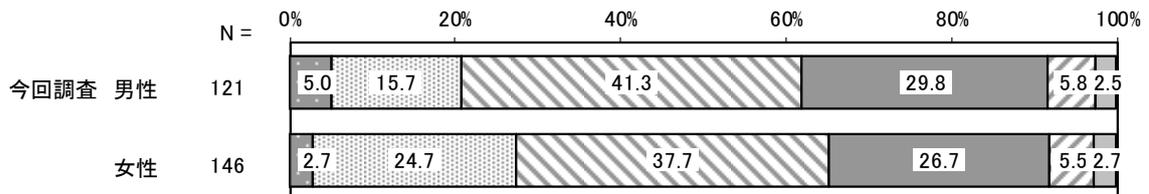
「4人」の割合が40.4%と最も高く、次いで「5人」の割合が27.3%、「3人」の割合が20.7%となっています。

前回調査と比較すると、「4人」の割合が減少し、「5人」の割合が増加しています。



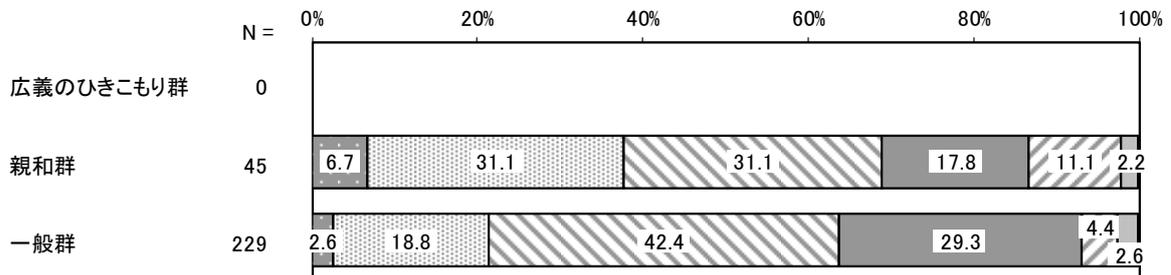
【男女別】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「3人」の割合が高くなっています。



【ひきこもり類別】

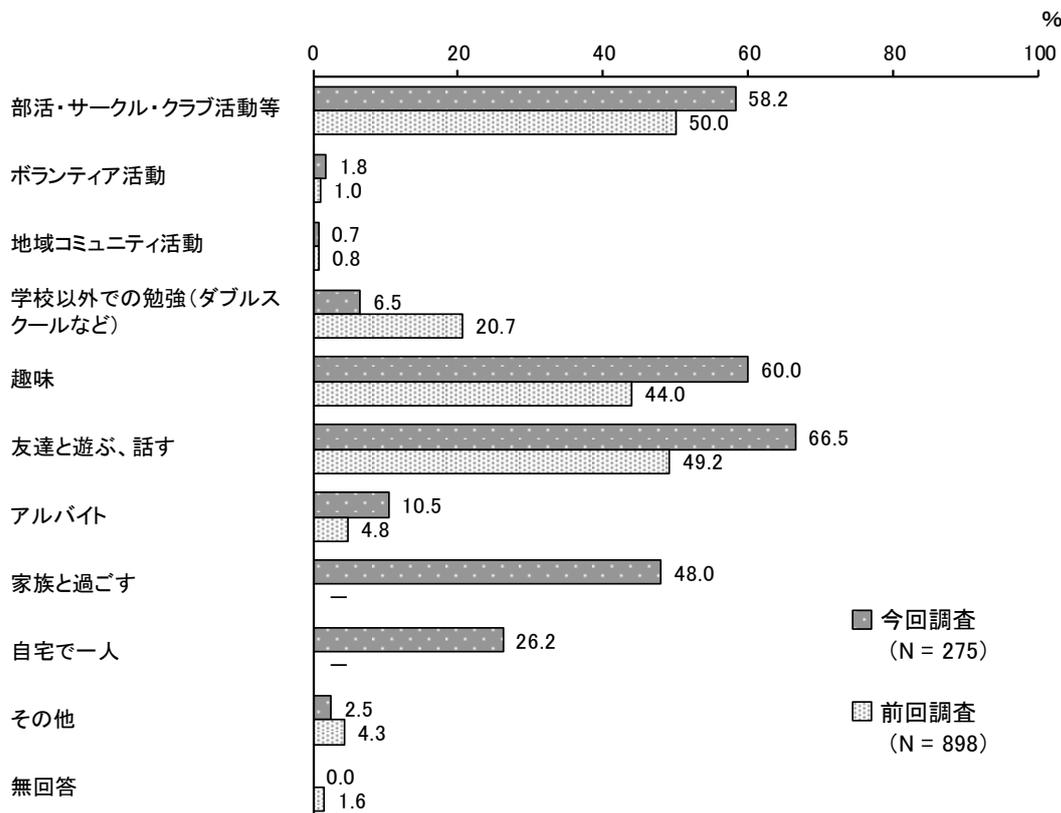
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「3人」「6人」の割合が高くなっています。また、親和群にくらべ、一般群で「4人」「5人」の割合が高くなっています。



問3 あなたは休日主にどのような時間の過ごし方をしていますか。あてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

「友達と遊ぶ、話す」の割合が66.5%と最も高く、次いで「趣味」の割合が60.0%、「部活・サークル・クラブ活動等」の割合が58.2%となっています。

前回調査と比較すると、「部活・サークル・クラブ活動等」「趣味」「友達と遊ぶ、話す」「アルバイト」の割合が増加し、「学校以外での勉強(ダブルスクールなど)」の割合が減少しています。



※前回調査では「家族と過ごす」「自宅で一人」の選択肢はありませんでした。

【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「部活・サークル・クラブ活動等」の割合が、男性に比べ、女性で「友達と遊ぶ、話す」「アルバイト」「家族と過ごす」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「趣味」「友達と遊ぶ、話す」の割合が増加し、「学校以外での勉強（ダブルスクールなど）」の割合が減少しています。また、女性で「アルバイト」の割合が増加しています。

単位：％

区分		≧ (件)	部活・サークル・クラブ活動等	ボランティア活動	地域コミュニティ活動	学校以外での勉強 (ダブルスクールなど)	趣味	友達と遊ぶ、話す	アルバイト	家族と過ごす	自宅で一人	その他	無回答
今回調査	男性	121	63.6	2.5	—	6.6	59.5	61.2	4.1	34.7	23.1	0.8	—
	女性	146	53.4	1.4	1.4	6.2	59.6	71.9	15.8	58.2	27.4	3.4	—
前回調査	男性	460	51.5	1.3	0.7	21.7	43.9	40.7	1.7	—	—	3.9	1.7
	女性	433	48.5	0.7	0.7	19.9	44.6	58.4	7.9	—	—	4.8	1.2

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「友達と遊ぶ、話す」「アルバイト」「自宅で一人」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「部活・サークル・クラブ活動等」「家族と過ごす」の割合が高くなっています。

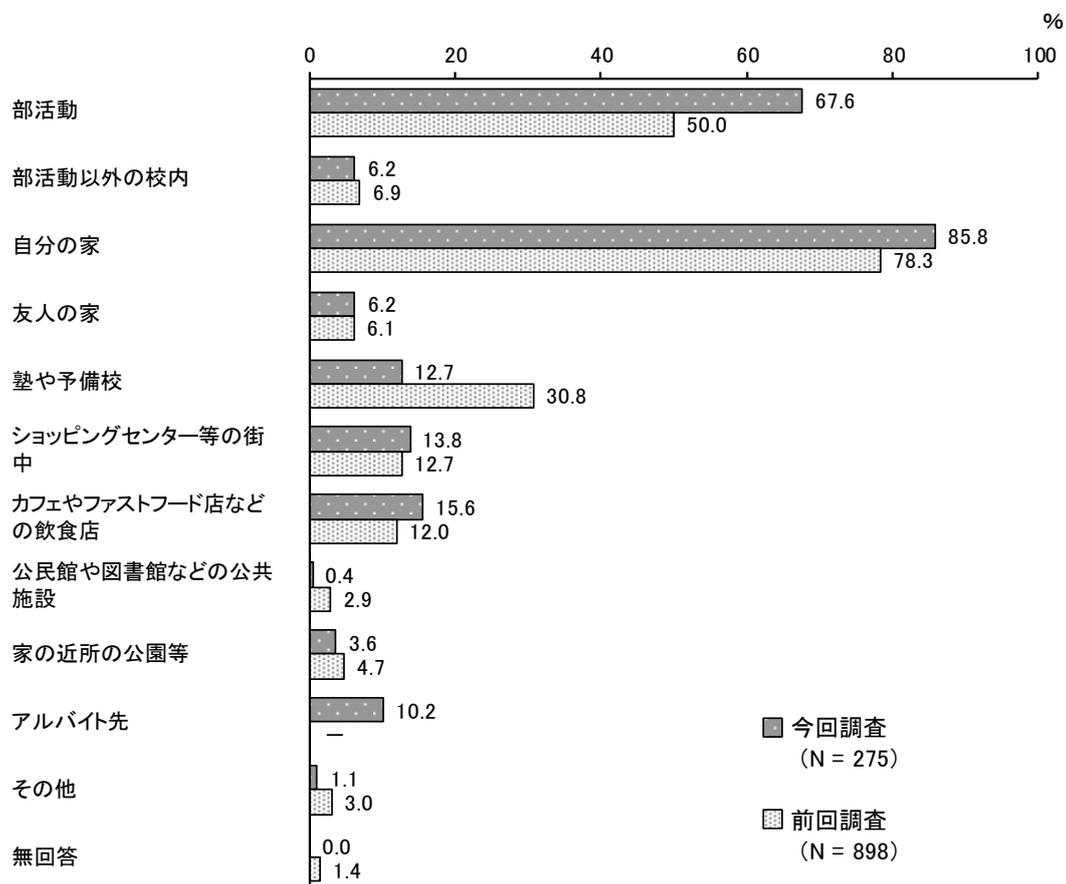
単位：％

区分		≧ (件)	部活・サークル・クラブ活動等	ボランティア活動	地域コミュニティ活動	学校以外での勉強 (ダブルスクールなど)	趣味	友達と遊ぶ、話す	アルバイト	家族と過ごす	自宅で一人	その他	無回答
広義のひきこもり群		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群		45	40.0	—	—	6.7	62.2	71.1	15.6	35.6	37.8	2.2	—
一般群		229	62.0	2.2	0.9	6.6	59.4	65.9	9.6	50.7	23.6	2.6	—

問4 あなたは学校の放課後を主にどこで過ごしていますか。(多いもの3つに○)

「自分の家」の割合が85.8%と最も高く、次いで「部活動」の割合が67.6%、「カフェやファストフード店などの飲食店」の割合が15.6%となっています。

前回調査と比較すると、「部活動」「自分の家」の割合が増加し、「塾や予備校」の割合が減少しています。



※前回調査に「アルバイト先」の選択肢はありませんでした。

【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「部活動」「友人の家」の割合が、女性に比べ、男性で「自分の家」「カフェやファストフード店などの飲食店」「アルバイト先」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「部活動」「自分の家」の割合が増加し、「塾や予備校」の割合が減少しています。

単位：％

区分	≧(件)	部活動	部活動以外の校内	自分の家	友人の家	塾や予備校	ショッピングセンター等の街中	カフェやファストフード店などの飲食店	公民館や図書館などの公共施設	家の近所の公園等	アルバイト先	その他	無回答
今回調査 男性	121	70.2	6.6	81.0	9.1	14.0	11.6	9.9	0.8	4.1	5.0	1.7	—
女性	146	65.1	6.2	89.0	4.1	11.6	16.4	20.5	—	2.7	14.4	0.7	—
前回調査 男性	460	50.9	7.0	74.1	5.7	33.5	8.5	7.2	2.8	5.9	—	2.6	1.7
女性	433	49.4	6.9	82.9	6.7	28.4	17.3	17.3	3.0	3.5	—	3.5	0.9

【ひきこもり類別】

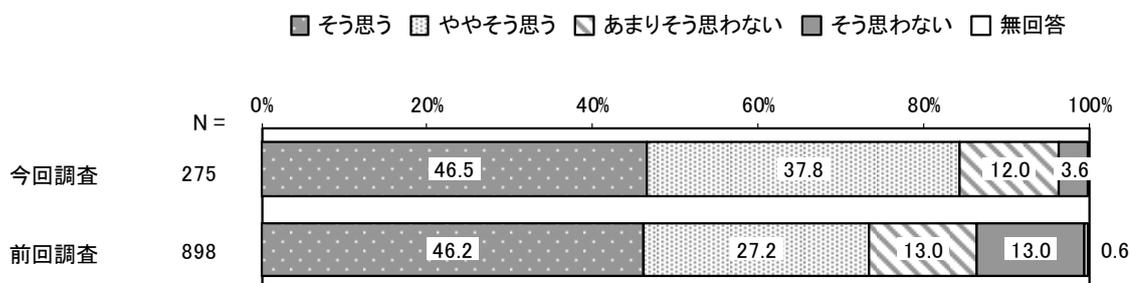
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「部活動」「自分の家」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	部活動	部活動以外の校内	自分の家	友人の家	塾や予備校	ショッピングセンター等の街中	カフェやファストフード店などの飲食店	公民館や図書館などの公共施設	家の近所の公園等	アルバイト先	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	57.8	6.7	77.8	8.9	8.9	15.6	17.8	—	4.4	13.3	4.4	—
一般群	229	69.9	6.1	87.3	5.7	13.5	13.5	15.3	0.4	3.5	9.6	0.4	—

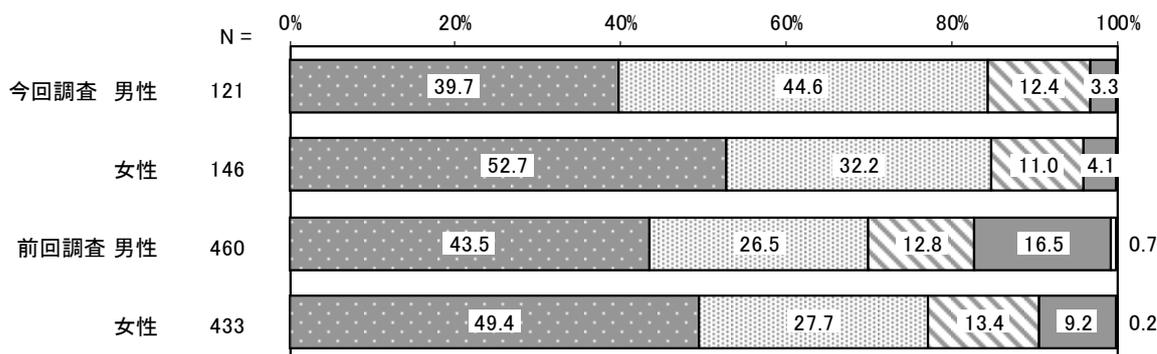
問5 あなたは放課後に、学校以外で友達と過ごしたり勉強したりできる場所が、新たにあればいいと思いますか。

「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が84.3%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が15.6%となっています。
 前回調査と比較すると、“そう思う”の割合が増加しています。



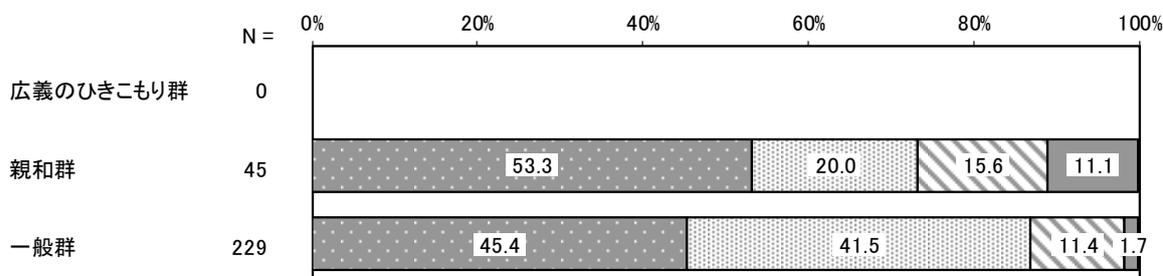
【男女別・経年比較】

男女別で見ると、女性に比べ、男性で「ややそう思う」の割合が、男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が高くなっています。
 前回調査と比較すると、男女ともに“そう思う”の割合が増加しています。



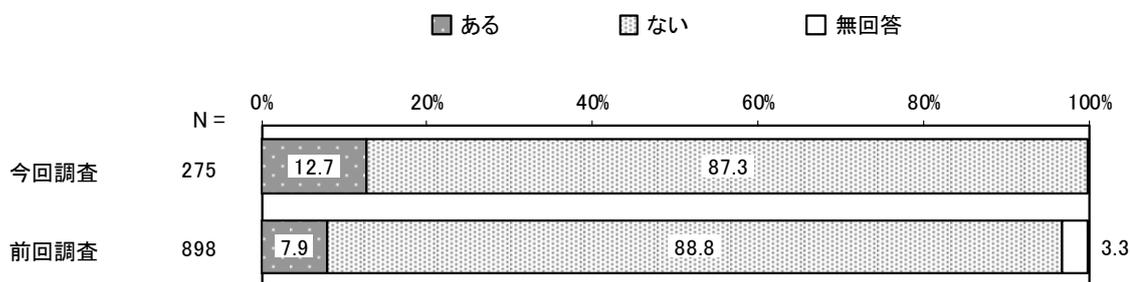
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別で見ると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で“そう思わない”の割合が高くなっています。



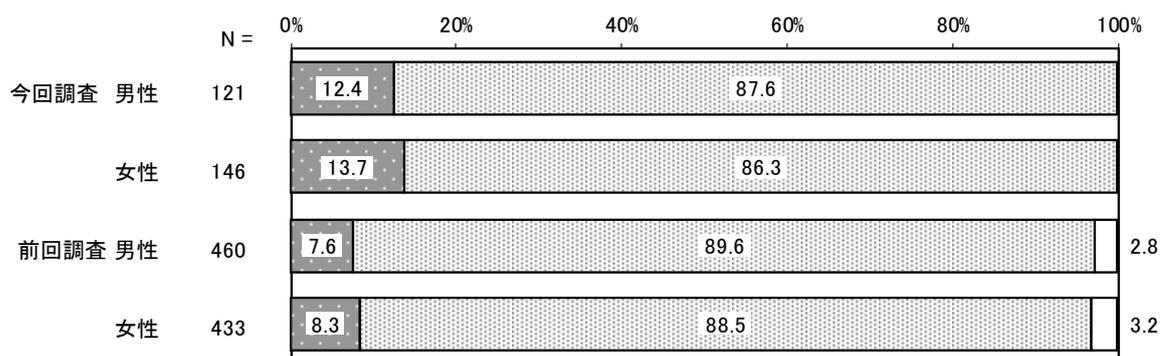
問6（1） あなたは学校の部活動以外で何か活動していることがありますか。

「ある」の割合が12.7%、「ない」の割合が87.3%となっています。
 前回調査と比較すると、大きな変化はみられません。



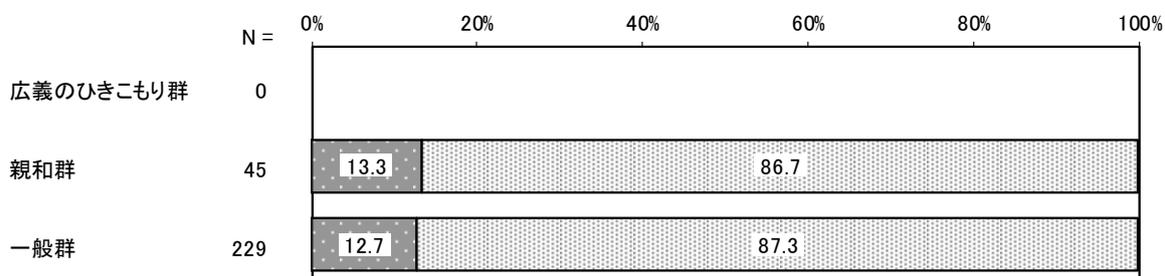
【男女別・経年比較】

男女別でみると、大きな差異はみられません。
 前回調査と比較すると、女性で「ある」の割合が増加しています。



【ひきこもり類別】

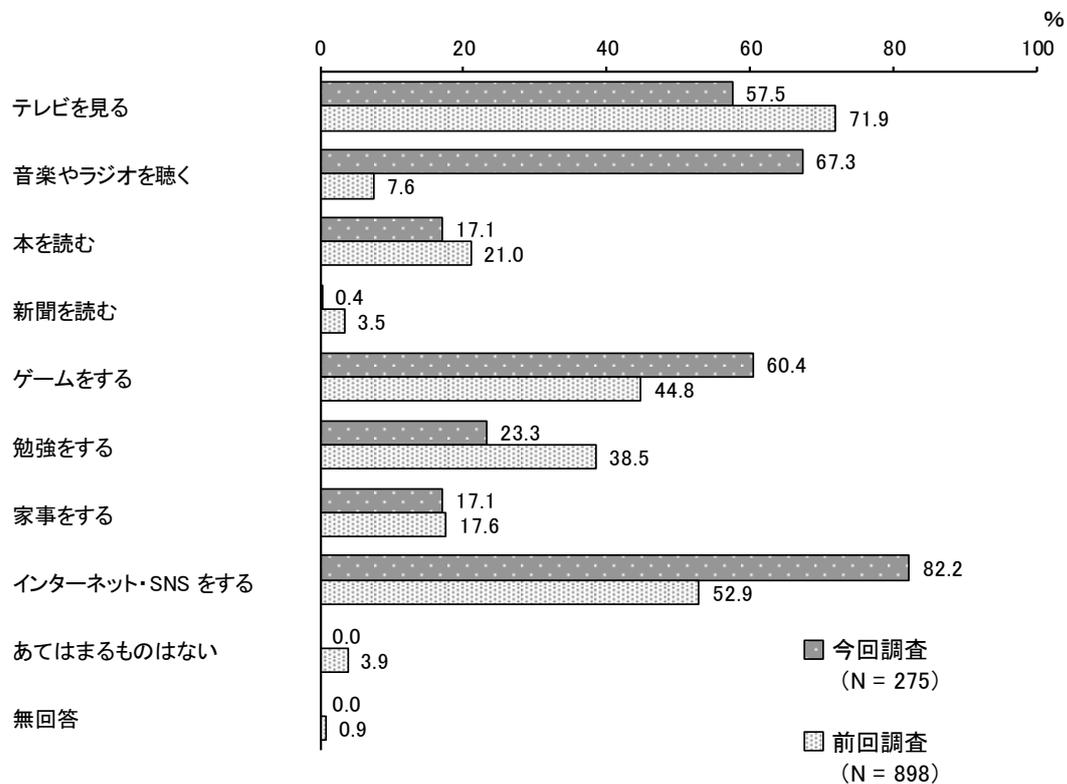
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群と親和群で大きな差異はみられません。



問7 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

「インターネット・SNS をする」の割合が 82.2%と最も高く、次いで「音楽やラジオを聴く」の割合が 67.3%、「ゲームをする」の割合が 60.4%となっています。

前回調査と比較すると、「音楽やラジオを聴く」「ゲームをする」「インターネット・SNS をする」の割合が増加し、「テレビを見る」「勉強をする」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「ゲームをする」の割合が、男性に比べ、女性で「音楽やラジオを聴く」「家事をする」「インターネット・SNSをする」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「音楽やラジオを聴く」「ゲームをする」「インターネット・SNSをする」の割合が増加し、「テレビを見る」「勉強をする」の割合が減少しています。

単位：％

区分		≧(件)	テレビを見る	音楽やラジオを聴く	本を読む	新聞を読む	ゲームをする	勉強をする	家事をする	インターネット・SNSをする	あてはまるものはない	無回答
今回調査	男性	121	56.2	59.5	17.4	—	86.0	22.3	14.0	75.2	—	—
	女性	146	59.6	74.7	16.4	0.7	39.7	24.0	20.5	87.7	—	—
前回調査	男性	460	65.2	8.5	23.7	4.6	66.1	43.7	14.3	52.6	3.5	1.1
	女性	433	79.2	6.5	18.2	2.3	21.9	33.3	21.2	53.3	4.4	0.5

【ひきこもり類別】

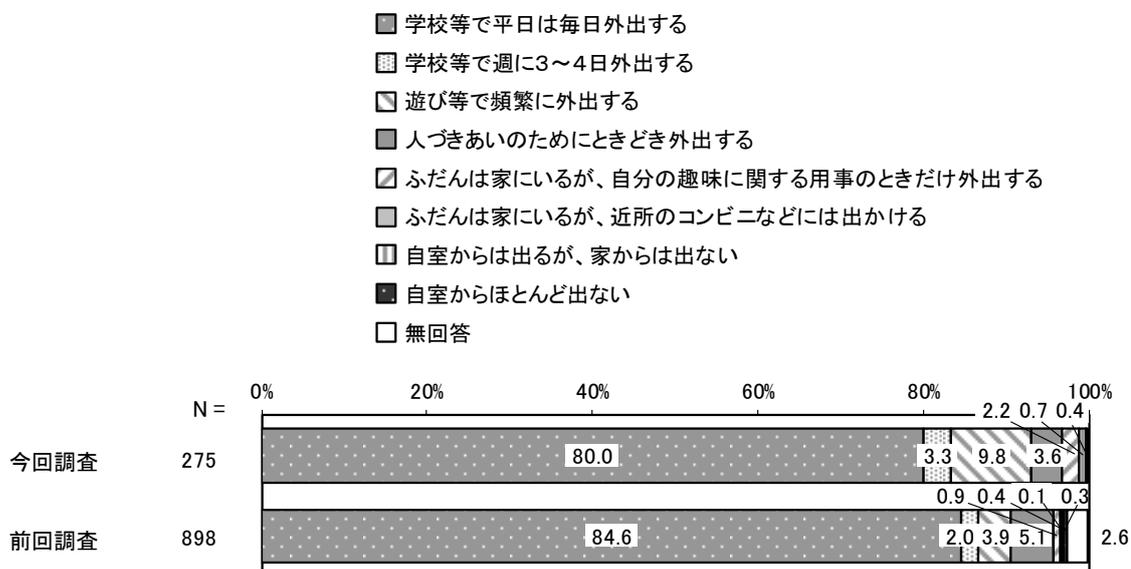
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「音楽やラジオを聴く」の割合が高くなっています。また、親和群にくらべ、一般群で「テレビを見る」「ゲームをする」「勉強をする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	テレビを見る	音楽やラジオを聴く	本を読む	新聞を読む	ゲームをする	勉強をする	家事をする	インターネット・SNSをする	あてはまるものはない	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	53.3	84.4	15.6	—	55.6	13.3	17.8	84.4	—	—
一般群	229	58.5	63.8	17.5	0.4	61.1	25.3	17.0	81.7	—	—

問8 ふだんどのくらい外出しますか。

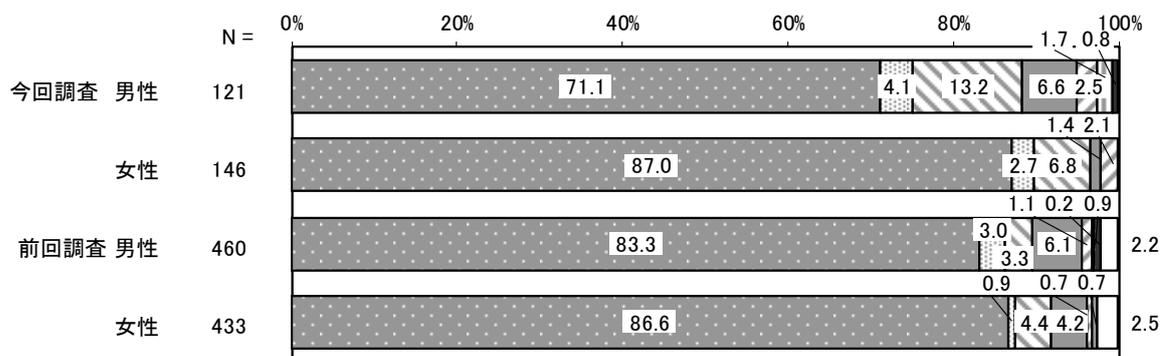
「学校等で平日は毎日外出する」の割合が80.0%と最も高くなっています。
 前回調査と比較すると、「遊び等で頻繁に外出する」の割合が増加しています。



【男女別・経年比較】

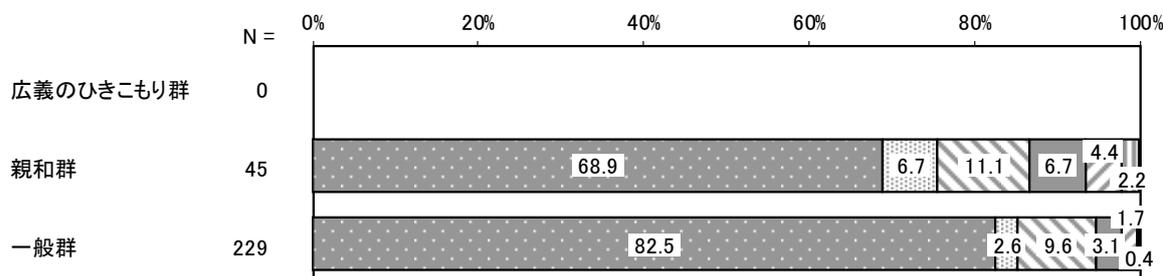
男女別でみると、女性に比べ、男性で「遊び等で頻繁に外出する」「人づきあいのためにときどき外出する」の割合が、男性に比べ、女性で「学校等で平日は毎日外出する」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性で「遊び等で頻繁に外出する」の割合が増加し、「学校等で平日は毎日外出する」の割合が減少しています。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「学校等で平日は毎日外出する」の割合が高くなっています。



問9 現在の状態となってどのくらい経ちますか。

「6ヶ月～1年未満」が4件、「3年～5年未満」、「7年以上」が2件となっています。

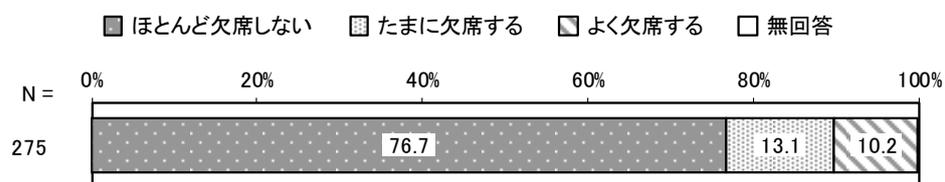
問10 現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「受験に失敗した」が2件、「人間関係がうまくいかなかった」、「病気」が1件となっています。

問11 学校への通学状況等について教えてください。

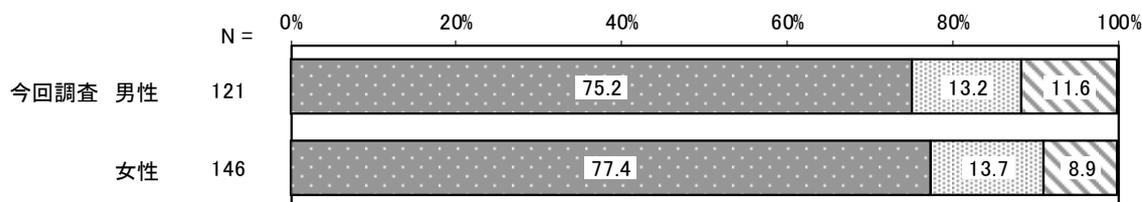
(1) 出席状況

「ほとんど欠席しない」の割合が76.7%と最も高く、次いで「たまに欠席する」の割合が13.1%、「よく欠席する」の割合が10.2%となっています。



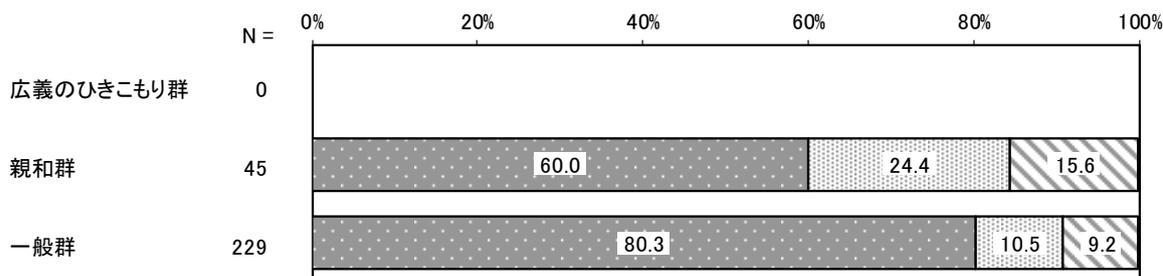
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



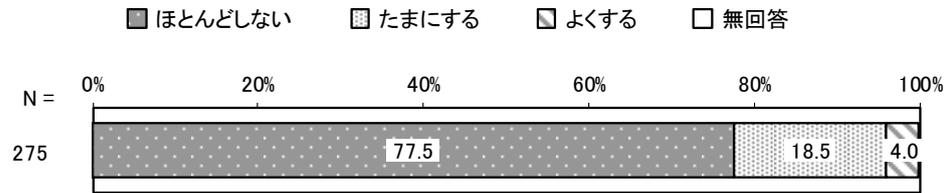
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「たまに欠席する」「よく欠席する」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「ほとんど欠席しない」の割合が高くなっています。



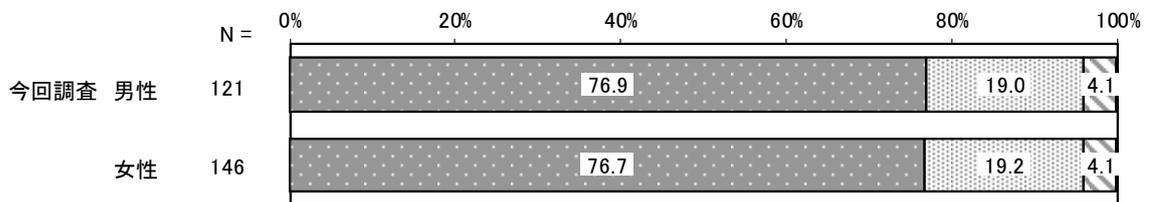
(2) 遅刻や早退の状況

「ほとんどしない」の割合が77.5%と最も高く、次いで「たまにする」の割合が18.5%となっています。



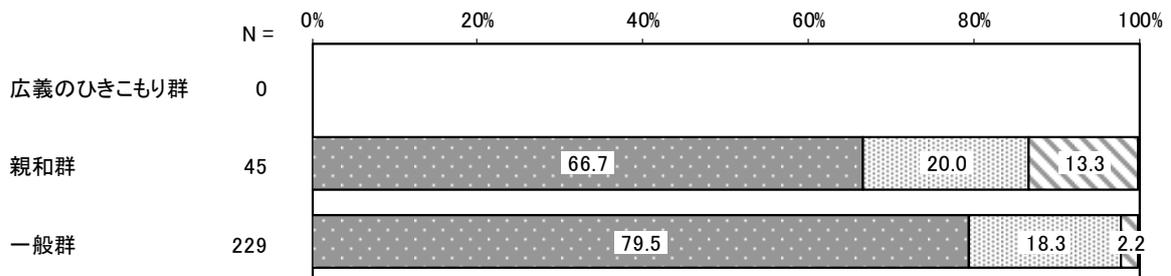
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



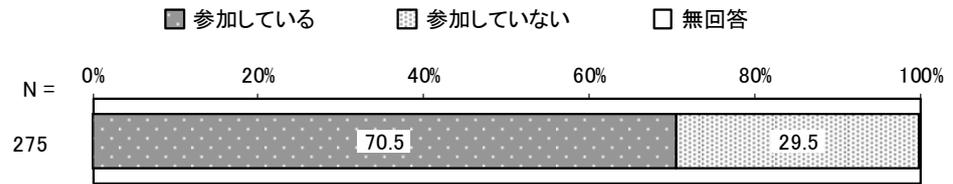
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「よくする」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



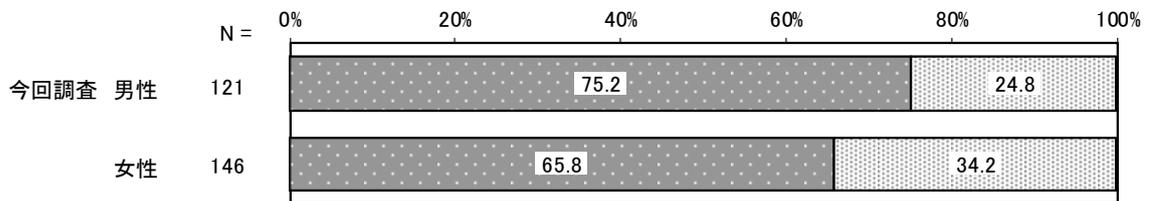
問 12 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。

「参加している」の割合が70.5%、「参加していない」の割合が29.5%となっています。



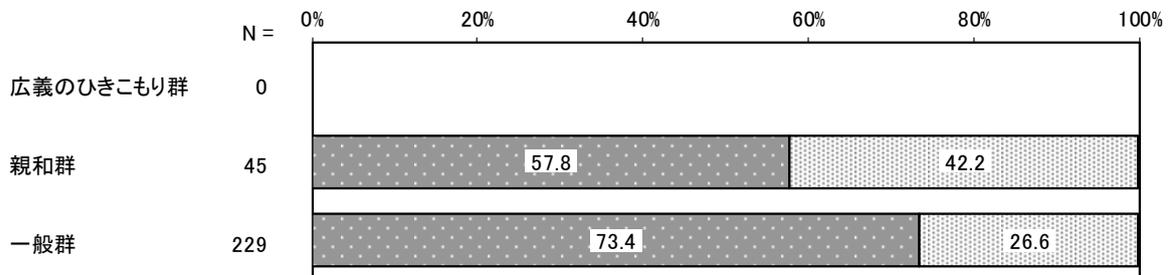
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「参加している」の割合が高くなっています。



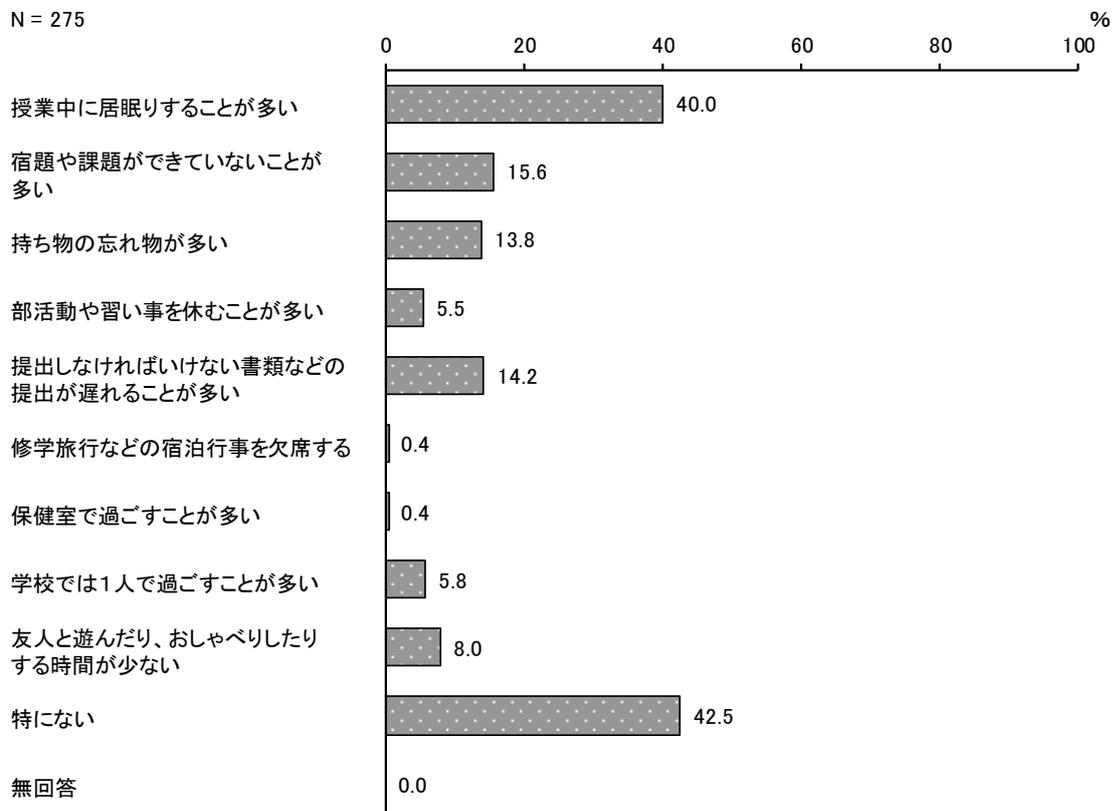
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「参加していない」の割合が高くなっています。



問 13 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が 42.5%と最も高く、次いで「授業中に居眠りすることが多い」の割合が 40.0%、「宿題や課題ができていないことが多い」の割合が 15.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「宿題や課題ができていないことが多い」の割合が、男性に比べ、女性で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
今回調査 男性	121	38.0	20.7	14.9	8.3	14.9	0.8	—	5.0	6.6	39.7	—
女性	146	40.4	11.6	13.0	3.4	13.7	—	0.7	5.5	8.2	45.2	—

【ひきこもり類別】

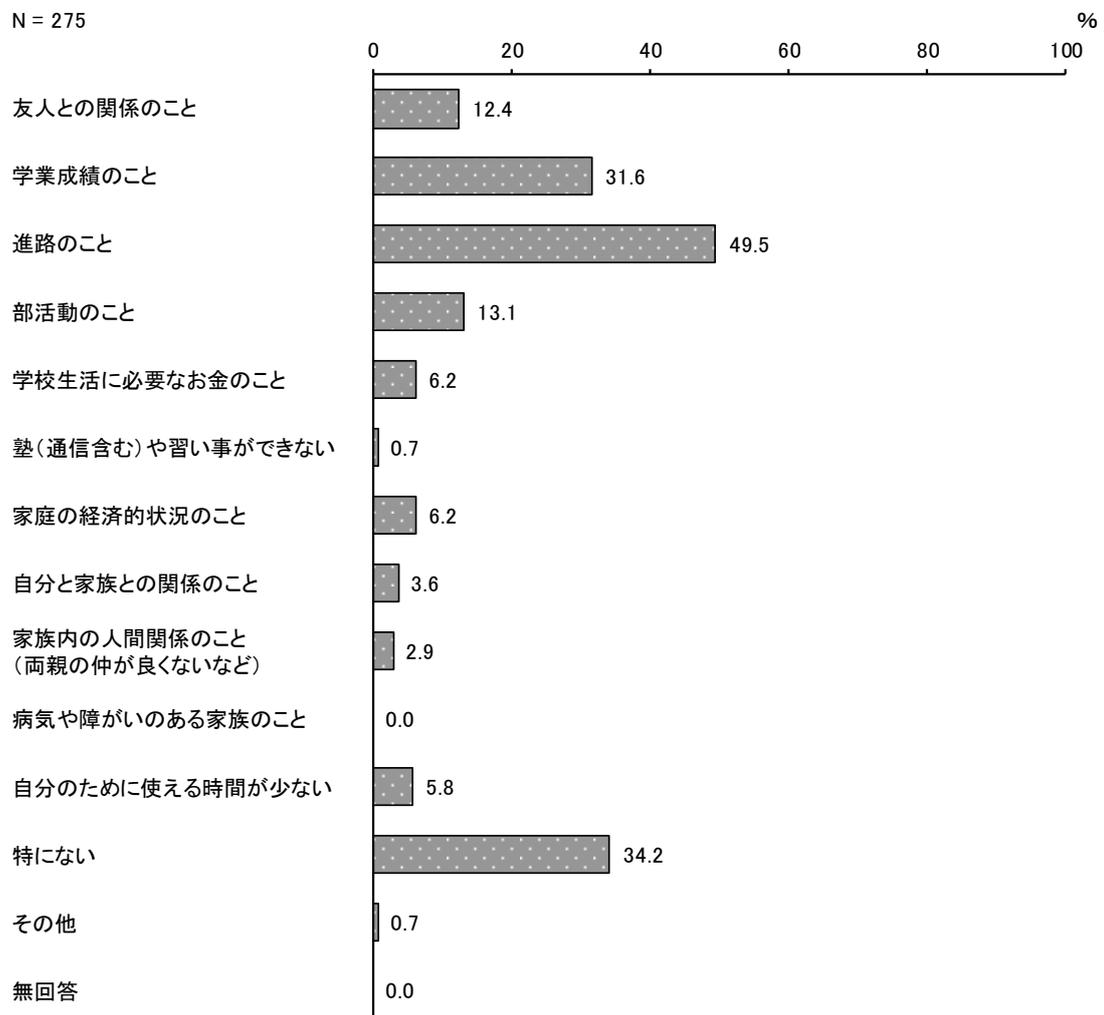
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「授業中に居眠りすることが多い」「宿題や課題ができていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」「学校では1人で過ごすことが多い」「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	55.6	28.9	20.0	6.7	26.7	—	—	11.1	17.8	20.0	—
一般群	229	37.1	13.1	12.7	5.2	11.8	0.4	0.4	4.8	6.1	46.7	—

問 14 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「進路のこと」の割合が 49.5%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 34.2%、「学業成績のこと」の割合が 31.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「特にない」の割合が、男性に比べ、女性で「友人との関係のこと」「学業成績のこと」「進路のこと」「学校生活に必要なお金のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
今回調査	男性	121	6.6	28.1	43.8	12.4	2.5	0.8	4.1	0.8	1.7	—	4.1	39.7	—	—
	女性	146	17.8	34.9	54.1	13.7	9.6	0.7	7.5	5.5	3.4	—	7.5	28.8	1.4	—

【ひきこもり類別】

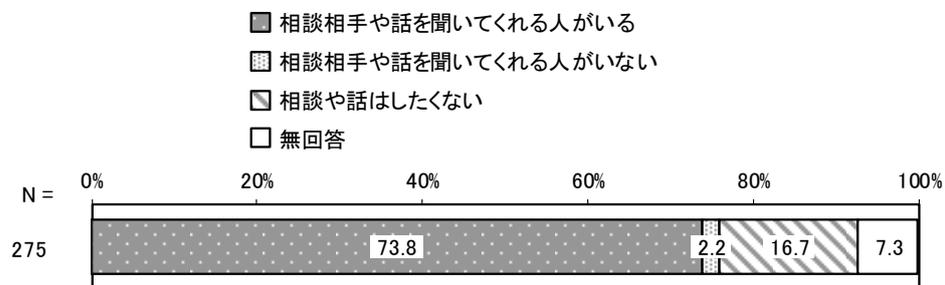
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「友人との関係のこと」「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」「家庭の経済的状況のこと」「家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
広義のひきこもり群		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群		45	24.4	28.9	48.9	15.6	11.1	—	15.6	6.7	8.9	—	6.7	35.6	2.2	—
一般群		229	10.0	32.3	49.3	12.7	5.2	0.9	4.4	3.1	1.7	—	5.7	34.1	0.4	—

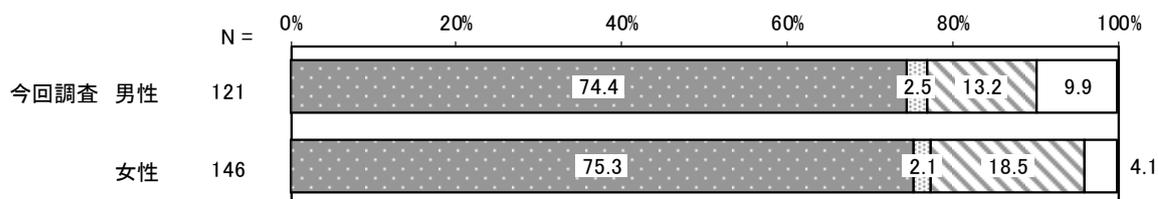
問 15 問 14 で回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が 73.8%と最も高く、次いで「相談や話はしたくない」の割合が 16.7%となっています。



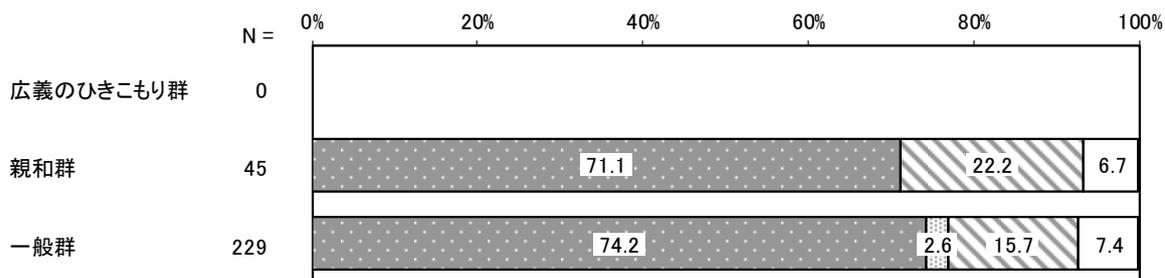
【男女別】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「相談や話はしたくない」の割合が高くなっています。



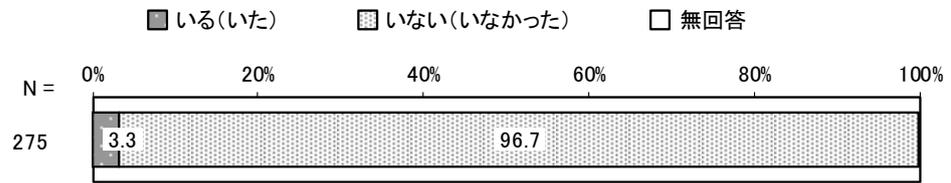
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「相談や話はしたくない」の割合が高くなっています。



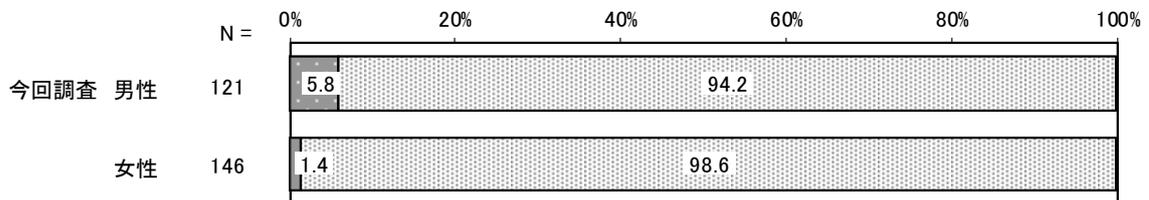
問 16 家族の中にあなたがお世話（ケア）をしている人はいます（した）か。
 （ここでの「お世話」とは本来大人がやっている想定されている家事や家族の世話などです。）

「いる（いた）」の割合が 3.3%、「いない（いなかった）」の割合が 96.7%となっています。



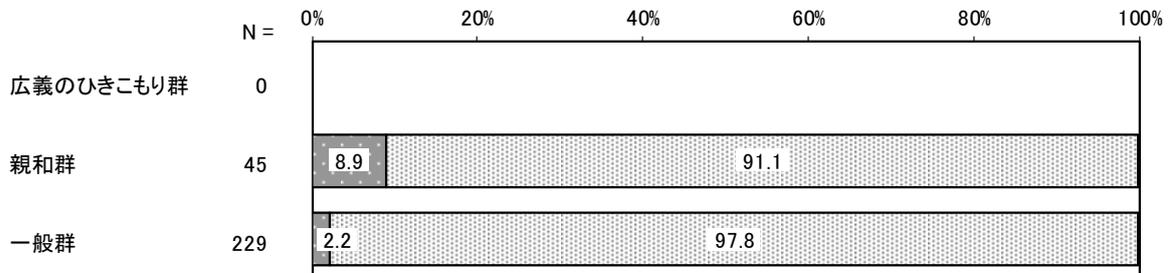
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「いる（いた）」の割合が高くなっています。



問 17 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）はどなたですか。
 （〇はいくつでも）

「きょうだい」が 3 件、「母」が 2 件、「父」、「祖父」が 1 件となっています。

問 18 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況やあなたが行っている（行っていた）お世話とは何ですか。

（1）お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況（〇はいくつでも）

「高齢（65歳以上）」、「乳幼児」が2件、「要介護（介護が必要な状態）」、「身体障がい」が1件となっています。

（2）あなたが行っている（行っていた）お世話（ケア）の内容（〇はいくつでも）

「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が6件、「見守り」が3件、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」、「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」が2件となっています。

問 19 お世話は誰と行っています（行っていた）か。

「母」が4件、「きょうだい」が2件となっています。

問 20 お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。（はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません）

「12歳～14歳」、「15歳以上」が3件、「5歳以下」、「9歳～11歳」が1件となっています。

問 21 お世話をしている頻度を教えてください。

「週に3～5日」が4件、「ほぼ毎日」が2件、「週に1～2日」、「1か月に数日」が1件となっています。

問 22 お世話は平日にどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。

（日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください）

「1時間～2時間未満」が6件、「2時間～3時間未満」、「3時間～5時間未満」、「5時間～10時間未満」が1件となっています。

問 23 家族のお世話（ケア）をしているために、自分の生活にどんな影響が出ている（出ていた）と思いますか。（〇はいくつでも）

「アルバイトができない」が9件となっています。

問 24 お世話をすることにきつきを感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にきつきは感じていない」が8件、「時間的余裕がない」が1件となっています。

問 25 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

「ある」が0件、「ない」が9件となっています。

問 26 問 25で「ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。
(あてはまる番号すべてに○)

該当者がいませんでした。

問 27 問 25で「ない」と回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

「誰かに相談するほどの悩みではない」が6件、「相談しても状況が変わると思わない」が2件、「家族以外の人に相談するような悩みではない」が1件となっています。

問 28 問 25で「ない」と回答した方にお聞きします。
お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

「いる」が7件、「いない」が2件となっています。

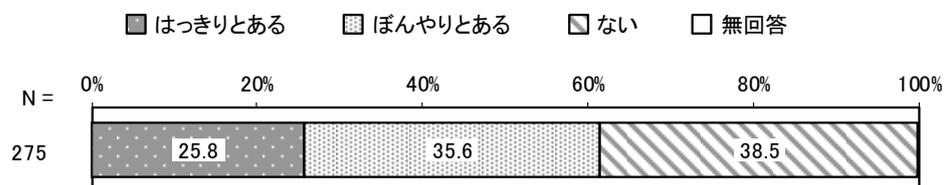
問 29 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「特にない」が6件、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」が1件となっています。

(3) 進路と仕事のことについて

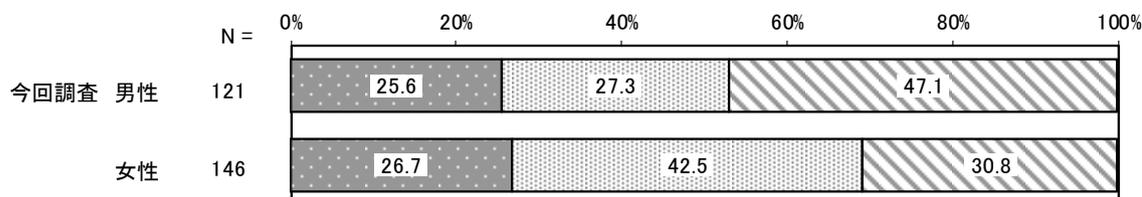
問 30 あなたは、将来就きたい職業がありますか。

「ぼんやりとある」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「はっきりとある」の割合が 25.8%、「ない」の割合が 38.5%となっています。



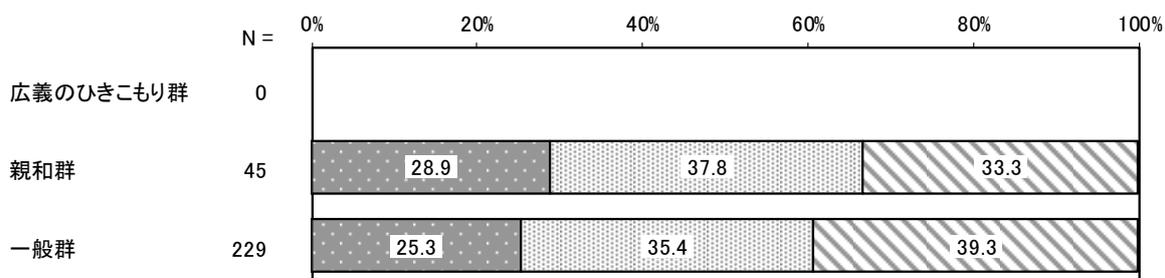
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「ない」の割合が、男性に比べ、女性で「ぼんやりとある」の割合が高くなっています。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「ない」の割合が高くなっています。



問 31 その職業と、就きたいと思うようになった理由、きっかけ等を教えてください。

(1) 職業	(2) 理由、きっかけ
CEO	金持ちになりたいから。
Francfranc	昔から好きだったから。
IT	興味があるから。
データサイエンティスト	この世界は情報によって動くため。
ゲームクリエイター	普段からゲームを遊んでいてストーリーや演出、ゲームシステムなどに興味を持ったから。
ゲームクリエイターなど IT系	ゲームが好きでそれくらいしか得意なことがないから。
ゲームデザイナー。ゲーム内のキャラクター、風景などの作成	自分が好きな物であり自分が作りたいものだからです。
システムエンジニア	自分に合っていると思ったから。
パソコンを使った仕事	みんなと協力して仕事をするより一人でもくもくと仕事をしたいから。
プログラマー	パソコンやゲームが好きだから。
アニメーター	興味を持った。
イラストレーター	イラストを描くのが好きで、生きがいを感じたから。
イラスト関係	得意だから。
漫画家	絵を描き続けたい。
エンジニア	機会に関わりたと思ったから。
整備士	興味があるから。
工業系	小さい頃からものづくりが好きだから。
グランドスタッフ	空港で助けられたことがあったから。
サッカー選手	サッカーが好きだからお父さんがサッカーをしていたのを知ってそれに影響されてサッカーを始めたから。
テニス選手、コーチ等	暇つぶしにテニスの体験レッスンに行き、想像以上に楽しかったから。
バレエダンサー	自分の好きなことをしたいから。
ディズニーリゾートの人	人を笑顔にしたりするのが好きで、自分もディズニーリゾートが大好きだから。
ユニバーサルスタジオ ジャパンのクルー	人と話すのが好きで、話しながら元気を与えたりして周りを明るくして、誰かの為になる存在になりたいため。
デザイナー系	好きなことだから。
ネイリスト	ネイルが好きだから
スタイリスト	髪の毛のセットとかをしたい
美容関係	好きだから。
美容系の職業	好きなことを仕事にしたいと思うから。
美容師	楽しくて素敵な職業だと思ったから。
美容師	自分の髪の毛がくせ毛だから。
ファッション関係	アイディアを出すのが得意だから。
ブライダル関係	興味がある。
ヘアメイク関係	YouTube で自分に合ったメイクができる人を見てそうなりたと思ったから。自分に自信が無い人のコンプレックスを解消できるようなメイクをできるような人になりたいと思ったから。
メイクアップアーティスト か美容部員、もしくは普通の 会社員	メイクなら、飽き性の私でもずっと好きでいられているし、楽しい。人が私の好きなもの(メイク)で笑顔になる姿が嬉しくて仕方ない。普通の会社員は、ある程度の収入を得て、メイクや好きなことにかけてる程度のお金も貯金もあり、安定した職業に就きたいと思ったからです。
マネージャー	誰かのサポートを傍でする方が自分は好きだから。

(1) 職業	(2) 理由、きっかけ
ミュージシャン	小さい頃からずっと音楽が大好きで、音楽を職業にしたいと思ったから。
音楽関係の仕事	音楽が好きだから
アナウンサー	アナウンスに興味があるから。
看護師	昔から誰かを助ける仕事がしたいと思っていてテレビドラマなどを見ている時に看護師になってたくさんの人を救いたいと思ったから。
看護師	看護師は人のために全力でやり遂げる仕事だから。
看護師	テレビを見ていいなと思った。
看護師、料理人	楽しそうだから。
管理栄養士	アレルギーを持っている人達とかに向けての勉強をしたいから。
救急救命士	医療のヘリや医療関係者を見ていると命に関わる仕事は重いことかもしれないけどやりがえをすごく感じると思ったから。
救急救命士、医者、薬剤師、獣医師	医療系のドラマを見て感動したのと、今の自分があるのはお医者さんのおかげだから。
義肢装具	新聞を見ててその時にチラシで義肢装具の仕事が入ってて気になったから。
警察官	警察官 ちっちゃい頃から憧れていた。
警察官	2つあって、1つは母が学生の頃になりたいと思っていただけでならなかったらしくて、私もその仕事に就きたいと思ったのが1つで、2つ目は幼稚園の時に警察官の人とティッシュ配りをした時になりたいなって思ったからです。
高速管理隊	人を助ける仕事をしたくてたまたまテレビでその仕事を見て興味が湧いたから。
インテリアコーディネーター	テレビで見た。
建築デザイナー	興味を持ったから。
建築士	自分に向いていると思ったから
図書館司書、または公務員	図書館で働いてみたいと思ったから。公務員は収入が安定していると聞いたから。
司書教諭	小さい頃から本が好きで、よく図書館に通っていた。そこで働いていた人がとてもかっこよく見えたため。しかし、募集がとても少ないことから、学校の教師と司書を兼任する仕事に興味をもった。
歯科衛生士	先輩の話聞いていいと思った
出版社	自分の得意分野を活かせると思ったから。
女優	白衣の戦士で憧れの女優が出ていてかっこよかったから。
消防士	人を助けたい。
消防士	3歳の頃に家の近くの訓練場を通してあのオレンジの服に憧れたから。
食品会社	自分の進みたい農学部食品会社に就職した人が多いから。
世界史関係	Fateという偉人が出てくるアニメで偉人に興味がわき、世界史について学びたいと思ったから。
中学の教師	私が中学生の頃にお世話になった先生がいてその人みたいに生徒一人一人に寄り添える人になりたいと思ったから。時々人に勉強を教えている時に相手に分かってもらえると嬉しいと思ったから。
福祉系	人の力になりたい。
医療保育士	本で見て保育士になりたくて医療のことが好きな自分に合っていると思ったから。

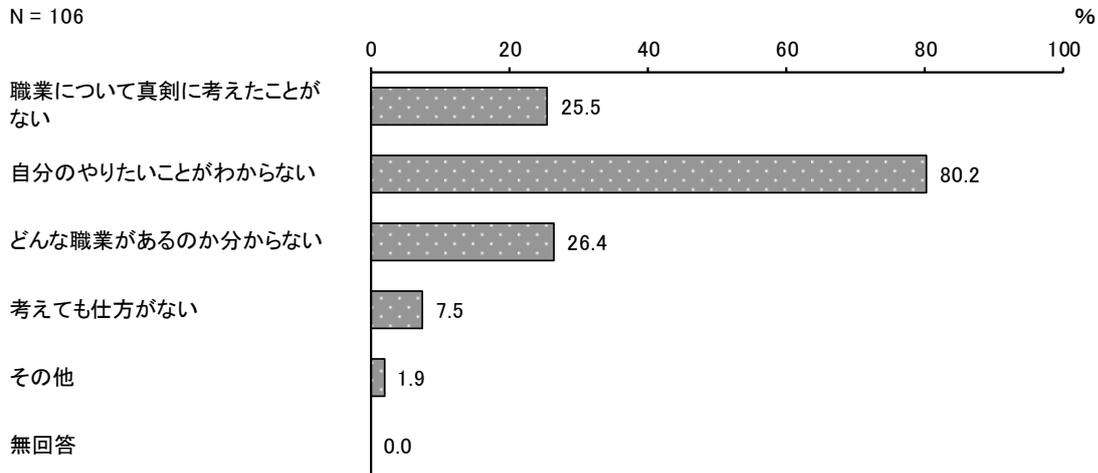
(1) 職業	(2) 理由、きっかけ
保育士	自分が保育所に通っていて、好きな先生がいて自分もあんな人になりたいと思ったから
保育士	子どもが好きだから。
保育士	母が保育士。
保育士	長女という事もあり自分よりも年齢の低い子供と関わるのが得意だから。親戚2人が保育士で話を聞いていると楽しそうに感じる。憧れている先生がいるからその先生みたいになりたい。
保育士	子供と遊ぶのが好きだから。
保育士	子供が好きでずっと憧れているから。
保育士	親が保育士で憧れなので保育士になろうと思いました
保育士、幼稚園教諭	年の離れた妹ができたから。
幼稚園で働く。	小さい子が好きだから。
幼稚園の先生	なりたいと思う目標の人がいたから
薬剤師	親がしているから。
薬剤師	母が病気で毎日薬を飲むようになっていたり、副作用で大変なことをみたから。
薬剤師	親が自分の就きたい職業に関係する職業についているから。
薬剤師	給料が高いから。
研究者(薬剤)	がんについての本を読んでいるうちにがんやその医療、特に薬による治療法に興味を持ったから。
獣医か薬剤師で悩んでいる。	獣医は、私が動物好きで、病気などで苦しんでいる動物たちを助けたいと思ったから。薬剤師は、親に勧められたのと、薬について興味があったから。
理学療法士	色んな種類の仕事を見て自分に合っていると思ったから。
理学療法士	おじいちゃんが病気で入院しているときに見て、初めてその仕事に対してかっこいいと思えたから。
整体師	母や父などの体が悪くなってきているから。
料理人	小さい頃から料理をするのが好きだったから。
料理人	なりたと思ったが将来それだけで活動出来るかとなると微妙なので就かない方向に進んでいる。
動物に関われる仕事、トリマー	動物が好きなので近くで関われる仕事がしたいと思いました。
ペットトリマー	動物のためにできることがペットトリマーしか思いつかなかったから。
トリマー	小さい頃からの夢。
ペット関係か芸能スタイリスト	動物が好き、お世話が好き。芸能人を支える仕事に就きたいと思った。
ドルフィントレーナー	動物が好きなので動物と関われる仕事がしたいと思っていた。小さい頃ドルフィントレーナーをみてかっこいいと感じたし、自分もしたいとおもった。
水族館の飼育員	小さい頃から魚が好きだから
職業不明	コロナで患者が増え医療が大変になっていても患者さんもなりたくてなってる訳ではなくそんな時に患者さんは1人で寂しく闘うよりもそばにいれる看護師がいてそんな時に心の状態を助けてあげたいと思った!!人を笑わすのが得意だからしんどい仕事だけど寄り添えることができるなら頑張れる気がしたから。
職業不明	中学2年生のトライやるウィーク。障がいを持つ方と接して、そうゆう活動がいいなと思った。

(1) 職業	(2) 理由、きっかけ
職業不明	トライやるウィークでその仕事を体験してとても楽しかったしやりがいを感じたから。お母さんがしている職業で憧れがあった。
職業不明	カッコいいから。動画みて思った。
職業不明	カッコいいと思ったから。身近な人にその仕事をしている人がいたから。
職業不明	カッコよかったから憧れだったからドラマや映画を見てそう思った。
職業不明	僕はその能力を持っているから。
職業不明	身近な人がその仕事をしている。
職業不明	ドラマ。
職業不明	自分にあっている職業だと思った。憧れもある楽しそうに見えた。
職業不明	自分の好きなことだから。
職業不明	親戚の結婚式に行ってみて楽しそう、面白そうと思い、いいなと思った。行事系が好きだから。
職業不明	人を助けることが大きな夢だから。ドラマとかで人を助けているのを見てカッコいいと思ったから。
職業不明	人を助けるのが好きだから。テレビや友達のお兄ちゃんを見ていてすごいなと思ったから。
職業不明	生き物が好きだから。自分の家で買っていたことがあるから。
職業不明	体を動かすことが好きだから。中学校で先生をしていた人がいいなあって思った。
職業不明	動物が好きだから。動物系の番組でお世話などしている人が居て自分もやってみたいと思った。
職業不明	生涯スポーツをしたいから。

問 32 就きたい職業が「ない」の理由で、当てはまると思うものを次の中からお答えください。(〇はいくつでも)

「自分のやりたいことがわからない」の割合が 80.2%と最も高く、次いで「どんな職業があるのか分からない」の割合が 26.4%、「職業について真剣に考えたことがない」の割合が 25.5%となっています。

N = 106



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「職業について真剣に考えたことがない」の割合が、男性に比べ、女性で「自分のやりたいことがわからない」「どんな職業があるのか分からない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≒ (件)	職業について真剣に考 えたことがない	自分のやりたいことが わからない	どんな職業があるのか 分からない	考えても仕方がない	その他	無回答
今回調査 男性	57	28.1	77.2	22.8	10.5	—	—
女性	45	22.2	84.4	33.3	4.4	4.4	—

【ひきこもり類別】

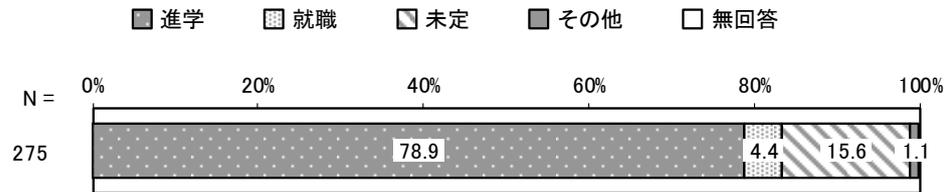
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「職業について真剣に考えたことがない」「どんな職業があるのか分からない」「考えても仕方がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≒ (件)	職業について真剣に考 えたことがない	自分のやりたいことが わからない	どんな職業があるのか 分からない	考えても仕方がない	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—
親和群	15	40.0	80.0	40.0	26.7	—	—
一般群	90	22.2	81.1	24.4	4.4	2.2	—

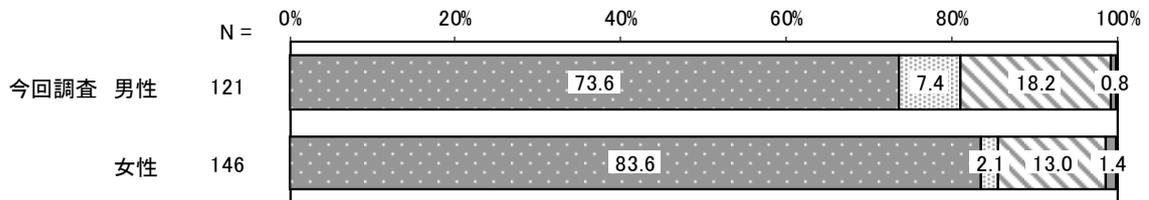
問 33 あなたが高校を卒業後に希望する進路は次のうちどれですか。

「進学」の割合が78.9%と最も高く、次いで「未定」の割合が15.6%となっています。



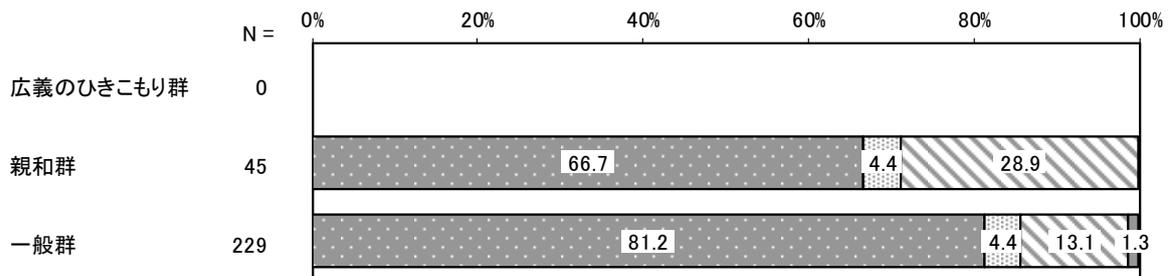
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「就職」「未定」の割合が、男性に比べ、女性で「進学」の割合が高くなっています。



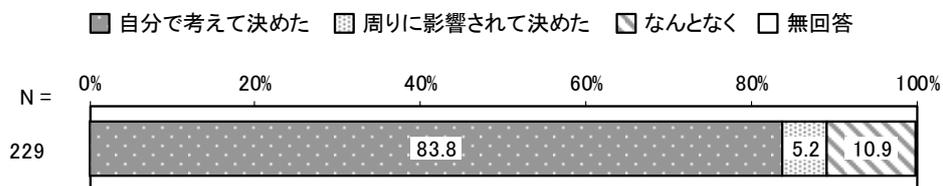
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「未定」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「進学」の割合が高くなっています。



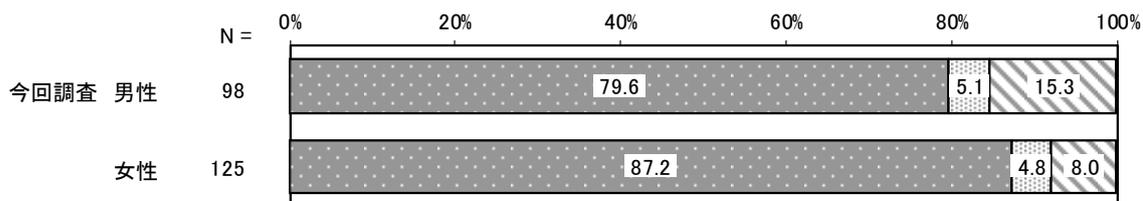
問 34 問 33 で答えた希望に関して、どのように決めましたか。

「自分で考えて決めた」の割合が 83.8%と最も高く、次いで「なんとなく」の割合が 10.9%となっています。



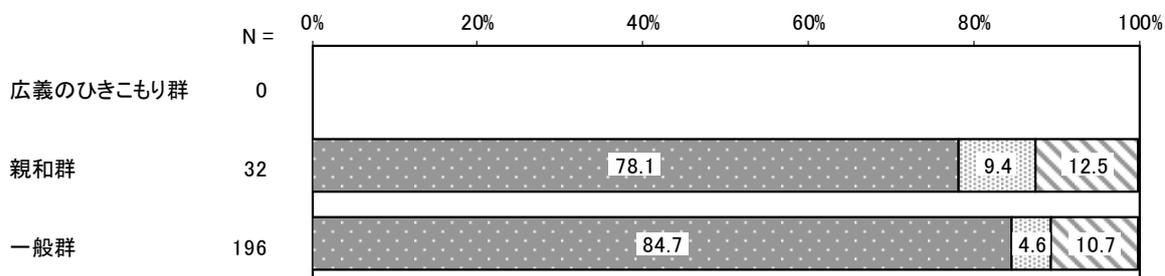
【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「なんとなく」の割合が、男性に比べ、女性で「自分で考えて決めた」の割合が高くなっています。



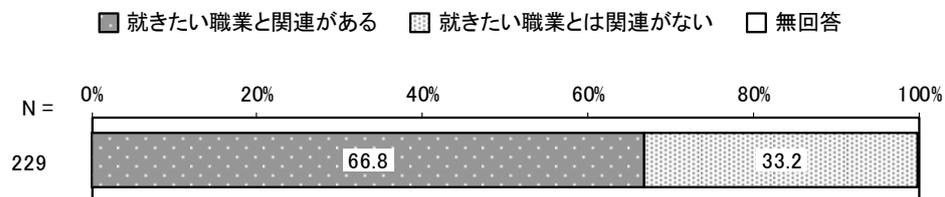
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「自分で考えて決めた」の割合が高くなっています。



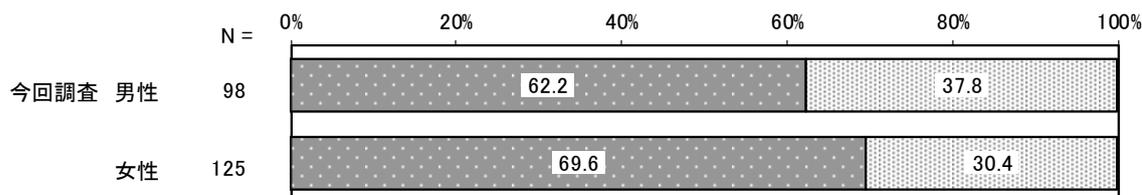
問 35 問 33 で答えた希望の進路は、問 30 で答えた将来就きたい職業との関連性がありますか。

「就きたい職業と関連がある」の割合が 66.8%、「就きたい職業とは関連がない」の割合が 33.2%となっています。



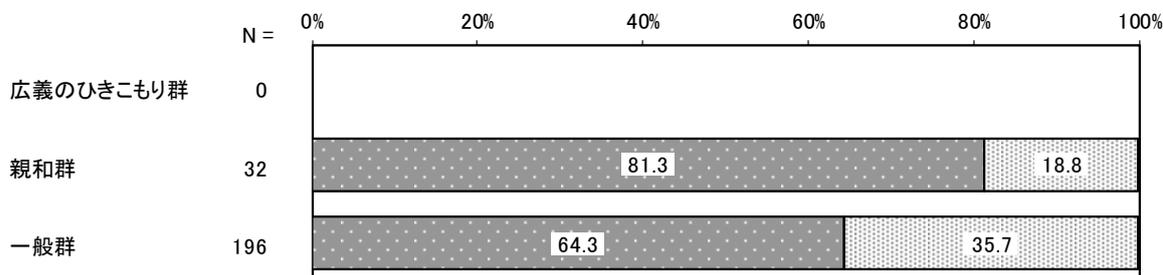
【男女別・経年比較】

男女別でみると、男性に比べ、女性で「就きたい職業と関連がある」の割合が高くなっています。



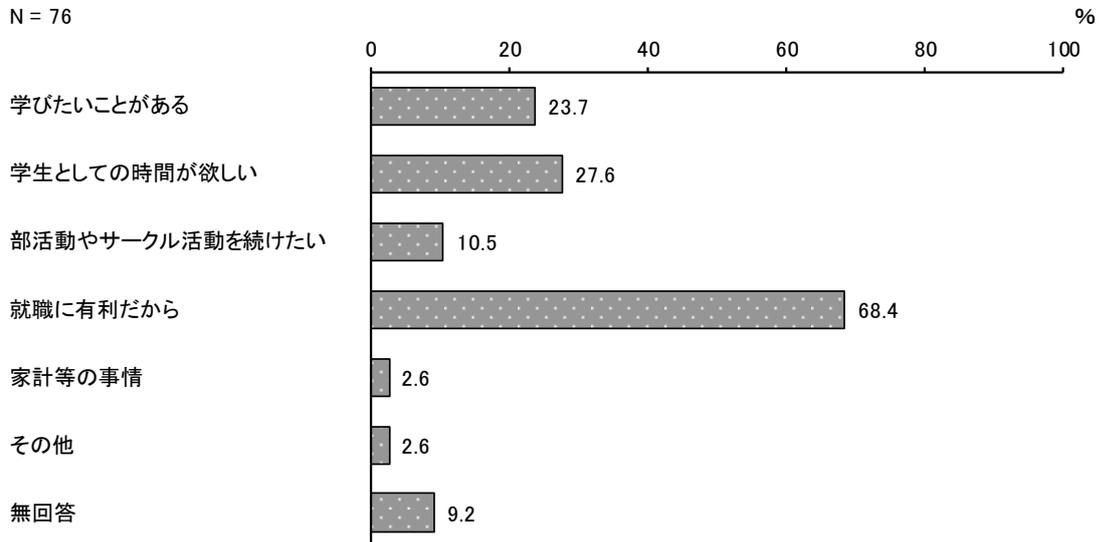
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「就きたい職業と関連がある」の割合が高くなっています。



問 36 なぜその進路を希望するのか、理由としてあてはまるものを次のうちからお答えください。(〇はいくつでも)

「就職に有利だから」の割合が 68.4%と最も高く、次いで「学生としての時間が欲しい」の割合が 27.6%、「学びたいことがある」の割合が 23.7%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「部活動やサークル活動を続けたい」「就職に有利だから」「家計等の事情」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「学びたいことがある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧ (件)	学びたいことがある	学生としての時間が欲しい	部活動やサークル活動を続けたい	就職に有利だから	家計等の事情	その他	無回答
今回調査	男性	37	8.1	27.0	13.5	78.4	5.4	—	8.1
	女性	38	39.5	28.9	7.9	57.9	—	5.3	10.5

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別では、有効回答数が少ないためコメントを控えます。

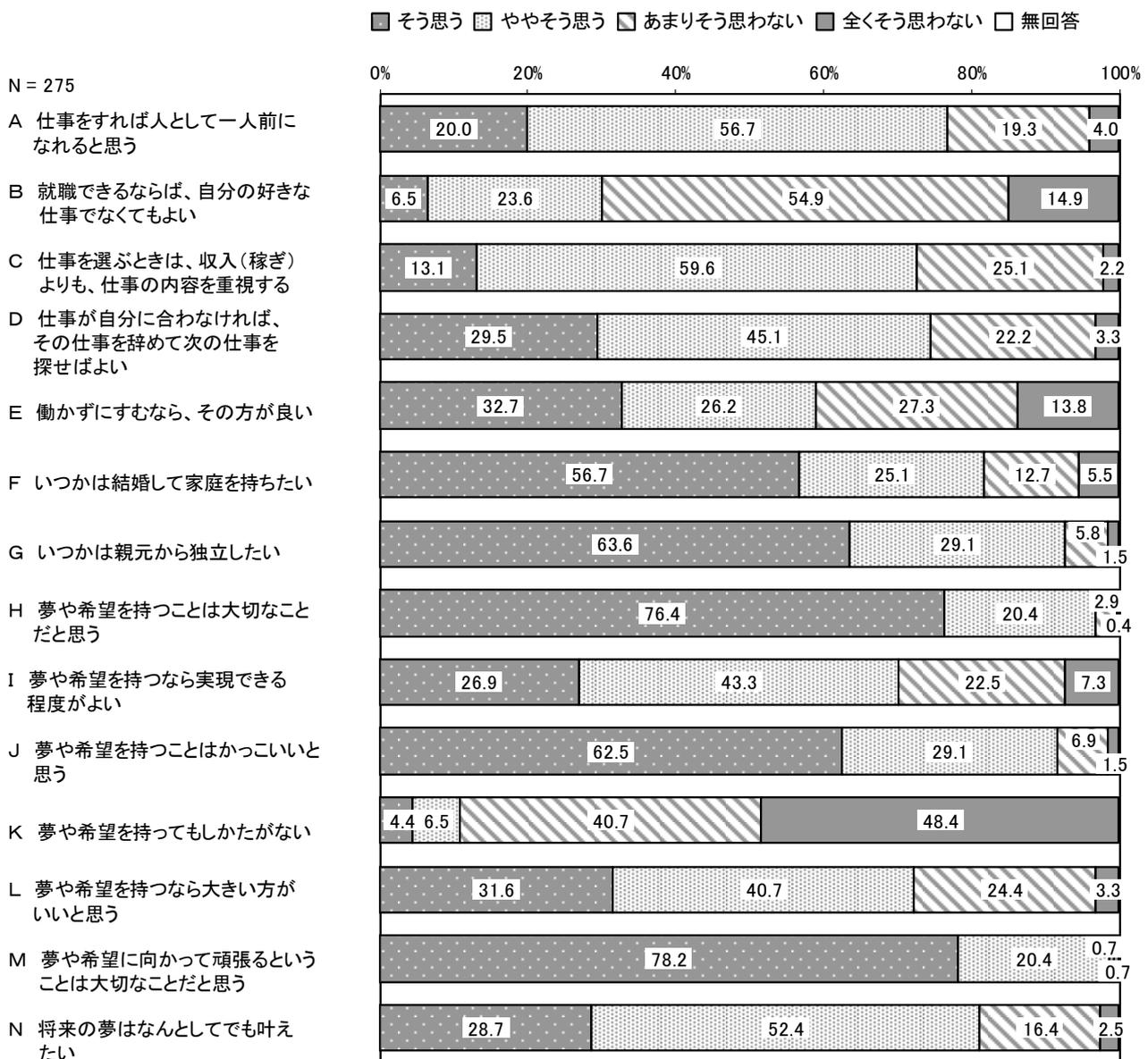
単位：％

区分		≧ (件)	学びたいことがある	学生としての時間が欲しい	部活動やサークル活動を続けたい	就職に有利だから	家計等の事情	その他	無回答
広義のひきこもり群		—	—	—	—	—	—	—	—
親和群		6	16.7	33.3	—	66.7	16.7	—	16.7
一般群		70	24.3	27.1	11.4	68.6	1.4	2.9	8.6

問 37 次の仕事に対する考えで、あなたの考えに最も当てはまるものをそれぞれお答えください。

『G いつかは親元から独立したい』『H 夢や希望を持つことは大切なことだと思う』『J 夢や希望を持つことはカッコいいと思う』『M 夢や希望に向かって頑張るということは大切なことだと思う』で「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、9割を超えています。

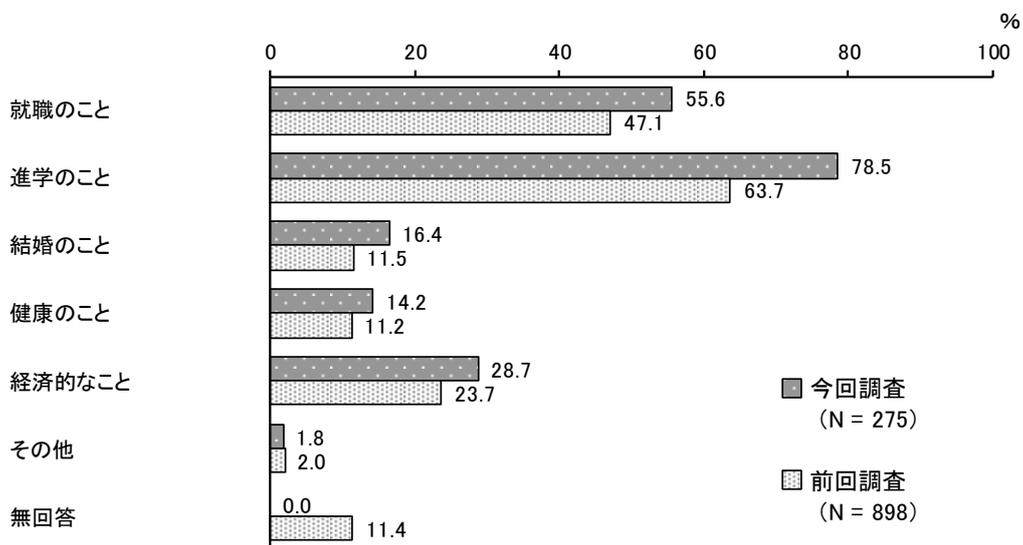
一方、『K 夢や希望を持ってもしかたがない』で「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、約9割となっています。



問 38 あなたが、将来に関することで不安に思っていることがあれば、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

「進学のこと」の割合が78.5%と最も高く、次いで「就職のこと」の割合が55.6%、「経済的なこと」の割合が28.7%となっています。

前回調査と比較すると、「就職のこと」「進学のこと」「経済的なこと」の割合が増加しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「健康のこと」の割合が、男性に比べ、女性で「進学のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≒ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
今回調査 男性	121	54.5	72.7	14.9	18.2	27.3	0.8	—
女性	146	56.8	82.9	17.8	11.0	30.8	2.7	—
前回調査 男性	460	47.4	64.1	11.5	13.5	23.9	2.4	12.0
女性	433	46.9	63.7	11.5	9.0	23.8	1.6	10.2

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「経済的なこと」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「進学のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

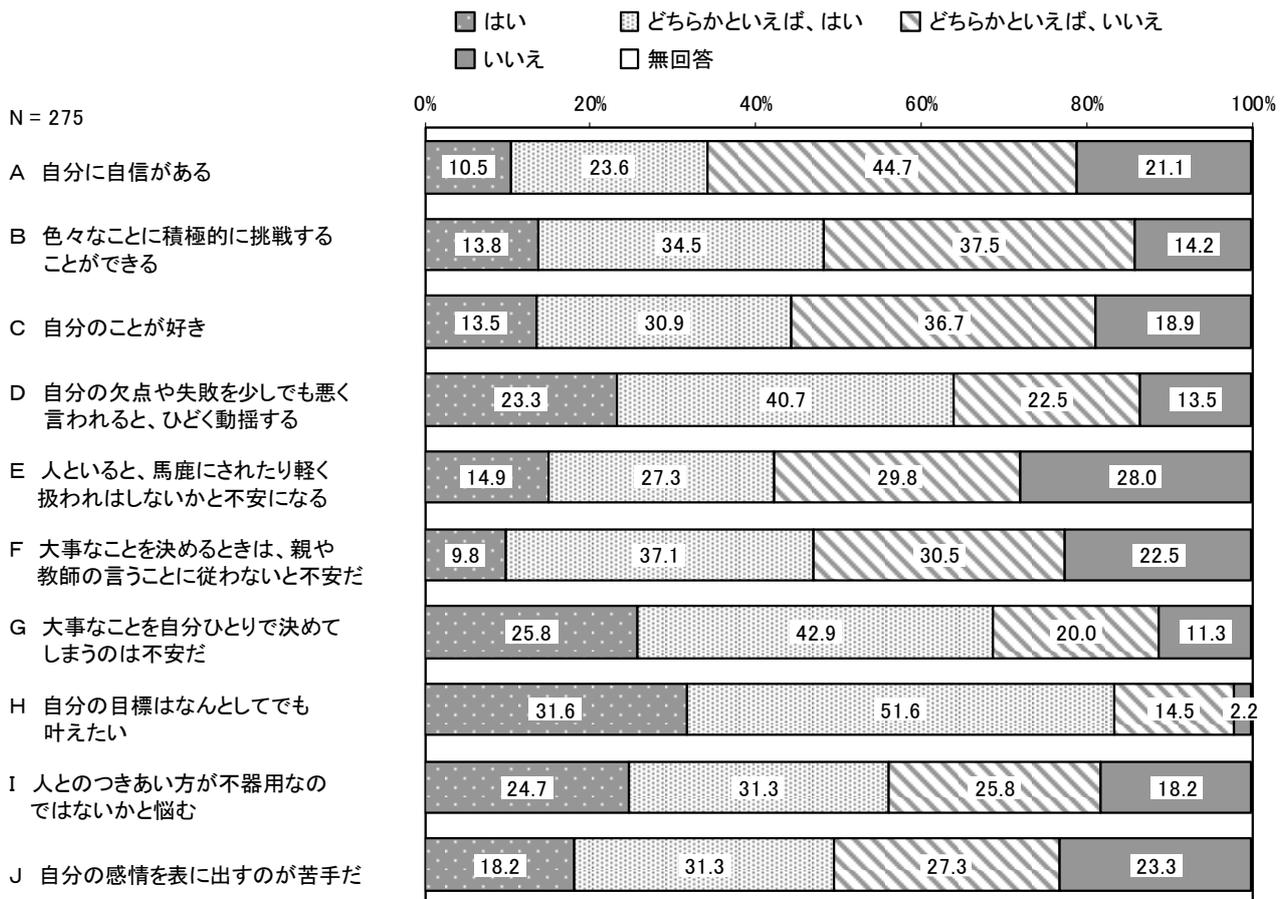
区分	≒ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	53.3	71.1	20.0	17.8	40.0	2.2	—
一般群	229	56.3	79.9	15.7	13.5	26.6	1.7	—

(4) 回答者自身のことについて

問 39 次にあげられたことについて、あなた自身に当てはまるものをそれぞれお答えください。

『H 自分の目標はなんとしてでも叶えたい』『Q 理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う』で「はい」と「どちらかといえば、はい」をあわせた“はい”の割合が高く、8割を超えています。

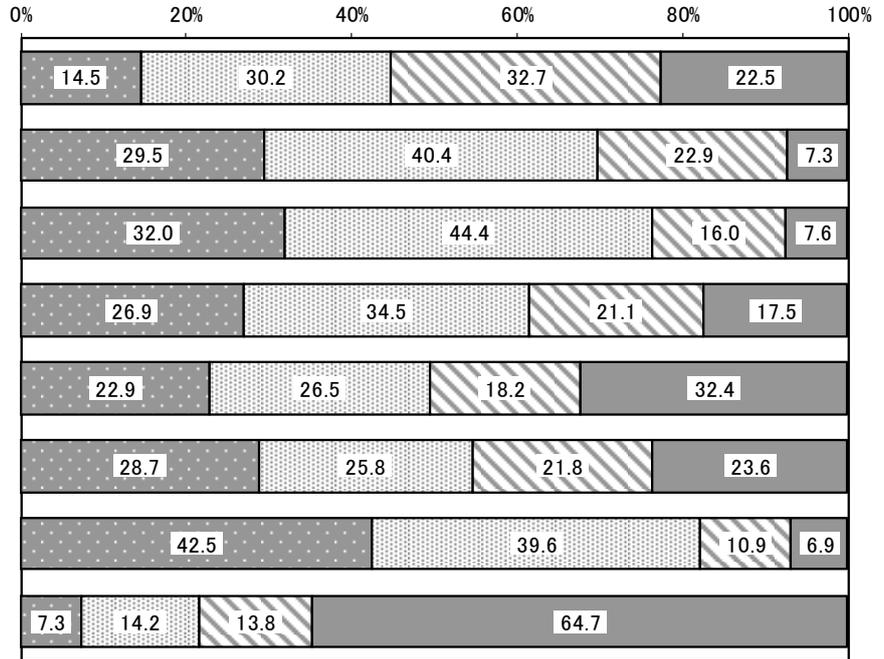
一方、『R 自殺を考えたことがある』で「どちらかといえば、いいえ」と「いいえ」をあわせた“いいえ”の割合が高く、約8割となっています。



はい どちらかといえば、はい どちらかといえば、いいえ
 いいえ 無回答

N = 275

- K 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない
- L たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい
- M 自分の生活のことで人から干渉されたくない
- N 家や自室に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる
- O 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- P 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- Q 理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う
- R 自殺を考えたことがある

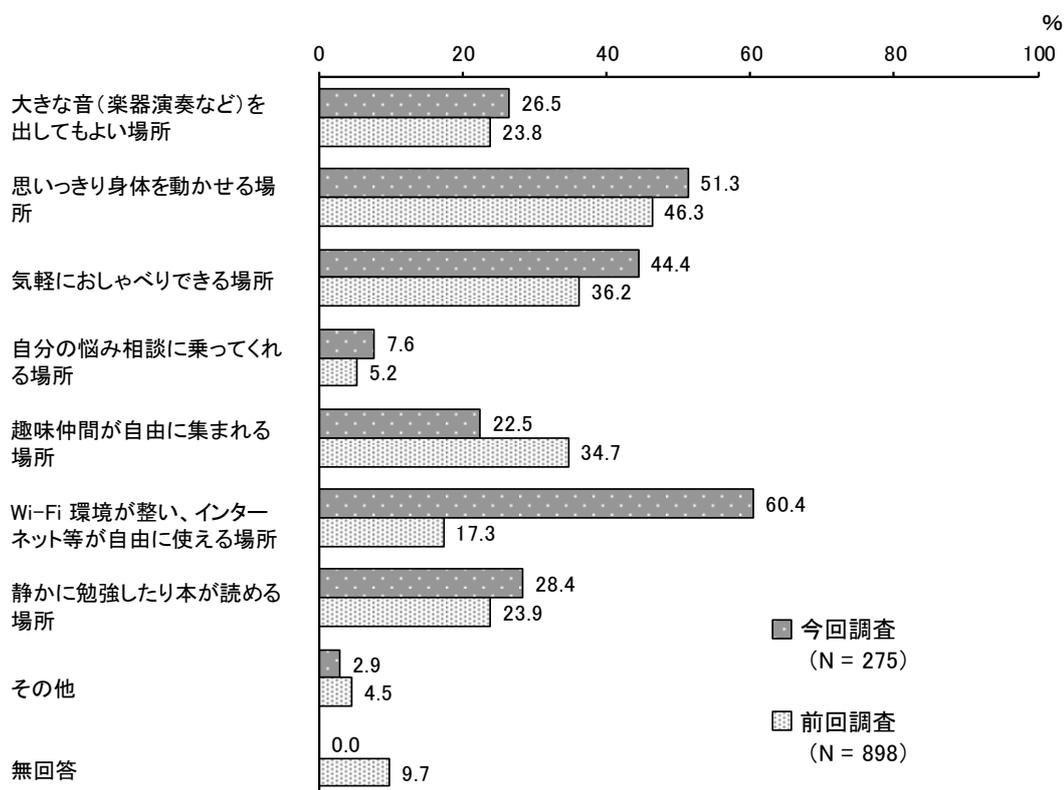


(5) 公共施設・関係機関や川西市の取り組みについて

問 40 あなたは、若者向けにどんな場所がもっと川西市にあればよいと思いますか。
(〇は3つまで)

「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が 51.3%、「気軽におしゃべりできる場所」の割合が 44.4%となっています。

前回調査と比較すると、「思いっきり身体を動かせる場所」「気軽におしゃべりできる場所」「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が増加し、「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が減少しています。



【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「思いっきり身体を動かせる場所」「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「気軽におしゃべりできる場所」「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」「静かに勉強したり本が読める場所」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男女ともに「気軽におしゃべりできる場所」「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が増加し、「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が減少しています。また、男性で「大きな音（楽器演奏など）を出してもよい場所」「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が、女性で「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」「静かに勉強したり本が読める場所」の割合が増加しています。

単位：％

区分	≒ (件)	大きな音 (楽器演奏など) を出しても よい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
今回調査 男性	121	27.3	66.1	30.6	3.3	25.6	57.0	22.3	4.1	—
女性	146	26.0	39.7	56.8	11.0	19.2	62.3	32.9	2.1	—
前回調査 男性	460	21.5	49.6	21.7	4.6	37.6	15.9	22.2	5.9	10.7
女性	433	26.6	43.0	51.5	6.0	31.9	18.7	26.1	3.0	8.1

【ひきこもり類別】

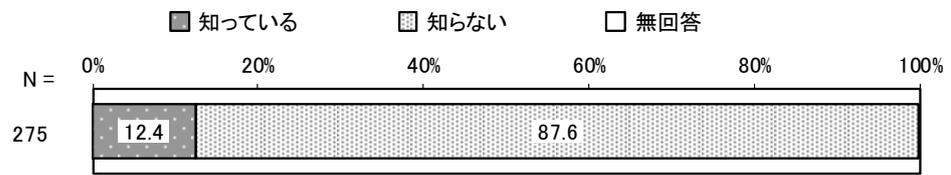
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「大きな音（楽器演奏など）を出してもよい場所」「WiFi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「気軽におしゃべりできる場所」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≒ (件)	大きな音 (楽器演奏など)を出しても よい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	≒ 環境が整い、インターネット 等が自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	37.8	51.1	35.6	4.4	26.7	64.4	26.7	4.4	—
一般群	229	24.5	51.5	46.3	8.3	21.8	59.4	28.8	2.6	—

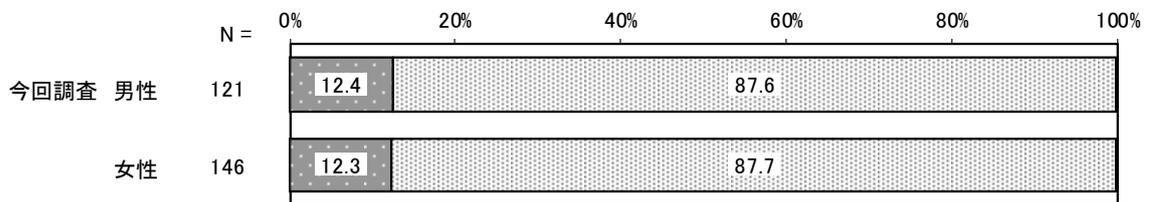
問 41 あなたは、子どもや若者の悩みや聞いてほしいことがあったときに相談できる、川西市の「子ども・若者ステーション」を知っていますか。

「知っている」の割合が 12.4%、「知らない」の割合が 87.6%となっています。



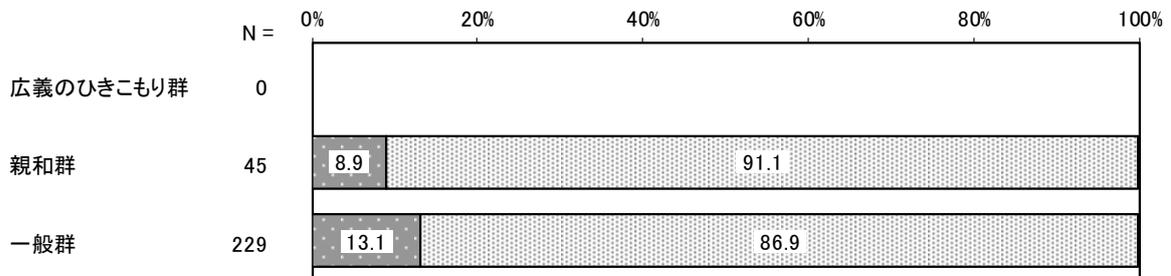
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



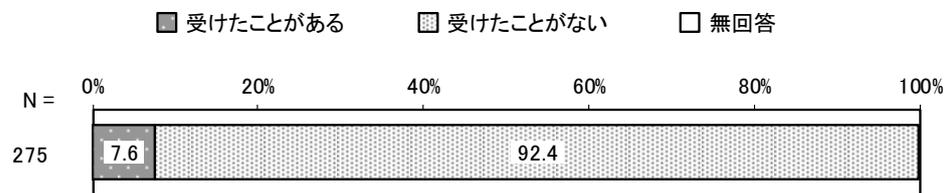
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



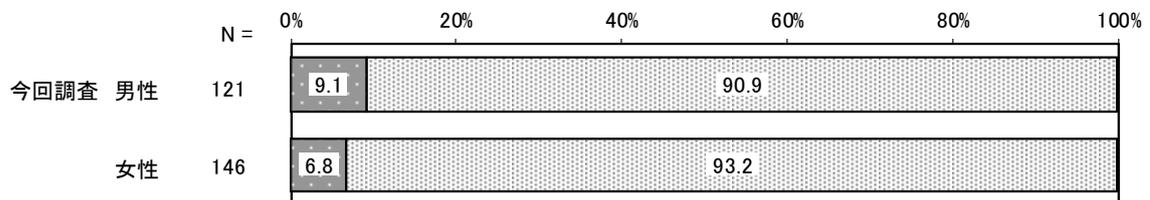
問 42 あなたは、現在もしくは過去に市役所などの公的機関から何らかの支援を受けたことはありますか。

「受けたことがある」の割合が7.6%、「受けたことがない」の割合が92.4%となっています。



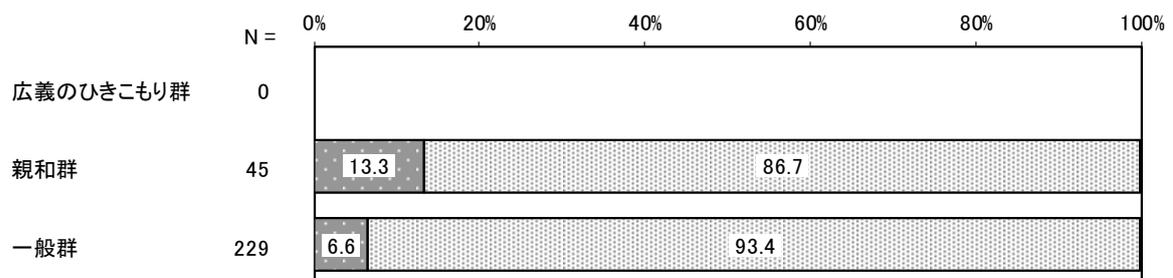
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



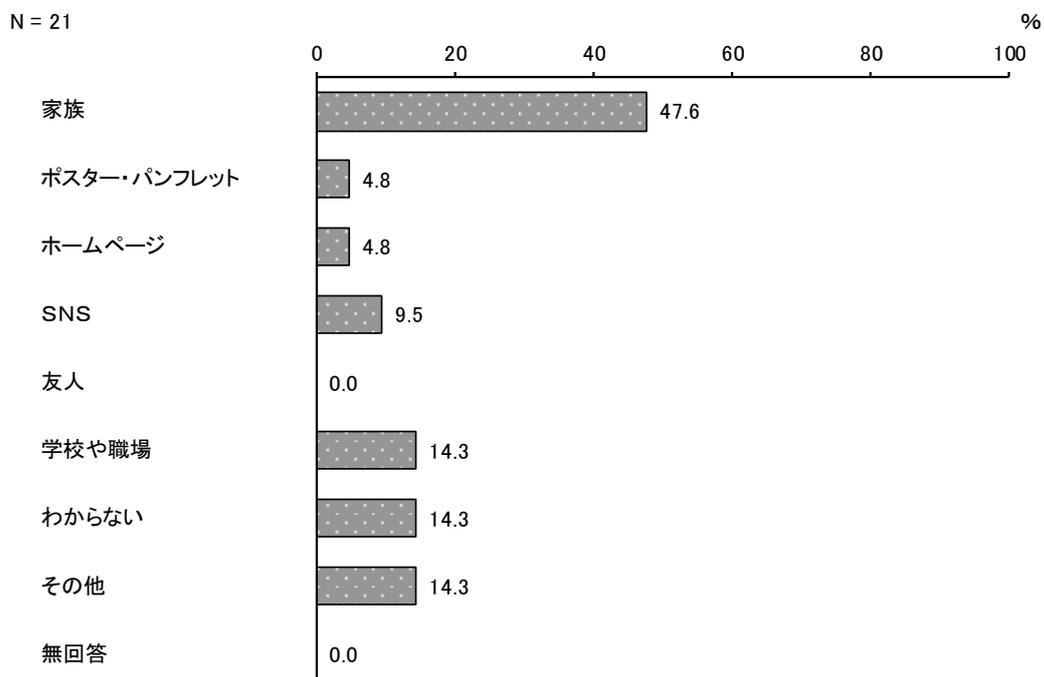
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



問 43 あなたは、その支援をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

「家族」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「学校や職場」、「わからない」の割合が 14.3%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「ポスター・パンフレット」「ホームページ」「SNS」「わからない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「学校や職場」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	家族	ポスター・パンフレット	ホームページ	SNS	友人	学校や職場	わからない	その他	無回答
今回調査 男性	11	45.5	9.1	9.1	18.2	—	9.1	18.2	9.1	—
女性	10	50.0	—	—	—	—	20.0	10.0	20.0	—

【ひきこもり類別】

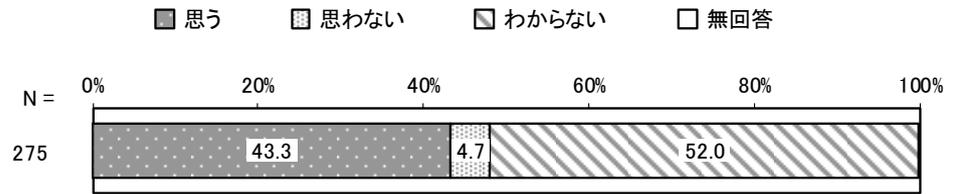
ひきこもり類別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：％

区分	≧ (件)	家族	ポスター・パンフレット	ホームページ	SNS	友人	学校や職場	わからない	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	6	66.7	16.7	16.7	16.7	—	16.7	—	—	—
一般群	15	40.0	—	—	6.7	—	13.3	20.0	20.0	—

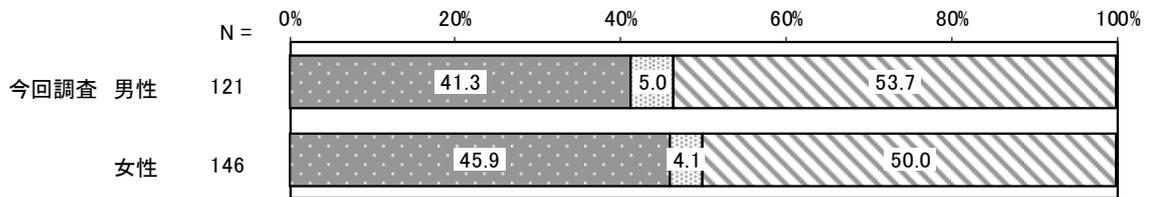
問 44 あなたは、今後困っている子どもや若者を支援したいと思いますか。

「わからない」の割合が52.0%と最も高く、次いで「思う」の割合が43.3%となっています。



【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



【ひきこもり類別】

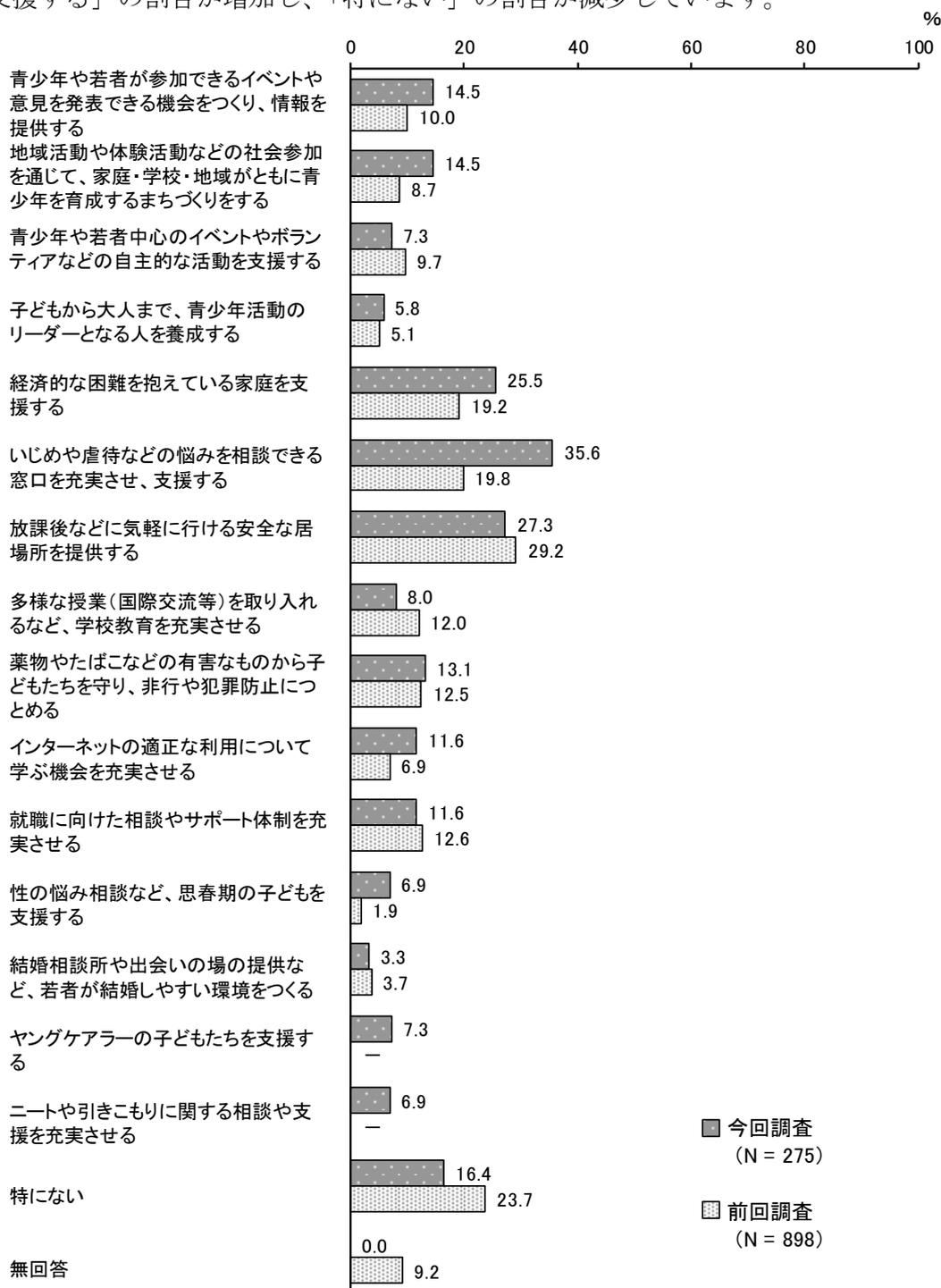
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群と親和群で大きな差異はみられません。



問 45 あなたは、川西市が取り組む青少年や若者の支援にどんなことを望みますか。
(〇は3つまで)

「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」の割合が35.6%と最も高く、次いで「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」の割合が27.3%、「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」の割合が25.5%となっています。

前回調査と比較すると、「地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする」「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する」の割合が増加し、「特にない」の割合が減少しています。



※前回調査では「ヤングケアラーの子どもたちを支援する」「ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる」の選択肢はありませんでした。

【男女別・経年比較】

男女別でみると、女性に比べ、男性で「青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する」「地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる」の割合が高くなっています。

前回調査と比較すると、男性、女性ともに「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する」「ヤングケアラーの子どもたちを支援する」「ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる」の割合が増加しています。また、男性で「青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する」「地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする」「インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる」の割合が高く、女性で「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」の割合が増加し、「多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる」の割合が減少しています。

単位：％

区分	ニ（件）	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる
今回調査 男性	121	22.3	18.2	7.4	5.0	23.1	35.5	16.5	5.0
女性	146	8.9	12.3	7.5	6.2	28.1	36.3	34.9	10.3
前回調査 男性	460	10.9	9.3	8.9	5.9	21.3	20.4	25.2	8.0
女性	433	9.2	8.1	10.6	4.4	17.1	19.4	33.7	16.4

区分	薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特になし	無回答
今回調査 男性	15.7	14.0	10.7	7.4	3.3	5.8	7.4	16.5	—
女性	11.6	10.3	11.6	6.8	2.7	7.5	6.2	16.4	—
前回調査 男性	13.9	7.2	9.8	2.0	3.7	—	—	27.0	8.3
女性	11.1	6.7	15.7	1.8	3.7	—	—	20.1	9.7

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる」「インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる」「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

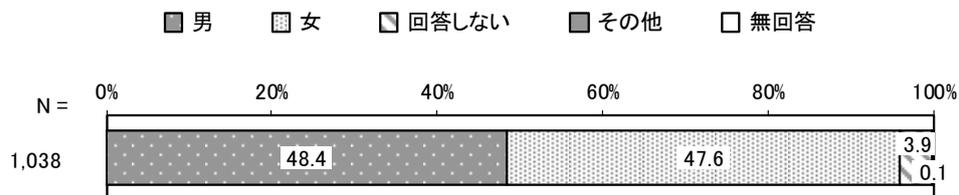
区分	ニ (件)	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業(国際交流等)を取り入れるなど、学校教育を充実させる
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	45	13.3	15.6	6.7	4.4	31.1	44.4	33.3	8.9
一般群	229	14.8	14.4	7.4	6.1	24.0	33.6	26.2	7.9
区分	薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特にない	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	8.9	4.4	8.9	17.8	2.2	8.9	8.9	8.9	—
一般群	14.0	13.1	12.2	4.8	3.5	7.0	6.6	17.9	—

IV 中学生調査

(1) 回答者属性

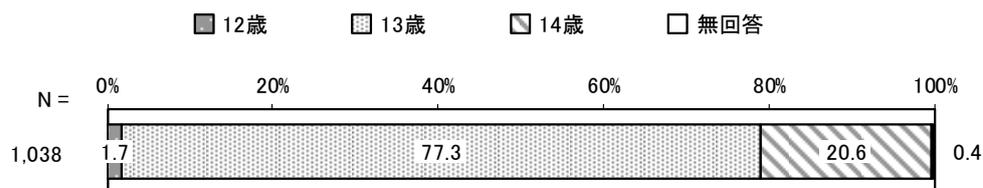
F 1 性別

「男」の割合が48.4%と最も高く、次いで「女」の割合が47.6%となっています。



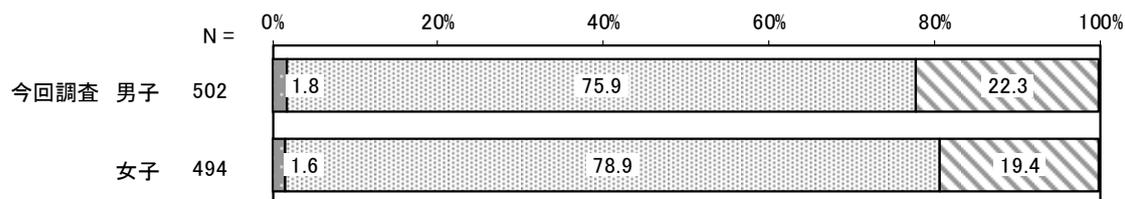
F 2 年齢

「13歳」の割合が77.3%と最も高く、次いで「14歳」の割合が20.6%となっています。



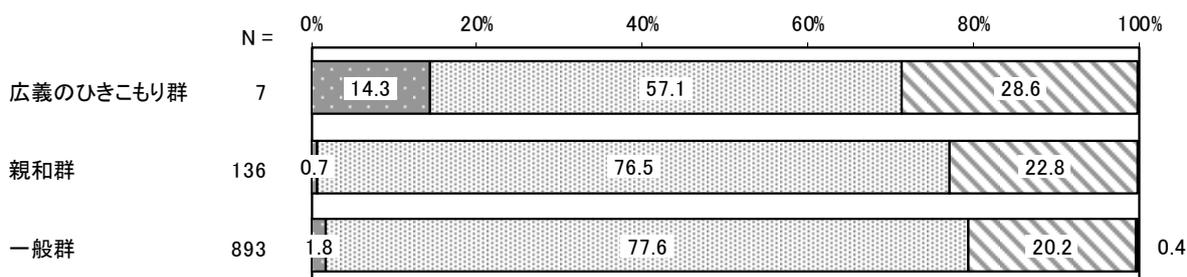
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。

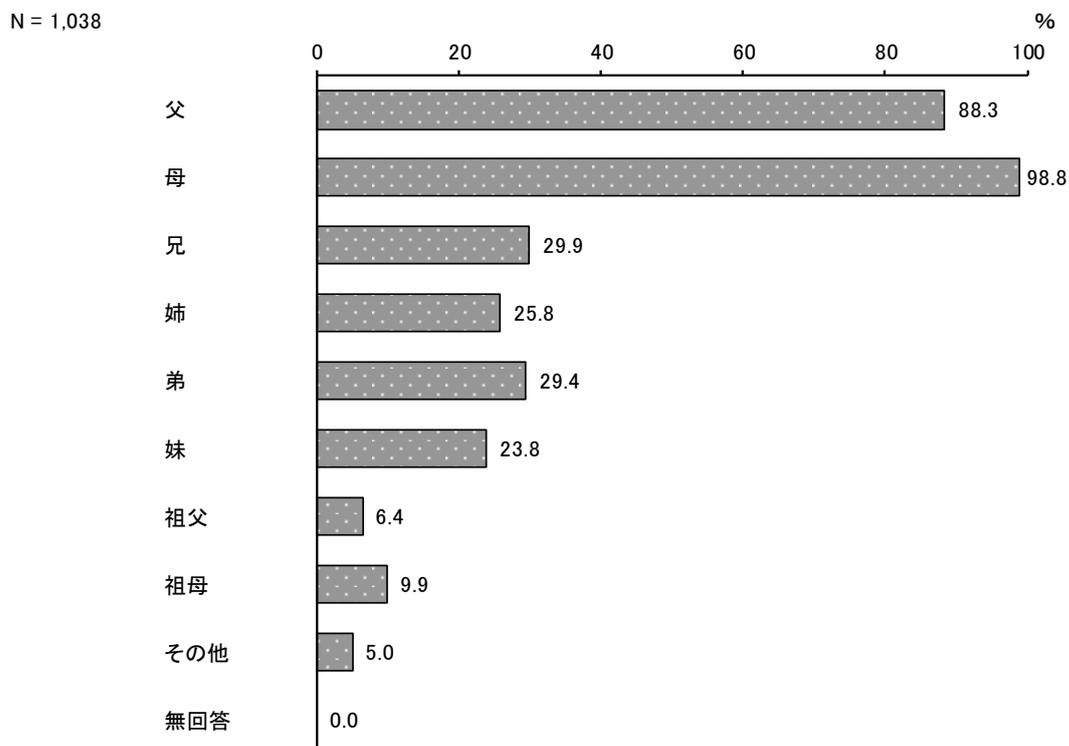


(2) 普段の生活について

問1(1) 現在一緒に住んでいる家族で、あてはまる人をお答えください。

一緒に住んでいる家族（○はいくつでも）

「母」の割合が98.8%と最も高く、次いで「父」の割合が88.3%、「兄」の割合が29.9%となっています。



【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。

単位：%

区分	≧(件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他	無回答
今回調査 男子	502	89.0	99.0	30.5	26.5	29.7	22.7	7.4	11.2	5.6	—
女子	494	87.0	98.6	27.9	26.1	28.5	25.3	5.9	9.5	4.5	—

【ひきこもり類別】

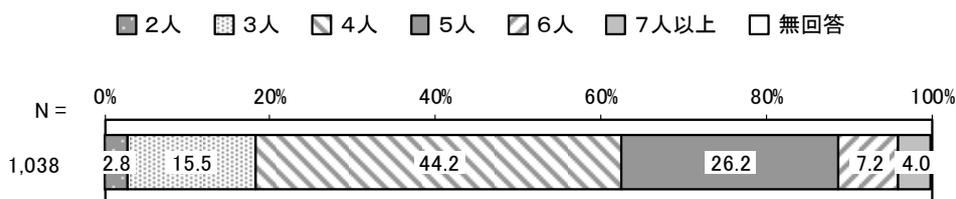
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「妹」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「父」「弟」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	父	母	兄	姉	弟	妹	祖父	祖母	その他	無回答
広義のひきこもり群	7	85.7	100.0	14.3	14.3	71.4	28.6	—	14.3	—	—
親和群	136	83.1	97.8	30.9	25.0	24.3	28.7	7.4	14.0	5.9	—
一般群	893	89.1	99.0	29.8	26.1	29.8	23.1	6.3	9.2	4.9	—

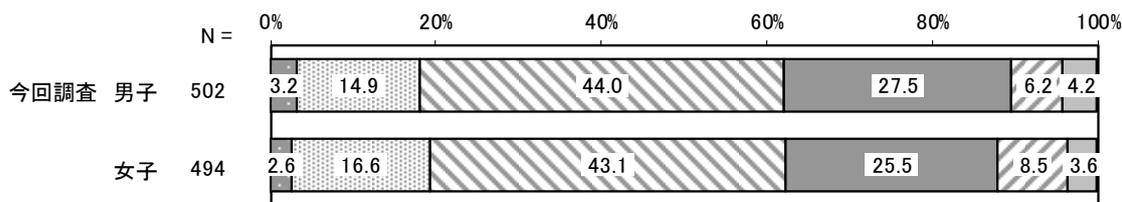
(2) 一緒に住んでいる人数（あなたも含め）

「4人」の割合が44.2%と最も高く、次いで「5人」の割合が26.2%、「3人」の割合が15.5%となっています。



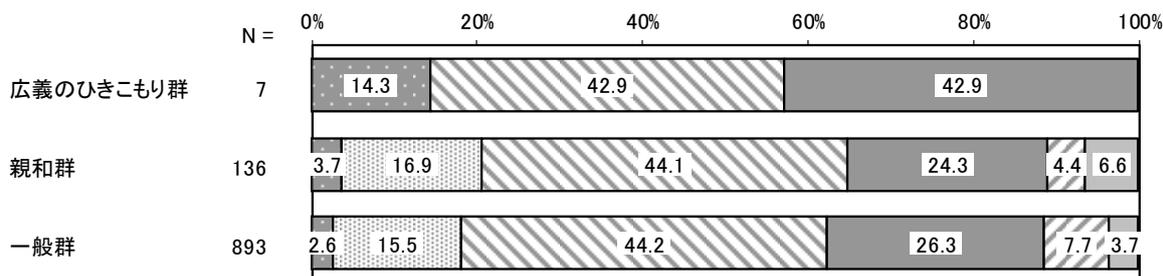
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



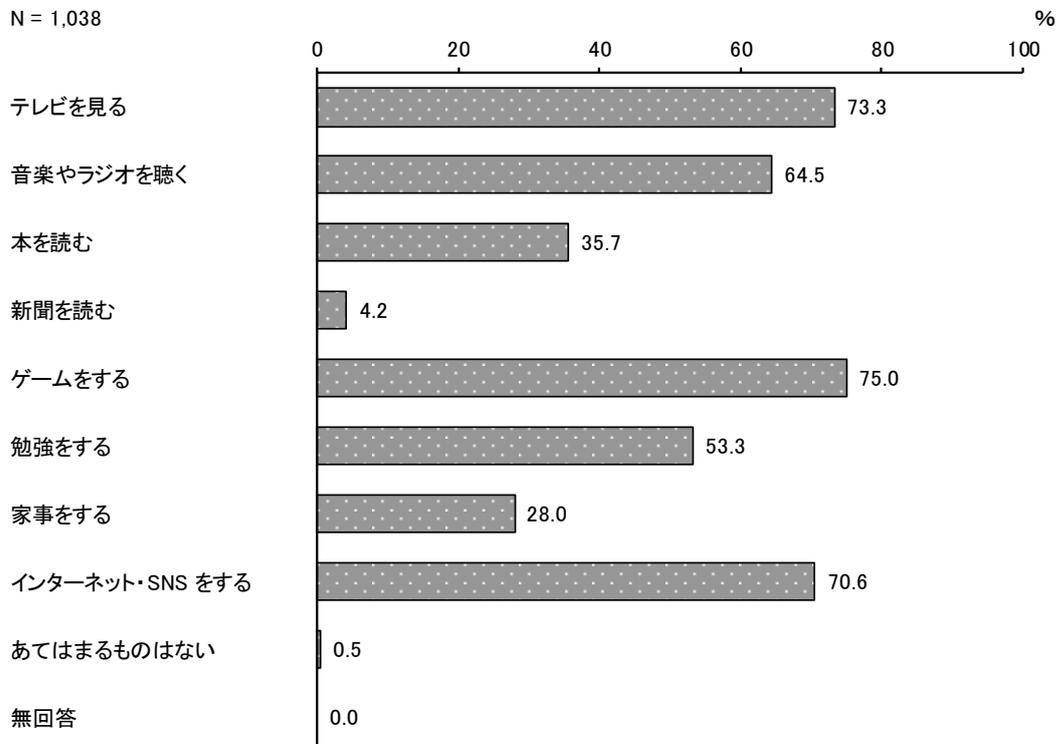
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



問2 ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

「ゲームをする」の割合が75.0%と最も高く、次いで「テレビを見る」の割合が73.3%、「インターネット・SNSをする」の割合が70.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「テレビを見る」「ゲームをする」の割合が、男子に比べ、女子で「音楽やラジオを聴く」「インターネット・SNSをする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	テレビを見る	音楽やラジオを 聴く	本を読む	新聞を読む	ゲームをする	勉強をする	家事をする	インターネット・ SNSをする	あてはまるものは ない	無回答
今回調査 男子	502	78.9	56.0	34.3	5.6	89.6	54.4	27.3	62.0	0.4	—
女子	494	68.4	73.1	36.8	2.6	59.3	52.8	28.7	78.5	0.4	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「音楽やラジオを聴く」「本を読む」「インターネット・SNSをする」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「テレビを見る」「勉強をする」の割合が高くなっています。

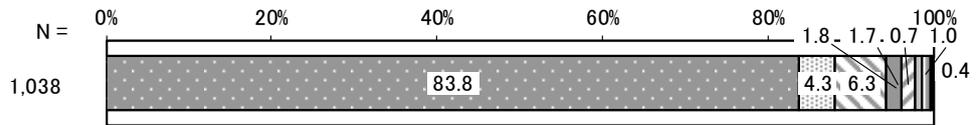
単位：％

区分	≧ (件)	テレビを見る	音楽やラジオを 聴く	本を読む	新聞を読む	ゲームをする	勉強をする	家事をする	インターネット・ SNSをする	あてはまるものは ない	無回答
広義のひきこもり群	7	42.9	42.9	—	—	100.0	42.9	14.3	57.1	—	—
親和群	136	62.5	74.3	41.9	4.4	72.8	44.1	25.7	78.7	0.7	—
一般群	893	75.3	63.2	35.1	4.3	75.3	54.8	28.6	69.4	0.4	—

問3 ふだんどのくらい外出しますか。

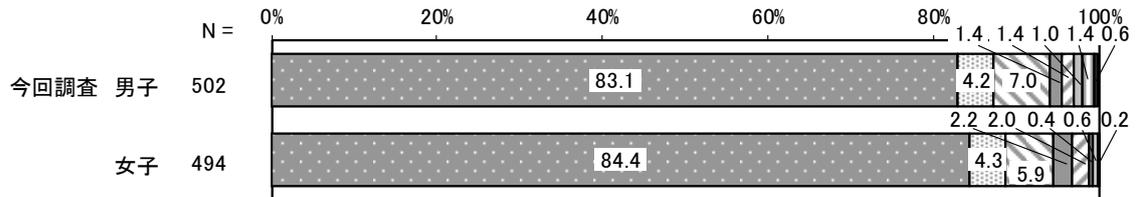
「学校等で平日は毎日外出する」の割合が83.8%と最も高くなっています。

- 学校等で平日は毎日外出する
- ▨ 学校等で週に3~4日外出する
- ▩ 遊び等で頻繁に外出する
- 人づきあいのためにときどき外出する
- ▨ ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する
- ▩ ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 自室からは出るが、家からは出ない
- 自室からほとんど出ない
- 無回答



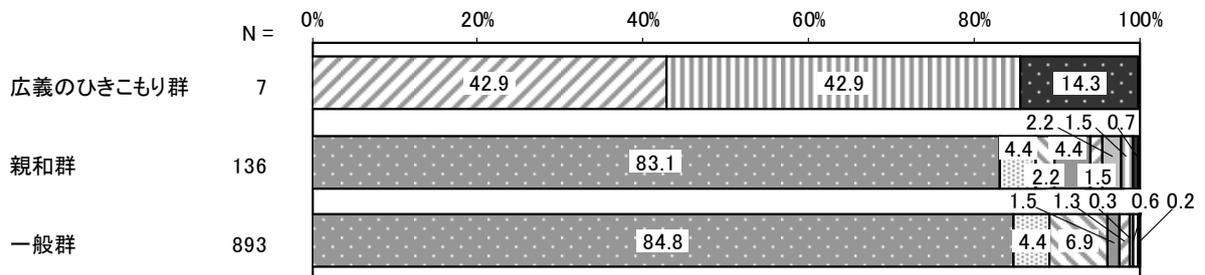
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



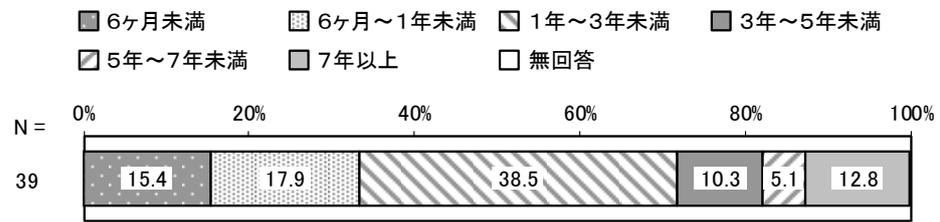
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



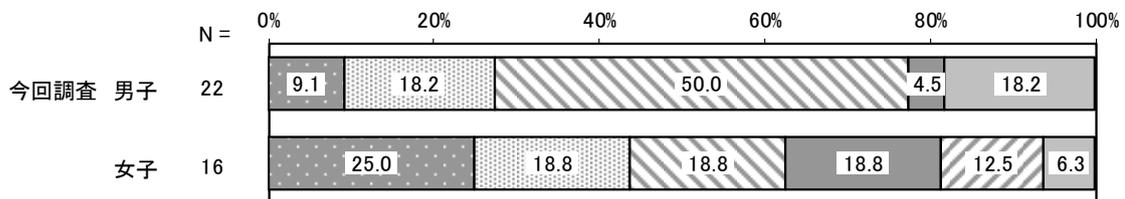
問4 現在の状態となつてどのくらい経ちますか。

「1年～3年未満」の割合が38.5%と最も高く、次いで「6ヶ月～1年未満」の割合が17.9%、「6ヶ月未満」の割合が15.4%となっています。



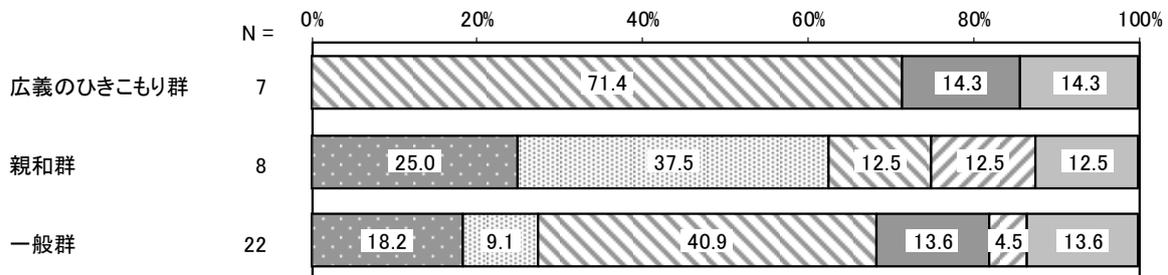
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「1年～3年未満」「7年以上」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「6ヶ月未満」「3年～5年未満」「5年～7年未満」の割合が高くなっています。



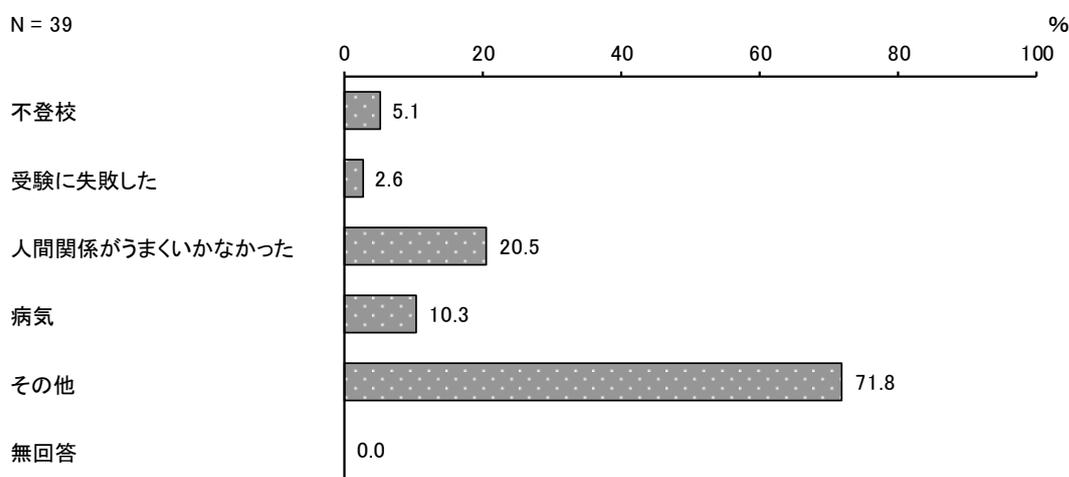
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。



問5 現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

「人間関係がうまくいかなかった」の割合が 20.5%と最も高く、次いで「病気」の割合が 10.3%となっています。



【男女別】

男女別でみると、男子に比べ、女子で「不登校」「受験に失敗した」「人間関係がうまくいかなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	不登校	受験に失敗した	人間関係がうまくいかなかった	病気	その他	無回答
今回調査 男子	22	—	—	9.1	9.1	86.4	—
女子	16	12.5	6.3	31.3	12.5	50.0	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

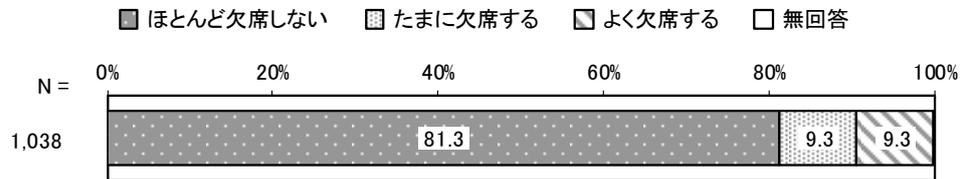
単位：%

区分	≧(件)	不登校	受験に失敗した	人間関係がうまくいかなかった	病気	その他	無回答
広義のひきこもり群	7	14.3	—	14.3	—	85.7	—
親和群	8	12.5	—	50.0	12.5	50.0	—
一般群	22	—	4.5	13.6	4.5	81.8	—

問6 学校への通学状況等について教えてください。

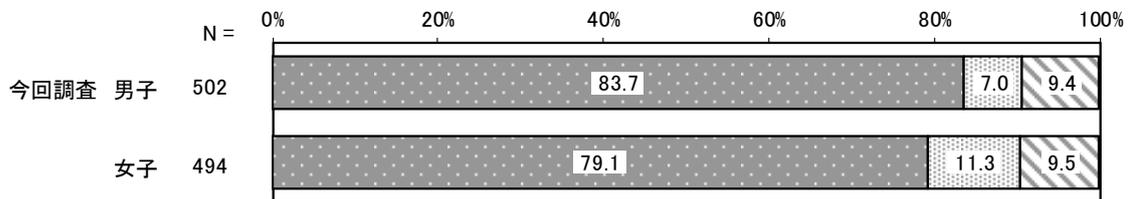
(1) 出席状況

「ほとんど欠席しない」の割合が81.3%と最も高くなっています。



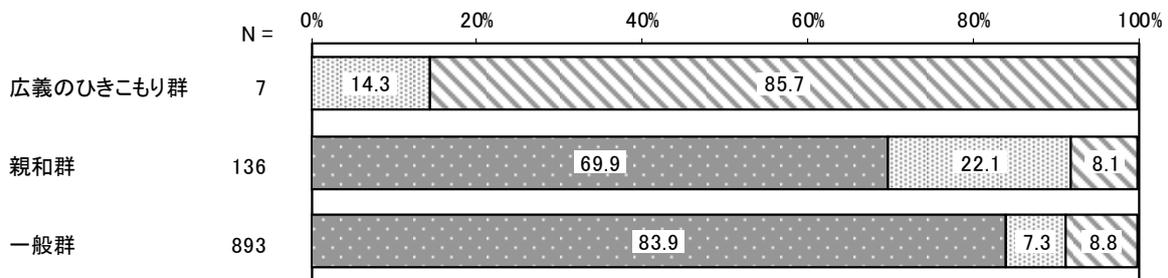
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



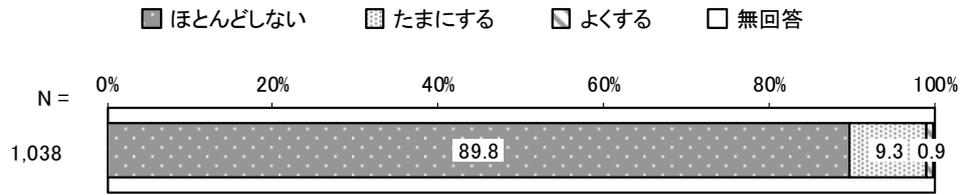
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「たまに欠席する」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「ほとんど欠席しない」の割合が高くなっています。



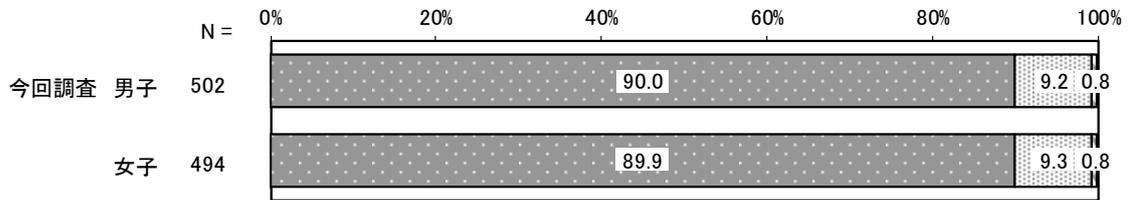
(2) 遅刻や早退の状況

「ほとんどしない」の割合が89.8%と最も高くなっています。



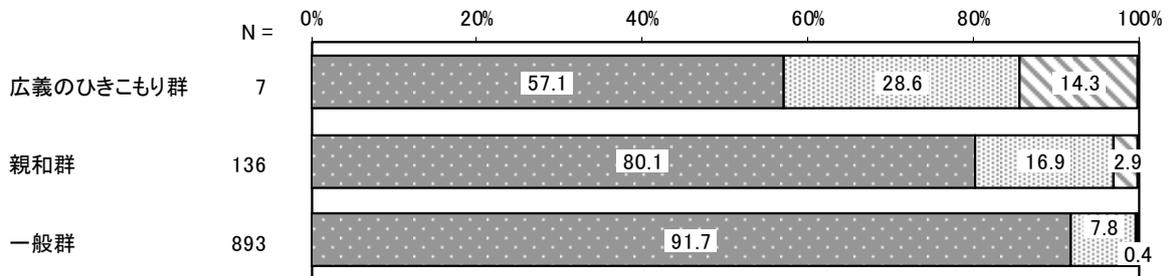
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



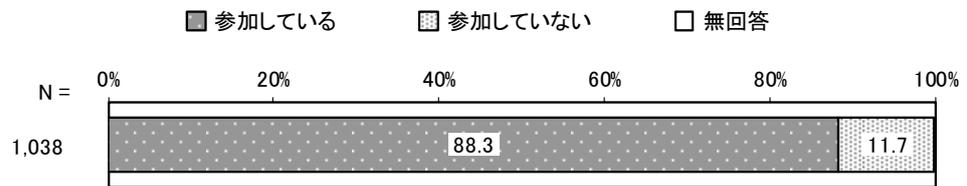
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「たまにする」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「ほとんどしない」の割合が高くなっています。



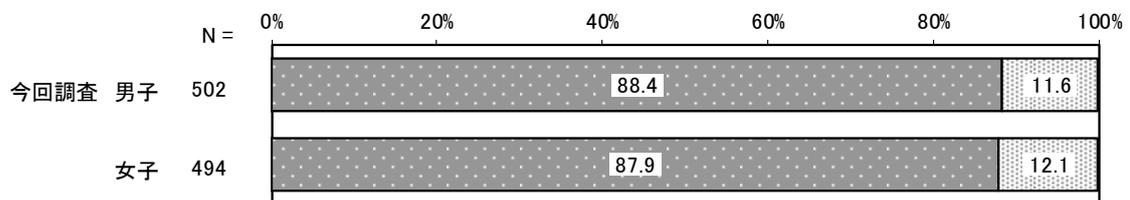
問7 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。

「参加している」の割合が88.3%、「参加していない」の割合が11.7%となっています。



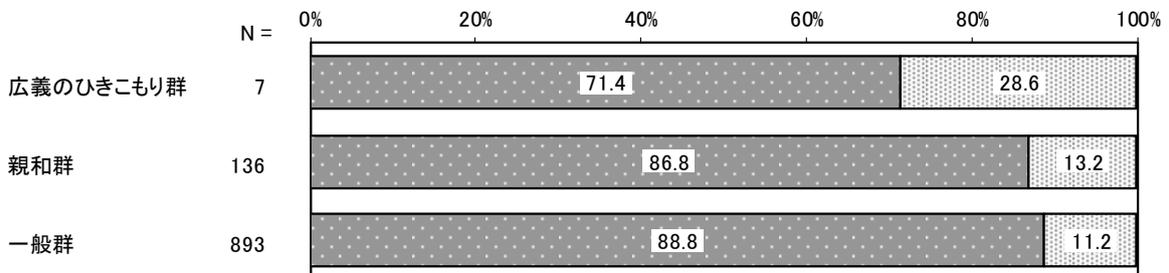
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



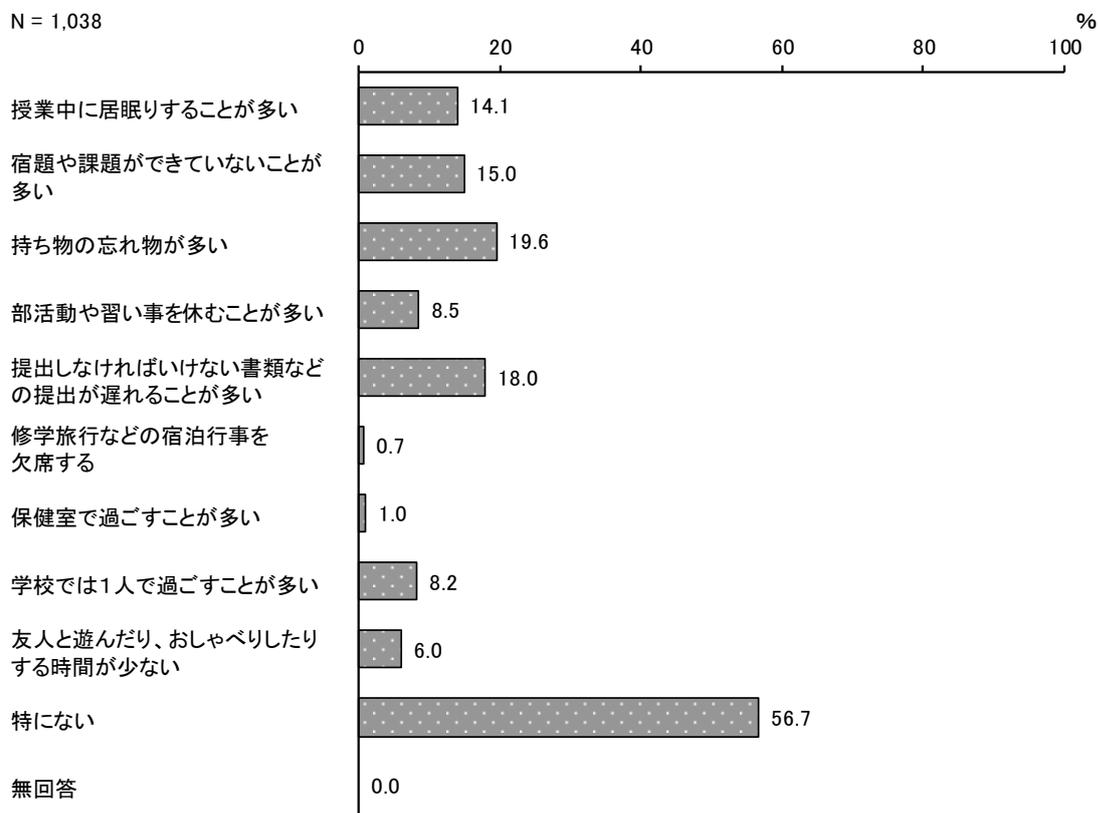
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



問8 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が56.7%と最も高く、次いで「持ち物の忘れ物が多い」の割合が19.6%、「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の割合が18.0%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「宿題や課題ができていないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」「提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
今回調査 男子	502	13.3	21.5	27.3	7.6	22.5	0.8	0.4	6.6	6.2	53.6	—
女子	494	14.4	7.3	10.7	8.9	12.3	0.6	1.2	9.5	6.1	60.9	—

【ひきこもり類別】

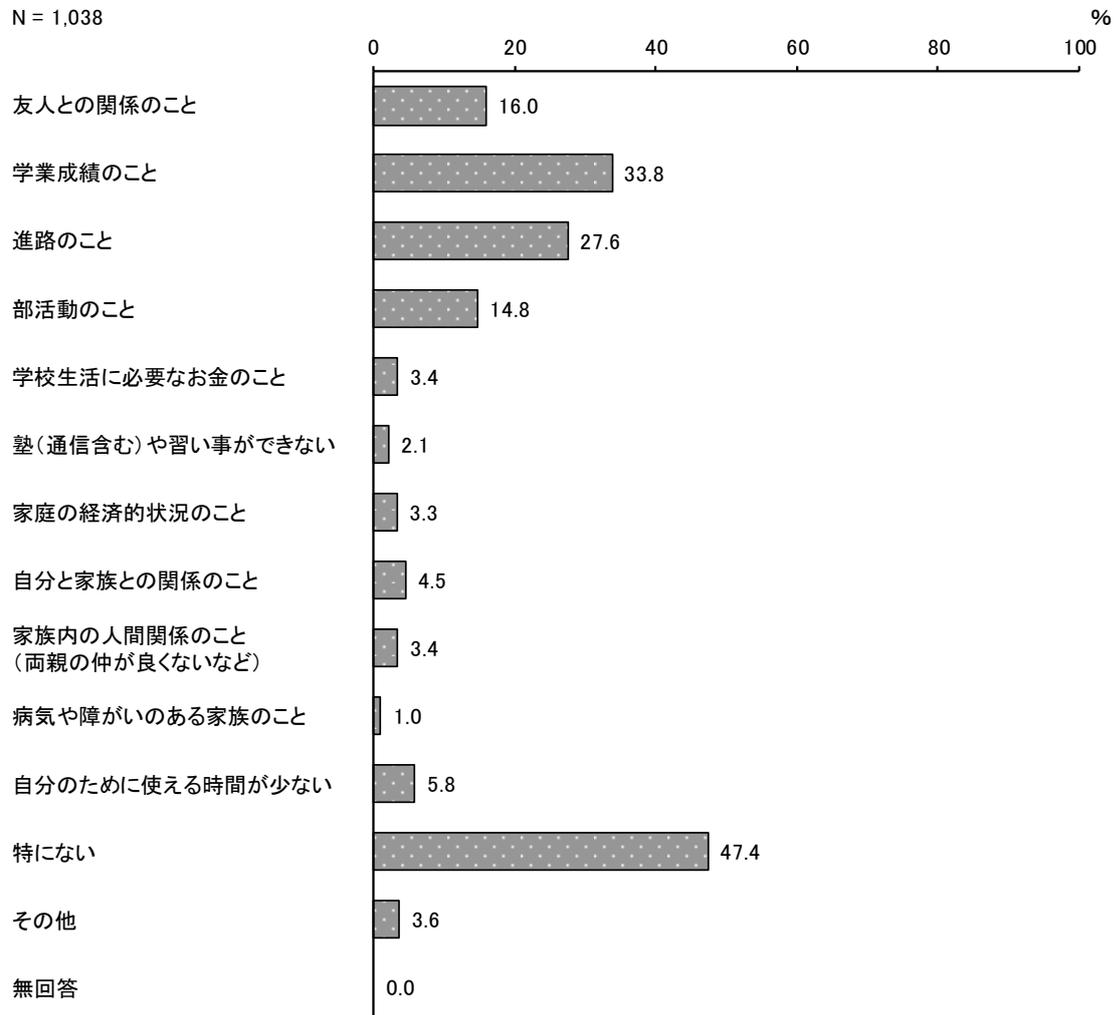
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「修学旅行などの宿泊行事を欠席する」「保健室で過ごすことが多い」「特にない」を除くすべての項目の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
広義のひきこもり群	7	28.6	28.6	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	42.9	—
親和群	136	27.9	21.3	28.7	20.6	30.1	2.2	4.4	16.2	12.5	35.3	—
一般群	893	11.9	14.0	18.1	6.5	16.1	0.3	0.2	6.8	4.8	60.1	—

問9 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にない」の割合が47.4%と最も高く、次いで「学業成績のこと」の割合が33.8%、「進路のこと」の割合が27.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「特にない」の割合が、男子に比べ、女子で「友人との関係のこと」「学業成績のこと」「進路のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
今回調査 男子	502	8.6	27.9	24.3	12.5	3.4	1.4	2.8	2.8	3.0	0.2	5.0	54.8	2.8	—
女子	494	23.5	39.5	31.0	16.4	3.4	2.6	3.6	6.5	3.4	1.6	6.5	41.5	2.4	—

【ひきこもり類別】

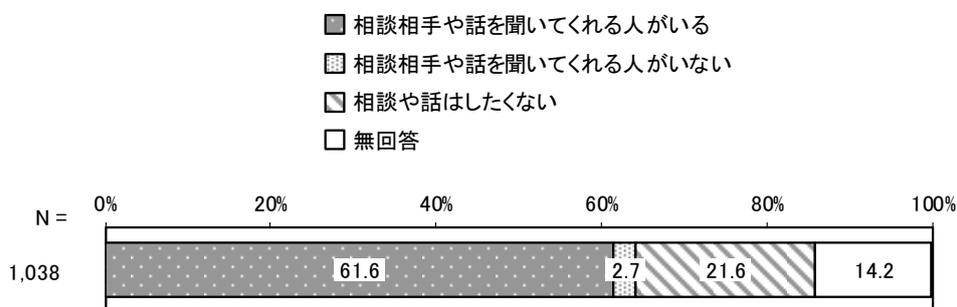
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「塾(通信含む)や習い事ができない」「家庭の経済的状況のこと」「病気や障がいのある家族のこと」「特にない」「その他」を除くすべての項目の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	友人との関係のこと	学業成績のこと	進路のこと	部活動のこと	学校生活に必要なお金のこと	塾(通信含む)や習い事ができない	家庭の経済的状況のこと	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	特にない	その他	無回答
広義のひきこもり群	7	14.3	28.6	28.6	—	—	14.3	—	—	14.3	—	—	71.4	14.3	—
親和群	136	30.1	54.4	51.5	26.5	8.1	2.2	6.6	16.2	8.8	3.7	13.2	23.5	5.9	—
一般群	893	13.9	30.7	24.0	13.1	2.7	2.0	2.8	2.8	2.5	0.6	4.7	50.8	3.1	—

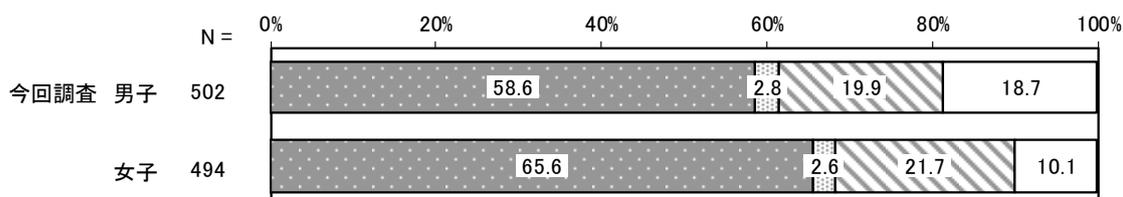
問10 問9で回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。

「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が61.6%と最も高く、次いで「相談や話はしたくない」の割合が21.6%となっています。



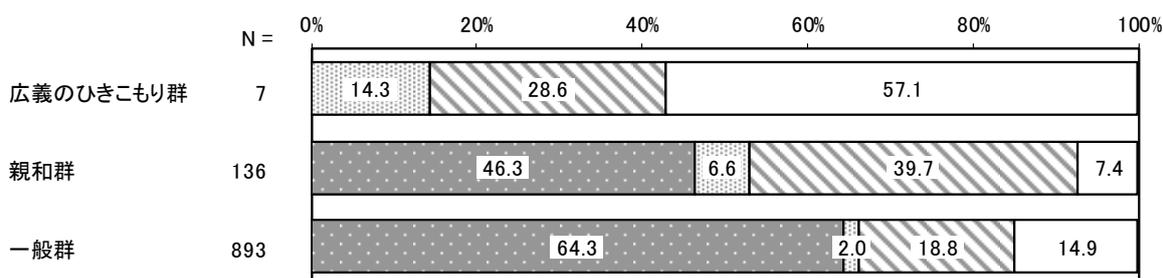
【男女別】

男女別でみると、男子に比べ、女子で「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が高くなっています。



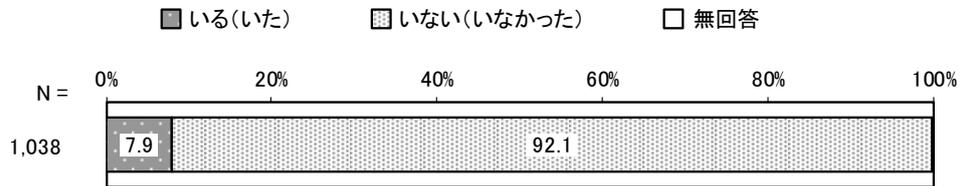
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「相談や話はしたくない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」の割合が高くなっています。



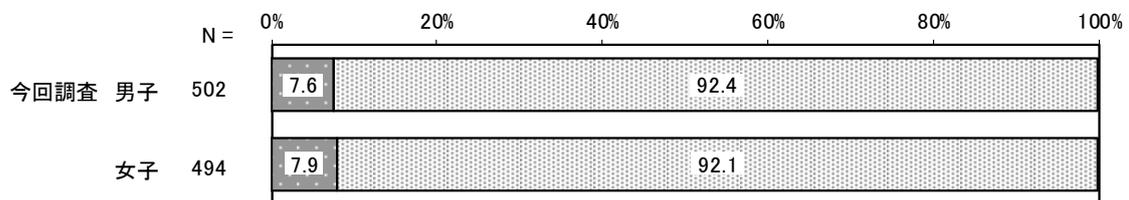
問 11 家族の中にあなたがお世話（ケア）をしている人はいます（した）か。
 （ここでの「お世話」とは本来大人がやっていると想定されている家事や家族の世話などです。）

「いる（いた）」の割合が 7.9%、「いない（いなかった）」の割合が 92.1%となっています。



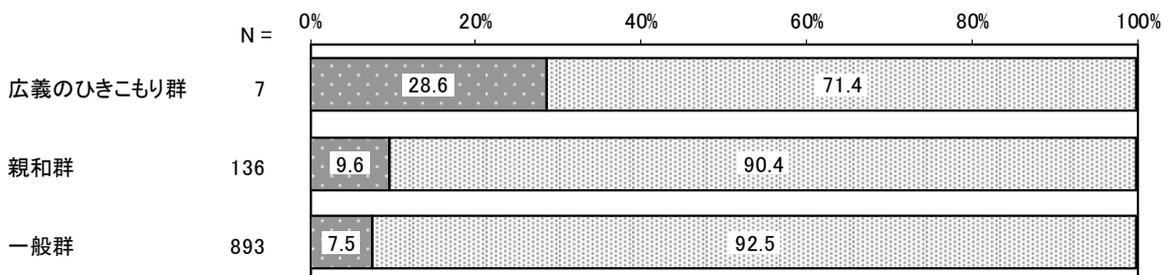
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



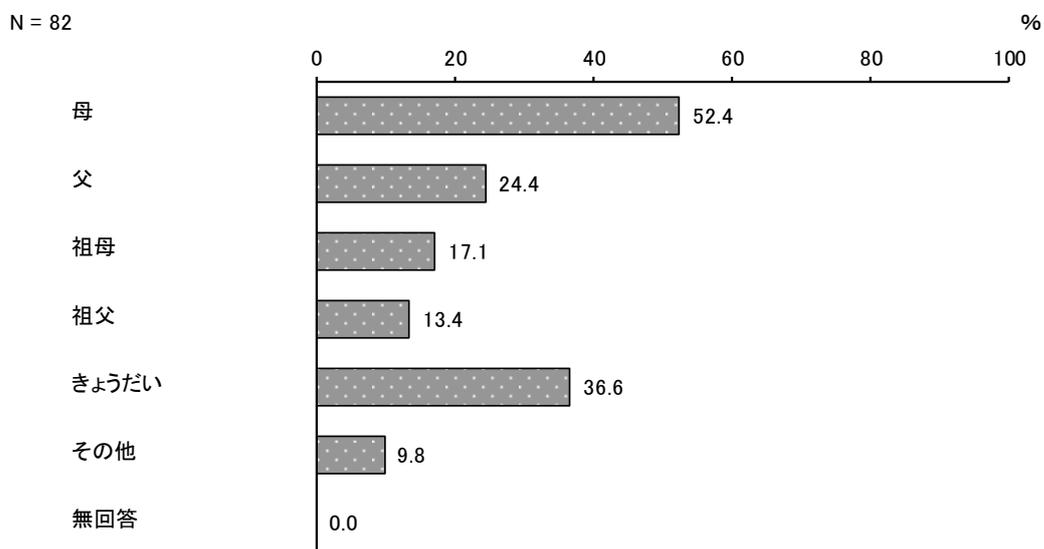
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



問 12 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）はどなたですか。
（〇はいくつでも）

「母」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「きょうだい」の割合が 36.6%、「父」の割合が 24.4% となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「母」「父」「祖父」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「きょうだい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
今回調査 男子	38	57.9	39.5	18.4	21.1	31.6	10.5	—
女子	39	48.7	12.8	17.9	7.7	41.0	7.7	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「きょうだい」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「母」「父」「祖母」の割合が高くなっています。

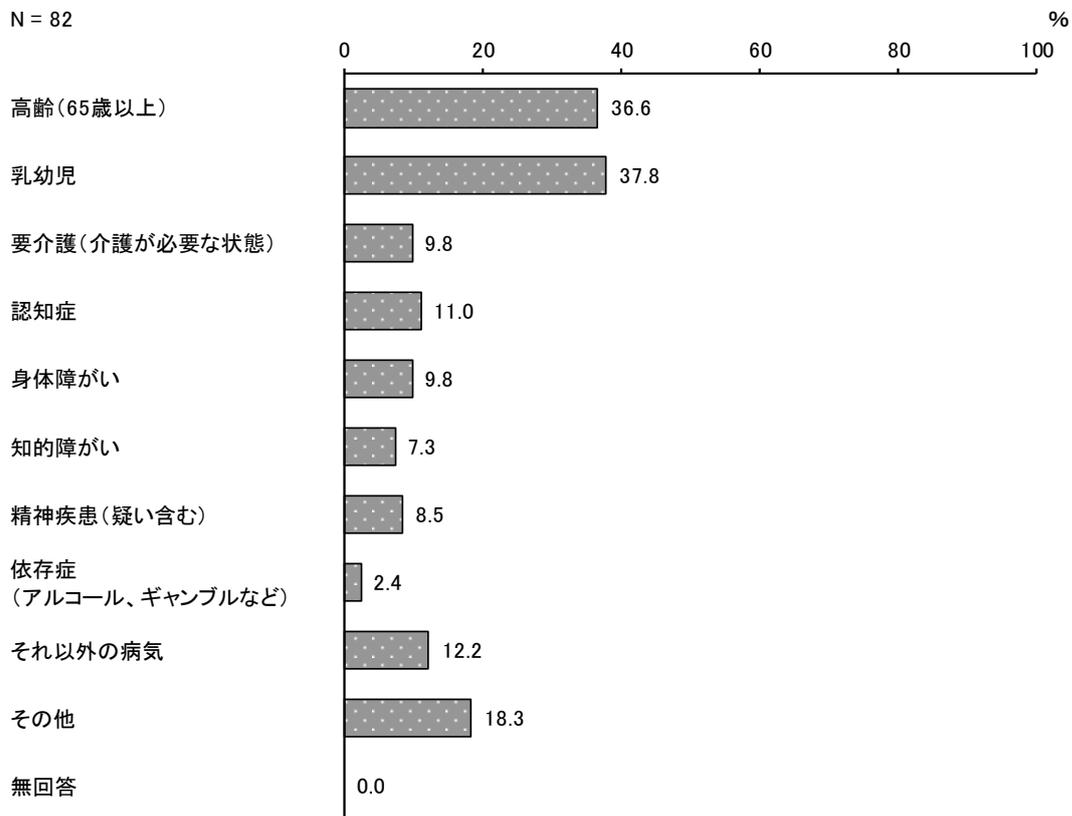
単位：%

区分	≧(件)	母	父	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
広義のひきこもり群	2	50.0	—	50.0	—	—	—	—
親和群	13	46.2	7.7	—	15.4	46.2	—	—
一般群	67	53.7	28.4	19.4	13.4	35.8	11.9	—

問 13 お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況やあなたが行っている（行っていた）お世話とは何ですか。

(1) お世話（ケア）を必要としている方（していた方）の状況（〇はいくつでも）

「乳幼児」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「高齢（65歳以上）」の割合が 36.6%、「それ以外の病気」の割合が 12.2%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「認知症」の割合が、男子に比べ、女子で「乳幼児」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	高齢 (65歳以上)	乳幼児	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール、 ギャンブルなど)	それ以外の病気	その他	無回答
今回調査 男子	38	39.5	28.9	7.9	15.8	10.5	7.9	7.9	2.6	10.5	23.7	—
女子	39	38.5	43.6	12.8	7.7	10.3	5.1	7.7	2.6	15.4	15.4	—

【ひきこもり類別】

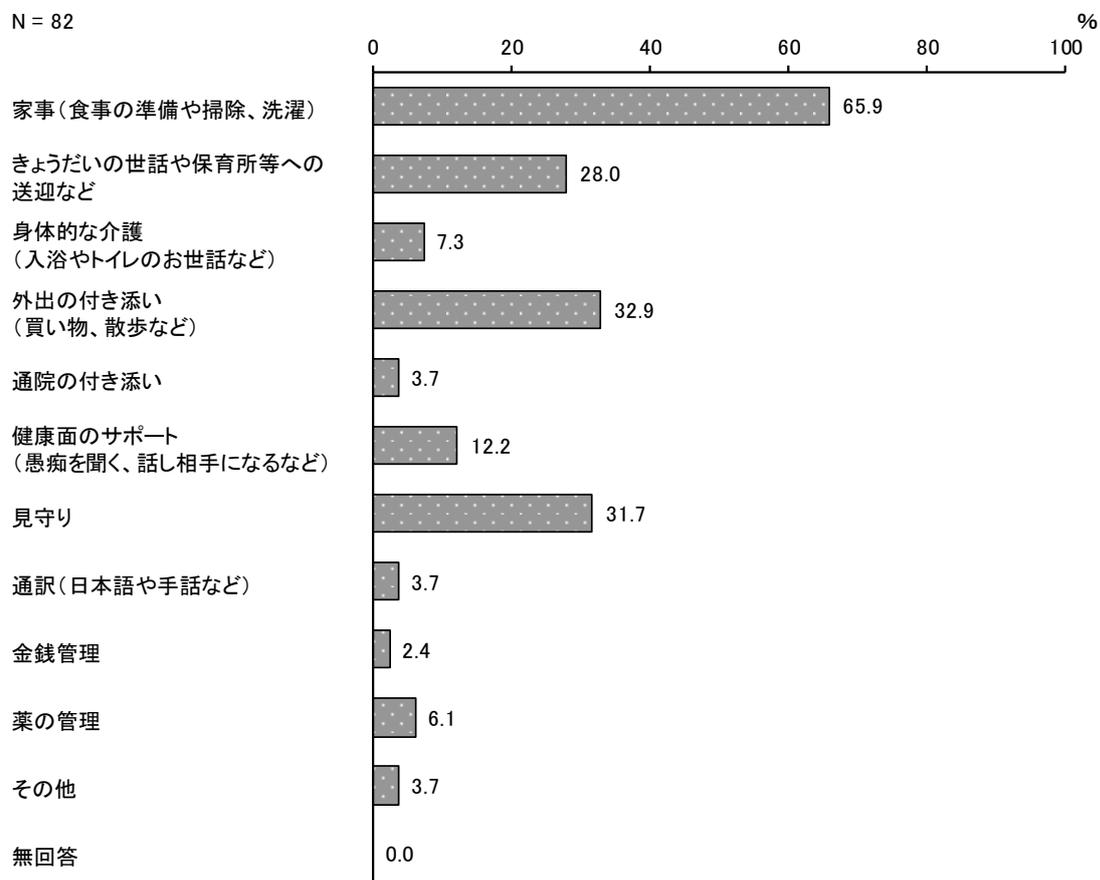
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「要介護(介護が必要な状態)」「それ以外の病気」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「高齢(65歳以上)」「乳幼児」「精神疾患(疑い含む)」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	高齢 (65歳以上)	乳幼児	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症(アルコール、 ギャンブルなど)	それ以外の病気	その他	無回答
広義のひきこもり群	2	50.0	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—
親和群	13	30.8	30.8	15.4	7.7	7.7	7.7	—	—	23.1	7.7	—
一般群	67	37.3	40.3	9.0	10.4	10.4	7.5	9.0	3.0	10.4	20.9	—

(2) あなたが行っている（行っていた）お世話（ケア）の内容（〇はいくつでも）

「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」の割合が65.9%と最も高く、次いで「外出の付き添い（買い物、散歩など）」の割合が32.9%、「見守り」の割合が31.7%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「見守り」「薬の管理」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「外出の付き添い（買い物、散歩など）」「健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	健康面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
今回調査 男子	38	63.2	26.3	5.3	28.9	2.6	5.3	39.5	2.6	—	10.5	5.3	—
女子	39	71.8	30.8	7.7	35.9	5.1	17.9	25.6	5.1	2.6	2.6	—	—

【ひきこもり類別】

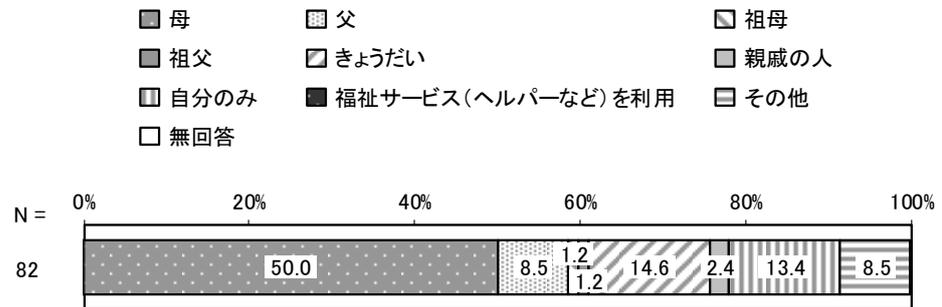
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」「外出の付き添い（買い物、散歩など）」「見守り」「金銭管理」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）」「健康面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への 送迎など	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	健康面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳 (日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
広義のひきこもり群	2	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—	—
親和群	13	76.9	38.5	—	46.2	—	7.7	46.2	—	7.7	7.7	—	—
一般群	67	65.7	26.9	9.0	29.9	4.5	13.4	28.4	4.5	1.5	6.0	4.5	—

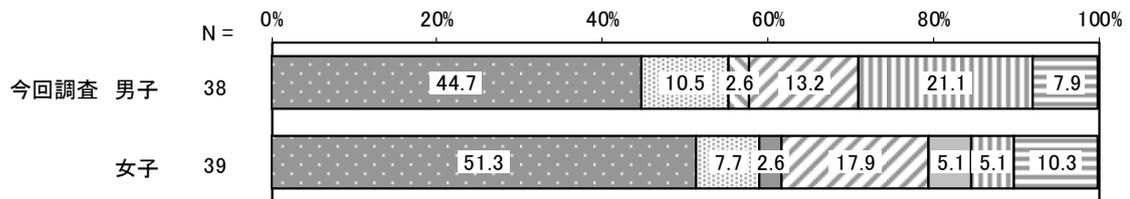
問 14 お世話は誰と行っています（行っていた）か。

「母」の割合が50.0%と最も高く、次いで「きょうだい」の割合が14.6%、「自分のみ」の割合が13.4%となっています。



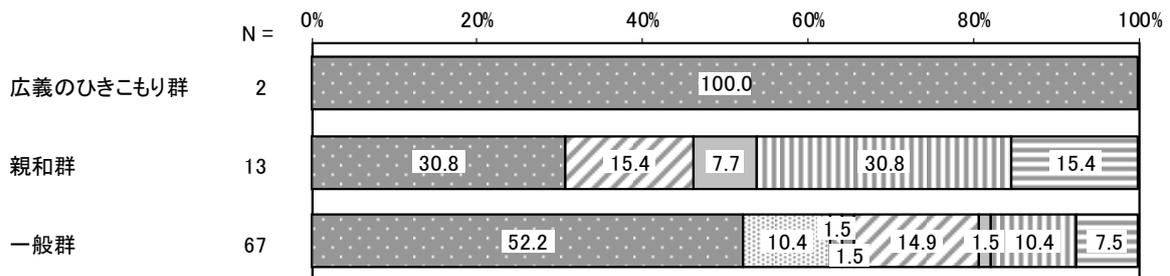
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「自分のみ」の割合が、男子に比べ、女子で「母」「親戚の人」の割合が高くなっています。



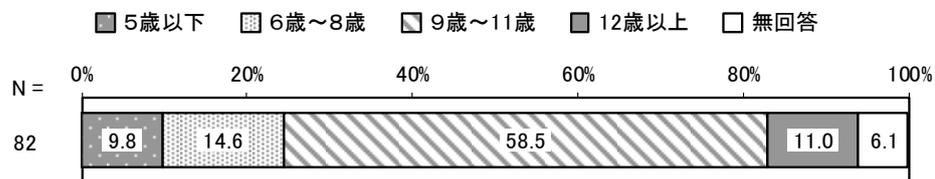
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「親戚の人」「自分のみ」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「母」「父」の割合が高くなっています。



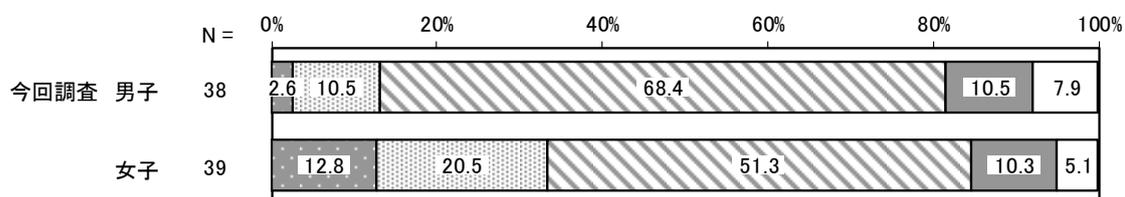
問 15 お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢をお答えください。
(はっきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

「9歳～11歳」の割合が58.5%と最も高く、次いで「6歳～8歳」の割合が14.6%、「12歳以上」の割合が11.0%となっています。



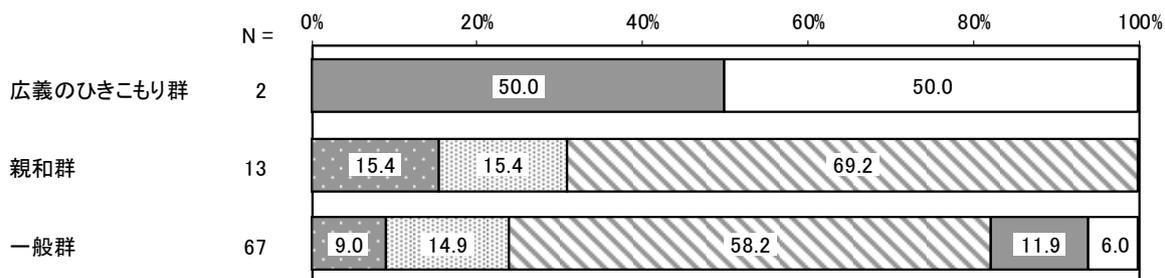
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「9歳～11歳」の割合が、男子に比べ、女子で「5歳以下」「6歳～8歳」の割合が高くなっています。



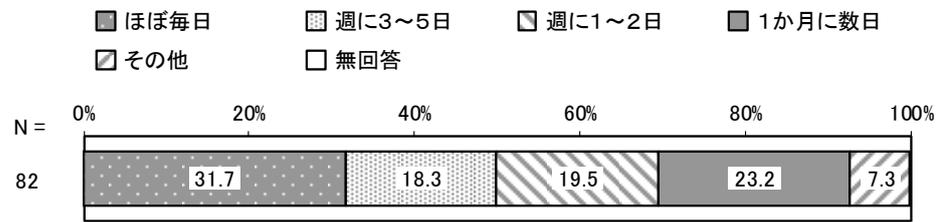
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「5歳以下」「9歳～11歳」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「12歳以上」の割合が高くなっています。



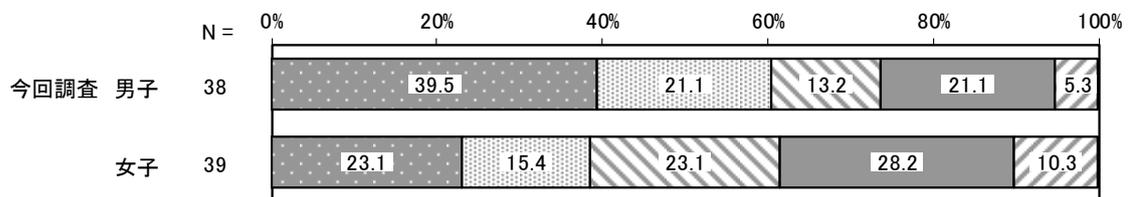
問 16 お世話をしている頻度を教えてください。

「ほぼ毎日」の割合が31.7%と最も高く、次いで「1か月に数日」の割合が23.2%、「週に1～2日」の割合が19.5%となっています。



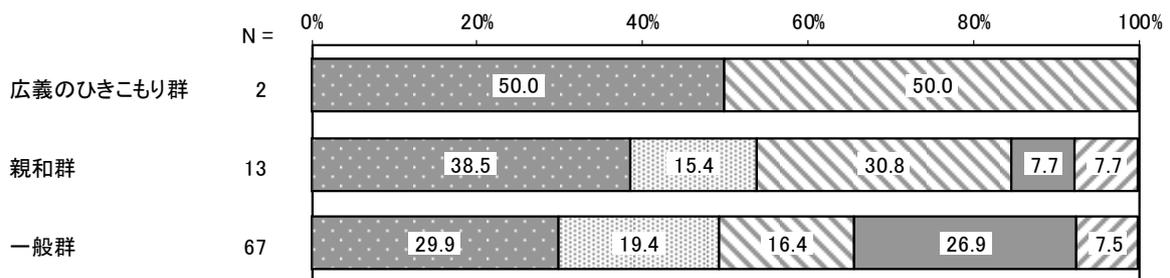
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「ほぼ毎日」「週に3～5日」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「週に1～2日」「1か月に数日」の割合が高くなっています。



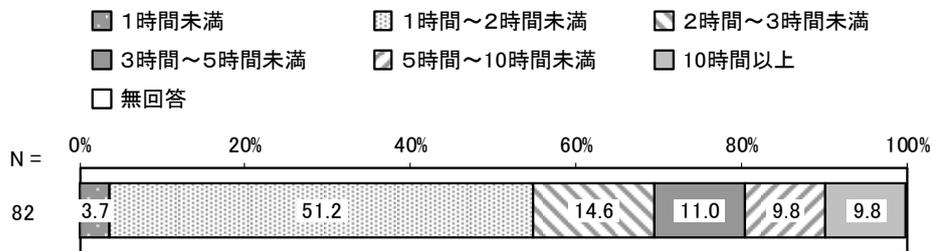
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「ほぼ毎日」「週に1～2日」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「1か月に数日」の割合が高くなっています。



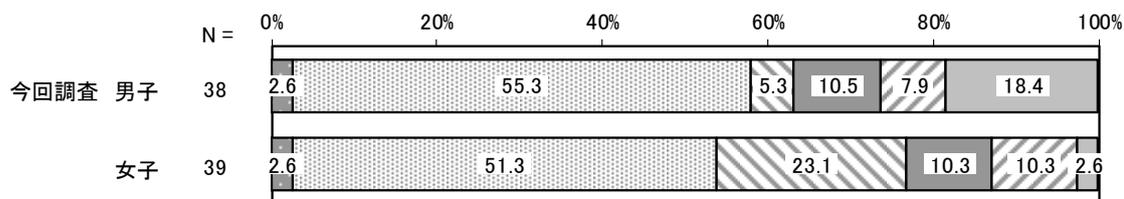
問 17 お世話は平日にどれくらい行っていますか。時間数をお答えください。
 (日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間をお答えください)

「1時間～2時間未満」の割合が51.2%と最も高く、次いで「2時間～3時間未満」の割合が14.6%、「3時間～5時間未満」の割合が11.0%となっています。



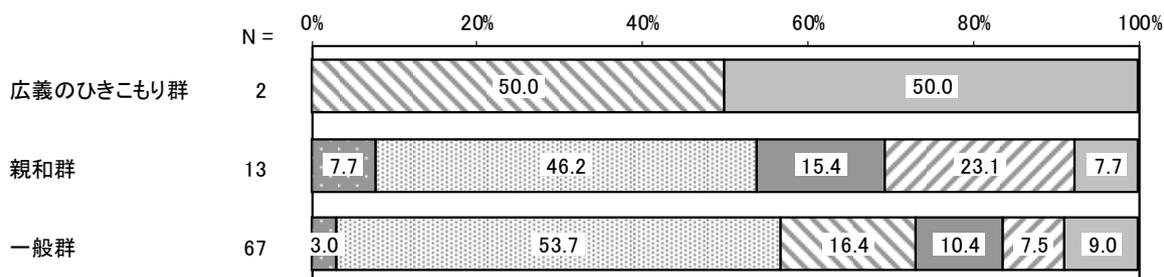
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「10時間以上」の割合が、男子に比べ、女子で「2時間～3時間未満」の割合が高くなっています。



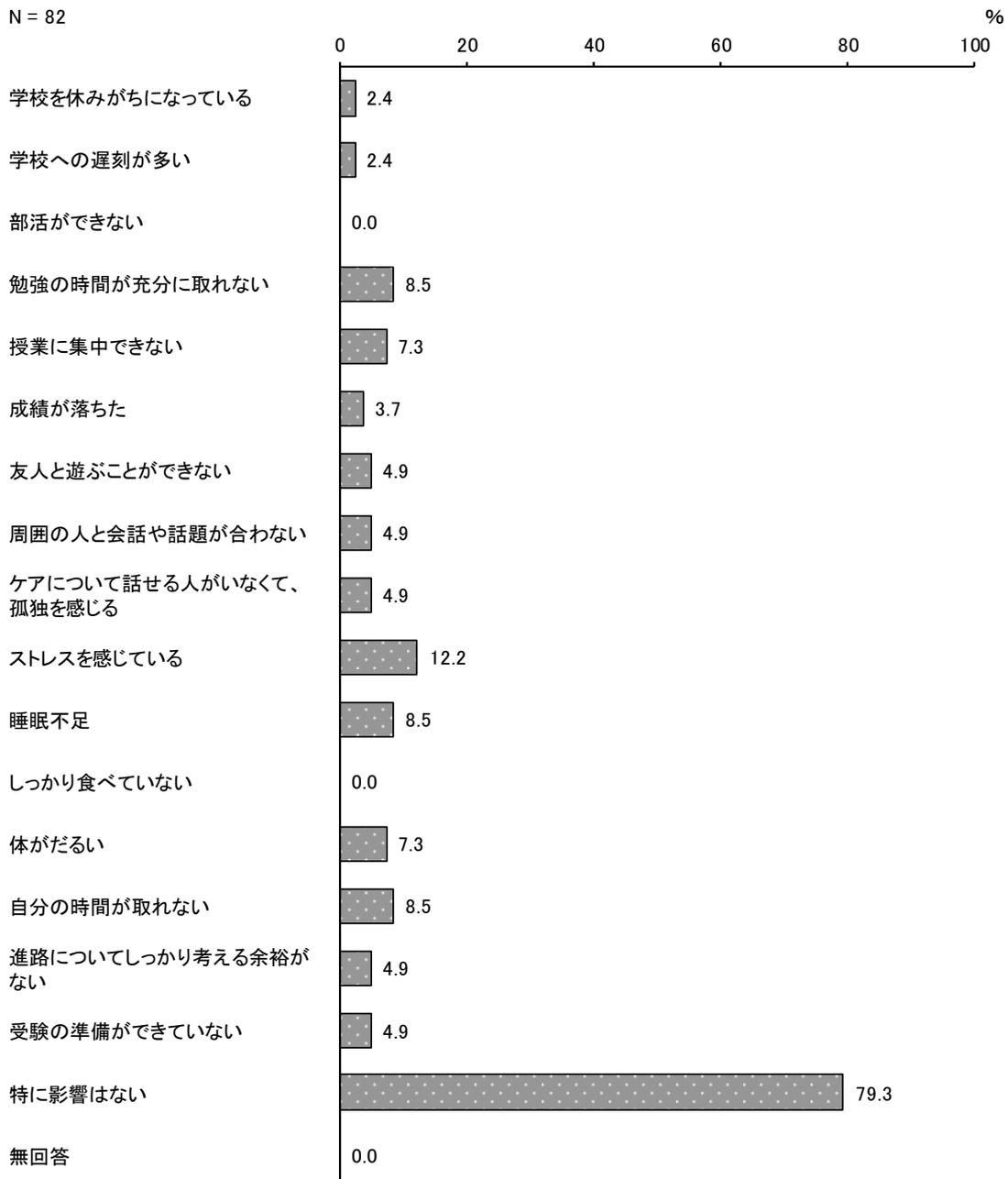
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「5時間～10時間未満」「10時間以上」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「1時間～2時間未満」「2時間～3時間未満」の割合が高くなっています。



問 18 家族のお世話（ケア）をしているために、自分の生活にどんな影響が出ている（出ていた）と思いますか。（〇はいくつでも）

「特に影響はない」の割合が 79.3%と最も高く、次いで「ストレスを感じている」の割合が 12.2%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「学校への遅刻が多い」「成績が落ちた」「友人と遊ぶことができない」「ストレスを感じている」「体がだるい」「進路についてしっかり考える余裕がない」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「勉強の時間が充分に取れない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	学校を休みがちになっている	学校への遅刻が多い	部活ができない	勉強の時間が充分に取れない	授業に集中できない	成績が落ちた	友人と遊ぶことができない	周囲の人と会話や話題が合わない	ケアについて話せる人がなくて、孤独を感じる
今回調査 男子	38	2.6	5.3	—	5.3	7.9	5.3	7.9	5.3	5.3
女子	39	2.6	—	—	10.3	5.1	—	2.6	2.6	2.6

区分	ストレスを感じている	睡眠不足	しっかり食べていない	体がだるい	自分の時間が取れない	進路についてしっかり考える余裕がない	受験の準備ができていない	特に影響はない	無回答
今回調査 男子	13.2	7.9	—	13.2	7.9	7.9	5.3	78.9	—
女子	7.7	7.7	—	—	10.3	2.6	2.6	82.1	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「学校を休みがちになっている」「学校への遅刻が多い」「勉強の時間が充分に取れない」「授業に集中できない」「成績が落ちた」「友人と遊ぶことができない」「ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる」「ストレスを感じている」「睡眠不足」「体がだるい」「自分の時間が取れない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特に影響はない」の割合が高くなっています。

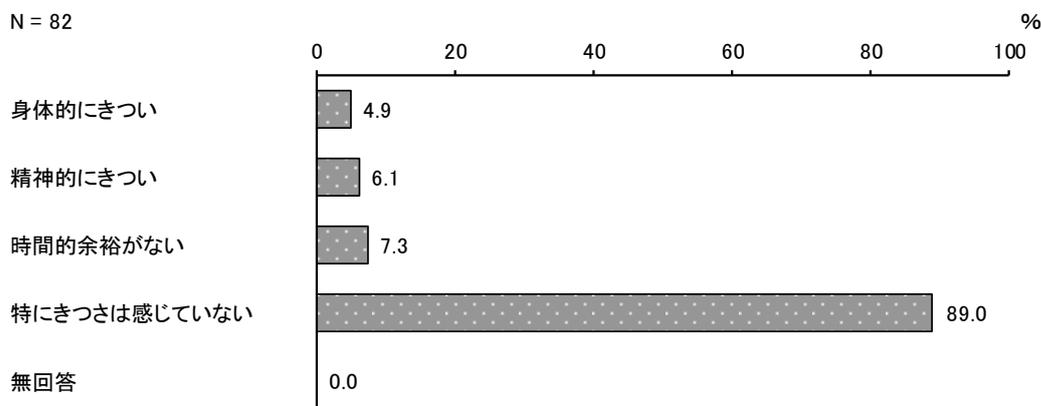
単位：％

区分	≧ (件)	学校を休みがちに なっている	学校への遅刻が多い	部活ができない	勉強の時間が充分に 取れない	授業に集中できない	成績が落ちた	友人と遊ぶことが できない	周囲の人と会話や話題が 合わない	ケアについて話せる人が いなくて、孤独を感じる
広義のひきこもり群	2	—	—	—	50.0	50.0	50.0	—	50.0	50.0
親和群	13	15.4	7.7	—	30.8	15.4	7.7	15.4	7.7	15.4
一般群	67	—	1.5	—	3.0	4.5	1.5	3.0	3.0	1.5

区分	ストレスを感じている	睡眠不足	しっかり食べていない	体がだるい	自分の時間が取れない	進路についてしっかり 考える余裕がない	受験の準備ができて いない	特に影響はない	無回答
広義のひきこもり群	100.0	50.0	—	50.0	—	—	50.0	—	—
親和群	23.1	23.1	—	15.4	30.8	7.7	7.7	53.8	—
一般群	7.5	4.5	—	4.5	4.5	4.5	3.0	86.6	—

問 19 お世話をすることにつつきを感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

「特にきつきは感じていない」の割合が89.0%と最も高くなっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「身体的にきつい」「精神的にきつい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつきは感じていない	無回答
今回調査 男子	38	7.9	7.9	7.9	92.1	—
女子	39	2.6	2.6	7.7	87.2	—

【ひきこもり類別】

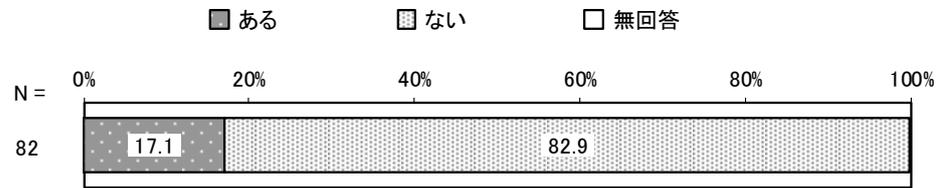
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「身体的にきつい」「精神的にきつい」「時間的余裕がない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にきつきは感じていない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧(件)	身体的にきつい	精神的にきつい	時間的余裕がない	特にきつきは感じていない	無回答
広義のひきこもり群	2	—	50.0	—	50.0	—
親和群	13	23.1	15.4	23.1	69.2	—
一般群	67	1.5	3.0	4.5	94.0	—

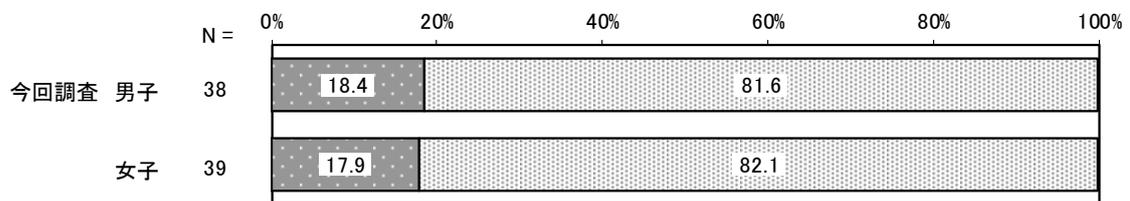
問 20 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。

「ある」の割合が 17.1%、「ない」の割合が 82.9%となっています。



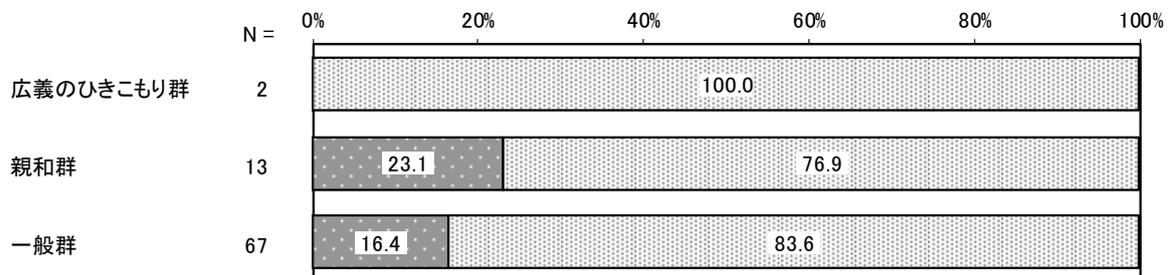
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



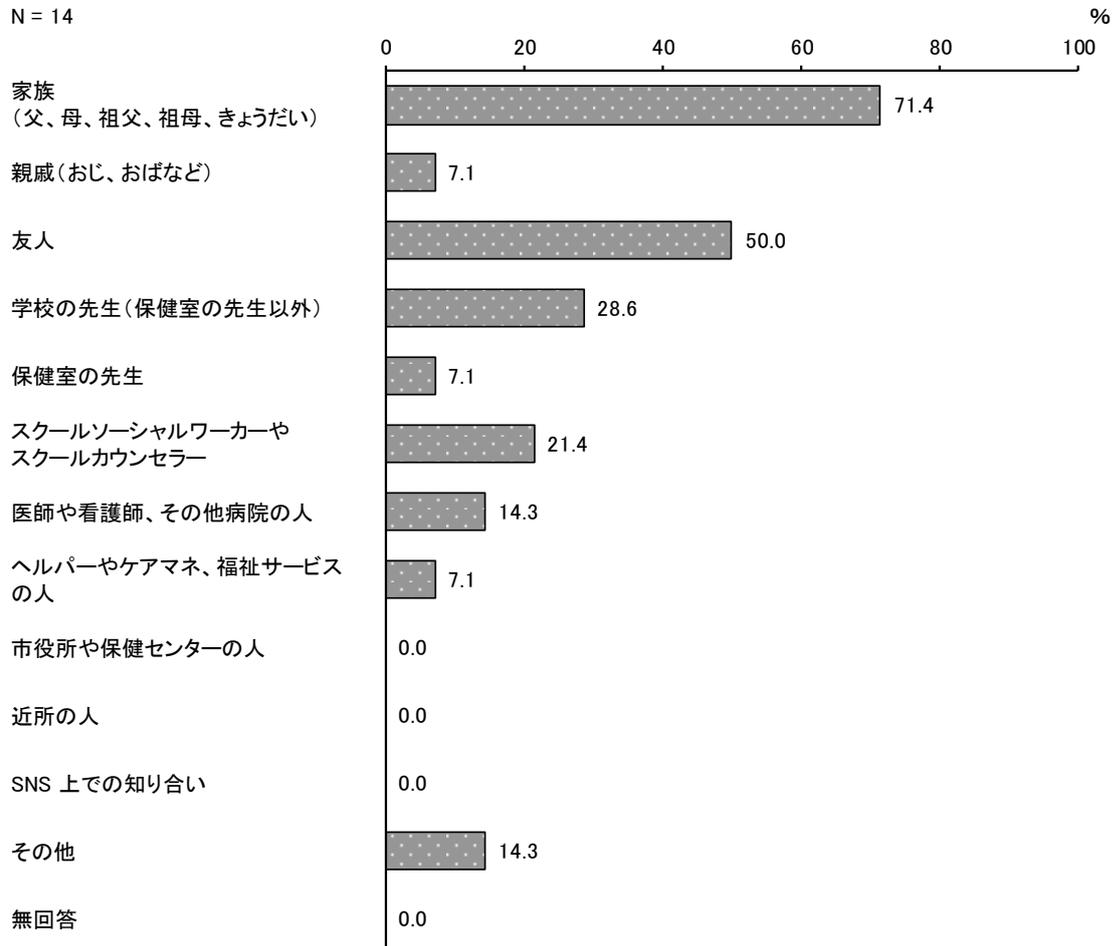
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「ある」の割合が高くなっています。



問 21 問 20 で「ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。
 (あてはまる番号すべてに○)

「家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「友人」の割合が 50.0%、「学校の先生 (保健室の先生以外)」の割合が 28.6%となっています。



【男女別】

男女別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

単位：%

区分	≧ (件)	家族(父、母、祖父、 祖母、きょうだい)	親戚 (おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャル ワーカーやスクール カウンセラー
今回調査 男子	7	71.4	—	28.6	42.9	—	28.6
女子	7	71.4	14.3	71.4	14.3	14.3	14.3

区分	医師や看護師、 その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、 福祉サービスの人	市役所や保健センター の人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
今回調査 男子	28.6	14.3	—	—	—	14.3	—
女子	—	—	—	—	—	14.3	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別では、有効回答数が少ないため、コメントは控えます。

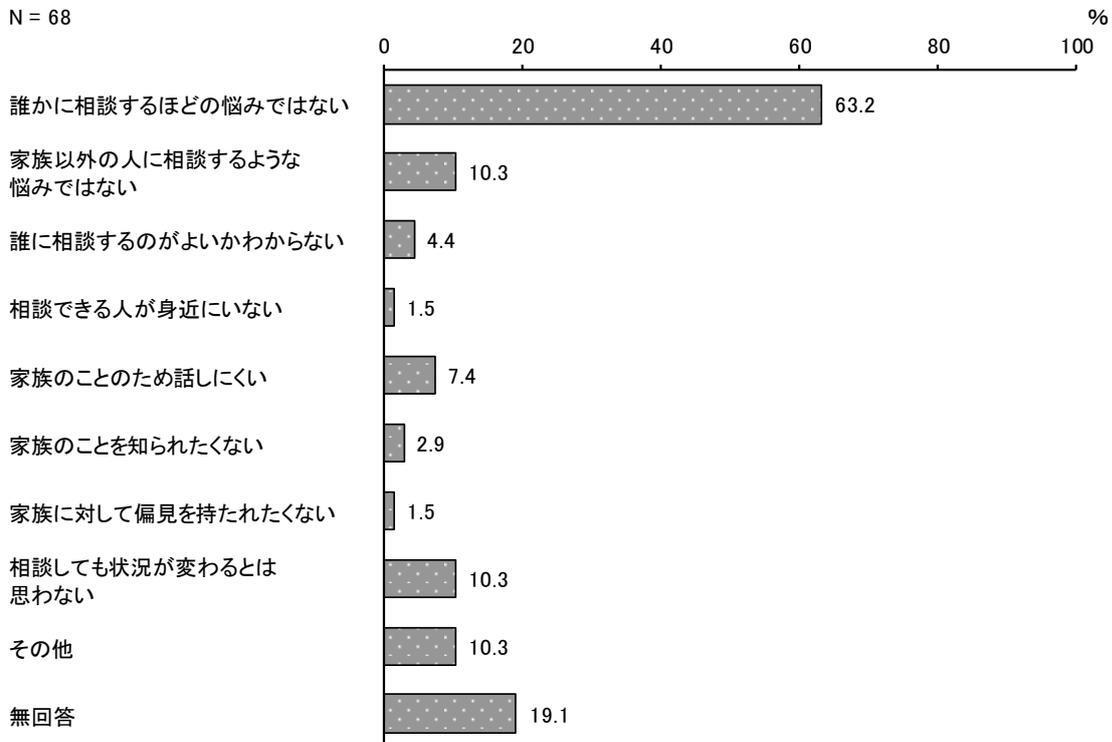
単位：%

区分	≧ (件)	家族(父、母、祖父、 祖母、きょうだい)	親戚 (おじ、おばなど)	友人	学校の先生 (保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャル ワーカーやスクール カウンセラー
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—
親和群	3	66.7	33.3	33.3	33.3	—	33.3
一般群	11	72.7	—	54.5	27.3	9.1	18.2

区分	医師や看護師、 その他病院の人	ヘルパーやケアマネ、 福祉サービスの人	市役所や保健センター の人	近所の人	SNS上での知り合い	その他	無回答
広義のひきこもり群	—	—	—	—	—	—	—
親和群	33.3	—	—	—	—	33.3	—
一般群	9.1	9.1	—	—	—	9.1	—

問 22 問 20 で「ない」と回答した方にお聞きします。
 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が 63.2%と最も高く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではない」、「相談しても状況が変わると思わない」の割合が 10.3%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が、男子に比べ、女子で「誰かに相談するほどの悩みではない」「家族以外の人に相談するような悩みではない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
今回調査 男子	31	58.1	—	3.2	—	3.2	3.2	—	12.9	16.1	16.1
女子	32	71.9	15.6	3.1	3.1	6.3	3.1	—	3.1	3.1	21.9

【ひきこもり類別】

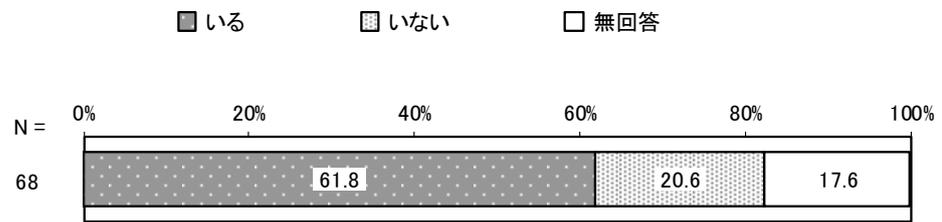
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「家族以外の人に相談するような悩みではない」「相談しても状況が変わるとは思わない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「誰かに相談するほどの悩みではない」「家族のこのため話にくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話にくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
広義のひきこもり群	2	—	—	50.0	—	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—
親和群	10	50.0	20.0	—	—	—	—	—	20.0	—	30.0
一般群	56	67.9	8.9	3.6	1.8	7.1	3.6	—	7.1	10.7	17.9

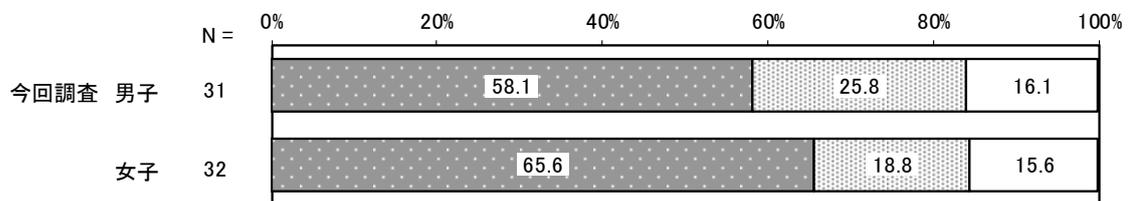
問 23 問 20 で「ない」と回答した方にお聞きします。
お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。

「いる」の割合が 61.8%、「いない」の割合が 20.6%となっています。



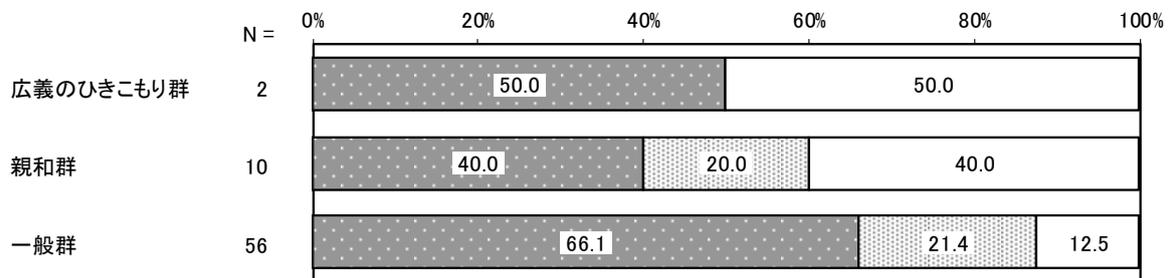
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「いない」の割合が高くなっています。



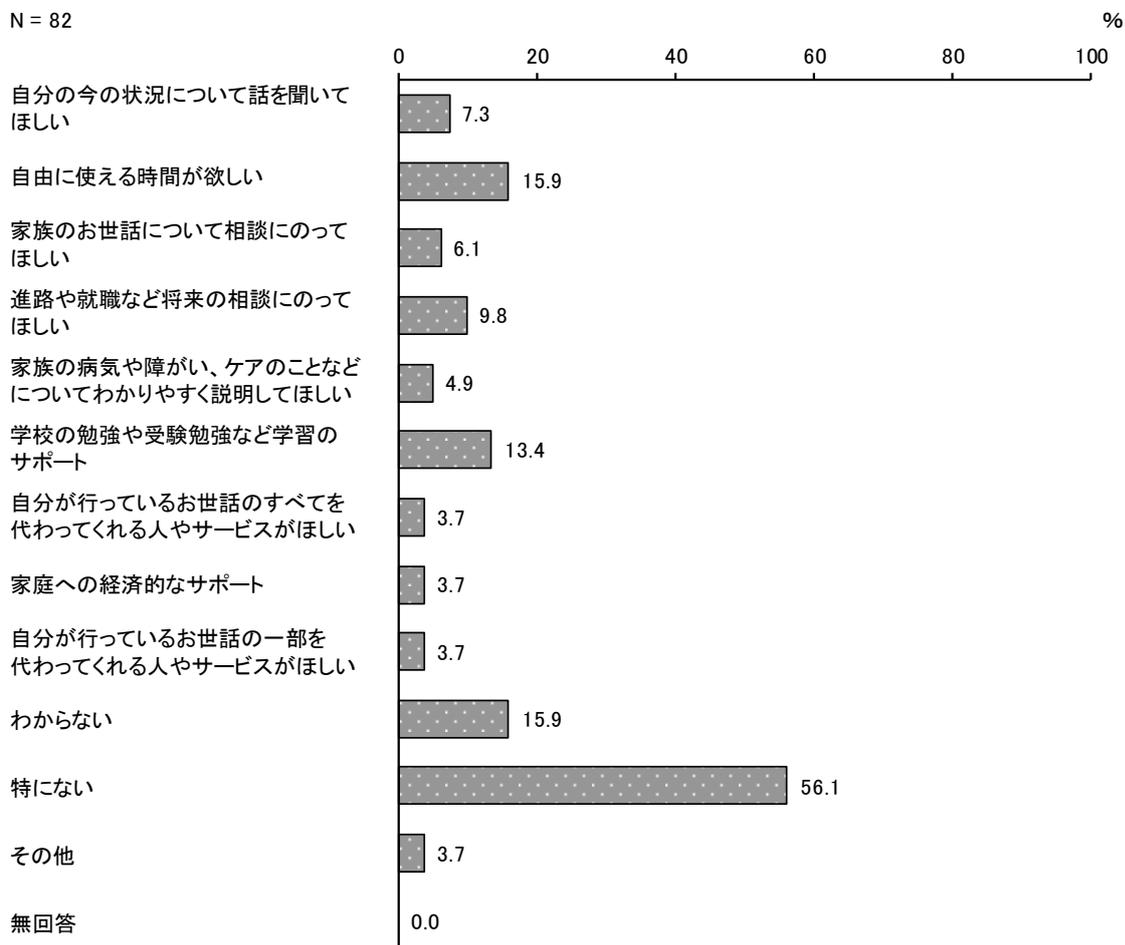
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群に比べ、一般群で「いる」の割合が高くなっています。



問 24 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。
(あてはまる番号すべてに○)

「特にない」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「自由に使える時間が欲しい」、「わからない」の割合が 15.9%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「特にない」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」「わからない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧(件)	自分の今の状況について話を聞いてほしい	自由に使える時間が欲しい	家族のお世話について相談にのってほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	家庭への経済的なサポート	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	わからない	特にない	その他	無回答
今回調査 男子	38	10.5	13.2	5.3	7.9	5.3	7.9	5.3	2.6	5.3	10.5	65.8	7.9	—
女子	39	5.1	17.9	5.1	12.8	2.6	17.9	2.6	5.1	2.6	17.9	51.3	—	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「家庭への経済的なサポート」「わからない」「特にない」「その他」を除くすべての項目の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

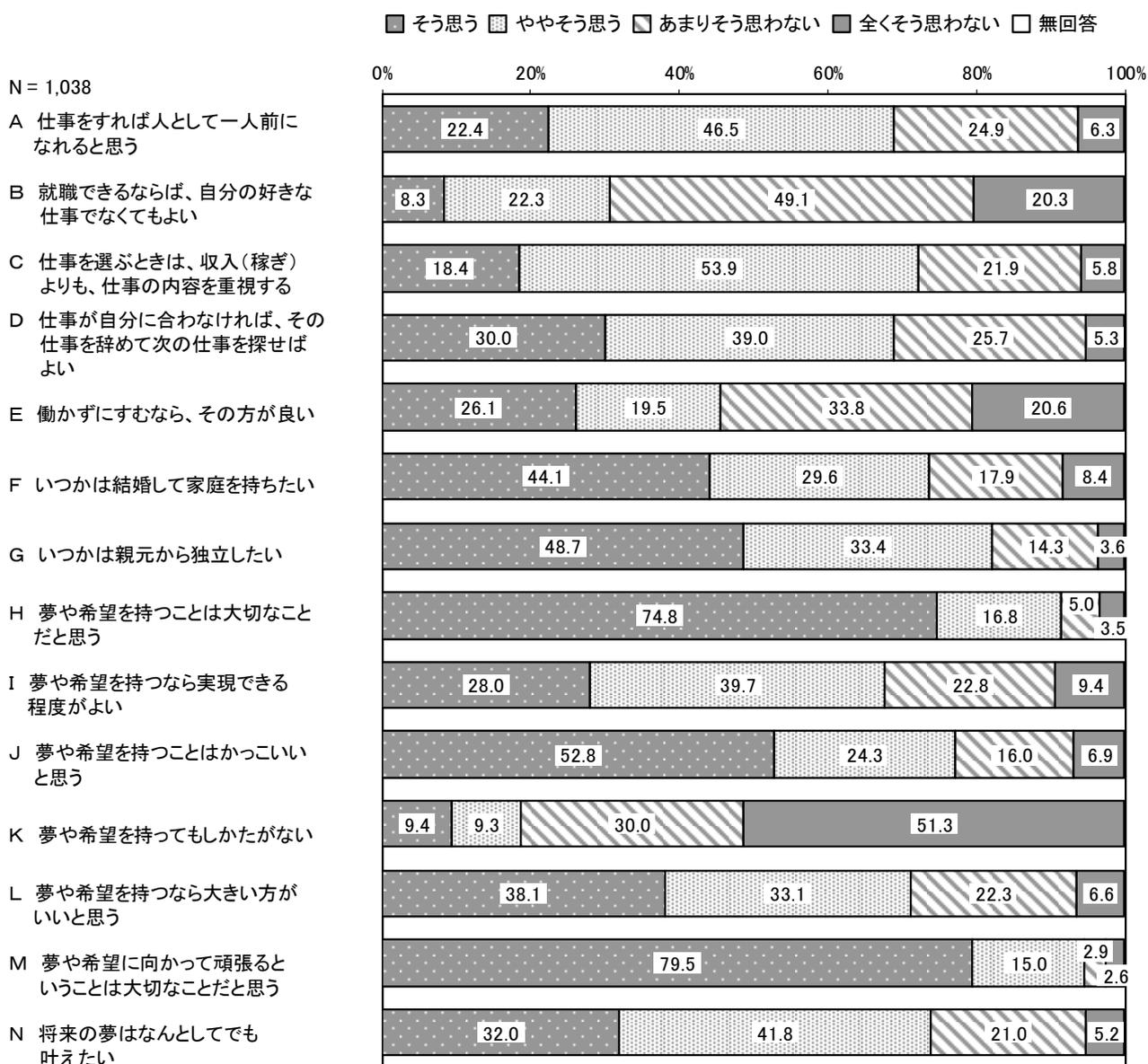
区分	≧(件)	自分の今の状況について話を聞いてほしい	自由に使える時間が欲しい	家族のお世話について相談にのってほしい	進路や就職など将来の相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	家庭への経済的なサポート	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	わからない	特にない	その他	無回答
広義のひきこもり群	2	—	—	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—
親和群	13	15.4	46.2	23.1	38.5	15.4	23.1	15.4	—	15.4	15.4	30.8	—	—
一般群	67	6.0	10.4	1.5	4.5	1.5	10.4	1.5	4.5	1.5	16.4	61.2	4.5	—

(3) 仕事や将来のことについて

問 25 次の仕事に対する考えで、あなたの考えに最も当てはまるものをそれぞれお答えください。

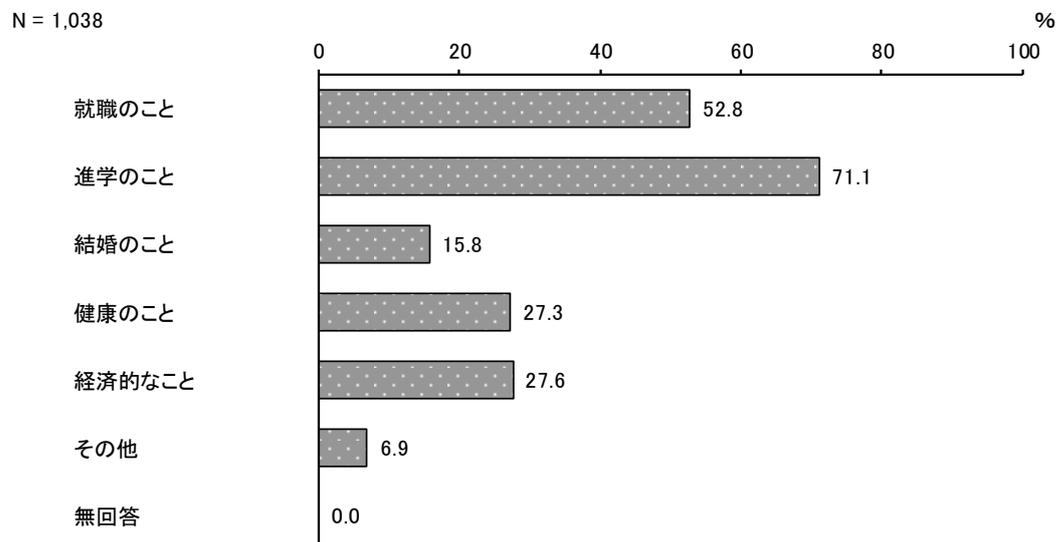
『H 夢や希望を持つことは大切なことだと思う』『M 夢や希望に向かって頑張るということは大切なことだと思う』で「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、9割を超えています。

一方、『B 就職できるならば、自分の好きな仕事でなくてもよい』『K 夢や希望を持ってもしかたがない』で「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、特に『K 夢や希望を持ってもしかたがない』で約8割となっています。



問 26 あなたが、将来に関することで不安に思っていることがあれば、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

「進学のこと」の割合が71.1%と最も高く、次いで「就職のこと」の割合が52.8%、「経済的なこと」の割合が27.6%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「結婚のこと」「経済的なこと」の割合が、男子に比べ、女子で「進学のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	≧ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
今回調査 男子	502	52.8	66.3	19.3	28.3	30.7	7.4	—
女子	494	53.8	76.5	11.9	26.1	24.3	4.5	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「就職のこと」「結婚のこと」「経済的なこと」の割合が高くなっています。

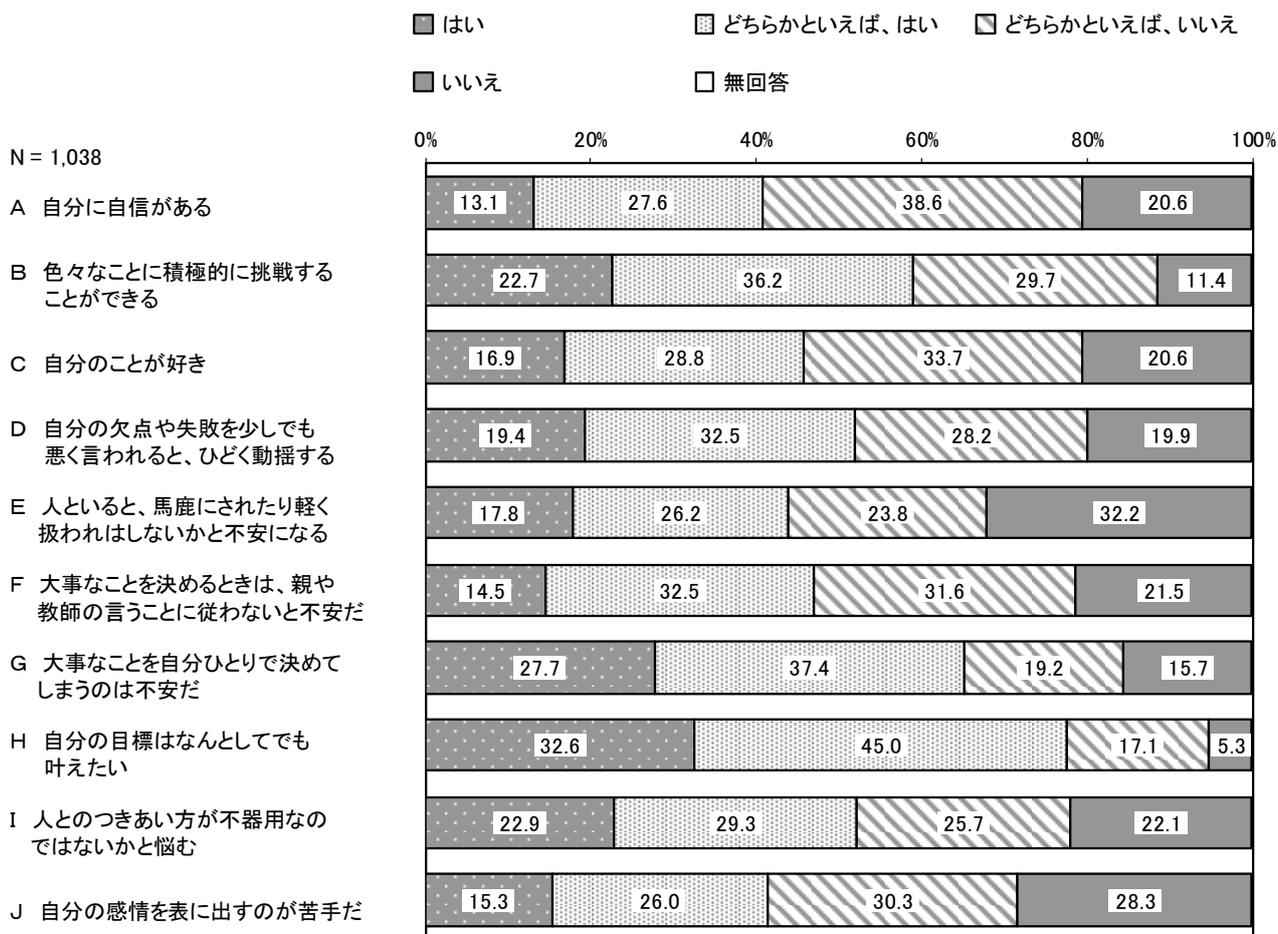
単位：％

区分	≧ (件)	就職のこと	進学のこと	結婚のこと	健康のこと	経済的なこと	その他	無回答
広義のひきこもり群	7	42.9	28.6	—	28.6	14.3	28.6	—
親和群	136	61.8	73.5	20.6	29.4	36.0	2.9	—
一般群	893	51.5	71.1	15.1	26.9	26.5	7.4	—

問 27 次にあげられたことについて、あなた自身に当てはまるものをそれぞれお答えください。

『H 自分の目標はなんとしてでも叶(かな)えたい』『Q 理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う』で「はい」と「どちらかといえば、はい」をあわせた“はい”の割合が高く、約8割となっています。

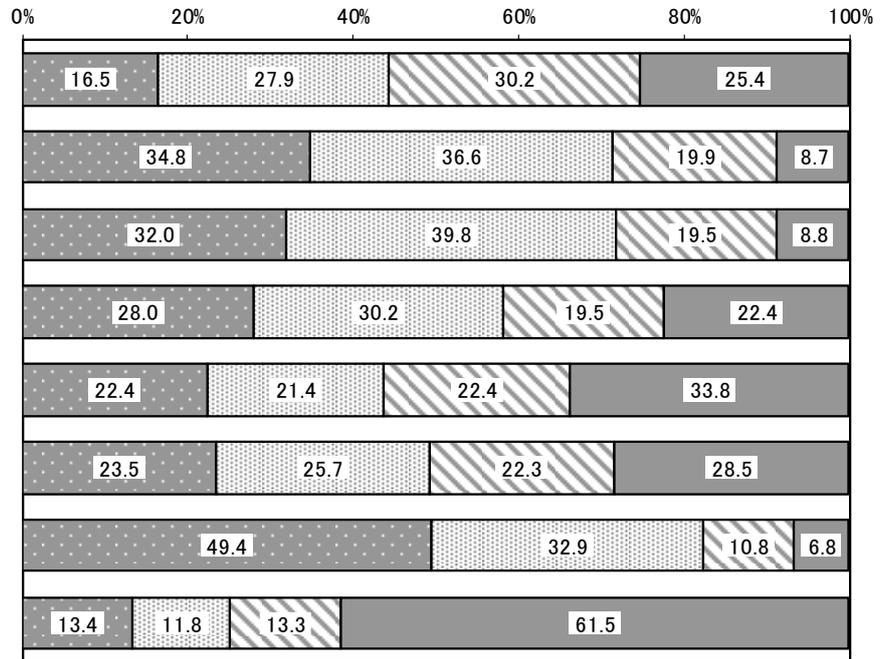
一方、『R 自殺を考えたことがある』で「どちらかといえば、いいえ」と「いいえ」をあわせた“いいえ”の割合が高く、7割半ばとなっています。



はい どちらかといえば、はい どちらかといえば、いいえ
 いいえ 無回答

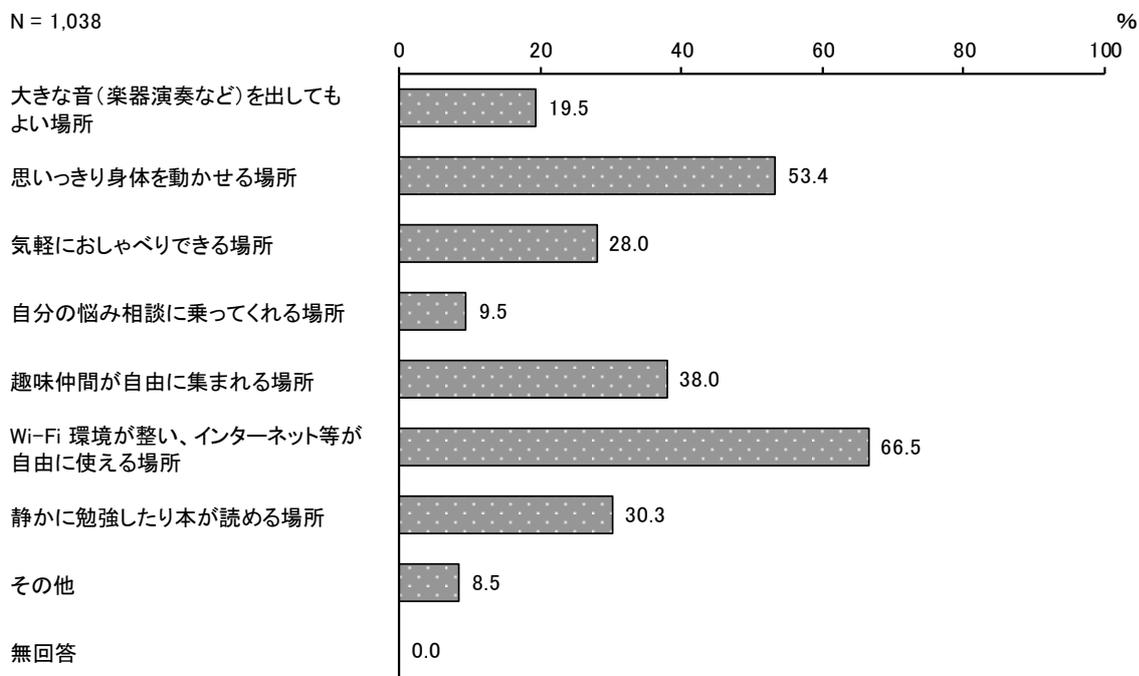
N = 1,038

- K 周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない
- L たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい
- M 自分の生活のことで人から干渉されたくない
- N 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- O 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- P 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- Q 理由があるなら家や自室に閉じこもるのは仕方がないと思う
- R 自殺を考えたことがある



問 28 あなたは、若者向けにどんな場所がもっと川西市にあればよいと思いますか。
(○は3つまで)

「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が 66.5%と最も高く、次いで「思いっきり身体を動かせる場所」の割合が 53.4%、「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が 38.0%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「思いっきり身体を動かせる場所」「趣味仲間が自由に集まれる場所」「Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「気軽におしゃべりできる場所」「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」「静かに勉強したり本が読める場所」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		≧ (件)	大きな音(楽器演奏など)を出してもよい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
今回調査	男子	502	17.1	61.6	23.9	6.4	42.4	68.9	23.9	8.0	—
	女子	494	21.7	47.6	33.4	13.2	33.0	63.2	37.7	7.1	—

【ひきこもり類別】

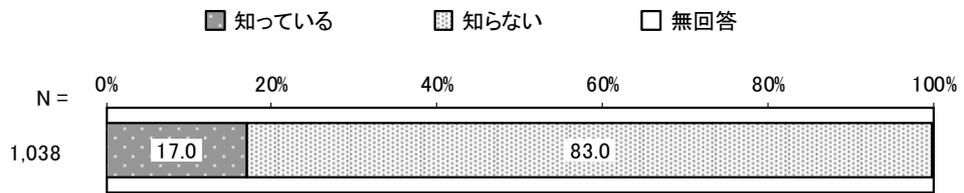
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「大きな音(楽器演奏など)を出してもよい場所」「自分の悩み相談に乗ってくれる場所」「趣味仲間が自由に集まれる場所」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「思いっきり身体を動かせる場所」「気軽におしゃべりできる場所」の割合が高くなっています。

単位：%

区分		≧ (件)	大きな音(楽器演奏など)を出してもよい場所	思いっきり身体を動かせる場所	気軽におしゃべりできる場所	自分の悩み相談に乗ってくれる場所	趣味仲間が自由に集まれる場所	Wi-Fi 環境が整い、インターネット等が自由に使える場所	静かに勉強したり本が読める場所	その他	無回答
広義のひきこもり群		7	14.3	42.9	—	14.3	28.6	71.4	—	28.6	—
親和群		136	29.4	34.6	22.1	16.2	42.6	67.6	32.4	6.6	—
一般群		893	18.0	56.3	29.2	8.5	37.2	66.4	30.2	8.6	—

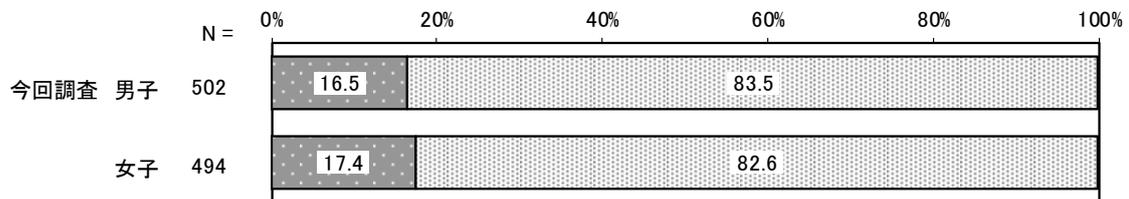
問 29 あなたは、子どもや若者の悩みや聞いてほしいことがあったときに相談できる、川西市の「子ども・若者ステーション」を知っていますか。

「知っている」の割合が 17.0%、「知らない」の割合が 83.0%となっています。



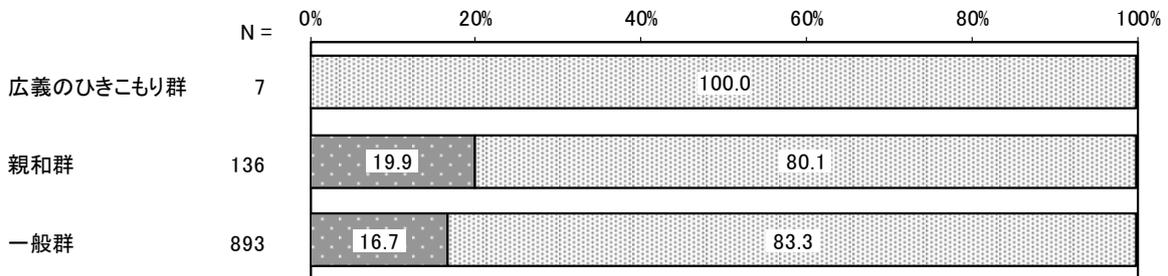
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



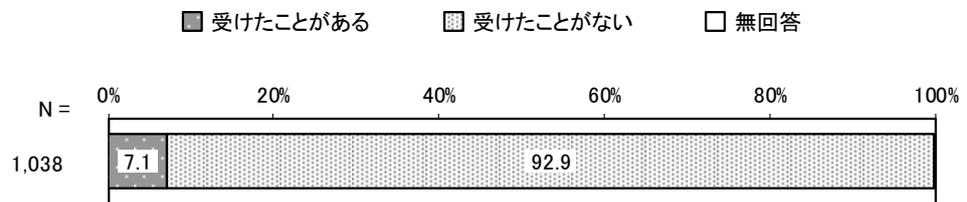
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



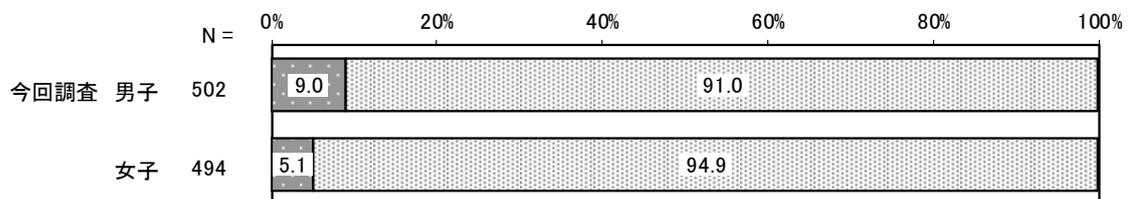
問 30 あなたは、現在もしくは過去に市役所などの公的機関から何らかの支援を受けたことはありますか。

「受けたことがある」の割合が 7.1%、「受けたことがない」の割合が 92.9%となっています。



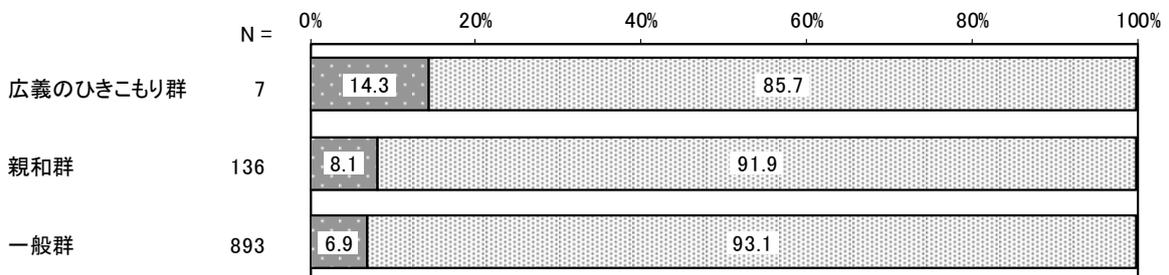
【男女別】

男女別でみると、大きな差異はみられません。



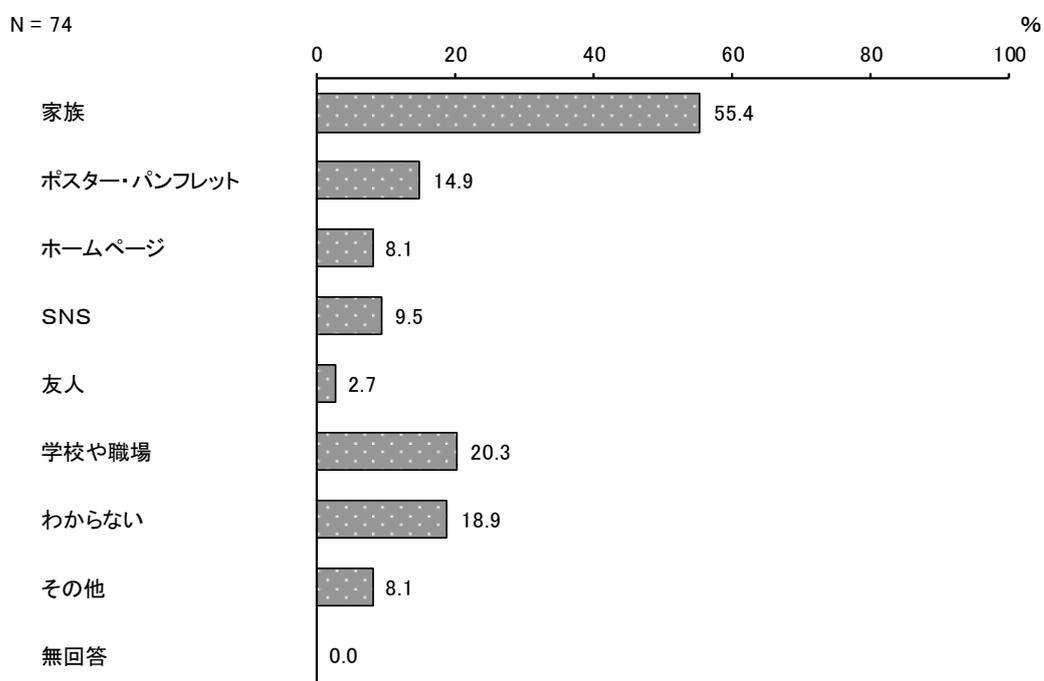
【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、親和群と一般群で大きな差異はみられません。



問 31 あなたは、その支援をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

「家族」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「学校や職場」の割合が 20.3%、「わからない」の割合が 18.9%となっています。



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「学校や職場」の割合が、男子に比べ、女子で「家族」「SNS」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧ (件)	家族	ポスター・ パンフレット	ホームページ	S N S	友人	学校や 職場	わからない	その他	無 回 答
今回調査 男子	45	51.1	13.3	8.9	4.4	4.4	24.4	17.8	11.1	—
女子	25	64.0	12.0	4.0	12.0	—	12.0	20.0	—	—

【ひきこもり類別】

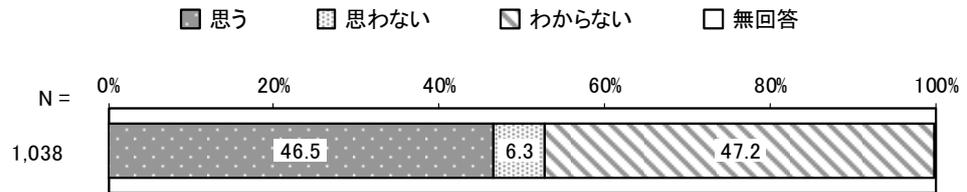
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「わからない」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「家族」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	≧ (件)	家族	ポスター・ パンフレット	ホームページ	S N S	友人	学校や 職場	わからない	その他	無 回 答
広義のひきこもり群	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
親和群	11	9.1	18.2	9.1	9.1	—	18.2	45.5	9.1	—
一般群	62	62.9	14.5	8.1	9.7	3.2	21.0	14.5	8.1	—

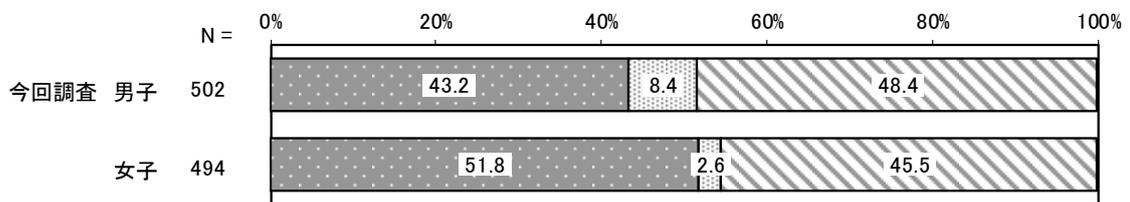
問 32 あなたは、今後困っている子どもや若者を支援したいと思いますか。

「わからない」の割合が47.2%と最も高く、次いで「思う」の割合が46.5%となっています。



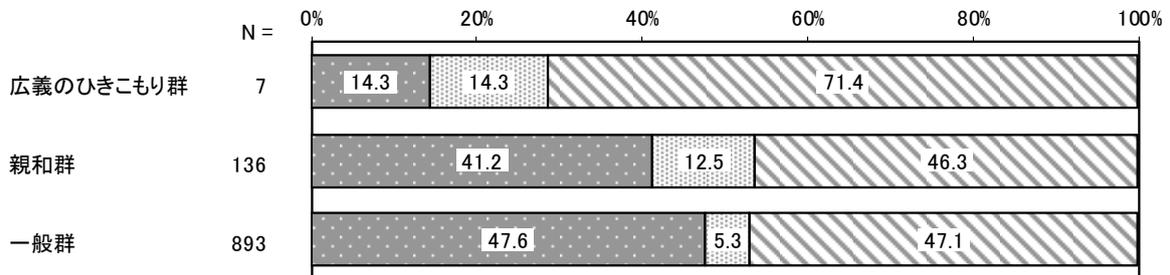
【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「思わない」の割合が、男子に比べ、女子で「思う」の割合が高くなっています。



【ひきこもり類別】

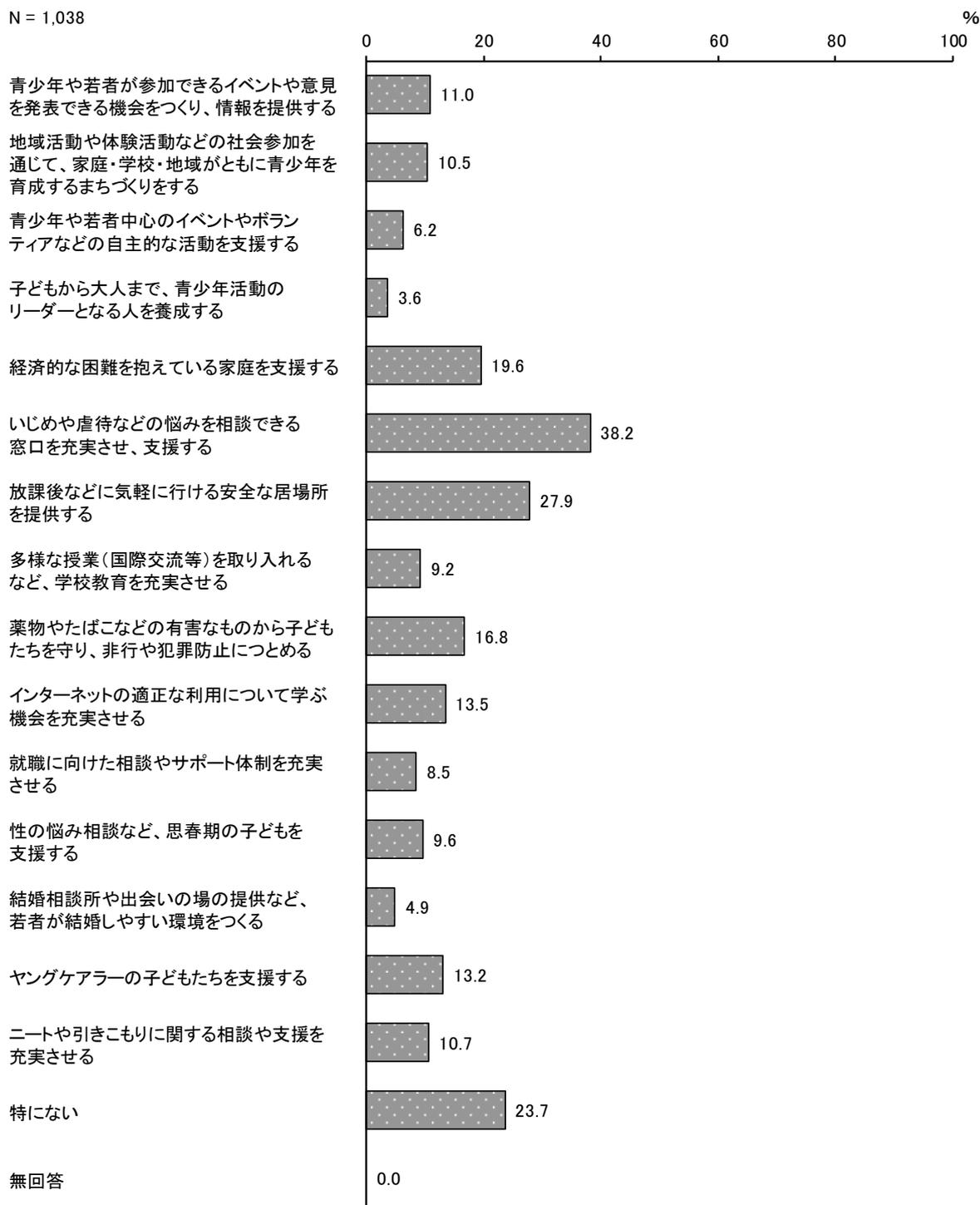
ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「思わない」の割合が高くなっています。



問 33 あなたは、川西市が取り組む青少年や若者の支援にどんなことを望みますか。
(○は3つまで)

「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」の割合が 27.9%、「特にない」の割合が 23.7%となっています。

N = 1,038



【男女別】

男女別でみると、女子に比べ、男子で「青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する」「特にない」の割合が高くなっています。また、男子に比べ、女子で「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する」「ヤングケアラー※1の子どもたちを支援する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分		≧(件)	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる	
今回調査	男子	502	14.3	12.5	7.0	4.6	15.9	32.9	19.5	7.2	
	女子	494	7.9	8.9	5.9	2.8	24.3	44.9	36.4	11.3	
区分			薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ネットや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特にない	無回答
今回調査	男子		18.7	14.7	8.8	4.8	5.8	10.6	11.4	29.5	—
	女子		15.8	12.8	8.3	14.2	4.3	16.0	10.3	16.0	—

【ひきこもり類別】

ひきこもり類別でみると、広義のひきこもり群を除いて、一般群に比べ、親和群で「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」「性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する」の割合が高くなっています。また、親和群に比べ、一般群で「特にない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	ニ (件)	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	青少年や若者が中心のイベントやボランティアなどの自主的な活動を支援する	地域活動や体験活動などの社会参加を通じて、家庭・学校・地域がともに青少年を育成するまちづくりをする	青少年や若者が参加できるイベントや意見を発表できる機会をつくり、情報を提供する	子どもから大人まで、青少年活動のリーダーとなる人を養成する	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する	放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する	多様な授業（国際交流等）を取り入れるなど、学校教育を充実させる
広義のひきこもり群	7	—	—	14.3	14.3	—	28.6	28.6	—	
親和群	136	7.4	6.6	5.1	5.1	19.9	44.1	33.8	6.6	
一般群	893	11.6	11.2	6.3	3.2	19.7	37.3	27.0	9.6	

区分	薬物やたばこなどの有害なものから子どもたちを守り、非行や犯罪防止につとめる	インターネットの適正な利用について学ぶ機会を充実させる	就職に向けた相談やサポート体制を充実させる	性の悩み相談など、思春期の子どもを支援する	結婚相談所や出会いの場の提供など、若者が結婚しやすい環境をつくる	ヤングケアラーの子どもたちを支援する	ニートや引きこもりに関する相談や支援を充実させる	特にない	無回答
広義のひきこもり群	—	14.3	—	14.3	—	—	28.6	14.3	—
親和群	14.7	13.2	11.8	16.2	5.1	14.7	13.2	18.4	—
一般群	17.1	13.5	8.1	8.6	4.8	13.1	10.1	24.6	—

(仮称) 川西市子ども・若者未来計画 (案)

令和5年(2023年)3月
川西市・川西市教育委員会

目 次 (案)

第1章	*****	****
1	*****	****
2	*****	****
3	*****	****
4	*****	****
5	*****	****
第2章	子ども・若者を取り巻く現状	****
1	人口と世帯の状況	****
2	*****	****
3	*****	****
4	子ども・若者の状況	****
第3章	計画の考え方	****
1	基本理念	****
2	基本目標	****
3	計画の体系	****
第4章	*****	****
基本目標1	*****	****
基本目標2	*****	****
基本目標3	*****	****
基本目標4	*****	****
第5章	若者育成支援施策の展開	****
基本目標5	すべての子ども・若者の健やかな成長と自立を支援する	****
基本目標6	社会生活を円滑に営む上で、困難を有する子ども・若者とその家族を支援する	****

第6章 ***** **
1 ***** **
2 ***** **
3 ***** **

第7章 ***** **
1 ***** **
2 ***** **
3 ***** **

第8章 ***** **
1 ***** **
2 ***** **
3 ***** **

参考資料..... **
1 ***** **
2 ***** **
3 ***** **
4 ***** **
5 ***** **

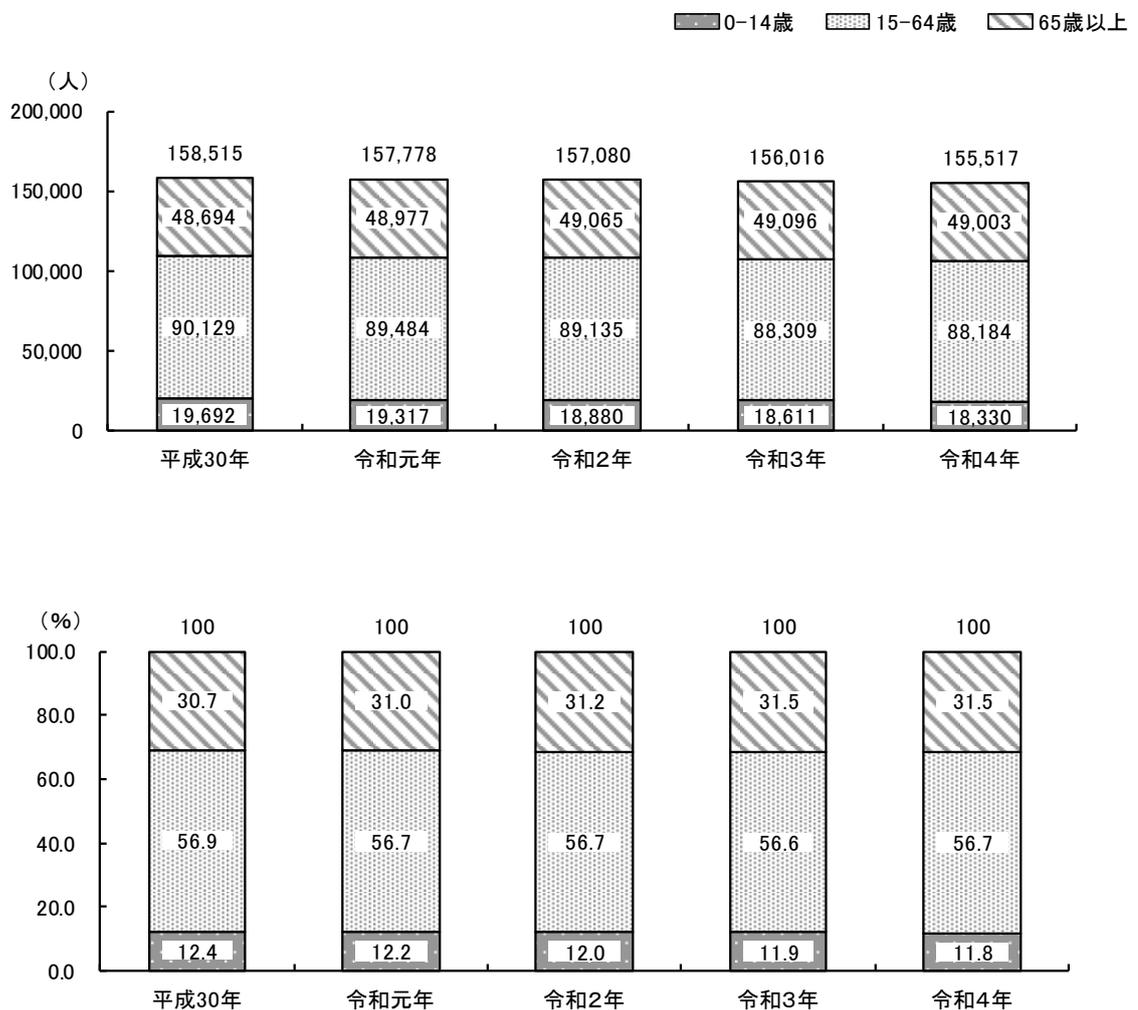
第2章 子ども・若者を取り巻く 現状

I 人口と世帯の状況

1. 人口の推移

① 総人口に占める年齢別の推移

総人口は減少傾向にあり、令和4年は155,517人となっています。0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は減少、65歳以上の老年人口は増加しています。令和4年の高齢化率（65歳以上の人口の全人口に占める比率）は31.5%となっています。



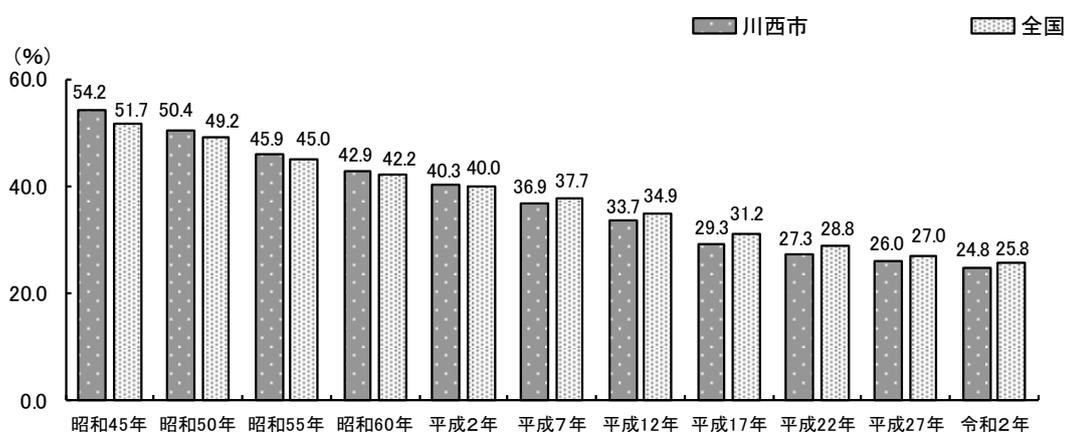
出典：川西市住民基本台帳（各年3月末時点）

② 子ども・若者の人口

国勢調査によると、全国の0～29歳の子ども・若者の総人口に占める割合は、平成2年には40%でしたが、その後も減少を続け、令和2年に25.8%まで減少しています。川西市の同期間の割合も、40.3%から24.8%へと減少し、同じ傾向が見られます【図1】。

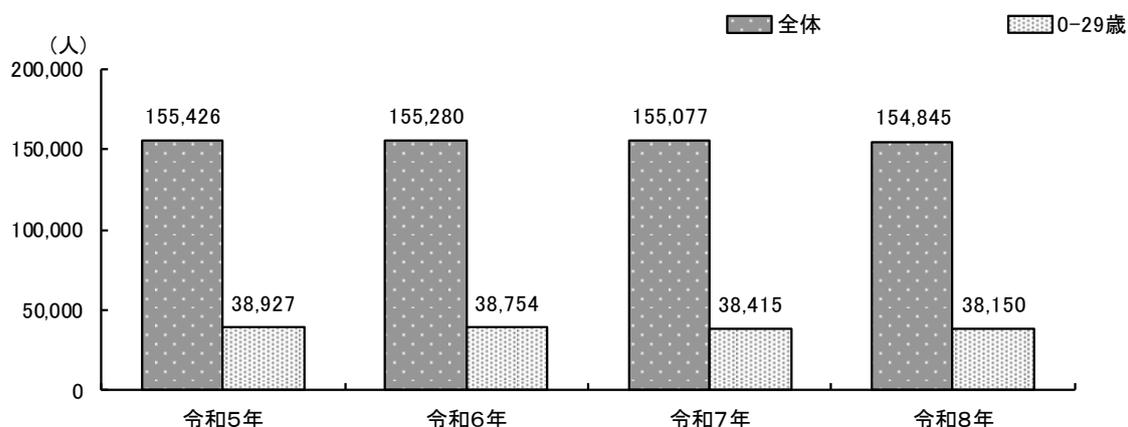
また、川西市の人口推計では、令和8年度には24.6%となることが予測されています【図2】。

<総人口に占める 29 歳以下の割合【図 1】>



出典：国勢調査

<川西市の将来推計における人口推移【図 2】>



出典：市独自推計

※人口推計の考え方…川西市住民基本台帳（各年3月末時点）に基づき、中学校区ごとの人口をコーホート変化率法で算出し、積み上げた数値をもとに推計。

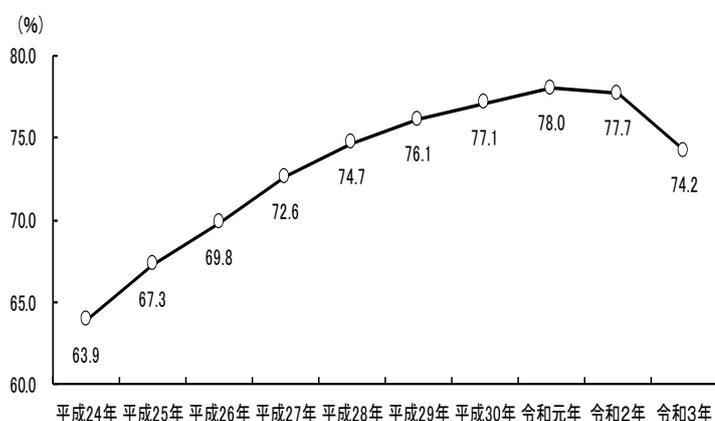
3. 若者の就職・離職状況など

文部科学省「学校基本調査」によると、大学の卒業者の就職率は令和元年には78%となりましたが、令和3年には74.2%へ減少しています。減少の背景には、新型コロナウイルス感染症による影響があると考えられます【図1】。

また、大学を卒業して就職した人のうち31.2%が就職後3年以内に離職するなど、雇用のミスマッチが生まれており、就労を継続することへの支援や離職後の支援が課題となっています【図2】。

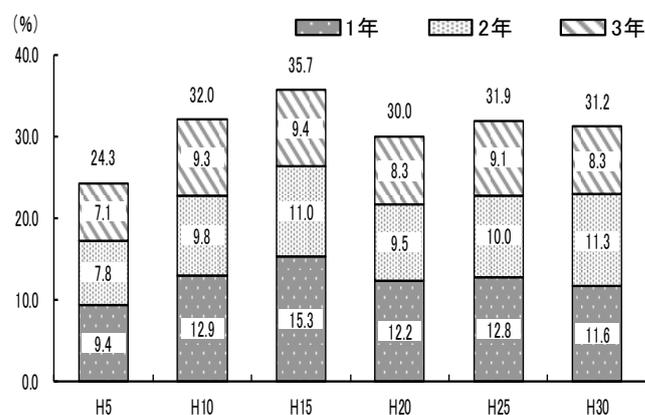
高校生で就きたい職業が「はっきりとある」「ぼんやりとある」と回答した人の割合は横ばいとなっています。また、就きたい職業がない理由としては「自分のやりたいことが分からない」、「どんな職業があるのか分からない」、「職業について真剣に考えたことがない」などの割合が増加しています【図3】【図4】。

＜大学（学部）卒業者の就職者割合（3月）【図1】＞



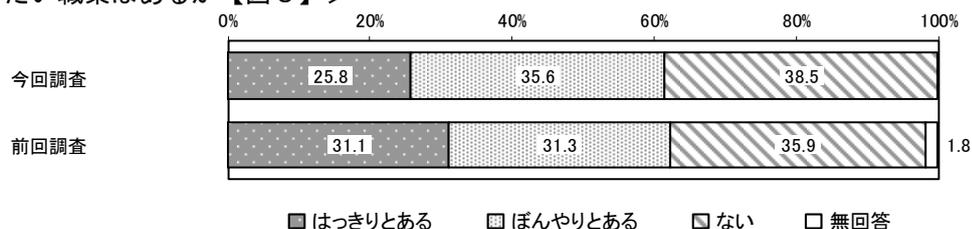
出典：文部科学省「学校基本調査」

＜新卒大卒者の在職期間別の離職率【図2】＞

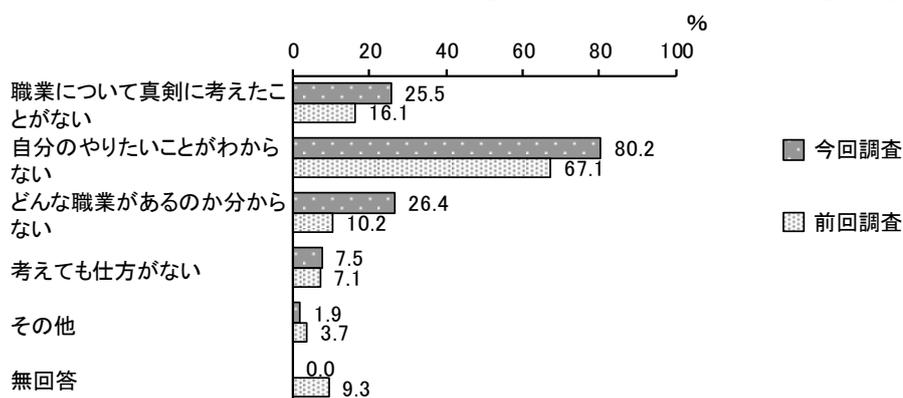


出典：厚生労働省「新規学校卒業者の就業状況調査」

＜【高校生】就きたい職業はあるか【図3】＞



＜【高校生】就きたい職業がない理由（図3で「ない」と答えた人）（複数回答）【図4】＞



出典：令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

4 子ども・若者の状況

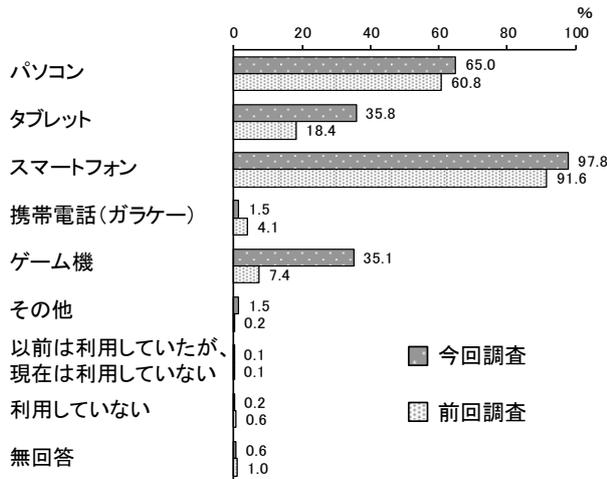
1. 子ども・若者を取り巻く現状

スマートフォンの普及やSNSの利用などにより、近年の子ども・若者を取り巻く状況は大きく変化しています。

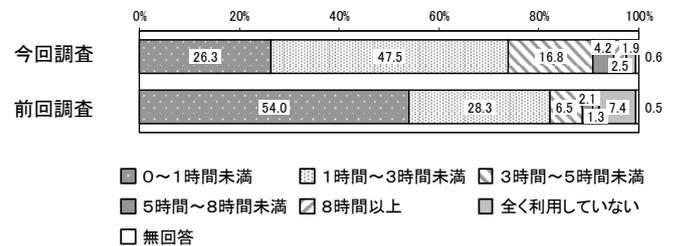
令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によると、インターネット機器でスマートフォンの利用が97%を超え、タブレット利用も4割に迫るなど、Webアクセス機器の多様化が見られます【図1】。また、SNSを利用している人も95%を超え、さらに1日あたり使用時間の長時間化が見られます。【図2】。

「親友がいる」と答えた人の中で、その友人は「学生のとときに知り合った友人」が86.9%であり、ネットで知り合った友人は2.3%という結果が出ており、前回調査と比べ、大きな変化はありません【図3】。また、「家族と仲が良いと思うか」という問いに対しては、95%が「そう思う」「ややそう思う」と答えており、多くの若者が、現在も日常生活上の社会関係を大切にしていると考えられます【図4】。

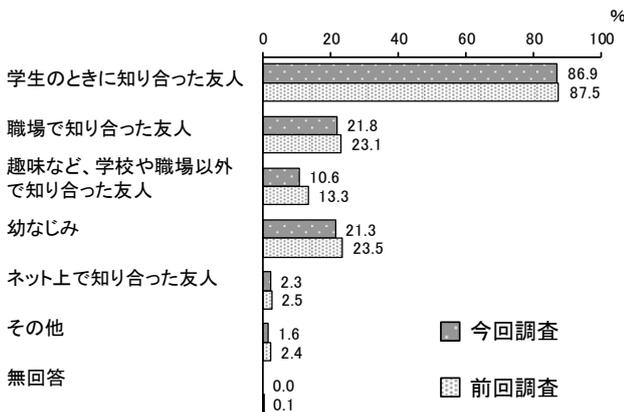
<【一般】どんなインターネット機器を利用しているか（複数回答）【図1】>



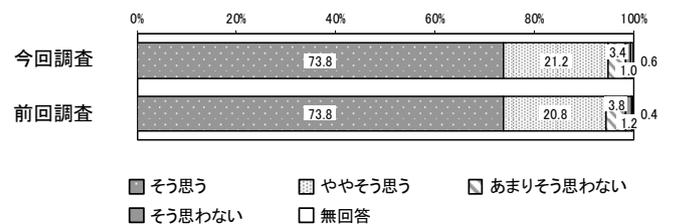
<【一般】1日にどれくらいSNSを使うか（平日）【図2】>



<【一般】親友と呼べる人はどんな人か（複数回答）【図3】>



<【一般】家族と仲が良いと思うか【図4】>



出典：令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

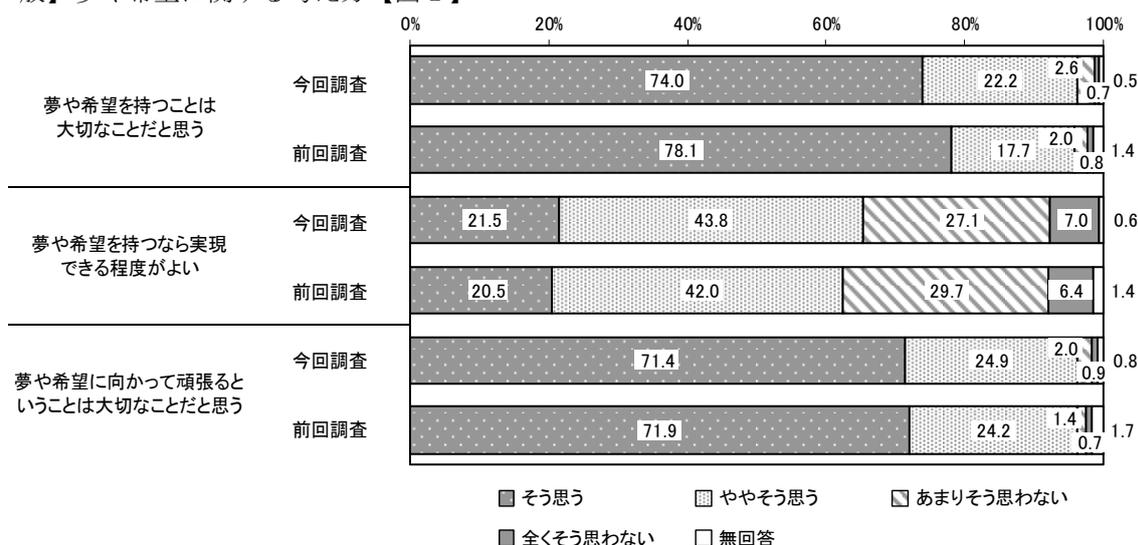
2. 若者の気質

令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によると、「夢を持つことは大切なことだと思う」について「そう思う」「ややそう思う」と答えた人が96.2%で、「夢や希望に向かって頑張るといことは大切なことだと思う」については96.3%が「そう思う」「ややそう思う」と答えています。前回調査とほとんど同じ割合となっており、夢を持ち、それを実現させようとするということについて、肯定的な立場の若者が多くみられます【図1】。

しかし、「夢や希望を持つなら実現できる程度がよい」については、65.3%が「そう思う」「ややそう思う」と答えるなど、現実的な考え方を持つ若者が多いことも伺えます【図1】。

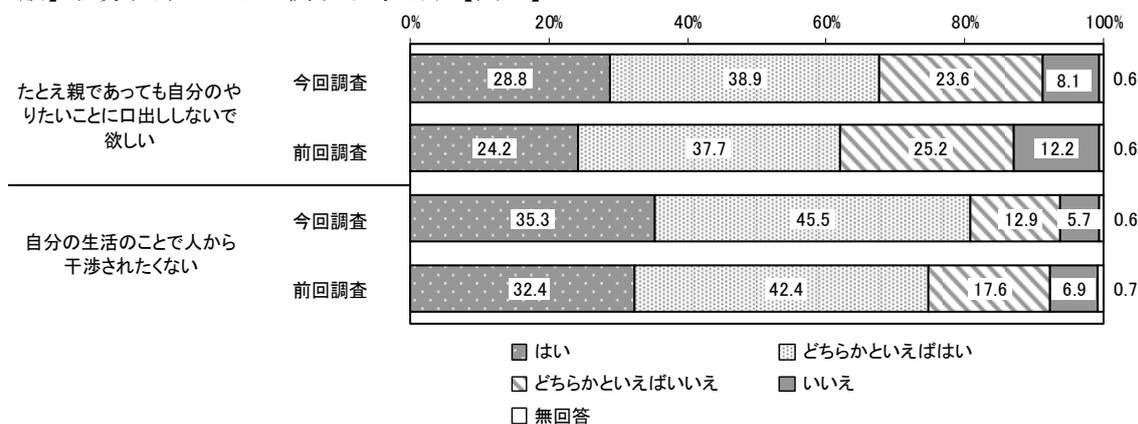
また、「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい」には67.7%が「はい」「どちらかといえばはい」と答え、「自分の生活のことで人から干渉されたくない」には80.8%が「はい」「どちらかといえばはい」と答えるなど、前回調査と比較してどちらも増加しており、個々人の価値観を尊重する傾向が見られます【図2】。

< 【一般】 夢や希望に関する考え方 【図1】 >



出典：令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

< 【一般】 自分自身のことに関する考え方 【図2】 >



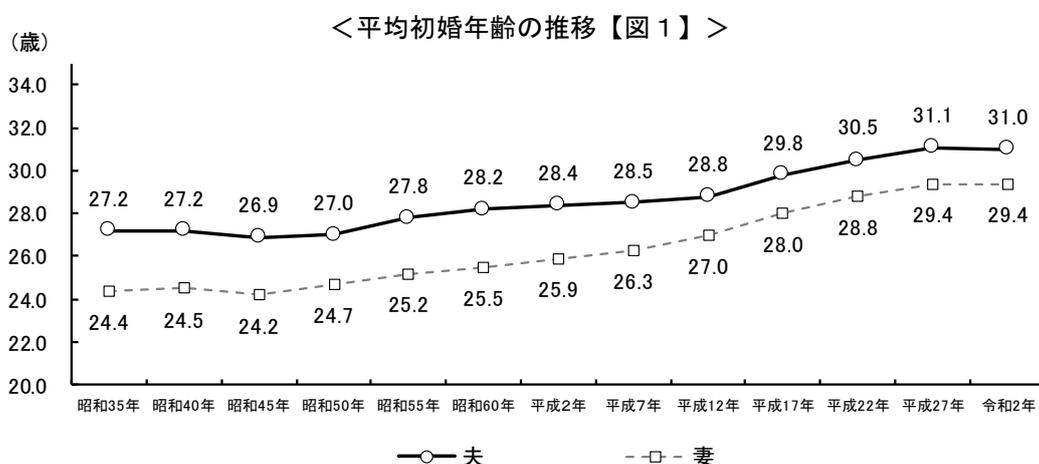
出典：令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

3. 家庭を持つことに対する捉え方

日本人の平均初婚年齢は、令和2年で、男性が31.0歳、女性が29.4歳と晩婚化が続いている状況です。昭和60年には、男性が28.2歳、女性が25.5歳で、35年間に男性は2.8歳、女性は3.9歳平均初婚年齢が上昇していることとなります【図1】。

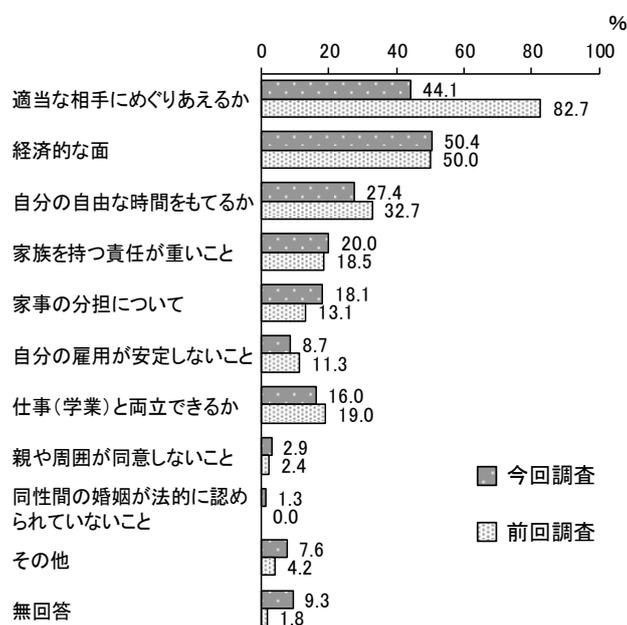
また、令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によれば、「あなたは、いつかは家庭を持ちたいですか」という問いに対し、59.7%が「はい」と答えており、前回調査の75%に比べて、家庭を持ちたいと考える人の割合が減少しています。

結婚に関しては、前述の問に「はい」と答えた人は経済的な面や適当な相手にめぐりあえるかどうか課題となっており、「いいえ」と答えた人では、自分の自由な時間を持てるかや家族を持つ責任が重いことが課題となっています【図2-1、2】。

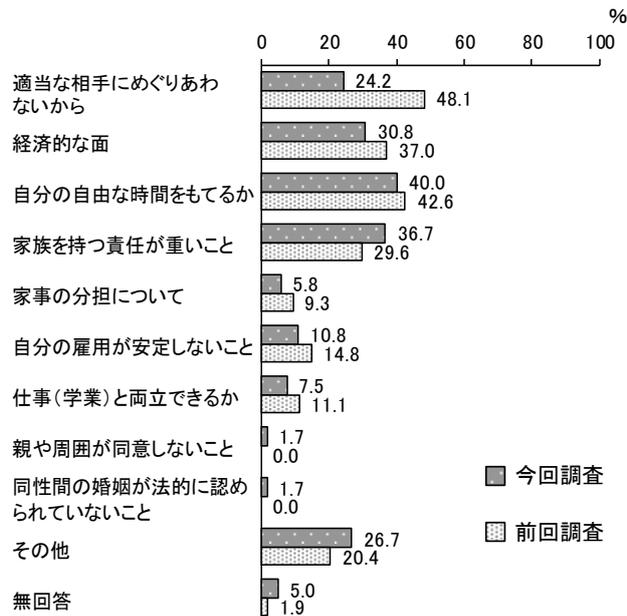


出典:厚生労働省「人口動態統計」

＜【一般】結婚したい人が抱えている不安(複数回答)【図2-1】＞



＜【一般】結婚したいと思わない人が「したくない」と思う理由(複数回答)【図2-2】＞



出典:令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

4. ひきこもりの子ども・若者

平成 28 年度に内閣府が示した「若者の生活に関する調査報告書」によれば、全国の 15 歳から 39 歳までの若者のうち、1.57%、約 54.1 万人がひきこもり状態にあると推計されています。性別を見ると、男性が 63.3%、女性が 36.7% となっており、年代別では 10 代が 10%、20 代が 49.0%、30 代が 40.8% となっています。

ひきこもり状態になってからの期間については「7 年以上」が 34.7% と、最も多くの割合を占めています。年代別で見ると、15 歳～ 19 歳、20 歳～ 24 歳においては「6 ヶ月～ 1 年」の人が、それぞれ 20.0%、33.3% となっているのに対し、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳では「7 年以上」がそれぞれ 70.0%、50.0% となっているなど、年齢を重ねるほど、長期に渡りひきこもりの状態が続く傾向にあります。

一方で、令和 4 年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によると、川西市におけるひきこもり状態にある人の割合は 1.82%で、推計者数は 646 人となります。また、川西市の調査結果ではひきこもり親和群の割合が全国調査に比べて高く、全国が 4.81%であるのに対し、川西市は 9.53%となっています。

ひきこもりとなった理由としては、「就職活動がうまくいかなかった」や「職場になじめなかった」「人間関係がうまくいかなかった」「不登校」などが挙げられます。

平成 26 年度に開設した「川西市子ども・若者総合相談窓口」の相談件数の推移を見ると、ひきこもりなどを相談内容とする延べ件数は、令和 3 年度は 368 件で、新規相談者数は 52 人となっています。相談者には、就業支援機関と連携を取るなど継続した支援も行き、令和元年度は 11 人、令和 2 年度は 21 人、令和 3 年度は 16 人が就業しています。

子ども・若者実態調査 前回調査及び国調査との比較

		回答者数	有効回答率	広義の ひきこもり群	ひきこもり 親和群
今回調査※1	一般	881 人	38.3%	16 人 (1.82%)	84 人 (9.53%)
	高校生	275 人	34.4%	0 人 (0.0%)	45 人 (16.36%)
	中学生	1,038 人	79.8%	7 人 (0.67%)	136 人 (13.10%)
前回調査	一般	1,114 人	37.1%	10 人 (0.90%)	79 人 (7.09%)
	高校生	898 人	93.5%	3 人 (0.33%)	93 人 (10.36%)
参考) 国※2		3,115 人	62.3%	49 人 (1.57%)	150 人 (4.81%)

※1 令和 4 年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」令和 4 年 1 月～5 月調査

- ・一般…19～39 歳、配付数 2,300 通
- ・高校生…市内の公立高等学校の 2 年生、配付数 800 通
- ・中学生…市内の公立中学校の 2 年生、配付数 1,300 通

※2 内閣府「若者の生活に関する調査報告書」(平成 27 年 12 月調査) 15～39 歳 5,000 人対象

全国におけるひきこもり推計者数

出典：内閣府「若者の生活に関する調査報告書」（平成 27 年 12 月調査）

	該当する回答者数	有効回答に占める割合	全国の推計者数	
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	33 人	1.06%	36.5 万人	準ひきこもり 36.5 万人
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	11 人	0.35%	12.1 万人	狭義の ひきこもり 17.6 万人
7. 自室からは出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない	5 人	0.16%	5.5 万人	
合計	49 人	1.57%	54.1 万人	広義のひきこもり 54.1 万人

川西市におけるひきこもり推計者数

出典：令和 4 年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

	該当する回答者数	有効回答に占める割合	川西市の推計者数※	
5. ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	8 人	0.91%	323 人	準ひきこもり 323 人
6. ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	8 人	0.91%	323 人	狭義の ひきこもり 323 人
7. 自室からは出るが、家からは出ない 又は自室からほとんど出ない	-	-	-	
合計	16 人	1.82%	646 人	広義のひきこもり 646 人

※推計者数は、令和 3 年 12 月末時点での「川西市年齢別人口表（住民基本台帳）」から算出（15～39 歳の人口は 35,436 人）。
上表では「一般」群におけるひきこもりの発生率を採用している。

○ひきこもりの定義

- ・広義のひきこもり 下記 1～4 の状態が 6 カ月以上続く人
- ・準ひきこもり 下記 1 の状態が 6 カ月以上続く人
- ・狭義のひきこもり 下記 2～4 の状態が 6 カ月以上続く人

- 1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する
- 2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
- 3 自室からは出るが、家からは出ない
- 4 自室からほとんど出ない

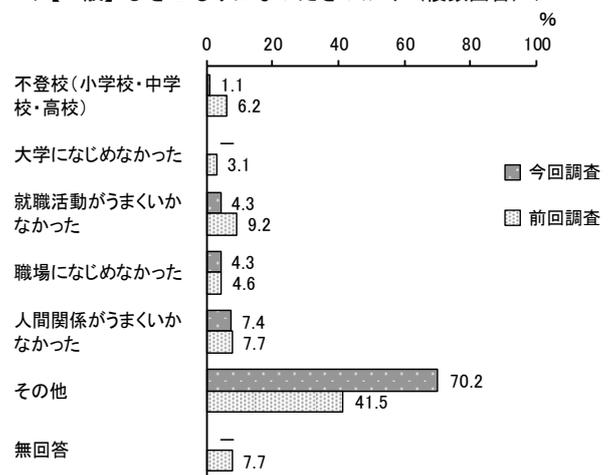
※ きっかけが「病気」「妊娠」「専業主婦・主夫又は家事手伝い」の人を除く。
また、「新型コロナウイルス感染症による外出制限」をきっかけとしているケースについても除いている。

○ひきこもり親和群の定義

- ・下記 1～4 に 3 項目以上当てはまる人で、「広義のひきこもり」でない人

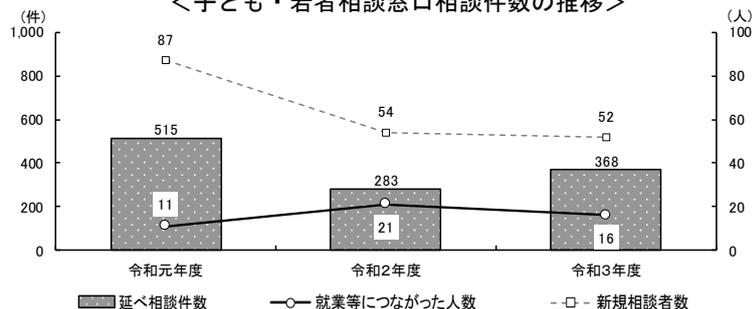
- 1 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- 2 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- 3 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- 4 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う

<【一般】ひきこもりになったきっかけ（複数回答）>



出典：令和 4 年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」

<子ども・若者相談窓口相談件数の推移>



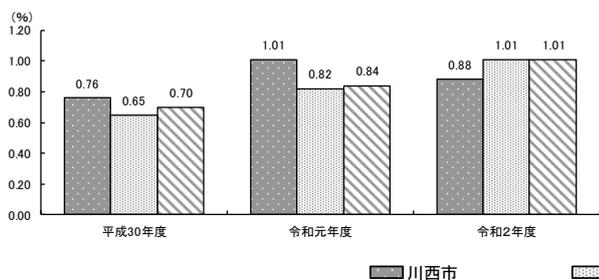
川西市子ども・若者総合相談窓口利用実績より

5. 不登校

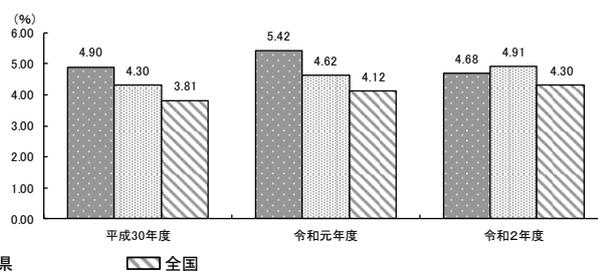
様々な原因・背景によって、学校に登校しない、もしくはできない児童・生徒がいます。文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、令和2年度時点で、全国の不登校者の全体に占める割合は小学校で1.01%、中学校で4.3%であり、川西市における不登校者数の全体に占める割合は、小学校で0.88%、中学校で4.68%となっています【図1-1、図1-2】。

また、兵庫県「令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」によると、国公立小中学校の不登校の要因について、小学校では「家庭にかかる状況」が最も多く、中学校では「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が最も多くなっています【図2】。

<不登校児童の割合（小学校）【図1-1】>

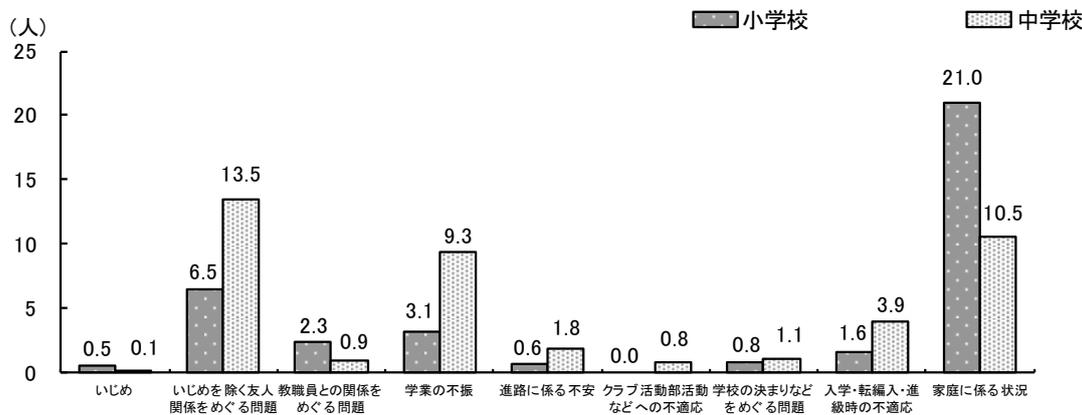


<不登校生徒の割合（中学校）【図1-2】>



出典：文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

<不登校となったきっかけと考えられる状況（複数回答）【図2】>



出典：兵庫県「令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」

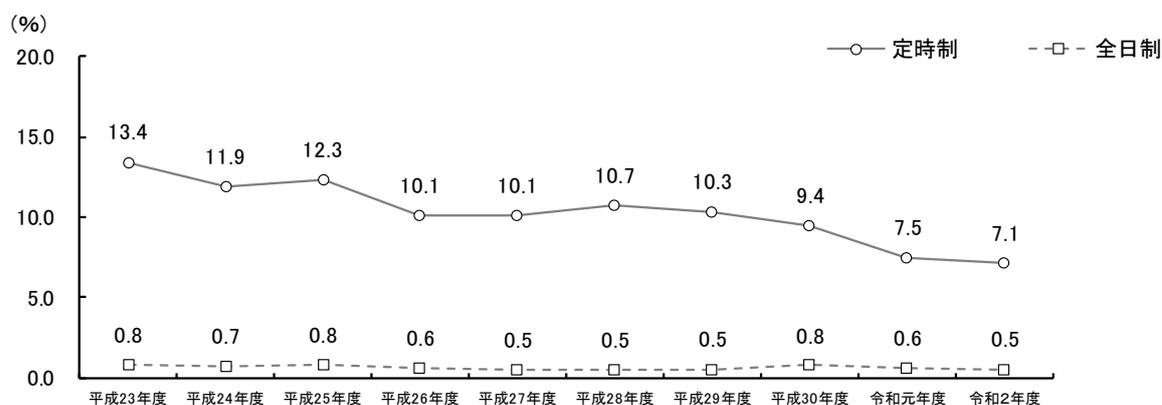
6. 高等学校中途退学者

全国の高等学校中途退学者数は、平成8年度の112,150人、中退率2.5%をピークに、増減を繰り返しながらも減少を続け、令和2年度は34,965人、中退率1.1%となっています。

兵庫県立高等学校における全日制課程の中退率は横ばい傾向にあり、令和2年度は425人、0.5%でした。一方、定時制課程では、減少傾向ではあるものの令和2年度は289人、7.1%となっています【図1】。

兵庫県「令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」によると、中途退学の主な理由は「進路変更」「学校生活・学業不適応」「学業不振」であり、これら3つの理由の合計が全体の90%を占めています【図2】。

＜兵庫県立高等学校における中退率の年度別推移【図1】＞



出典：兵庫県「令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」

＜県立高等学校における中退の主な事由【図2】＞

順位	1	2	3
	進路変更 58.1%	学校生活・学業不適応 25.9%	学業不振 5.9%
事由	内訳		
	別の高校への入学を希望	26.8%	
	就職を希望	13.7%	
	高卒認定試験を希望	4.8%	
	専修学校などへの入学を希望	3.2%	
	その他	9.7%	

資料：兵庫県「令和2年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動等の状況について」

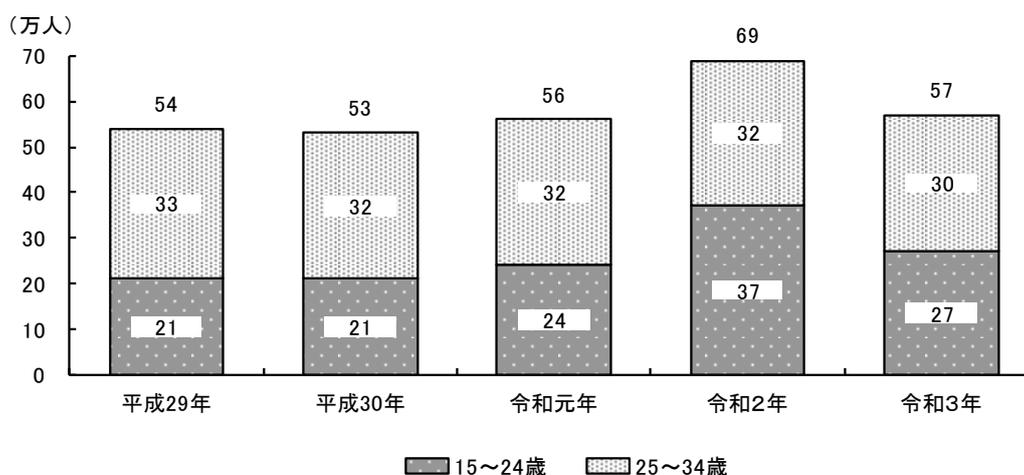
7. 若年無業者・フリーター

若者が充実した生活を送る上で就業は非常に重要であり、若年無業者^{※1}やフリーター^{※2}、非正規雇用率の高さなどが、産業構造や就業形態の変化による課題として挙げられます。

総務省「労働力調査」によると、若年無業者数は増加傾向にあり、特に令和2年は令和元年に比べ大きく増加し、約69万人となっています【図1】。

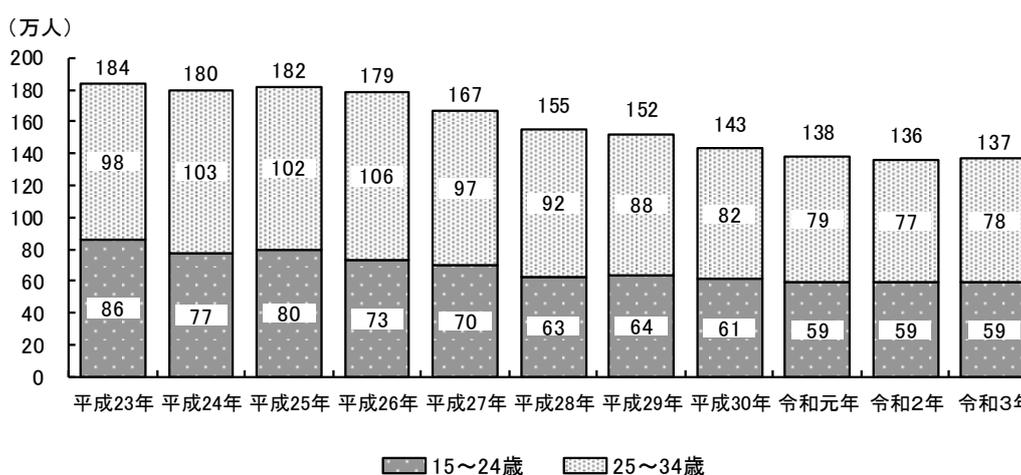
全国のフリーター数は、平成23年の184万人をピークに年々減少し、令和元年以降は横ばいとなっています【図2】。

<若年無業者数の推移（全国）【図1】>



出典：総務省「労働力調査」

<フリーター数の推移（全国）【図2】>



出典：総務省「労働力調査」

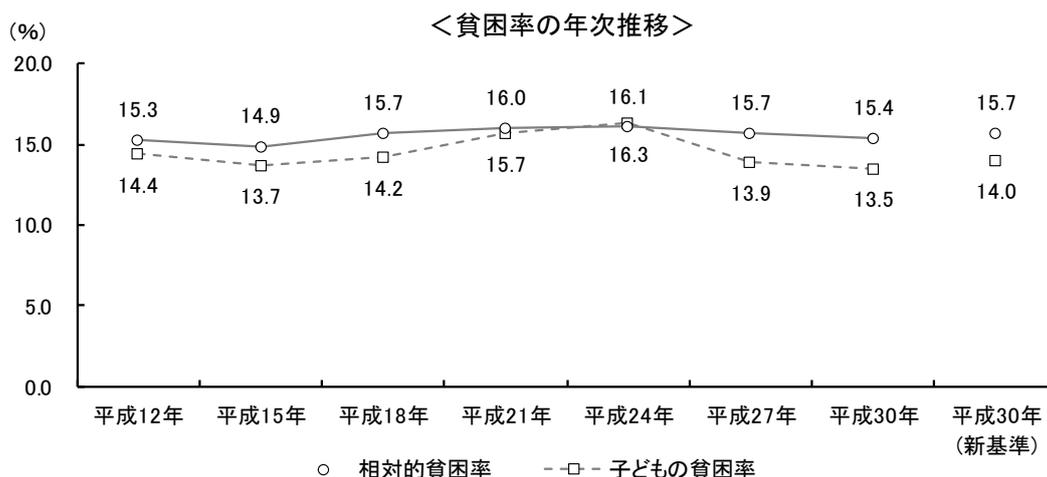
※1 若年無業者…高校や大学などの学校及び予備校・専修学校などに通学しておらず、配偶者のいない独身者であり、普段収入を伴う仕事していない15歳以上34歳以下の人

※2 フリーター…15歳から34歳で、男性は卒業生、女性は卒業生で未婚の者であることに加え、勤め先またはその希望先がパート・アルバイト（家事や通学もしていない）の人

8. 経済的な困窮

子どもやその保護者にとって、経済的な困窮は、普段の生活や将来に大きな影響を与えます。厚生労働省が示す令和元年「国民生活基礎調査」によると、「子どもの貧困率^{※1}」は、平成30年には15.7%となっており、約7人に1人の子どもが貧困線^{※2}に満たないという結果が出ています。

また、ひとり親家庭の高校・大学などへの進学率が低い傾向にあります。



※新基準とは、所得定義の可処分所得の算出に用いる拠出金の中に、新たに自動車税等及企業年金を追加

出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

＜貧困線の推移＞

単位：万円

項目	平成12年	平成15年	平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年	平成30年(新基準)
貧困線	137	130	127	125	122	122	127	124

出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

＜ひとり親家庭の子どもの進学率＞

項目	ひとり親家庭	全世帯
高校などへの進学率	96.3%	98.9%
大学などへの進学率	58.5%	73.2%

出典：平成28年度「全国ひとり親世帯等調査」、平成28年度「学校基本調査」

※1 子どもの貧困率…17歳以下の子ども全体に占める貧困線に満たない17歳以下の子どもの割合

※2 貧困線…等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得の中央値の半分の額。それに満たない世帯員の割合を相対的貧困率という

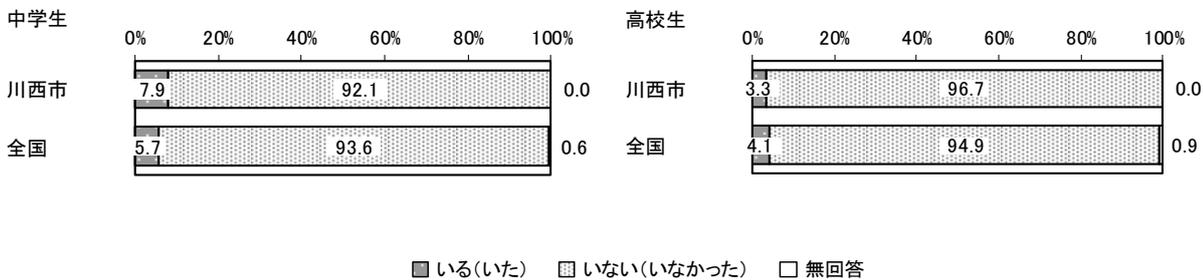
9. ヤングケアラー

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことです。

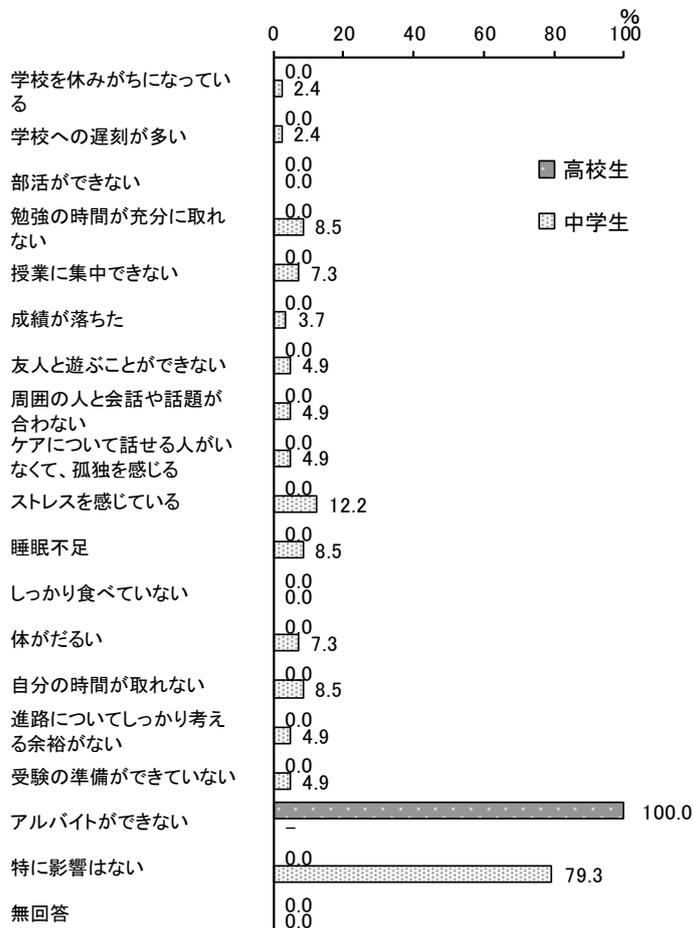
川西市で、自宅で家族をお世話（ケア）をしている人は、中学生では7.9%と国に比べて高く（国：5.7%）、高校生では3.3%と低く（国：4.1%）なっています【図1】。

お世話（ケア）による自分への影響について、中学生では約8割が特に影響はないと答えています。残りの2割は日常生活や学校生活などで影響が出ており、支援の必要な子どもたちに対して必要な支援へつなげていくことが必要です。【図2】。

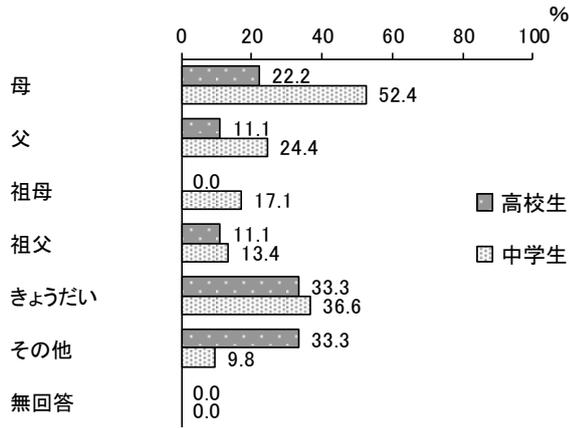
<自宅でお世話（ケア）をする人の有無【図1】>



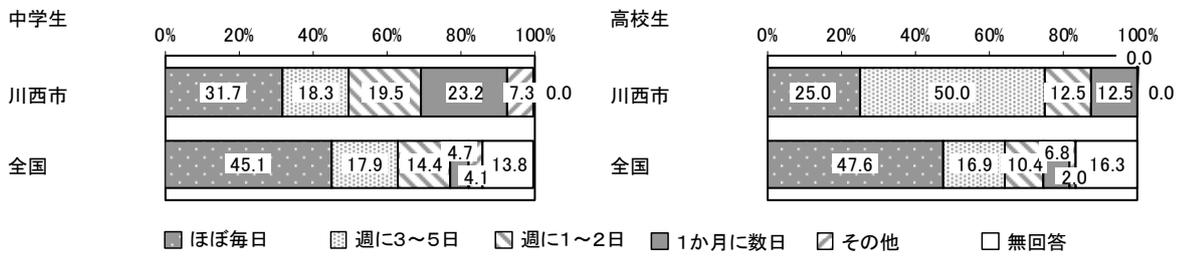
<お世話（ケア）による自分への影響（複数回答）【図2】>



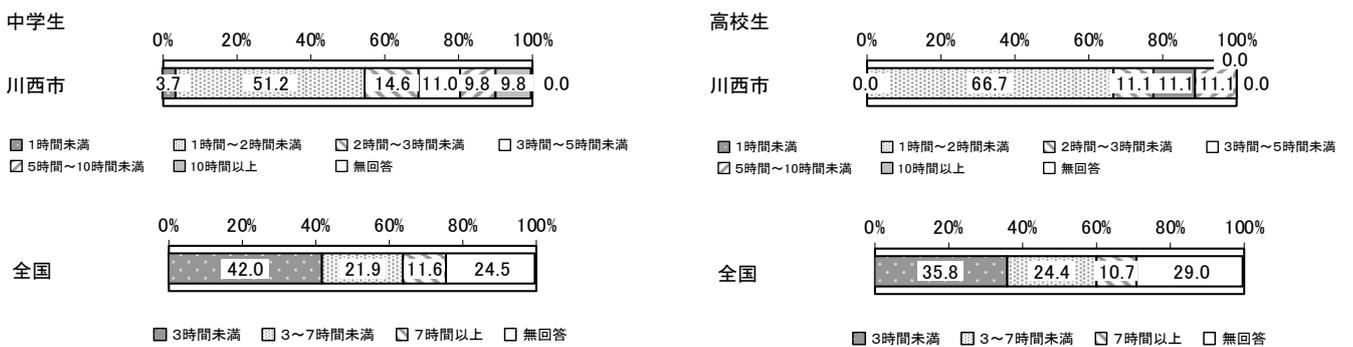
<自宅でお世話（ケア）をする人は誰か（複数回答）【図3】>



<お世話（ケア）の頻度【図4】>



<お世話（ケア）にかける時間【図5】>



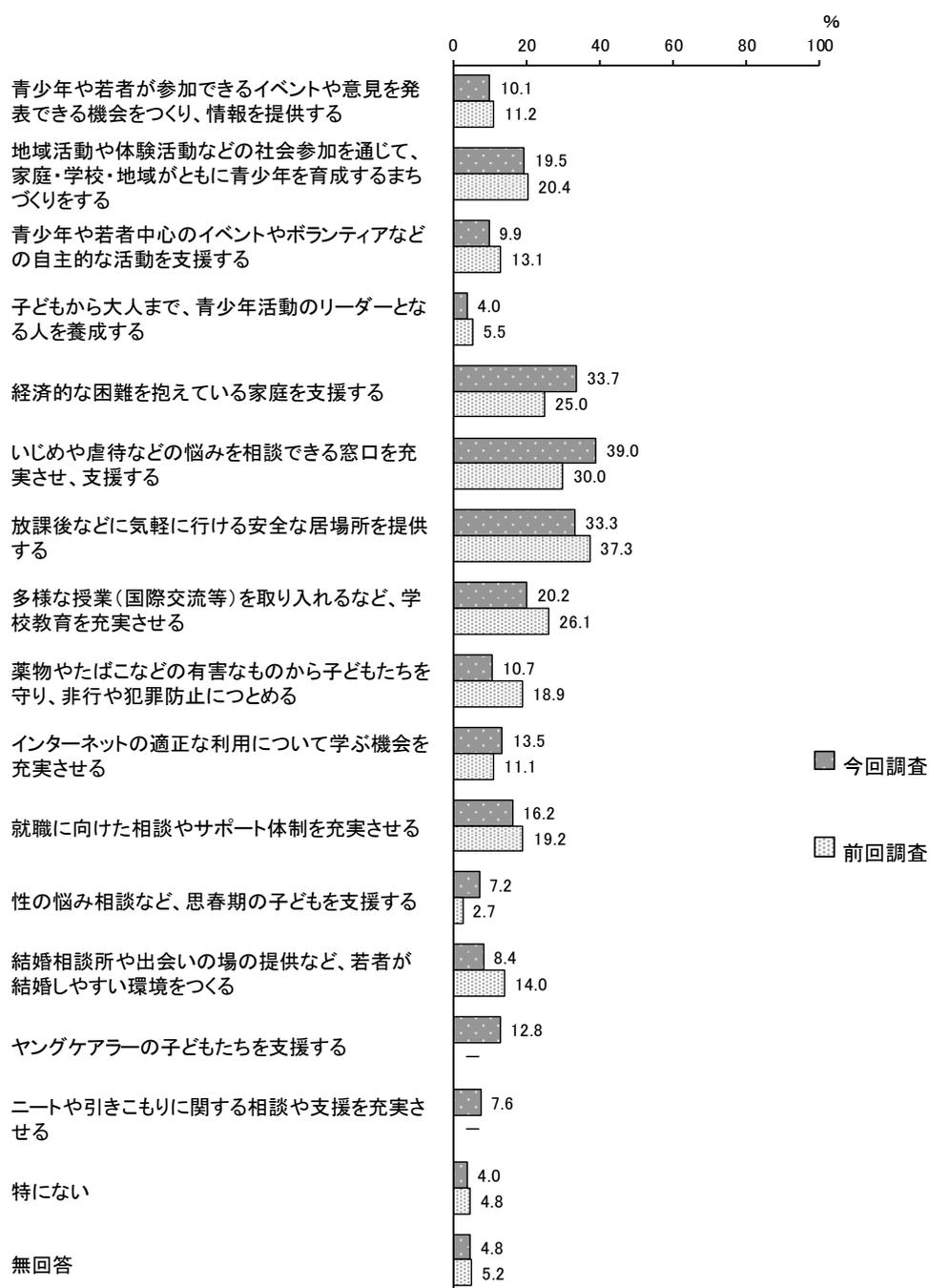
出典：令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」
 「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

10. 子ども・若者が行政に求めるもの

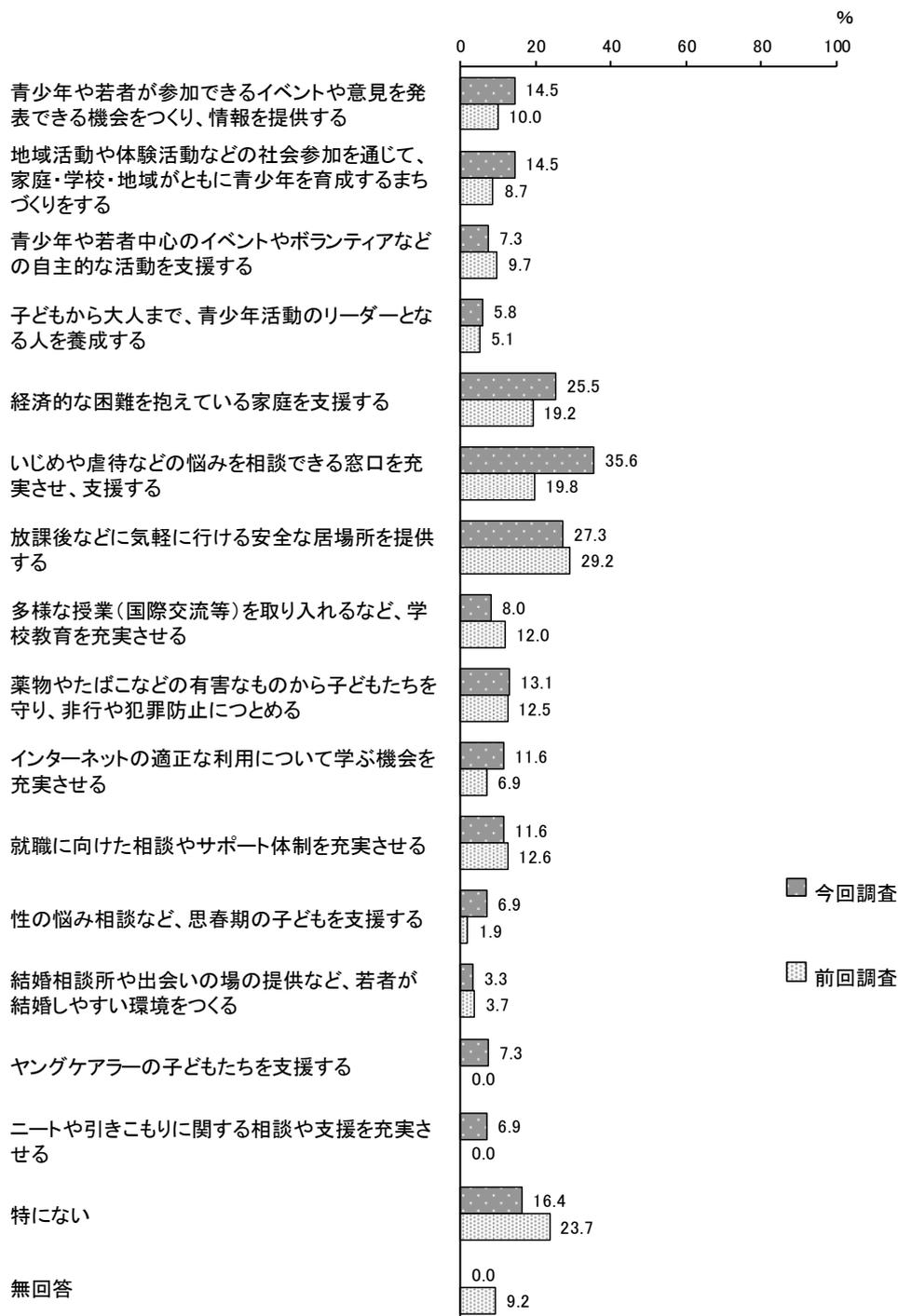
令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によれば、「あなたは、川西市が取り組む青少年や若者の政策・支援にどんなことを望みますか」という問いに対し、一般・高校生・中学生のいずれも「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」という回答が最も多く、次に一般では「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」、高校生と中学生では「放課後などに気軽に行ける安全な居場所を提供する」が多い回答となっています。一般と高校生では前回調査と比べて、「いじめや虐待などの悩みを相談できる窓口を充実させ、支援する」と「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」の割合が高くなっています【図1】。

<川西市が取り組む青少年や若者の政策・支援にどのようなことを望むか（複数回答）【図1】>

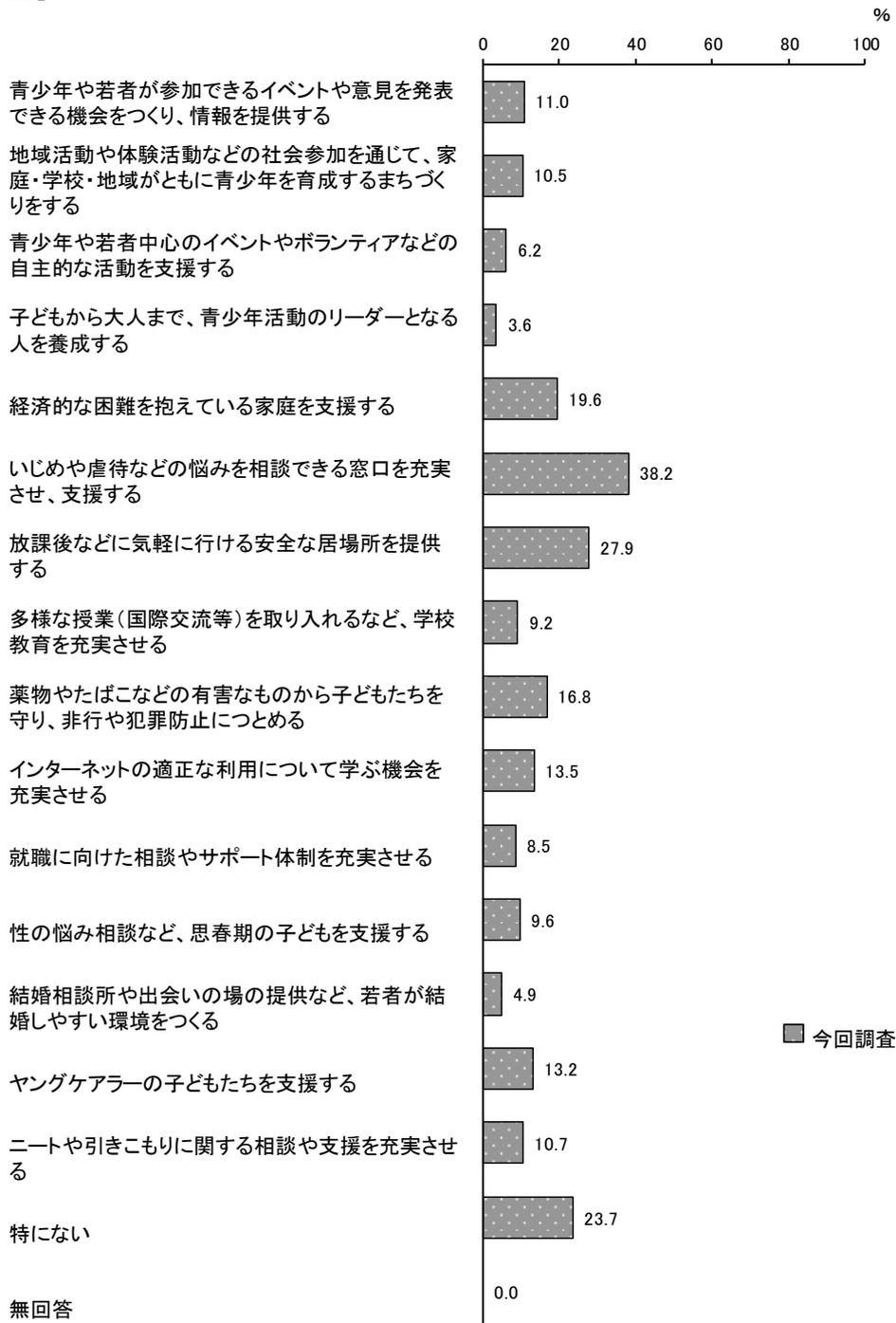
【一般】



【高校生】



【中学生】



第3章 計画の考え方

1 基本理念

本計画では、「第2期子ども・子育て計画」の中間見直し、「旧 子ども・若者育成支援計画」との一体化を行うにあたり、二つの計画の基本理念を共に掲げ、妊娠期から就学前、就学後、若者まで切れ目のない支援を実施し、川西市の子ども・若者支援の充実を図ります。

【第2期子ども・子育て計画の中間見直しの基本理念】

**子どもたちに人生最高のスタートを
～子どもたちの成長を支えあえるまちづくり～**

【旧 子ども・若者育成支援計画の基本理念】

**子ども・若者の自立をみんなで応援
希望が持てる未来を**

2 基本目標

5. すべての子ども・若者の健やかな成長と自立を支援する

子ども・若者が自らの道を歩む力が身に付くよう、教育環境を充実させるほか、体験学習や他者との交流の場を設けます。また、社会において、自らの能力を発揮できるよう、就業への支援を行うほか、情報教育や生活安全活動を行うことにより、安全安心な生活環境の維持に努めます。

さらに、子ども・若者が健全に育つ環境を整備し、子ども・若者の成長を支える担い手を養成することに加え、文化・スポーツを通じた交流や新たな発想への支援を行います。

6. 社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者とその家族を支援する

ひきこもりや若者無業者、不登校など、社会生活を営む上で困難を有する子ども・若者に対し相談体制や支援ネットワークに関する情報発信を行うほか、こども食堂はじめとする居場所を整備することにより、社会参加へと向けた支援を行うことに加え、経済的な貧困という課題を抱える子ども・若者に対する支援を進めます。

さらに、ヤングケアラーの潜在化防止や負担軽減を図るよう、介護・医療・障がい・教育分野の関係機関が連携し、啓発や相談体制構築を行います。

<基本理念>

子どもたちに人生最高のスタートを

～子どもたちの成長を支えあえるまちづくり～

子ども・若者の自立をみんなで応援 希望が持てる未来を

第4章 子ども・子育て施策の展開

基本目標1 親と子のいのちと健康を守る

基本目標2 子どもに応じた教育・保育を提供する

基本目標3 子どもたちを社会全体で健やかに育む

基本目標4 子どもの権利と安全を守る

第5章 若者育成支援施策の展開

基本目標5 すべての子ども・若者の健やかな成長と自立を支援する

基本目標6 社会生活を円滑に営む上で、困難を有する子ども・若者とその家族を支援する

第6章 事業計画

量の見込みと提供体制の確保

(教育・保育、地域子ども・子育て支援事業)

第7章 市立就学前教育保育施設のあり方

第5章 若者育成支援施策の展開

若者育成支援施策の重点施策

令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によると、川西市におけるひきこもり状態にある人の割合は1.82%で、推計者数は646人と増加傾向にあり、ひきこもり親和群の割合が全国調査に比べて高く、全国が4.81%であるのに対し、川西市は9.53%となっています。

また、ヤングケアラーについても調査結果より一定数いる現状があり、生活への影響が出ている子どもも実際にいる状況にあります

そのため、この2年間でひきこもり・不登校対策、ヤングケアラー対策に重点的に取り組むこととします。

重点施策1 ひきこもり・不登校対策

子ども・若者ステーション内に設置した「子ども若者相談センター」にて、専任の臨床心理士などによる、ひきこもり、若年無業者、不登校者とその保護者への相談を実施します。

また、校内フリースクールの環境整備を行うとともに、学びのスペース「セオリア」を含めた総合的な不登校対策を検討し、支援体制の充実を図ります。

重点取組

- 総合的な不登校対策の検討 【新規】
- 子ども・若者総合相談窓口の充実【拡充】
- 校内フリースクールの環境整備

重点施策2 ヤングケアラー対策

ヤングケアラーの潜在化を防ぎ、子どもの負担の軽減を図り、学校生活や友人関係、将来の進路などに影響が出ないように、学校や地域において早期に把握し、関係機関との連携により必要な支援へつなげていく取り組みを推進するため、啓発・研修の実施や支援体制の整備などを検討します。

重点取組

- 啓発・研修の実施 【新規】
- 調整会議（実務者会議） 【新規】
- 相談窓口の周知 【新規】

基本目標5 すべての子ども・若者の健やかな成長と自立を支援する

<課題>

学童期・思春期において「生きる力」を育むため、学校での学びなどに加え、異なる集団・異なる世代との交流や自然環境での体験活動など、多様なシーンで社会関係を構築できるよう支援を行う必要があります。

また、若者自身が自己の職業適性や将来設計について考え、夢や希望をもって就業できるよう支援を行う必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども・若者を取り巻く環境が変化しており、家庭や地域、関係機関などが連携し、日常生活における健全な環境を守っていくことが必要です。

本市では、行政主体ではなく「市民とともに」進めていく「市民主体のまちづくり」を重視しており、さらに子ども・若者が自由な発想力でまちの課題解決への提案や解決に取り組み、他者との協働や成功・失敗体験の中から、成長する機会を創出していく必要があります。

(1) 生きる力の育成と社会関係の構築

① 教育環境の充実

自ら主体的に学び、考えて判断する力や、自分の考えや思いを的確に表現する力などを育むとともに、「確かな学力」を身につけるため、特色のあるきめ細やかな指導を行います。

また、夢や希望をもって未来を切り拓く力を備え、社会で自己実現することをめざし、キャリア教育※を推進します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	基礎学力向上支援事業	文部科学省が毎年実施する全国学力・学習状況調査をもとに、基礎学力向上に関する教育の検証改善に取り組む。	小学生 中学生	教育保育課
2	外国語教育推進事業	小学校第3～6学年を対象にALT（外国語指導助手）を配置することにより、外国語を通じて言語や文化について、体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、外国語の音声や表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。	小学生	教育保育課

※キャリア教育…社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力、態度を育み、キャリア発達を促す教育

3	兵庫県地域に学ぶ トライやる・ウィーク 事業	中学校2年生が、地域や自然の中で、生徒の主体性を尊重した様々な体験活動を通して、豊かな感性や創造性などを自ら高めることができるよう支援を行う。	中学生	教育保育課
4	きんたくん学びの道場	「放課後」という時間に「学校」という場で「友だち」との関わりの中において、家庭学習の習慣化および基礎基本の定着を図ること、また、子どもたちが自主的な学習に取り組む姿勢や態度、意欲を育む学習支援を行う。	小学生 中学生	教育保育課
5	キャリア教育の推進	子どもたち一人ひとりが将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自らの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。	小学生 中学生	教育保育課

② 理念の共有

人権意識や消費者意識の向上のほか、男女平等や食育の推進などに関わる理念を共有することにより、多様な文化や価値観を認め、互いに尊重し合い、共に助け合う態度を育成します。また、専門家を招いた講演会や授業を通して、命の尊さについて考える機会を設けます。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	人権学習推進事業	川西市人権行政推進プラン・川西市人権教育基本方針の具現におき、学校園における人権文化の創造を図るため、法の下での平等や個人の尊重、命の尊厳などへの理解を深める取り組みを行うとともに女性や子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、外国人、高度情報化に伴う人権侵害、性的少数者等、あらゆる人権課題の解決に向け、学校園が実施する「あらゆる人権課題についての子どもの学習機会」を促進する。	小学生 中学生	教育保育課
2	子どもの人権 ネットワーク事業	「子どもの権利条約」を基底に据えながら、小学校4年生から中学生までを対象に、土曜日などの休みを利用した子どもたちの自主的諸活動を支援していく。	小学生 中学生	人権推進課
3	教育研究事業	現状における教育・保育の課題の克服や今後の教育・保育の充実を図るため、市教育委員会が指定する研究テーマに基づき、市教育委員会及び市教育委員会指定校園所が協働で研究を進める。事後討議等による異校種の教職員の相互理解を通して、子ども理解及び校園所内研修の充実及び校園所の連携に資する。	小学生 中学生	教育保育課

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
4	食育の推進	食育は間口が広く、市民の各ライフステージ別や「健康」だけでなく、「産業振興」「地産地消」「消費生活」「美化環境」「幼児・学校教育と給食」など様々な分野にまたがる。川西市健幸まちづくり計画（第2次川西市食育推進計画）に示す共通の目的のもと、様々な楽しみ方がある「食」を通じた交流や地域振興を図る。	全年齢	健幸政策課
5	いのちとこころのセミナー	若年層の自殺防止を目的とし、多くの人に、早い段階から継続的に自尊感情の醸成が必要であることを認識する機会を設けるための講演会を実施する。	全年齢	地域福祉課
6	いのちの授業	自殺の未然防止を目的とし、市内の中学生・高校生を対象に、グリーンケア*の専門家を招いて、自尊感情と相手を思いやる心の醸成のための授業を実施する。	中学生 高校生	地域福祉課

※グリーンケア…親しい人と死別した人に寄り添い支援すること

③ 自然環境を活用した体験学習

自然に恵まれた川西市の地理的条件を生かし、「日本一の里山」といわれる黒川での体験学習をはじめとしたさまざまな体験を通じて、自然への理解を深めながら豊かな人間性と主体性を育むことができるよう支援します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	里山体験学習事業	小学校4年生を対象に日本一の里山である黒川地区を舞台とした自然観察や地域住民とのふれあいを通じて、自然に対する畏敬の念や生命のつながり、環境保全の大切さなどを実感する機会を設け、児童の心の豊かさを育む。	小学生	教育保育課
2	小学校体験活動事業	小学校3年生が地域の自然の中で、地域の人々の協力を得ながら、五感を使って命の営みや大切さを学ぶ活動を推進する。また、小学校5年生が自然の中で、4泊5日の宿泊体験を通じて、豊かな感性や社会性を育む活動を推進する。	小学生	教育保育課
3	知明湖キャンプ場管理運営事業	知明湖キャンプ場の管理・運営を行う。	全年齢	文化・観光・スポーツ課
4	地域活動支援事業	青少年育成団体と子ども会活動への助成、青少年育成指導者の養成など、健全育成活動への支援を行う。	全年齢	社会教育課

④ 異なる世代や集団との交流と社会生活への支援

公共施設における事業実施や施設の開放などを通して、普段の生活では関わることのない子ども・若者や異なる世代と交流する機会を設けることにより、他者と協働する能力やコミュニケーション能力などを育みます。

また、はたちのつどいを開催し、社会参加を促す機会を設けるなど、社会生活への支援を実施します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	児童館事業	2・3歳児対象の親子幼児教室や親子のふれあい、保護者同士の交流の場の提供。小学生を対象とした将棋・ショートテニス・ダンス・ハンドベル等各種教室の実施。親子向けに遊戯室と体育室を、小学生向けに体育室を開放する。	全年齢	総合センター
2	放課後子ども教室	各小学校区において小学校の放課後や週末、夏休みなどに学校の施設等を活用し、各小学校区の市民の方々などに放課後子ども教室の運営を委託し、子どもの安心・安全な居場所づくりに努める。	小学生	社会教育課
3	世代間交流事業	久代児童センターにおいて、併設している老人福祉センターの利用者にボランティアで講師を依頼し、茶道・大正琴・囲碁・詩吟等を子どもたちに教授する。また、学校の行事等で地域住民と交流する。	小学生 中学生 高校生	こども支援課
4	公民館運営事業	市内の公民館において、子ども・親子・世代間交流、伝統文化などの講座を開催する。	全年齢	各公民館
5	「生きる力」を育む教育実践事業	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」等の視点から、地域や関係諸団体との協働等による教育活動を実施し、子どもたちに「生きる力」を育む。	小学生 中学生	教育保育課
6	地域・学校連携推進事業	地域と学校の連携・協働を推進するために「学校運営協議会」と「地域学校協働本部」を整備し、地域と学校が一体となって子どもの成長を支えていく。	小学生 中学生	教育保育課
7	はたちのつどい実施事業	市全体ではたちを祝う気運をつくる。また、オンライン配信などの利用により、多くの人に参加しやすい取り組みを進める。	19歳以上 20歳以下	社会教育課

(2) 就業への支援

夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら前向きな将来を設計することができるよう、キャリアカウンセリング[※]や就労体験などを通じて、若者の職業選択の可能性を広げていきます。

また、働くことを通じて自己の能力や適性を発揮し、社会を支える人材へとできるよう支援していきます。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	就労支援事業	ハローワーク伊丹と川西市が共同で川西しごとサポートセンターを設置し、求人検索や、求人の情報提供・職業相談・職業紹介を行う。	15歳以上	産業振興課
2	キャリア カウンセリング	望ましい職業選択やキャリア開発について、専門カウンセラーが面接指導や自己分析の支援を行う。	15歳以上	産業振興課
3	若者キャリア サポート川西	概ね40歳までの若年者を対象に、就労へ向けて、応募書類の添削や面接対策など、キャリア形成を踏まえた支援を行う。また、社会保険労務士などの専門家を配置し、就労先の労働契約等についての相談を行う。	15歳以上 40歳未満	産業振興課
4	労働相談	社会保険労務士が、解雇・労働災害・雇用保険・職場いじめなどの相談を行う。	15歳以上	産業振興課
5	【新規】 多様な働き方 推進事業	動画・セミナーで在宅ワークという働き方を周知することに加え、相談会でキャリアを棚卸しし、自分にできることや新たな働き方の発見に繋げる。	15歳以上	産業振興課
6	若年者就労体験 支援事業	市内在住の49歳以下の若年者及び就職氷河期世代を対象に、事業所での就労体験を通じて、就職につなげるプログラムを提供。	15歳以上 50歳未満	産業振興課

※キャリアカウンセリング…個人にとって望ましい職業選択やキャリア開発を支援するプロセスのこと

(3) 健全育成環境の整備

① 情報教育の充実

授業の目的や内容に合わせて、デジタルコンテンツを取り入れるなど、ICT(情報通信技術)を活用した授業づくりに取り組みます。

子ども・若者が情報モラルやメディア・リテラシーを身につけ、情報を適切に取捨選択して活用できるよう支援するなど、情報教育の充実を図ります。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	I C T活用推進事業	コンピュータやインターネットなどを活用した情報教育を充実させ、情報モラルを含めた児童・生徒の情報活用能力を育成する。	小学生 中学生	教育保育課

② 協働による生活安全活動

地域や行政、関係団体などが連携し、生活安全上の課題について協議・対策を行うほか、地域における情報収集などに努め、必要な情報を共有することに加え、パトロールや見守り、声かけなどの防犯活動を行います。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	生活安全事業	地域の代表者や生活安全関係機関、市で構成される生活安全推進連絡協議会において、生活安全活動に必要な協議、情報交換を行い、市民による自主的な生活安全活動を促進する。また、青色回転灯装備車両による自主的な防犯パトロールを希望する地域団体などに対し、その実施を委嘱する。	全年齢	生活相談課
2	消費者啓発事業	スマートフォンやインターネットのトラブル、契約などについて、学校や地域への出前講座などを通じて各ライフステージに応じた消費者教育を実施する。 また、成年年齢引き下げに伴う若者を狙った消費者トラブルの被害を防止するため、啓発を実施する。	全年齢	生活相談課
3	青少年育成市民会議補助事業	各中学校区の青少年育成市民会議を核にして、地域の青少年健全育成団体の連携を図り、地域の大人が声かけ（あいさつ運動）・見守り（登下校時の子どもの見守り）運動などを実施する。	全年齢	社会教育課
4	青少年愛護活動	青少年の非行防止と児童・生徒の安全確保を図るため、警察・学校・市民が連携協力し、補導活動や安全確保に関する活動を行う。	小学生 中学生 高校生	教育保育課
5	青少年を取り巻く環境実態調査	図書類・DVD・玩具類・スマートフォン取扱店などを訪問し、青少年を取り巻く社会環境の実態調査と有害環境浄化活動をする。	小学生 中学生 高校生	教育保育課
6	こどもをまもる110番ののうち	児童・生徒の登下校時などにおける安全確保のため、PTA・コミュニティ・諸団体の協力を得ながら「こどもをまもる110番ののうち」の整備を図る。	小学生 中学生	教育保育課

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
7	青色回転灯 パトロール	警察署の許可を得て公用車に青色回転灯を装備し、児童生徒の安全確保と広報啓発を目的に、定期巡回並びに緊急時の特別巡回を行う。	小学生 中学生	教育保育課
8	学校安全協力員	校内及び通学路での子どもの安全を確保するため、保護者や地域住民の協力を得て、校門での声かけや通学路での見守り、付き添いを実施する。	小学生 中学生	教育保育課

(4) 健全な成長を支える担い手の養成

青少年育成団体や地域団体の運営や、指導者・ボランティアの育成活動に対して支援することに加え、参加促進や広報活動の一環となる交流イベントを実施することで、子どもや保護者が各団体の活動内容を知る機会を創出します。

各団体と地域との交流を図りつつ、子ども・若者の成長を支える担い手の養成へとつながる事業実施を検討します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	地域活動支援事業 (再掲)	青少年育成団体と子ども会活動への助成、青少年育成指導者の養成など、健全育成活動への支援を行う。	全年齢	社会教育課
2	地域づくり 一括交付金	概ね小学校区を単位とするコミュニティ組織に、毎年度一括交付金を交付。地域が主体となり、各地域の課題解決に向けた事業を行うため活用する。	全年齢	参画協働課
3	森林保全	森林ボランティア団体等の活動に対して補助金を交付し、事業を奨励する。	全年齢	産業振興課
4	防災リーダー養成 講座受講等助成金	地域での防災の担い手を育成するため対象講座を受講し、防災士の資格を取得するとともに、地域の訓練等に参加した人に対して受講に係る費用の一部を助成する。	全年齢	危機管理課

(5) 文化・スポーツを通じた交流や新たな発想への支援

日本の伝統文化や川西市の歴史や芸術に触れる機会などを設けることに加え、子ども・若者が様々なスポーツに取り組むことができるよう、地域のスポーツ団体を支援します。また、起業に関する必要な知識の習得などに向けた支援を行います。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	文化財団事業	青少年を対象とする様々な事業を通して、青少年に音楽や伝統文化などに触れる機会を提供し、その育成を図る。	全年齢	文化・観光・スポーツ課
2	地域スポーツクラブ（スポーツクラブ21）支援事業	子どもたちのスポーツを通しての地域の人々との交流や人間的成長、体力の向上を図るため、全小学校区に設立している地域スポーツクラブの運営を支援する。	全年齢	文化・観光・スポーツ課
3	スポーツ少年団支援事業	スポーツや交流事業などによる青少年の健全育成を図るため、スポーツ少年団の活動を支援する。	全年齢	文化・観光・スポーツ課
4	文化財保存啓発事業	市内の小学生を対象に、広報誌などを通して一般公募した参加者とともに、古代体験学習や昔あそびを体験する。	小学生	社会教育課
5	川西起業塾	市内在住または市内での起業に関心のある女性を対象として、ノウハウを持つ専門家を講師に、段階を踏んだセミナーを行うほか、創業者などとの交流イベントを開催する。	15歳以上	産業振興課

基本目標 6 社会生活を円滑に営む上で、困難を有する 子ども・若者とその家族を支援する

<課題>

こども・若者ステーションに設置した「こども若者相談センター」では、専任の臨床心理士を配置し、ニートやひきこもり、不登校などの状態にある本人やその家族に対して、支援を行っています。令和4年度「川西市子ども・若者実態調査結果報告書」によると、こども・若者ステーションを知っている人の割合は2割程度となっており、まだ相談窓口などの存在を知らずに悩んでいる子ども・若者、その家族も多いと予想され、今後いっそうの周知を図る必要があります。

また、高校中退者や若者無業者などに対しては、進学や就労に資する学力を身に付けることができるよう学習相談などの支援や、働くための第一歩を踏み出せるよう支援する必要があります。

保護者の経済的な困難等が、子どもの生活や健康、教育に影響を及ぼし、進学を諦めたり、職業の選択肢を狭めるようなことにならないよう、経済的困窮を抱える家庭への支援を行うことで、子ども・若者の将来がその生まれ育った環境によって左右されることを防ぎ、貧困が世代を超えて連鎖することを断ち切ります。

ヤングケアラーについては、家庭内のデリケートな問題であることや社会的認知度が低く、子ども自身や周囲の大人が気付きにくいことから、表面化しにくい課題であるため、子どもの将来に影響が及ぶことがないよう、ヤングケアラーの認知度を向上することで早期発見し、必要な支援へすみやかにつなげていく必要があります。

(1) ひきこもり・不登校者などへの支援

① 相談体制

こども・若者ステーション内に設置した「こども若者相談センター」にて、専任の臨床心理士を配置し、ひきこもりや不登校をはじめとしたさまざまな悩みや困難を抱える子ども・若者の相談を実施します。

また、こども若者相談センターにおける相談以外にも、多方面からのアプローチにより、ひきこもりや不登校のほか、いじめや児童虐待、日常生活のストレスや性の悩み、精神的な悩みを抱える人の相談を受け付けます。

不登校対策については、学びのスペース「セオリア」を含めた総合的な不登校対策を検討するなど、支援体制の充実を図ります。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	子ども・若者総合相談窓口事業	臨床心理士などによる、ひきこもり、若年無業者、不登校者とその保護者への相談の充実を図り、若者の居場所や就労、福祉サービスへとつなぐ。	中学校卒業以上 40歳未満	こども若者 相談センター

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
2	子どもの人権 オンブズパーソン 事業	いじめや不登校、児童虐待など、18歳未満の子どもの人権問題に対して相談および関係機関との調整を行うほか、保護者などからの申立てやオンブズパーソンの自己発意による調査を実施するなどして、子ども救済から見えてきた課題に対しては、「子どもの最善の利益」を確保する観点に立って、行為などの是正や改善を求めて、勧告や意見表明などを行う。	小学生 中学生 高校生	人権推進課
3	心の相談事業	日常生活のストレス、ひきこもりなどで、精神に障がいや来す恐れのある人およびその家族に対して、専門医と精神保健福祉士などが相談に応じる。	全年齢	障害福祉課
4	青少年相談事業 適応教室運営事業	子ども・保護者を対象にした電話相談・来所相談や、教師に対するコンサルテーションを行う。不登校や登校できない状況の小・中学生に学びのスペース「セオリア」の開室や保護者対象の「おしゃべり会」などを開催する。	小学生 中学生 高校生	こども若者 相談センター
5	スクールソーシャル ワーカーの配置	問題行動・不登校などの未然防止、早期解決を図るために、社会福祉士、精神保健福祉士などのスクールソーシャルワーカーを中学校校区に配置し、関係機関と連携を取りながら、生徒・児童が抱える諸問題の解決を図る。	小学生 中学生	こども若者 相談センター
6	セクマイ相談・学習会	セクシャルマイノリティ（LGBT）に関する理解を深めるため、自認する人や悩みを持つ人、理解しようとする人のための相談・学習会を開催する。	全年齢	総合センター
7	校内フリースクールの 環境整備	不登校対策として、市内全中学校に校内フリースクールを整備し、支援員を配置することにより、関係生徒の生活・学習を支援することで社会的自立を目指す。	中学生	教育保育課
8	【新規】 総合的な不登校対策 の検討	不登校に関する総合的な支援対策を検討します。	小学生 中学生 高校生	こども若者 相談センター

② 支援ネットワーク

「川西市子ども・若者支援地域協議会」において、実務者会議や個別ケース検討会議を定期的あるいは必要時に開催します。また、ケースカンファレンスなどを実施することで、相談窓口を利用する困難を有する子ども・若者当事者に対し、適切な助言などを行えるよう、従来のネットワーク関係を充実させ、相談事業と支援ネットワークの間に緊密な関係を築きます。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	子ども・若者支援 地域協議会	教育、保健・福祉、人権、雇用、警察などの関係機関と連携を図りつつ、支援ネットワークを充実する。	40歳未満	こども若者 相談センター

③ 居場所

こども・若者ステーション内に設置した「こども若者相談センター」を中心に関係機関と連携し、困難を抱える若者が気軽に参加でき、仲間づくりや自分自身を見直すきっかけとなることができるよう、当事者同士が参加するミーティングを実施するなど、安心・安全な居場所の充実を図ります。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	若者の居場所運営事業	困難を有する若者同士を合わせる小規模ミーティングを実施するとともに、レクリエーション大会やひきこもり等に関する勉強会などを開催していく。	40歳未満	こども若者 相談センター

③ 雇用支援

離転職者・求職者の就労を支援するため、地域若者サポートステーション[※]と連携し、キャリアコンサルタントなどによる個別相談や支援計画の作成や、個別・グループによる就労に向け踏み出すためのプログラム作成、就職した人への定着・ステップアップ相談を促進するとともに、労働に関する法令・制度の周知や、労働相談などを行い、雇用契約や就労環境など雇用者が直面する不安や問題の解消に取り組みます。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	若者キャリア サポート川西 (再掲)	概ね40歳までの若年者を対象に、就労へ向けて、応募書類の添削や面接対策など、キャリア形成を踏まえた支援を行う。また、社会保険労務士などの専門家を配置し、就労先の労働契約等についての相談を行う。	15歳以上 40歳未満	産業振興課

※地域若者サポートステーション…厚生労働省が委託する全国的な若者支援拠点。働くことに悩みを抱えている15～39歳までの若者を対象に就労支援を行っている

(2) 経済的な困窮への支援

子ども・若者のライフステージに応じた切れ目のない支援を行うとともに、経済的に厳しい状況にあっても将来に希望が持てるよう生活基盤を支えるために、関係機関と相互に連携を深めながら、総合的かつ継続的な経済支援を推進します。

また、経済的困窮を抱える家庭に対して、就学に必要な費用の給付や貸付、学習支援、生活相談や就職活動支援などを行うほか、ひとり親家庭への支援なども実施することで、貧困の連鎖を断ち切り、すべての子ども・若者が将来に夢や希望が持てるよう支援します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	生活保護制度にかかる高等学校等就学費の支給	高等学校などに就学し、卒業することが当該世帯の自立助長に効果的であると認められる場合に支給する。	16歳以上	生活支援課
2	生活保護世帯の高校生等アルバイト等の収入除外	生活保護受給中の高校生のアルバイトなどの収入のうち、高等学校等就学費の支給対象とならない、又は賄いきれない経費であって就学のために必要な最小限度の額を収入として認定しない。	16歳以上	生活支援課
3	生活保護世帯の子どもの学習塾等費用の収入認定除外	生活保護受給中に受けた貸付金、恵与金などのうち社会通念上、必要と認められる子どもの学習にかかる費用は、最小限度額を収入認定から除外する。	16歳以上	生活支援課
4	生活困窮者住居確保給付金	65歳未満で、離職後2年以内の世帯の生計主が住居を失うか、失う恐れがある場合に、住居を整えた上で就職活動に専念することを目的に、一定期間家賃相当額を支給する。	65歳未満	地域福祉課
5	生活保護制度にかかる被保護者就労支援事業	65歳未満で就労可能な生活保護受給者に対して、就労支援員とハローワークによる就労支援を行う。	16歳以上 65歳未満	生活支援課
6	高等職業訓練促進給付金等事業	ひとり親家庭で、看護師や介護福祉士などの資格取得のため、2年以上養成機関などで修業する場合に、就業期間中の生活の負担軽減を図るため、給付金を支給する。	16歳以上	子ども支援課
7	自立支援教育訓練給付金事業	ひとり親家庭で、就職やキャリアアップのために、指定されている教育訓練講座を受講した場合、受講に要した経費の一部を支給する。	16歳以上	子ども支援課

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
8	自立相談支援事業	相談者の生活の苦しみや悩みごと、不安の解消に向け、相談支援員が相談者とともに考え、個々の支援プランをつくり、自立に向けた支援を行う。	全年齢	地域福祉課
9	就労準備支援事業	川西市就労準備支援事業を活用し就労体験の機会を設け、就労に向けた能力の回復等を行い、一般就労に向けた準備を行う。	16歳以上	生活支援課
10	母子父子寡婦福祉資金貸付金	県の貸付制度。ひとり親家庭において、児童の就学などで資金の貸し付けが必要となったとき、母子・父子自立支援員が資金の貸し付けや償還の相談に応じる。	16歳以上	こども支援課
11	母子父子福祉応急資金貸付事業	ひとり親家庭で、予期せぬ生活困難に陥った際に、生活の安定と向上のため、無利息で必要な資金を貸し付ける。	16歳以上	こども支援課
12	児童扶養手当制度	父または母と生計をともにできない児童が養育されている家庭の生活の安定と自立を助けるために、児童の父または母や父または母にかわってその児童を養育している人に支給される。父または母がいても極めて重度の障害がある場合には支給される。	16歳以上	こども支援課
13	養育支援訪問事業	子育てを支援することが特に必要と認められる家庭を対象に、子育てに関する相談や支援などを行う。	全年齢	こども若者相談センター
14	就学援助制度	義務教育年齢のお子さんがある世帯で、経済的理由により就学に要する費用の支払が困難な保護者に対して、就学援助の要件に該当した場合、その費用の一部を援助する。	16歳以上	就学・給食課
15	【新規】 大学等への進学に対する支援金の給付	経済的理由から、大学などへの進学を断念することのないよう、住民税非課税区分に準ずる世帯について、進学に対する支援金を給付する。	16歳以上	就学・給食課

(3) ヤングケアラーへの支援

ヤングケアラーの潜在化を防ぎ、あわせて子どもの負担の軽減を図り、学校生活や友人関係、将来の進路などに影響が出ないようにするために、学校や地域において早期に把握し、関係機関との連携により必要な支援へつなげていく取り組みを推進するため、啓発・研修の実施や支援体制の整備などを検討します。

No.	取り組み	実施内容	対象	担当所管
1	啓発・研修の実施	関係者向け研修会の実施や市民向けの啓発などを行い、ヤングケアラーについての理解を深めます。	18歳未満	こども若者相談センター
2	調整会議 (実務者会議)	川西市要保護児童対策協議会を活用した支援の枠組みを検討します。	18歳未満	こども若者相談センター
3	相談窓口の周知	ヤングケアラー当事者の子どもや周囲の大人などが、ひとりで悩まずに気軽に相談できるよう、こども若者相談センターが相談窓口であることを周知していきます。	18歳未満	こども若者相談センター

令和4年度 子ども・若者未来会議の開催予定、計画策定スケジュール 【8/5時点】

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
5/13 第1回開催			8/5 第2回開催	9月下旬 第3回開催		<追加> 11月上旬 第4回開催	11月下旬 第5回開催	計画案の完成	パブリックコメント実施		3月頃 第6回開催	計画の完成

・子ども・若者未来会議 議事概要（予定）

第1回 5月13日（金）	議事：「市立就学前教育保育施設のあり方」の報告、計画案の章立てについて、子ども・若者実態調査の結果報告
第2回 8月5日（金）	議事：第2章 子ども・若者を取り巻く現状（若者育成計画部分のみ）、第3章 計画の考え方、第5章 若者育成支援施策の展開 など
第3回 9月下旬	議事：第2章 子ども・若者を取り巻く現状（子育て計画部分のみ）、第4章 子ども・子育て施策の展開、第6章 事業計画（量の見込み及び提供体制の確保）、第7章 市立就学前教育保育施設のあり方 など
第4回 11月上旬	議事：第2～3回再検討事項、その他の章の審議（第1章、第8章） など 追加開催
第5回 11月下旬	議事：計画案の全体の審議、パブリックコメント実施について など
第6回 3月頃	議事：パブリックコメント実施結果の報告、パブリックコメント及び市議会議員の意見を踏まえた修正箇所の審議 など